

令和6年度 1年 国語 評価規準 上巻

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	主な学習活動	評価規準
4月	はるが きた 2時間(話・聞②) ◎互いの話に関心をもつことができる。 (思・判・表A(1)オ) ・言葉には、事物の内容を表す働きがあることに気づくことができる。(知・技(1)ア) ■絵を見て話したり応答したりする。 ☆学校生活(生活科)	1~2	1 P0-3の挿絵を見て、何をしているのか、気づいたことや想像したことを話す。 2 P4-7の挿絵を見て、気づいたことや想像したことを言ったり、絵の中の人物になりきって話したりする。 3 P8を教師に合わせて声に出す。想像したことを話す。	【知・技】言葉には、事物の内容を表す働きがあることに気づいている。(1)ア) 【思・判・表】「話すこと・聞くこと」において、互いの話に関心をもっている。(A(1)オ) 【態】進んで友達の話に関心をもち、これまでの経験をいかして話したり応答したりしようとしている。
4月	さあ はじめよう おはなし ききたいな 2時間(読②) ◎読書に親しみ、いろいろな本があることを知ることができる。(知・技(3)エ) ○文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつことができる。(思・判・表C(1)オ) ■読み聞かせを聞いて楽しむ。	1 2	1 教科書の絵を見て、読み聞かせをしてもらった体験を想起し、自分の好きな本を発表する。 2 教科書で紹介されている本の読み聞かせを聞き、感想を発表する。 3 教師の選んだ本や、読んでもらいたい作品を選んで、読んでもらう。 4 読み聞かせを聞いて、本や作品の内容について感想を発表する。	【知・技】読書に親しみ、いろいろな本があることを知っている。(3)エ) 【思・判・表】「読むこと」において、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。(C(1)オ) 【態】積極的にいろいろな本を手に取り、これまでの経験をいかして読み聞かせを楽しもうとしている。
	なんて いおかな 2時間(話・聞②) ◎身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶことができる。(思・判・表A(1)ア) ○丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気をつけて使うことができる。(知・技(1)キ) ○伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫することができる。(思・判・表A(1)ウ) ■場面に応じた言葉や動作を考えて、伝え合う。 ☆先生や友達などの多くの人と親しみをもって関わって学校生活を楽しくことや、場に応じた挨拶に関わる題材(道徳)	1~2	1 P12-13の絵を見て、何をしてどんな話をしている場面なのか出し合う。 2 それぞれの場面に合った言葉や動作を考えてやり取りしたり、発表したりする。 ・教師に対する言葉遣いと友達どうしの言葉遣いの違いを考える。	【知・技】丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気をつけて使っている。(1)キ) 【思・判・表】 ・「話すこと・聞くこと」において、身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選んでいる。(A(1)ア) ・「話すこと・聞くこと」において、伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫している。(A(1)ウ) 【態】経験を基に積極的に言うことを考え、学習課題に沿って自分の考えを伝えようとしている。
	かく こと たのしいな 1時間(知・技①) ◎平仮名を読み、書くことができる。 (知・技(1)ウ) ・姿勢や筆記具の持ち方を正しくして書くことができる。(知・技(3)ウ) ■正しい姿勢や鉛筆の持ち方を意識して書く。 ☆正しい姿勢と鉛筆の持ち方(書写)	1	1 P14の唱え歌を唱えながら、鉛筆の正しい持ち方を知る。 2 P15の唱え歌を唱えながら、正しい姿勢を知る。 3 正しい鉛筆の持ち方や正しい姿勢に気をつけてP14-15の挿絵をなぞる。 4 一画の平仮名「く」「つ」を書く。 5 ワークシートを使って練習する。	【知・技】 ・平仮名を読み、書いている。(1)ウ) ・姿勢や筆記具の持ち方を正しくして書いている。(3)ウ) 【態】正しい姿勢や鉛筆の持ち方で書くことに粘り強く取り組み、自分なりに、字を書く際に気をつけたいことを見つけようとしている。
	どうぞ よろしく 3時間(話・聞②、書①) ◎身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶことができる。(思・判・表A(1)ア) ○経験したことから書くことを見つけ、伝えたい事柄を明確にすることができる。(思・判・表B(1)ア) ・丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気をつけて使うことができる。(知・技(1)キ) ■名前カードを使って友達と交流する。 ☆互いを知り、新しい仲間をつくる題材(生活科) ☆好きなものの絵を描く活動(図画工作)	1 2 3	1 P16を見て、友達をたくさん増やすために、自己紹介をし合うことを知る。 2 「い・ち」と組や自分の名前を平仮名で書く。 ・姿勢や鉛筆の持ち方を唱え歌で確認しながらP17に自分の名前を書く。 ・分からない文字は、教師にきく。 3 名前カードを書く。 ・カードに自分の名前を丁寧に書く。(好きなものの絵等を描いてもよい。) 4 名前カードを見せ合い、交流する。 ・挨拶、名前、好きなもの等を伝え合い、たくさんの友達と交流する。	【知・技】丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気をつけて使っている。(1)キ) 【思・判・表】 ・「話すこと・聞くこと」において、身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選んでいる。(A(1)ア) ・「書くこと」において、経験したことから書くことを見つけ、伝えたい事柄を明確にしている。(B(1)ア) 【態】積極的に自分の名前を書いたり好きなものを考えたりし、これまでの経験をいかして友達と交流しようとしている。
	こんな もの みつけたよ 2時間(話・聞②) ◎身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶことができる。(思・判・表A(1)ア) ○丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気をつけて使うことができる。(知・技(1)キ) ■見つけたものや思ったことを友達に紹介する。 ☆学校探検(生活科)	1~2	1 校内で見つけたものを思い出して、紹介したいことを考えながら絵に描く。 2 絵を使って、自分で見たことや見て思ったことを友達に紹介する。 ・みんなの前で話すときの言葉遣いを考えて話す。	【知・技】丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気をつけて使っている。(1)キ) 【思・判・表】「話すこと・聞くこと」において、身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選んでいる。(A(1)ア) 【態】紹介したい事柄を積極的に選び、学習課題に沿って見つけたものをより分かりやすく紹介しようとしている。
	うたに あわせて あいうえお 2時間(知・技②) ◎姿勢や口形、発声や発音に注意して話すことができる。(知・技(1)イ) ○長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気づくことができる。(知・技(3)イ)	1	1 P20-21のあいうえおのうたを、いろいろな方法で音読する。 ・姿勢、口形、発声、リズム等に気をつける。 ・全員、グループ等いろいろな形態で読む。 ・体を動かしたり、手足でリズムをとったりして読む。	【知・技】 ・姿勢や口形、発声や発音に注意して話している。(1)イ) ・長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気づいている。(3)イ) 【態】進んで姿勢や口形、発声や発音に注意し、学習課題に沿って音読しようとして

令和6年度 1年 国語 評価規準 上巻

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	主な学習活動	評価規準
	<p>■音読する。</p> <p>■正しい筆順で文字を書く。</p> <p>☆歌を通して正しい発声を身につける題材(音楽)</p>	2	<p>2 P22-23の「あ、い、う、え、お」の文字を指でなぞる。</p> <p>・青い部分が一面目であることに気をつける。</p> <p>・P22-23のマス目に、筆順に気をつけて「あ、い、う、え、お」を書く。</p> <p>3 これまでに習った文字を使って言葉を作り、ノートに書いて言葉集めをする。</p>	いる。
5月	<p>ことばの たいそう 各配当時間を15分ずつなどに分割して扱ってもよい。</p> <p>こえに だして よもう 1時間(読①)</p> <p>◎場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えることができる。(思・判・表C(1)イ)</p> <p>○語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読することができる。(知・技(1)ク)</p> <p>■詩を音読する。</p> <p>■想像を広げながら詩を読む。</p>	1	<p>1 詩を声に出して読む。</p> <p>・声の大きさやリズムを工夫してはっきりと読む。</p> <p>2 朝日や海の様子について、想像したことを話す。</p> <p>3 言葉の響きやリズムに気をつけながら、暗唱する。</p>	<p>【知・技】語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読している。(1)ク)</p> <p>【思・判・表】「読むこと」において、場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えている。(C(1)イ)</p> <p>【態】進んで詩に描かれた様子を想像し、これまでの学習をいかして音読しようとしている。</p>
	<p>よく きいて、はなそう 2時間(話・聞②)</p> <p>◎話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもつことができる。(思・判・表A(1)エ)</p> <p>○言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気づくことができる。(知・技(1)ア)</p> <p>○伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫することができる。(思・判・表A(1)ウ)</p> <p>■応答したり、感想を伝えたりする。</p>	1~2	<p>1 P26-27を読み、教師の説明を聞いて、活動内容を知る。</p> <p>2 友達とペアになり、好きな遊びについて聞く。</p> <p>・P27の挿絵を参考に、話し手を見て話を聞くことを知る。</p> <p>3 分かったことや感想を、声の大きさや速さに気をつけて全体に知らせる。</p> <p>4 聞き手と話し手を交代して、2の活動をする。</p> <p>5 教師と活動の振り返りをする。</p>	<p>【知・技】言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気づいている。(1)ア)</p> <p>【思・判・表】</p> <p>・「話すこと・聞くこと」において、伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫している。(A(1)ウ)</p> <p>・「話すこと・聞くこと」において、話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもっている。(A(1)エ)</p> <p>【態】興味をもって進んで友達の話聞き、より伝わる話し方を考えながら、みんなに知らせようとしている。</p>
	<p>ことばを さがそう 2時間(知・技②)</p> <p>◎音節と文字との関係に気づくことができる。(知・技(1)イ)</p> <p>◎身近なことを表す語句の量を増し、語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)オ)</p> <p>■言葉集めをする。</p>	1~2	<p>1 P28を見て、「あ」で始まる言葉はいろいろあることを知る。</p> <p>・手を打ちながら1音節1文字であることを気づき、2文字3文字4文字の言葉等があることを知る。</p> <p>・「あ」で始まる教科書以外の言葉集めをする。</p> <p>2 「い」「う」「え」「お」など、既習の平仮名で始まる言葉集めをする。</p> <p>・手を打ちながら、文字数を意識する。</p> <p>・これまでに習った文字を使って言葉を見つけて、ノートに書く。</p>	<p>【知・技】</p> <p>・音節と文字との関係に気づいている。(1)イ)</p> <p>・身近なことを表す語句の量を増し、語彙を豊かにしている。(1)オ)</p> <p>【態】語句の音節と文字との関係を積極的に理解し、これまでの学習をいかして言葉を集めようとしている。</p>
5月	<p>はなの みち 6時間(読⑥)</p> <p>◎語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読することができる。(知・技(1)ク)</p> <p>◎場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えることができる。(思・判・表C(1)イ)</p> <p>○敬体で書かれた文章に慣れることができる。(知・技(1)キ)</p> <p>■想像を広げながら物語を読む。</p> <p>■物語の音読をする。</p> <p>☆動植物や自然に親しむことに関わる題材(道徳)</p> <p>☆植物の種をまき育てることに関わる題材(生活科)</p>	1 2~5 6	<p>1 教科書の挿絵を手がかりに、場所や季節、登場人物のイメージを膨らませる。</p> <p>2 教師の範読を聞いて、内容の大体を知る。</p> <p>・教師の後について全文を音読する。</p> <p>3 お話の内容を確かめながら、場面の様子や「くまさん」の行動について考える。</p> <p>・挿絵と本文を対応させながら、登場人物の行動や様子を考える。</p> <p>・挿絵のワークシートにぬり絵をしながら、季節に気づいたり場面の様子について想像を広げたりする。</p> <p>4 好きな挿絵の場面を選んで音読する。</p> <p>・二人組で音読を聞き合い、感想を伝え合う。</p>	<p>【知・技】</p> <p>・敬体で書かれた文章に慣れている。(1)キ)</p> <p>・語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読している。(1)ク)</p> <p>【思・判・表】「読むこと」において、場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えている。(C(1)イ)</p> <p>【態】興味をもって進んでお話の内容を捉え、学習課題に沿って友達と協力して音読しようとしている。</p>
5月	<p>としょかんへ いこう 2時間(知・技②)</p> <p>◎読書に親しみ、いろいろな本があることを知ることができる。(知・技(3)エ)</p> <p>■学校図書館で好きな本を選んで読書に親しむ。</p> <p>☆好きな本を見つけたら、司書の方にきいたりする活動(図書館活用)</p>	1~2	<p>1 学校図書館へ行く。</p> <p>・図書館巡りをして、図書館の様子を知る。</p> <p>・たくさん本があることに気づく。</p> <p>2 学校図書館での決まりについて考える。</p> <p>・みんなの本であることに気づき、大切に扱うことや静かに読むこと等の約束を知る。</p> <p>・読み終わったら元の場所に返すことを知る。</p> <p>3 読みたい本を選んで、読書に親しむ。</p>	<p>【知・技】読書に親しみ、いろいろな本があることを知っている。(3)エ)</p> <p>【態】積極的に図書館について知ろうとし、学習課題に沿って読みたい本を見つめようとしている。</p>
5月	<p>かきと かぎ 2時間(知・技②)</p> <p>◎平仮名を読み、書くことができる。(知・技(1)ウ)</p> <p>○語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫することができる。(思・判・表B(1)ウ)</p>	1~2	<p>1 P40の唱え歌を、いろいろな言い方で楽しく読み、濁音に気づく。</p> <p>2 P41にある単語を、一語一語唱えながら濁音の有無を確認する。</p> <p>・清音と濁音の平仮名をノートに書く。</p> <p>3 濁音を含む単語を見つけてノートに書く。</p> <p>4 短い唱え歌を作って、まとめをする。</p>	<p>【知・技】平仮名を読み、書いている。(1)ウ)</p> <p>【思・判・表】「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。(B(1)ウ)</p> <p>【態】進んで濁音を含む言葉を見つけ、これまでの学習をいかして文字で表そうとしている。</p>

令和6年度 1年 国語 評価規準 上巻

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	主な学習活動	評価規準
5月	ぶんをつくろう 4時間(書④) ◎文の中における主語と述語との関係に気づくことができる。(知・技(1)カ) ○句点の打ち方を理解して文の中で使うことができる。(知・技(1)ウ) ○語と語との続き方に注意することができる。(思・判・表B(1)ウ) ■主語と述語を意識して文を書く。	1~2 3~4	1 P42の挿絵を見ながら、二つの文を読む。 ・主語や述語に注意し、「――が――」「――は――」の文型であることに気づく。 ・主語・述語・句点を意識して、P42の文を視写する。 2 P43の挿絵を見て、「――が――」「――は――」の文で表し、ノートに書く。 3 日常生活から、「――が――」の文をノートに書く。	【知・技】 ・句点の打ち方を理解して文の中で使っている。(1)ウ) ・文の中における主語と述語との関係に気づいている。(1)カ) 【思・判・表】「書くこと」において、語と語との続き方に注意している。(B(1)ウ) 【態】語と語との続き方を丁寧に確かめながら、これまでの学習をいかして文を書くようとしている。
5月	ねことねっこ 2時間(書②) ◎促音の表記、助詞の「を」の使い方、句点の打ち方を理解し、文の中で使うことができる。(知・技(1)ウ) ○語と語との続き方に注意することができる。(思・判・表B(1)ウ) ■促音や濁音のある言葉を使って文を書く。	1 2	1 P44の唱歌をいろいろな言い方で楽しく読み、促音に気づく。 2 P45を見て、一語一語唱えながら促音の読み方を確認する。 3 P45を見て、促音のある言葉とない言葉を比べながらノートに書く。 4 促音や濁音のある言葉と助詞「を」を使って、簡単な文を書く。	【知・技】促音の表記、助詞の「を」の使い方、句点の打ち方を理解し、文の中で使っている。(1)ウ) 【思・判・表】「書くこと」において、語と語との続き方に注意している。(B(1)ウ) 【態】進んで促音や濁音のある言葉を見つけようとし、これまでの学習をいかして文を書くようとしている。
6月	わけをはなそう 2時間(話・聞②) ◎相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基いて、話す事柄の順序を考慮することができる。(思・判・表A(1)イ) ○言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気づくことができる。(知・技(1)ア) ○身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶことができる。(思・判・表A(1)ア) ■自分の考えとそのわけを話す。 ☆わけを説明する題材(生活科・算数)	1 2	1 質問に対して、答えとその理由を伝える言い方を確認する。 ・P47の挿絵を見ながら、質問する人と答える人の二人組になって、P46のやり取りを声に出して読む。 2 P47の挿絵を見ながら、二人組で学んだ話型を使って伝え合う。 3 小学校の生活等で好きなことや楽しみなことを、学んだ話型を使って話す。 ・二人組で交流した後、グループや全体で発表する。	【知・技】言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気づいている。(1)ア) 【思・判・表】 ・「話すこと・聞くこと」において、身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選んでいる。(A(1)ア) ・「話すこと・聞くこと」において、相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基いて、話す事柄の順序を考えている。(A(1)イ) 【態】話す事柄の順序を進んで考えながら、これまでの学習や経験をいかして考えとわけを話そうとしている。
6月	おばさんと おばあさん 2時間(書②) ◎長音の表記、助詞の「へ」の使い方、句点の打ち方を理解し、文の中で使うことができる。(知・技(1)ウ) ○語と語との続き方に注意することができる。(思・判・表B(1)ウ) ■長音のある言葉を使って文を書く。	1 2	1 P48の唱歌をリズムに気をつけて読む。 ・長音になることで言葉の意味が変わるものがあることに気づく。 2 P49の長音のある言葉を読んだり書いたりする練習をする。 3 長音のある言葉を集めてノートに書いたり、友達と交流したりする。 4 長音のある言葉を使って文を書く。 ・「――へ――」という助詞「へ」を使った文を書く。	【知・技】長音の表記、助詞の「へ」の使い方、句点の打ち方を理解し、文の中で使っている。(1)ウ) 【思・判・表】「書くこと」において、語と語との続き方に注意している。(B(1)ウ) 【態】進んで長音のある言葉を見つけようとし、これまでの学習をいかして文を書くようとしている。
6月	あいうえおで あそぼう 3時間(知・技③) ◎平仮名を読み、書くことができる。(知・技(1)ウ) ◎長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気づくことができる。(知・技(3)イ) ○姿勢や口形、発声や発音に注意して話すことができる。(知・技(1)イ) ■言葉遊び歌を楽しむ。	1 2 3	1 P50-51の言葉遊び歌を読む。 ・調子のよい言葉のリズムに気づき、節を付けて歌うように読む。 ・何度も読んで、言葉遊びの歌の仕組みに気づく。 2 自分たちで「あいうえおで あそぼう」を作る。 ・P50-51の吹き出しやP129-131の平仮名表を参考に、好きな行を作り、発表し合っ楽しむ。 3 P52-53の五十音表を読む。 ・口形に気をつけて縦や横に読んだり、各行や列の音の特徴に気をつけて読んだりする。 ・区切ったり伸ばしたりいろいろな声の大きさと読んだりする。 ・P52-53の「しりとり」を参考にして、しりとり遊びを楽しむ。	【知・技】 ・姿勢や口形、発声や発音に注意して話している。(1)イ) ・平仮名を読み、書いている。(1)ウ) ・長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気づいている。(3)イ) 【態】進んで平仮名の五十音を確かめ、これまでの学習をいかして言葉遊びを楽しむようとしている。
6月	つぼみ 8時間(知・技②、読⑥) ◎事柄の順序を考えながら、内容の大体を捉えることができる。(思・判・表C(1)ア) ○文の中における主語と述語との関係に気づくことができる。(知・技(1)カ) ○語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読することができる。(知・技(1)ク) ○文章の中の重要な語や文を考えて選り出すことができる。(思・判・表C(1)ウ) ■文章を読んで分かったことや考えたことを伝え合う。 ☆動植物や自然に親しむ題材(道徳) ☆図鑑でいろいろな花のつぼみを見つける活動(図書館活用)	1 2~6 7~8	1 学習の見直しをもつ。 ・花やつぼみについて、知っていることを出し合い、興味をもつ。 ・P54の写真を見て、三つのつぼみからそれぞれどんな花が咲くかを予想して絵に描いてみる。 ・教師の範読を自分の予想と比べながら聞き、内容の大体を知る。 2 全文を読み、内容の大体を捉える。 ・本文と写真とを対応させながら、3種類の花のつぼみについて取り上げられていることを確かめる。 ・それぞれのつぼみについて、「問い」と「答え」を確認し、「答え」の後に、詳しく説明している部分があることを確かめる。 ・「問い」と「答え」という文章形式を確かめながら、二人組で音読する。 3 いちばん興味をもったつぼみについて、わけとともに伝え合う。 4 学習を振り返る。	【知・技】 ・文の中における主語と述語との関係に気づいている。(1)カ) ・語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読している。(1)ク) 【思・判・表】 ・「読むこと」において、事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えている。(C(1)ア) ・「読むこと」において、文章の中の重要な語や文を考えて選り出している。(C(1)ウ) 【態】積極的に説明の順序を捉えながら文章を読み、学習課題に沿って分かったことや考えたことを伝えようとしている。

令和6年度 1年 国語 評価規準 上巻

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	主な学習活動	評価規準
6月	おもちゃとおもちゃ 2時間(書②) ◎拗音の表記、句点の打ち方を理解し、文の中で使うことができる。(知・技(1)ウ) ○語と語との続き方に注意することができる。(思・判・表B(1)ウ) ■拗音のある言葉を使って文を書く。	1 2	1 P62の唱歌をリズムに気をつけて読み、「おもちゃ」と「おもちゃ」の言葉の違いに気づく。 2 P63の拗音のある言葉を読んだり書いたりする練習をする。 3 拗音のある言葉を集めて、ノートに書いたり、友達と交流したりする。 4 拗音のある言葉を使って文を書く。 ・語と語の続き方に気をつけて文を書く。	【知・技】拗音の表記、句点の打ち方を理解して、文の中で使っている。(1)ウ) 【思・判・表】「書くこと」において、語と語との続き方に注意している。(B(1)ウ) 【態】進んで拗音のある言葉を見つけようとし、これまでの学習をいかして文を書くようとしている。
6月	おおきくなった 4時間(書④) ◎観察したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりすることができる。(思・判・表B(1)ア) ○身近なことを表す語句の量を増し、文章の中で使うことができる。(知・技(1)オ) ■観察したことを記録する文を書く。 ☆植物を観察する活動(生活科) ☆観察時に写真を撮影(ICT活用)	1 2~3 4	1 学習の見通しをもつ。 ・生活科で育てている植物の様子を想起し、「よくみてくわしくかく」という学習課題を確認する。 2 どんな観点で観察したいかを出し合う。 ・出し合ったものとP64の観点を合わせて整理し、クラス全体で共有する。 3 観察記録の書き方を知る。 ・P64-65の二つの作例を読み、書かれている観点と書き方の共通点・相違点を見つける。 4 観察記録を書く。 ・生活科で育てている植物を観察し、観点を想起して気づいたことをメモしたり絵に描いたりする。 ・メモを見て、二つの作例の書き方から選んで観察記録を書く。 ・P124を参考に、横書きのカードの書き方を知り、生活科の学習にもいかす。 5 書いたものを友達と交流する。 ・交流しながら、友達の観点や書き方との共通点・相違点に気づく。 6 学習を振り返る。 ・いろいろな観点から観察することで、様子を詳しく記録できることを確かめる。	【知・技】身近なことを表す語句の量を増し、文章の中で使っている。(1)オ) 【思・判・表】「書くこと」において、観察したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりしている。(B(1)ア) 【態】植物をさまざまな観点から積極的に観察し、これまでの学習をいかして観察したことを記録しようとしている。
6月	おおきな かぶ 6時間(読⑥) ◎語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読することができる。(知・技(1)ク) ◎場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えることができる。(思・判・表C(1)イ) ○文の中における主語と述語との関係に気づくことができる。(知・技(1)カ) ○場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像することができる。(思・判・表C(1)エ) ■物語を楽しんで音読したり、劇遊びをしたりする。 ☆人との関わりで協力したり親切にしたりする題材(道徳) ☆練習を撮影した動画をいかした振り返り(ICT活用)	1~3 4 5 6	1 学習の見通しをもつ。 ・教師の範読を聞いて、内容の大体を捉える。 ・P76-77を見て、これからの学習に意欲をもつ。 ・教師の後について全文を音読する。 2 お話の設定と展開を捉える。 ・登場人物と増えていく順序を確かめる。 ・繰り返しの言葉や副詞に着目して読む。 ・繰り返しのおもしろさやリズムを楽しんで音読する。 3 グループで役を決めて登場人物になりきって音読する。 ・動作やせりふを考えて楽しむ。 4 登場人物になりきって劇遊びをする。 ・グループ内で互いのよさや改善点を助言し合いながら練習する。 5 音読や劇の発表をする。 6 学習の振り返りをする。 ・繰り返しや言葉の響きやリズムを楽しみながら、学習したことを確かめる。	【知・技】 ・文の中における主語と述語との関係に気づいている。(1)カ) ・語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読している。(1)ク) 【思・判・表】 ・「読むこと」において、場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えている。(C(1)イ) ・「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。(C(1)エ) 【態】積極的に登場人物の行動を捉え、これまでの学習をいかして音読や劇遊びしようとしている。
7月	はをへをつかおう 3時間(書③) ◎助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方を理解して文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)ウ) ○語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫することができる。(思・判・表B(1)ウ) ■助詞「は」「を」「へ」を使って文を書く。	1 2 3	1 P78の唱歌を、リズムに気をつけて読む。 ・教師の範読を聞いてから、いろいろな読み方で繰り返し音読する。 ・「は」「を」「へ」の読み方に注意する。 2 唱歌を視写する。 ・「わ」と「は」、「お」と「を」、「え」と「へ」の使い方に注意する。 3 P79の文型に合わせて文を作り、発表し合う。	【知・技】助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方を理解して文や文章の中で使っている。(1)ウ) 【思・判・表】「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。(B(1)ウ) 【態】進んで助詞の使い方を確かめながら、学習課題に沿って文を作ろうとしている。
7月	すきな こと、なあに 7時間(話・聞③、書④) ◎身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶことができる。(思・判・表A(1)ア) ◎語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫することができる。(思・判・表B(1)ウ) ○言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気づくことができる。(知・技(1)ア) ○丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気をつけて使うとともに、敬体で書かれた文章に慣れることができる。(知・技(1)キ) ○相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基づいて、話す事柄の順序を	1~3 4~6	1 学習の見通しをもつ。 ・教科書を見て、「すきなことをとまだちにしようかいしよう」という学習課題を確認する。 2 好きなことを、グループの友達に紹介する。 ・いちばん好きなことを選んで紹介の準備をする。 ・聞いたことについて、感想を言ったり理由を尋ねたりする。 ・理由を言うと、好きなことが相手によく伝わることに気づく。 3 自分が好きなこととその理由を書く。 ・P82の作例を視写して、名前の書き方や始まりを1字下げで書くことを知る。 ・視写したものを参考にして、2文で書く。 ・主語と述語の関係や、句読点の打ち方、理由の書き表し方に注意する。	【知・技】 ・言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気づいている。(1)ア) ・丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気をつけて使うとともに、敬体で書かれた文章に慣れている。(1)キ) 【思・判・表】 ・「話すこと・聞くこと」において、身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選んでいる。(A(1)ア) ・「話すこと・聞くこと」において、相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基づいて、話す事柄の順序を考えている。(A(1)イ) ・「書くこと」において、語と語や文と文

令和6年度 1年 国語 評価規準 上巻

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	主な学習活動	評価規準
			5 夏休みの経験を発表して聞き合う。 ・伝えたいことを工夫して話す。 ・友達が知らせたい内容を聞き取り、質問や感想を伝える。 6 学習を振り返る。	
	ことばを みつけよう 2時間(知・技②) ◎身近なことを表す語句の量を増し、語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)オ) ■みんなで言葉遊びをする。	1 2	1 P100-101の表を見て、縦、横、斜めに隠れている言葉を見つける。 ・見つけた言葉をノートに書き、発表する。 2 自分で問題を作り、友達と出し合って楽しむ。	【知・技】身近なことを表す語句の量を増し、語彙を豊かにしている。(1)オ) 【態】積極的に言葉遊びに取り組み、これまでの学習をいかして自分でも言葉遊びを作成しようとしている。
9月	おはなしを たのしもう やくそく 8時間(読⑧) ◎場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えることができる。(思・判・表C(1)イ) ○文の中における主語と述語との関係に気づくことができる。(知・技(1)カ) ○語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読することができる。(知・技(1)ク) ○場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像することができる。(思・判・表C(1)エ) ■お話を楽しんだり、想像を広げたりしながら読む。 ☆人との関わりや譲り合い等に関わる題材(道徳)	1 2~6 7~8	1 学習の見通しをもつ。 ・「やくそく」という題名から、連想することや自分の経験等を出し合って、お話に関心をもつ。 ・「おはなしのすきなところをみつけて、こえにだしてよもう」という学習課題を確認する。 2 教師の範読を聞いて、感想を発表する。 3 教材文を読み、内容を捉える。 ・題名と作者、登場人物を確認する。(P109で「さくしゃ」という言葉を知る。) ・登場人物の言動を押さえながら、お話の展開を整理する。 ・3匹のその後を想像して伝え合い、お話の余韻を楽しむ。 4 グループで場面を選んで、音読する。 ・音読したい場面を選ぶ。 ・場面の様子を想像し、3匹の「あおむし」や「木」になりきって役割読みをする。 ・グループの音読を聞き合って感想を伝え合う。 5 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」で身につけた力を押さえる。	【知・技】 ・文の中における主語と述語との関係に気づいている。(1)カ) ・語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読している。(1)ク) 【思・判・表】 ・「読むこと」において、場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えている。(C(1)イ) ・「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。(C(1)エ) 【態】進んで登場人物の行動を確かめ、学習の見通しをもって声に出してお話を楽しもうとしている。
9月	かたかなを みつけよう 2時間(知・技①、書①) ◎片仮名を読み、書くとともに、片仮名の長音、拗音、促音、撥音などの表記を理解して文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)ウ) ○語と語との続き方に注意しながら、文を書き表すことができる。(思・判・表B(1)ウ) ■身の回りから片仮名で書く言葉を見つけて、読んだり書いたりする。	1 2	1 片仮名を書く。 ・P110の唱歌を音読し、その中から片仮名を見つけてノートに書く。 ・P111で、片仮名の長音、拗音、促音、濁音の書き方を確かめる。 2 身の回りから片仮名で書く言葉を探す。 ・探した言葉を、長音、拗音、促音、濁音に気をつけながら、ノートに書く。 ・P126-127の片仮名表を参考に、片仮名で書く言葉の入った簡単な文を書く。	【知・技】片仮名を読み、書くとともに、片仮名の長音、拗音、促音、撥音などの表記を理解して文や文章の中で使っている。(1)ウ) 【思・判・表】「書くこと」において、語と語との続き方に注意しながら文を書き表している。(B(1)ウ) 【態】身の回りから片仮名で書く言葉を進んで見つけ、これまでの学習をいかして簡単な文を書こうとしている。
9月	よんで たしかめよう うみの かくれんぼ 8時間(読⑧) ◎文章の中の重要な語や文を考えて選び出すことができる。(思・判・表C(1)ウ) ○文の中における主語と述語との関係に気づくことができる。(知・技(1)カ) ○事柄の順序など情報と情報との関係について理解することができる。(知・技(2)ア) ○事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えることができる。(思・判・表C(1)ア) ■説明する文章を読み、分かったことを伝える。 ☆自然に親しむ題材(道徳) ☆他の生き物の隠れ方を図鑑等で調べる活動(図書館活用)	1~2 3 4~6 7~8	1 学習の見通しをもつ。 ・「つぼみ」の学習で「問い」と「答え」の文があったことを思い出す。 ・P112-113の写真を見て、海にはたくさん生き物がいることを経験や知識を基に話し合い、教材に興味をもつ。 ・「いきものがどんなかくれんぼをしているかをしらべて、ともだちにしらせよう」という学習課題を確認する。 2 教材文を読む。 ・最初の「問い」で問われていることを確かめる。 ・3種類の海の生き物が出てくることを確かめる。 3 生き物の隠れる場所と隠れる方法を確かめる。 ・1文目に海の生き物とその隠れ場所、2文目に体の仕組みや機能、3文目に隠れる方法という順序で書かれていることに気づく。 ・内容や構成について気づいたことを交流し、生き物ごとに、読み取ったことをカードにまとめて確かめる。 4 P117の図鑑や科学読み物等から、他の生き物の隠れ方を調べて友達と交流する。 ・興味をもった生き物について「1なにが、どこに2かくれるためのからだのつくり 3かくれんぼのしかた」を調べる。 ・調べて見つけたことを、順序を考えてカードに書く。 ・P112と同様の問いかけをしながら、友達と交流する。 5 学習を振り返る ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」で身につけた力を押さえる。	【知・技】 ・文の中における主語と述語との関係に気づいている。(1)カ) ・事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。(2)ア) 【思・判・表】 ・「読むこと」において、事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えている。(C(1)ア) ・「読むこと」において、文章の中の重要な語や文を考えて選び出している。(C(1)ウ) 【態】粘り強く文章の中で大事な言葉を押さえながら読み、学習課題に沿って分かったことを伝えようとしている。

令和6年度 1年 国語 評価規準 上巻

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	主な学習活動	評価規準
9月	かずと かんじ 4時間（知・技②、書②） ◎第1学年に担当されている漢字を読み、漸次書くことができる。（知・技(1)エ） ・語と語との続き方に注意しながら文を書き表すことができる。（思・判・表B(1)ウ） ■数え歌を書く。	1～3 4	1 教科書の数え歌をリズムカルに楽しく読む。 ・数に合わせて、子ブタの鳴き声を入れて読む。 2 数を表す漢字を練習する。 ・読み方が複数あることを知る。 3 身の回りにあるものを数えてノートに書く。 4 P120-121を参考に、折り紙、鉛筆、車などの数え歌を作って友達と読み合う。	【知・技】第1学年に担当されている漢字を読み、漸次書いている。（(1)エ） 【思・判・表】「書くこと」において、語と語との続き方に注意しながら文を書き表している。（B(1)ウ） 【態】積極的に数え方に興味をもち、これまでの学習や経験をいかして漢字を使って数え歌を書こうとしている。

令和6年度 1年 国語 評価規準 下巻

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	主な学習活動	評価規準
10月	おもいうかべながら よもう くじらぐも 8時間(知・技①、読⑦) ◎かぎ(「」)の使い方を理解して文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)ウ) ◎場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像することができる。(思・判・表C(1)エ) ○語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読することができる。(知・技(1)ク) ■読んで想像したことを伝え合う。	1~2 3~6 7~8	1 扉の詩を声に出して読み、目次を見て下巻の見通しをもつ。 2 学習の見通しをもつ。 ・題名から「くじらぐも」を想像することで、物語の様子を「おもいうかべながらよもう」という学習課題を設定し、学習計画を立てる。 3 教材文を読み、内容の大体を捉えて、様子を思い浮かべる。 ・挿絵を手がかりに想像を広げながら、教師の範読を聞き初発の感想を交流する。 ・様子を想像して、かぎ(「」)のどこをどのように音読するか考える。 4 読んで想像したことを伝え合って共有する。 ・友達が想像したことを聞いて、思ったことを発表する。 5 話した言葉を、かぎ(「」)を使って書く。 6 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」で身につけた力を押さえる。	【知・技】 ・かぎ(「」)の使い方を理解して文や文章の中で使っている。(1)ウ) ・語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読している。(1)ク) 【思・判・表】「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。(C(1)エ) 【態】積極的に想像力を広げて物語を読み、これまでの学習をいかして想像したことを友達に伝えようとしている。
10月	まちがいを なおそう 2時間(書②) ◎文章を読み返す習慣をつけるとともに、間違いを直すことができる。(思・判・表B(1)エ) ○助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方を理解して、文や文章の中で使っている。(知・技(1)ウ) ■正しい表記で文章を書く。	1~2	1 これまでの学習を振り返る。 ・文章を読み返して間違いに気づいた経験や、日常的に文章を読み返す習慣がついているかを振り返る。 2 文章の中から表記の間違いを見つけて直す。 ・P19の文章例を読み、文字の間違いを直す。 ・友達と交換し、確認し合う。 ・「は」「へ」「を」を使って文章を書き、読み直す。 ・友達と交換し、確認し合う。	【知・技】助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方を理解して、文や文章の中で使っている。(1)ウ) 【思・判・表】「書くこと」において、文章を読み返す習慣をつけるとともに、間違いを正している。(B(1)エ) 【態】進んで文章を見直し、これまでの学習をいかして適切な表記に正そうとしている。
10月	くわしく かこう しらせたいな、見せたいな 10時間(書⑩) ◎経験したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりすることができる。(思・判・表B(1)ア) ○言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気づくことができる。(知・技(1)ア) ○助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ(「」)の使い方を理解して、文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)ウ) ○語と語や文と文との続き方に注意しながら書き表すことができる。(思・判・表B(1)ウ) ■見つけたことを記録して伝える。 ☆動植物の観察記録文を書く活動(生活科) ☆知らせたい対象を端末で撮影(ICT活用)	1 2~3 4~8 9~10	1 学習の見通しをもつ。 ・P20を読み、「学校にいる生きものや、学校で見つけたものをよく見て、いえのひとにしらせる文しようをかこう」という学習課題を確認する。 ・教材文を読んで学習の流れを確かめ、知らせたいものを考える。 2 家の人に知らせたいものを決め、絵や見つけたことをカードに記録する。 ・知らせたいものをよく見て、P21のカードを参考に、絵の周りに色や形、触った感じ、様子などを短い言葉で書く。 3 見つけた事柄を文章に書く。 ・P21のカードとP22の作例を比べ、見つけたことをどのように文章に表すのかを考える。 ・短冊カードを用意するなどして、見つけた事柄を一つずつ文にする。 ・カードを並べ替えながら文章の順序を考える。 ・考えた順序に沿って文章を書く。 4 文章を声に出して読み返す。 ・句読点や「は」「へ」「を」が正しく使えているか推敲する。 5 書いた文章を読んでもらう。 ・家の人に読んでもらい、感想をもらう。 ・知らせたいことを伝える文章を書いて、家の人に読んでもらった感想をまとめる。 6 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」で身につけた力を押さえる。	【知・技】 ・言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気づいている。(1)ア) ・助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ(「」)の使い方を理解して、文や文章の中で使っている。(1)ウ) 【思・判・表】 ・「書くこと」において、経験したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりしている。(B(1)ア) ・「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意しながら書き表している。(B(1)ウ) 【態】知らせたいものを丁寧に観察し、学習の見通しをもって見つけたことを文章にして伝えようとしている。
10月	かん字のはなし 6時間(知・技③、書③) ◎第1学年に配当されている漢字を読み、漸次書き、文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)エ) ○語と語との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫することができる。(思・判・表B(1)ウ) ■漢字を使った短文を書く。	1~2 3~4 5~6	1 教科書を読み、漢字の成り立ちを知る。 ・P24-25の挿絵を見て、何を表す絵が描いてあるかを確かめる。 ・絵と漢字を見比べて、漢字の成り立ちを知る。 2 教材文に出ている漢字の書き方を学び、書き順や字形に気をつけて練習する。 ・絵からできている漢字の意味を考える。 ・ある事柄を示す印からできている漢字の意味を考える。 3 例文にある絵を漢字に直し、ノートに視写する。 4 学習した漢字を使って、短文を作る。 ・作った文を友達と読み合い、交流する。 ・互いに読み合い、漢字や文の書き方に間違いがないかを確かめる。 5 学習を振り返る。 ・漢字の成り立ちについて知ったことを振り返る。	【知・技】第1学年に配当されている漢字を読み、漸次書き、文や文章の中で使っている。(1)エ) 【思・判・表】「書くこと」において、語と語との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。(B(1)ウ) 【態】積極的に漢字の成り立ちに興味をもち、学習課題に沿って漢字を使った短い文を書こうとしている。
10月 ~ 11月	ことばを たのしもう 2時間(知・技②) ◎長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気づくことができる。	1	1 濁音・半濁音・促音・撥音の入った詩のおもしろさを味わいながら声に出して読む。 2 早口言葉を調子よく、正確に唱える。	【知・技】 ・音節と文字との関係に気づくとともに、発声や発音に注意して話している。(1)イ)

令和6年度 1年 国語 評価規準 下巻

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	主な学習活動	評価規準
	言葉の豊かさに気づくことができる。 (知・技(3)イ) ○音節と文字との関係に気づくとともに、発声や発音に注意して話すことができる。 (知・技(1)イ) ○語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読することができる。(知・技(1)ウ) ■詩や早口言葉を楽しむ。 ☆他にもおもしろい発音の詩を探す活動(図書館活用)	2	3 他にもおもしろい発音の詩などを探して、声に出して読み合う。	【知・技】語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読している。(1)ウ) ・長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気づいている。(3)イ) 【態】積極的に詩や早口言葉を楽しみ、これまでの学習や経験をいかして、発声や発音に気をつけながら声に出して読もうとしている。
11月	せつめいする 文しょうを よもう	1	1 学習の見直しをもつ。 ・P30の挿絵を見て、それぞれの車がどんな仕事をするのか、そのためにどんなつくりになっているのか、考えを出し合う。 ・「いろいろな車のしごととつくりがどんなふうにしようかいされているかかんがえながら、せつめいする文しょうをよもう」という学習課題を確認する。	【知・技】事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。(2)ア) 【思・判・表】 ・「読むこと」において、事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えている。(C(1)ア) ・「読むこと」において、文章の中の重要な語や文を考えて選び出している。(C(1)ウ) 【態】進んで説明における順序を考えながら読み、自分が説明するときにかきたいことを見つけようとしている。
	じどう車くらべ 7時間(読⑦) ◎事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えることができる。(思・判・表C(1)ア) ○事柄の順序など情報と情報との関係について理解することができる。(知・技(2)ア) ○文章の中の重要な語や文を考えて選び出すことができる。(思・判・表C(1)ウ) ■事物の仕組みを説明した文章を読み、分かったことをまとめる。	2~5	2 教材文を読む。 ・文章全体の構造を捉える。(問いと答えの形式・三つの事例を挙げて説明) ・各事例の「しごと」と「つくり」を見分け、二つの事柄の順序や、「そのために」でつながっていることを押さえる。 ・事例を比べ、車の「つくり」は、「しごと」によって変わることを押さえる。	
		6	3 説明のしかたについて確かめる。 ・身近な自動車から順に登場していたことを押さえる。	
		7	4 はしご車の「しごと」とそのための「つくり」についてまとめる。 5 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」で身につけた力を押さえる。	
11月	せつめいする 文しょうを かこう	1	1 学習の見直しをもつ。 ・教材「じどう車くらべ」の学びを思い出す。 ・一人一人が「じどう車しようかいカード」を書き、「クラスでまとめて、じどう車ずかんをつくらう」という学習課題を確認する。	【知・技】事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。(2)ア) 【思・判・表】「書くこと」において、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えている。(B(1)イ) 【態】分かりやすい説明のしかたについて興味をもち、説明の順序に気をつけながら、見直しをもって自動車図鑑を作ろうとしている。
	じどう車ずかんをつくらう 5時間(書⑤) ◎事柄の順序に沿って簡単な構成を考慮することができる。(思・判・表B(1)イ) ○事柄の順序など情報と情報との関係について理解することができる。(知・技(2)ア) ■「じどう車しようかいカード」を書く。 ☆自動車について書かれた図鑑等を選んで読む活動(図書館活用)	2~4	2 「じどう車しようかいカード」を作る。 ・図鑑などで知った自動車の中から紹介したい自動車を選ぶ。 ・説明の観点に着目しながら、「しごと」と「つくり」をノートに書く。 ・カードに文章を清書し、できたら、挿絵用の絵や写真のコピーを添える。	
		5	3 カードを交換して読み合う。 ・友達の作ったカードを読み、感想を伝え合う。 ・クラスで図鑑としてまとめる際、どんな順番でページに並べるか話し合う。 4 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」で身につけた力を押さえる。	
11月	かたかなを かこう	1~2	1 身近なものの中で、片仮名で表記する語を出し合う。 2 教科書にある片仮名で書く言葉をノートに書く。 ・片仮名の長音・促音・拗音の表し方を確認する。 3 片仮名で書く言葉を集め、短文を作る。 4 作った短文を友達と交流する。	【知・技】片仮名を読み、書くとともに、文や文章の中で使っている。(1)ウ) 【思・判・表】「書くこと」において、語と語との続き方に注意しながら、書き表し方を工夫している。(B(1)ウ) 【態】片仮名の表記のしかたに気をつけながら、これまでの学習をいかして文の中で片仮名を使おうとしている。
11月	ともだちと はなして、おはなしを かこう	1	1 学習の見直しをもつ。 ・「どうぶつになったつもりでともだちとはなして、おはなしをつくらう」という学習課題を確認する。	【知・技】 ・句読点の打ち方、かぎ(「」)の使い方を理解して文や文章の中で使っている。(1)ウ) ・文の中における主語と述語との関係に気づいている。(1)カ) 【思・判・表】 ・「話すこと・聞くこと」において、話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を正確に理解している。(1)イ)
	どんな おはなしが できるかな 6時間(話・聞②、書④) ◎互いの話に関心をもち、相手の発言を受けて話をつなぐことができる。(思・判・表A(1)オ) ○文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見つけることができる。(思・判・表B(1)オ) ○句読点の打ち方、かぎ(「」)の使い方を理解して文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)イ)	2~3	2 P40-41の挿絵を参考に、登場人物を決める。 3 友達と役割を決めて、動物になったつもりで話をする。 ・友達と話したことをノートにメモする。 ・「たいせつ」で、友達の話聞くときに気をつけることを確認する。	

令和6年度 1年 国語 評価規準 下巻

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	主な学習活動	評価規準
	<p>さる。(知・技(1)ウ)</p> <p>○文の中における主語と述語との関係に気づくことができる。(知・技(1)カ)</p> <p>○話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもつことができる。(思・判・表A(1)エ)</p> <p>■友達と話したことを基にして物語を作る。</p>	4~5 6	<p>4 友達と話したことを基に、お話を考えて文にする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・P42を参考に、友達と話したことを会話の形にする。 ・書いたお話を読み返す。 <p>5 書いたお話を読み合い、感想を交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「たいせつ」で、交流の観点を確認する。 <p>6 学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」で身につけた力を押さえる。 	<p>谷を捉えて感想をもっている。(A(1)エ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「話すこと・聞くこと」において、互いの話に関心をもち、相手の発言を受けて話をつないでいる。(A(1)オ) ・「書くこと」において、文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見つけている。(B(1)オ) <p>【態】物語を完成させるという見通しをもち、進んで友達に質問し、お話を書こうとしている。</p>
11月 ~ 12月	<p>すきな ところを見つげよう</p> <p>たぬきの 糸車 8時間(読⑤)</p> <p>◎文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつことができる。(思・判・表C(1)オ)</p> <p>○文の中における主語と述語との関係に気づくことができる。(知・技(1)カ)</p> <p>○語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読することができる。(知・技(1)ク)</p> <p>○場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像することができる。(思・判・表C(1)エ)</p> <p>■物語の好きなところを見つけて、そのわけを話し合う。</p>	1 2~6 7~8	<p>1 学習の見直しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師の範読を聞いて好きなところを見つけ、文章に線を引く。 ・挿絵が手がかりに、内容の大体を捉える。 ・「すきなところとそのりゆうをみんなにしらせよう」という学習課題を確認する。 <p>2 場面ごとに様子を思い浮かべる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「たぬき」や「おかみさん」と同じ動作をしてみる。 ・「たぬき」のしたことを確かめ、そのときの様子を思い浮かべる。 ・「おかみさん」の気持ちを想像する。 <p>3 好きなところとそのわけを友達と話し合う。</p> <p>4 学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」で身につけた力を押さえる。 	<p>【知・技】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文の中における主語と述語との関係に気づいている。(1)カ) ・語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読している。(1)ク) <p>【思・判・表】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。(C(1)エ) ・「読むこと」において、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。(C(1)オ) <p>【態】場面の様子に進んで着目し、これまでの学習をいかして、好きなところとそのわけを考えようとしている。</p>
12月	<p>日づけと よう日 3時間(知・技①、書②)</p> <p>◎第1学年に配当されている漢字を読み、漸次書き、文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)エ)</p> <p>○身近なことを表す語句の量を増し、語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)オ)</p> <p>○語と語との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫することができる。(思・判・表B(1)ウ)</p> <p>■唱え歌を作る。</p>	1 2 3	<p>1 日付歌を唱える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日付歌に出てくる漢字の読み方を学び、日付歌を声に出して練習する。 ・日付歌に出てくる漢字の練習をする。 <p>2 曜日歌を唱える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・曜日歌に出てくる漢字の読み方を学び、曜日歌を声に出して練習する。 ・曜日歌に出てくる漢字の練習をする。 <p>3 自分の日付歌、曜日歌を作る。</p>	<p>【知・技】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1学年に配当されている漢字を読み、漸次書き、文や文章の中で使っている。(1)エ) ・身近なことを表す語句の量を増し、語彙を豊かにしている。(1)オ) <p>【思・判・表】「書くこと」において、語と語との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。(B(1)ウ)</p> <p>【態】積極的に日付や曜日を表す漢字に関心をもち、これまでの学習をいかして自分でも唱え歌を作ろうとしている。</p>
12月	<p>てがみを かこう</p> <p>てがみで しらせよう 6時間(書⑥)</p> <p>◎丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気をつけて使うとともに、敬体で書かれた文章に慣れることができる。(知・技(1)キ)</p> <p>◎文章を読み返す習慣をつけるとともに、間違いを正したり、語と語や文と文との続き方を確かめたりすることができる。(思・判・表B(1)エ)</p> <p>○語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫することができる。(思・判・表B(1)ウ)</p> <p>■伝えたいことを手紙に書く。</p> <p>☆お世話になった人に手紙を書く活動(生活科)</p>	1 2 3~5 6	<p>1 学習の見直しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手紙を書いたり、もらったりした経験を出し合う。 ・教材文を読み、「うれしかったことやたのしかったことを、てがみにかいてしらせよう」という学習課題を確認する。 <p>2 誰にどんなことを知らせたいか考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相手と書く題材を決め、必要な事柄を集める。 <p>3 手紙を書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・P58-59の作例を参考に、クラス全員で共通の相手に手紙を書く練習をする。 ・読み返して、書くときに気をつけることを意識して書いているかを確認する。 ・自分がいちばん知らせたい相手に手紙を書く。 <p>4 学習の振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手紙を書いた感想を交流する。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」で身につけた力を押さえる。 	<p>【知・技】丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気をつけて使うとともに、敬体で書かれた文章に慣れている。(1)キ)</p> <p>【思・判・表】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫することができる。(B(1)ウ) ・「書くこと」において、文章を読み返す習慣をつけるとともに、間違いを正したり、語と語や文と文との続き方を確かめたりしている。(B(1)エ) <p>【態】書いた文章を積極的に見直ししながら、これまでの学習をいかして、身近な人に手紙を書こうとしている。</p>
12月	<p>本は ともだち</p> <p>むかしばなしを よもう おかゆの おなべ 8時間(書④、読④)</p> <p>◎読書に親しみ、いろいろな本があることを知ることができる。(知・技(3)エ)</p> <p>○語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫することができる。(思・判・表B(1)ウ)</p> <p>○文章を読んで感じたことや分かったことを共有することができる。(思・判・表C(1)カ)</p> <p>■昔話を読み、感想を伝え合う。</p> <p>☆いろいろな昔話を選んで読む活動(図書館活用)</p>	1~2 3~5 6~8	<p>1 学習の見直しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・知っている昔話や読んでみたい昔話を出し合う。 ・P60-61を見て、「いろいろなむかしばなしをよんで、ともだちにしらせよう」という学習課題を確認する。 <p>2 カードの書き方を学習する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「おかゆの おなべ」を読む。 ・お話の好きなところやおもしろかったところなどを伝え合う。 ・P73を参考にカードの書き方を確認する。 <p>3 読みたい昔話を選んで読み、カードを書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カードの書き方を再度確かめる。 <p>4 友達のカードを読んで感想を伝え合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カードを読み、さらに物語を読んだり、カードに対する感想を書いたりする。 	<p>【知・技】読書に親しみ、いろいろな本があることを知っている。(3)エ)</p> <p>【思・判・表】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。(B(1)ウ) ・「読むこと」において、文章を読んで感じたことや分かったことを共有している。(C(1)カ) <p>【態】積極的に世界の昔話を読み、これまでの学習をいかして感想をカードに書いて伝えようとしている。</p>

令和6年度 1年 国語 評価規準 下巻

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	主な学習活動	評価規準
	には意味による語句のまとまりがあることに気づくことができる。(知・技(1)オ) ○互いの話に関心をもち、相手の発言を受けて話をつなぐことができる。(思・判・表A(1)オ) ■尋ねたり、応答したりする。	2~3	2 教材文を読み、物の名前には上位語と下位語があることを理解する。 ・教材文に出てくる物の名前を上位語と下位語に整理してノートに書く。 ・身の回りの物の名前を集め、上位語と下位語に分けてノートにまとめる。 ・集めた言葉を発表し合う。	【思・判・表】「話すこと・聞くこと」において、互いの話に関心をもち、相手の発言を受けて話をつないでいる。(A(1)オ) 【態】積極的に言葉の上位語と下位語に関心をもち、学習の見通しをもって、言葉を集めて「おみせやさんごっこ」をしようとしている。
		4~5	3 「おみせやさんごっこ」の準備をする。 ・2で発表し合った身の回りの物の名前を参考にして、開きたいお店ごとにグループを作る。 ・上位語で看板やポスターを、下位語で品物カードを作る。 ・教科書を参考にして、グループごとに「お店の人」と「お客さん」の話し方を練習する。	
		6	4 「おみせやさんごっこ」をする。 ・「お店の人」と「お客さん」の言葉のやり取りを楽しむ。 5 学習を振り返る。	
2月	わらしべちょうじゃ 1時間(読①) ◎昔話の読み聞かせを聞くなどして、我が国の伝統的な言語文化に親しむことができる。(知・技(3)ア) ○文章を読んで感じたことを共有することができる。(思・判・表C(1)カ) ■昔話の読み聞かせを聞く。 ☆我が国の文化や生活に親しみ愛着をもたせる題材(道徳) ☆いろいろな昔話を読む活動(図書館活用)	1	1 知っている昔話を出し合う。 2 教科書の挿絵を見ながら「わらしべちょうじゃ」の読み聞かせを聞く。 3 おもしろかったところや、気に入ったところについて友達と感想を伝え合う。 ・P126を参考に、読み聞かせやその他の楽しみ方について話し合ってもよい。	【知・技】昔話の読み聞かせを聞くなどして、我が国の伝統的な言語文化に親しんでいる。(3)ア) 【思・判・表】「読むこと」において、文章を読んで感じたことを共有している。(C(1)カ) 【態】積極的に昔話の読み聞かせを楽しみ、これまでの学習をいかして内容や感想を共有しようとしている。
2月	かたかなの かたち 3時間(知・技②、書①) ◎片仮名を読み、書くとともに、文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)ウ) ○語と語との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫することができる。(思・判・表B(1)ウ) ■片仮名の言葉を使って文を書く。	1 2~3	1 平仮名と形の似ている片仮名や、似た形の片仮名を区別して書く。 ・一字ずつ形を確認しながらノートに書く。 ・P139-140の「ひらがな かたかな」を見て、他にも似ている形の字を探してノートに書く。 2 間違えやすい片仮名を練習する。 ・P99を見て、間違えやすい文字・長音・拗音の書き方を理解し、形に気をつけてノートに書く。 3 片仮名で書く言葉を集める。 ・見つけた片仮名の言葉を使って文を書く。 4 書いた文を発表し合う。	【知・技】片仮名を読み、書くとともに、文や文章の中で使っている。(1)ウ) 【思・判・表】「書くこと」において、語と語との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。(B(1)ウ) 【態】進んで形の似ている字を探し、これまでの学習をいかして片仮名の言葉を使った文を書こうとしている。
2月	ことばあそびをつくらう 6時間(知・技①、書⑤) ◎身近なことを表す語句の量を増し、文章の中で使い、語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)オ) ○長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気づくことができる。(知・技(3)イ) ○語と語との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫することができる。(思・判・表B(1)ウ) ■言葉遊びを作る。	1 2 3~5 6	1 学習の見通しをもつ。 ・教材文を見て、「ことばクイズをつくって、みんなでときあおう」という学習課題を理解する。 2 P100-101の□にあてはまる言葉を考える。 ・「いる」「ある」をヒントにして言葉を見つめる。 ・できあがった文を声に出して読む。 3 「ことばクイズ」を作る。 ・()の言葉の中に隠れている□の言葉を考える。 ・グループで相談し合う。 ・「いる」「ある」の使い分けに注意しながらクイズカードを作る。 4 クイズ大会をする。 ・グループごとにブースを作り、クイズを出し合う。 5 学習を振り返る。	【知・技】 ・身近なことを表す語句の量を増し、文章の中で使い、語彙を豊かにしている。(1)オ) ・長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気づいている。(3)イ) 【思・判・表】「書くこと」において、語と語との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。(B(1)ウ) 【態】身近なことを表す語句に積極的に関心をもち、これまでの学習をいかして言葉遊びを楽しもうとしている。
2月	ふたりで かんがえよう これは、なんでしょう 4時間(話・聞④) ◎互いの話に関心をもち、相手の発言を受けて話をつなぐことができる。(思・判・表A(1)オ) ○事柄の順序など情報と情報との関係について理解することができる。(知・技(2)ア) ○身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶことができる。(思・判・表A(1)ア) ■二人で相談し、考えをまとめる。	1 2~3 4	1 学習の見通しをもつ。 ・教師から問題を聞いたり、教材文を読んだりして、クイズの大まかなルールを把握する。 ・「ふたりでもんだいをかんがえて、クイズたいかいをしよう」という学習課題を確認する。 2 二人組を作り、クイズの問題を考える。 ・問題にするものを決める。 ・決めたものの特徴(色や形、働き、様子など)をノートに書き出す。 3 問題の出し方を話し合う。 ・動画を見て問題の出し方を確かめ、話し合いのしかたを学ぶ。 ・書き出したことをどのような順番で言うのかを決め、練習する。 4 「これは、なんでしょう」クイズ大会をする。 ・二人組で出題したり、答えたりする。 ・解答者は、出題者の二人に問題の出し方について感想を伝える。	【知・技】事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。(2)ア) 【思・判・表】 ・「話すこと・聞くこと」において、身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶことができる。(A(1)ア) ・「話すこと・聞くこと」において、互いの話に関心をもち、相手の発言を受けて話をつないでいる。(A(1)オ) 【態】粘り強く二人で話し合い、学習課題に沿って協力してクイズを作ろうとしている。

令和6年度 1年 国語 評価規準 下巻

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	主な学習活動	評価規準
			5 学習を振り返る。 ・二人で感想を出し合い、話し合うときにどのようなことが大切か、気づいたことを出し合う。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」で身につけた力を押さえる。	
2月 ～ 3月	よんで かんじた ことを はなそう ずうっと、ずっと、大すぎたよ 8時間(読⑧) ◎文章を読んで感じたことや分かったことを共有することができる。(思・判・表C(1)カ) ○事柄の順序など情報と情報との関係について理解することができる。(知・技(2)ア) ○文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつことができる。(思・判・表C(1)オ) ■読んで感じたことを伝え合う。 ☆生命を尊重する心を育てる題材(道徳)	1 2 3～4 5～7 8	1 学習の見直しをもつ。 ・家でペットを飼っている児童に、ペットとの関わりを紹介してもらう。 ・「おはなしをよんでかんじたことをはなそう」という学習課題を確認する。 2 お話を読んで思ったことを話す。 ・教師の範読を聞いて、「いいな」「すきだな」「どうしてかな」など、心に残ったことを出し合う。 ・出し合った感想をもとに、みんなで話し合いたいことを決め、これからの学習計画を立てる。 3 お話の筋を押さえる。 ・「エルフ」がどんなふうに変わっていったか確かめる。 ・「ぼく」が、「エルフ」のことが大好きだと分かるところを見つける。 4 学習計画に沿って話し合う。 ・2で決めた話し合いたいことについて、考えを出し合う。 ・「ぼく」が、なぜ「となりの子」から子犬をもらわなかったのかを、自分に引きつけて考える。 ・このお話を読んで、最も心に残ったことを友達と話す。 5 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」で身につけた力を押さえる。	【知・技】事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。(2)ア) 【思・判・表】 ・「読むこと」において、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。(C(1)オ) ・「読むこと」において、文章を読んで感じたことや分かったことを共有している。(C(1)カ) 【態】友達への考えや感想を積極的に知ろうとし、学習の見直しをもって、読んで感じたことを伝え合おうとしている。
3月	にている かん字 3時間(知・技②、書①) ◎第1学年に配当されている漢字を読み、漸次書き、文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)エ) ・語と語との続き方に注意しながら、文を書き表すことができる。(思・判・表B(1)ウ) ■似ている漢字を使って文を書く。	1 2 3	1 似ているところに気をつけて漢字を書く。 ・P120の漢字を見比べ、どこが似ているか出し合う。 ・似ているところと異なるところを確かめながら、ノートに書く。 2 書き順に気をつけて漢字を書く。 ・P121の漢字を、書き順を確かめながらノートに書く。 3 漢字を使って文を作る。	【知・技】第1学年に配当されている漢字を読み、漸次書き、文や文章の中で使っている。(1)エ) 【思・判・表】「書くこと」において、語と語との続き方に注意しながら、文を書き表している。(B(1)ウ) 【態】進んで漢字の形に注意し、これまでの学習をいかして楽しみながら文を書こうとしている。
3月	おもい出して かこう いい こと いっぱい、一年生 10時間(書⑩) ◎自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考慮することができる。(思・判・表B(1)イ) ○敬体で書かれた文章に慣れることができる。(知・技(1)キ) ○経験したことから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすることができる。(思・判・表B(1)ア) ■経験したことを報告する文章を書く。 ☆生活を明るくする態度を育てる題材(道徳) ☆これまでの活動の様子の写真や動画を端末に保存している場合は、それらも参照(ICT活用)	1 2 3 4～8 9～10	1 学習の見直しをもつ。 ・写真やアルバムを見ながら1年間を振り返り、心に残っていることを話し合う。 ・教材文を読み、学習の手順を知る。 ・「おもい出して、『1年生のおもいで』をかこう」という学習課題を確認する。 2 1年間の出来事を振り返る。 ・P123を参考に、「がんばったこと」「できるようになったこと」などの観点から思い出す。 ・写真を見たり、家の人に聞いたりする。 3 書きたい事柄を選ぶ。 ・一つ一つの事柄を思い出し、書きたい内容をまとめてメモを作る。 4 メモを基に、文章を書く。 ・P124の作例を読み、書き方を考える。 ・順番を考えながらメモを並べ替え、文章にする。 ・様子を表す絵を描いたり、写真を貼ったりする。 5 推敲する。 ・句読点や文字の間違いを直す。 ・内容の分かりにくいところはないか、読み直す。 6 書いたものをまとめて冊子を作る。 ・時間順に並べるなど、構成を工夫する。 7 冊子を読み合う。 ・友達への思い出についての感想や、書き方のよかったところを伝え合う。 ・家の人に読んでもらい、感想をもらう。 8 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」で身につけた力を押さえる。 9 1年間の学習を振り返り、頑張ったことを思い出してP136の表彰状に書く。 ・1年生の初めに書いた字と比べ、自分の成長を確認する。	【知・技】敬体で書かれた文章に慣れている。(1)キ) 【思・判・表】 ・「書くこと」において、経験したことから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア) ・「書くこと」において、自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えている。(B(1)イ) 【態】事柄の順序に沿って構成を粘り強く考えながら、これまでの学習や経験をいかして1年生の思い出を伝える文章を書こうとしている。

令和6年度『ひろがる言葉 小学国語』2年 評価規準

江戸川区立東葛西小学校

〔第1学年及び第2学年〕目標(「学びに向かう力、人間性等」の単元目標)

- (1) 日常生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができるようにする。
 - (2) 順序立てて考える力や感じたり想像したりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えをもつことができるようにする。
 - (3) 言葉がもつよさを感じるとともに、楽しんで読書をし、国語を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。
- 「学習内容」…△知識・技能 ◇話すこと・聞くこと ■書くこと □読むこと

学期	月	時数	単元名/教材名/教科書ページ 学習内容 ★ここが大事/★学習用語	領域	時	学習活動/★留意点	評価規準 学習指導要領との対応
1学期	4月	2 (話す聞く2)	こえの大きさをかんがえてはなそう すごろくトーク 教科書:P8 ◇いろいろな場面で、話す声の大きさを考えて、気をつけて話すことの大切さに気づく。 ★学習用語:声の大きさ/伝える/相手/声のものさし	話聞	1	<見通しを もとう> 1. 教材名とリード文を読み、学習の見通しをもつ。 (1) すごろくトークをするという学習の見通しをもって、学習計画を立てる。 * 黒板に「こえの ものさし」の拡大したものを掲示する。 (2) p.8の「保健室での報告」「班の話し合い」「運動会の応援」「みんなの前で発表」の各場面について、「こえの ものさし」のどこに該当するか考える。 * 声の大きさの例を示す。 * 学校生活での経験を思い起こさせ、そのときの声の大きさに背景や理由があることを考えさせる。 * 場面や相手の数に合わせた声の大きさを話すことの必要性に気づかせる。 (3) ちょうどよい声の大きさを考えて、話す。実際に話しながら、「ものさし」の数値と実際の声の大きさを実感的に捉える。 * 日常生活の場を意識させる。 * 相手の人数に合わせた大きさを話すときの声について、話すグループと観察するグループに分けて、話し手どうしの感覚や、聞いた時の感覚を実感的に比べさせるとよい。	【知識・技能】 ◎音節と文字との関係、アクセントによる語の意味の違いなどに気付くとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話している。(1)イ 【思考・判断・表現】 ◎「話すこと・聞くこと」において、伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫している。(A1)ウ 【言語活動例】 ・紹介や説明、報告など伝えたいことを話したり、それらを聞いて声に出して確かめたり感想を述べたりする活動。(A2)ア 【態度】 ・進んで伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫し、今までの学習を生かしてすごろくトークをしようとしている。
					2	2. すごろくトークをする。 (1) 止まったまですの言葉を声に出して読み、「」の言葉を使う。 * 「こえの ものさし」を意識させる。 (2) ちょうどよい声の大きさを友達と一緒に考える。 * ただすごろくを楽しむのではなく、5段階の声の大きさ(「0」を含む)のうち、「0」の声は教室移動のとき、「4」の声は体育館で発表するときなど、空間の広さや周りの状況でも変わること、変えることを意識させ、いろいろな声で楽しませる。 <ふりかえろう> 3. 学習を振り返る。 (1) 学習全体を振り返り、できるようになったことや感想を確かめる。 * 全体で話したり聞いたりして、学習の自己評価をさせる。	
1学期	4月	4 (書く4)	きょうのできごとを 書きとめよう つづけて みよう——日記 教科書:P10 ■毎日の生活を振り返り、経験したことや想像したことなどから書くことを見つけ、日記を書く。 ★学習用語:日記/日記のたね	書く	1	1. 例文を読み、日記がどのようなものか、日記には何を書けばいいのかわかり、学習の見通しをもつ。 * 基本的には、毎日の生活を振り返って書くものだということをおさえる。 実際には、その日のことこだわらず書かせたり、幾つかの話題から選択させて書かせたりしてもよい。	【知識・技能】 ◎長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ(「」)の使い方を理解して文や文章の中で使っている。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使っている。(1)ウ 【思考・判断・表現】 ◎「書くこと」において、経験したことや想像したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にしている。(B1)ア 【言語活動例】 ・日記や手紙を書くなど、思ったことや伝えたいことを書く活動。(B2)イ 【態度】 ・積極的に、経験したことや思ったことなどから書くことを見つけようとし、学習課題にそって、日記を書いて友達と読み合おうとしている。
					2	2. 生活を振り返り、日記に書く材料を集める。 * P11「日記のたね」を参考にして、書きたいことを集め、選ぶ。 * 「見たこと・聞いたこと・したこと・感じたこと」なども視点となる。 * 一緒に遊ぶ時間を作り、題材とするなどの工夫もできる。ペアやグループで遊んだことを想起し対話する時間をとるとよい。	
					3	3. 日記を書く。 * 日記例を参考にして、日付・曜日・天気なども書くようにする。 * 「いつ」「どこ」「だれが」「なにを」「気持ち」「会話」など前学年での学習を想起しながら書くことよい。 * 書いたものは読み返し、まちがいがいがないか確認する。	
					4	4. 友達と読み合ったり、家の人に読んでもらったりする。 * 感想や励ましなどの一言を書いてもらおうとよい。 * 年間を通して扱い、下巻P114『こんなことができるようになったよ』の題材選択などで活用することもできる。 * 楽しみながら続けていけるよう、学級の実態に応じて工夫したい。 例: 期間を決めて全員取り組む/曜日を決めて提出を促す/グループで日記ノートを読み合う。 5. 日記を書くときに気をつけることや題材の見つけ方などについて振り返る。	

学期	月	時数	単元名／教科名／教科書ページ 学習内容 ★ここが大事／☆学習用語	領域	時	学習活動／*留意点	評価規準 学習指導要領との対応
1学期	4月	2	たのしく こえに 出して よもう ちいさい おおきい 教科書:P12 口体を動かしたり、声の大きさを工夫しながら、楽しく読む。	読む	1・2	1. 単元扉を読んで、学習の見通しをもつ。 * P7の扉絵に登場する子どもの絵(イラスト)に着目して、それぞれの名前を確認しておく。 2. 詩を読んで、気づいたことを発表する。 * 教師がいきいきと音読して見せることで、児童の緊張感を解くことができる。声の大きさや動きの工夫の例を示せるとよい。 * 範読する前に、まず挿絵をじっくりと見る時間をとって、イメージをふくらませるとよい。 3. 4人程度のグループで音読・表現の仕方を話し合い、発表会を開く。 * 動作化を多く取り入れるとよいことを助言する。 * 詩の中に登場する生き物のセリブを考えさせてもよい。 * 個人のアイデアをグループの中で持ち寄ることで、活発な雰囲気が生み出される。さまざまな動きをつけているグループを認め、停滞しているグループに例を示し、参考にするように助言する。	【知識・技能】 ◎語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。(1)イ 【思考・判断・表現】 ◎「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。(C1)エ 【言語活動例】 ・読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動。(C2)イ 【態度】 ・進んで言葉の響きなどに気を付けて、学習の見通しをもって音読しようとしている。
1学期	5月	12 (話す聞(1))	一 どうしよう人物の した ことに 気をつけて 読む はるねこ 教科書:P16 口場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉え、音読する。 ★ここが大事: どうしよう人物 ☆学習用語: 登場人物／様子／場面／音読	読む	1 2~4 5~7 8~9 10~11 12	<見通しをもとう> 1. 単元扉を読んで、学習の見通しをもつ。 (1)単元扉を読む。 (2)範読を聞き、登場人物や、大体のできごとを確かめ、感想をもつ。 * 2年生初めての物語文である。挿絵を提示しながら、物語の大体を捉えるようにしたい。 <たしかめよう> 2. できごとや、人物のしたこと、場面の様子を確かめる。 (1)手紙の文章を読み、手紙ときんちやく袋が誰から届いたものなのか、いつのできごとについての手紙なのか確かめる。 * 「いつのできごと」については、「きよねんは」、「きよねんの今ごろ」、「…そんなことが、一年まえにあったのです」という時を表す言葉に着目できるようにする。 (2)こまっているはるねこに、あやがしたことを見つけ、表にまとめる。 (3)そのときの場面の様子を見つ、表にまとめる。 * はるねこが何に困っていたのかを確認し、そのはるねこに対してあやがしたことを見つける。 <くわしくよう> 3. 登場人物の様子がわかるように音読する。 (1)「たしかめよう」で確認したことをもとに、好きな場面を選んで、登場人物の様子が分かるように音読の練習をする。 (2)音読を聞き合い、どのような様子が伝わってくるかなど、感想を伝える。 * なぜそのような読み方にしたのか問い返したり、聞いていた側にとどのような様子が伝わってきたか聞いたりする。 <まとめよう> 4. 物語の中に出てくるものから考える。 (1)はるねこから届いたきんちやく袋の中身はどのようなものだったか確かめる。 (2)どんなたねが入っていたらうれしいか、そのたねのいいところとあわせて考える。 * はるねこからのきんちやく袋や手紙が届いたときのあやの様子を考え、「うれしい」という言葉を引き出したい。そこから、どんな種が入っていたらうれしいか、自分で考えるようにする。 <つたえあおう> 5. 友達と伝え合い、それぞれの考えのおもしろいところを見つける。 (1)考えたことを友達と伝え合う。 (2)友達の考えを聞いて、おもしろいと思ったところを見つける。 <ふり返ろう> 6. 「ここが大事」を確認し、「ふりかえろう」の観点に沿って振り返りを行う。 (1)登場人物の様子を考える時に、どのようなことに気がつけたか。 (2)友達の考えを聞いて、おもしろいと思ったところはどんなところだったか。	【知識・技能】 ◎語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。(1)イ 【思考・判断・表現】 ◎「読むこと」において、場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えている。(C1)イ 【言語活動例】 ・読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動。(C2)イ 【態度】 ・進んで場面や登場人物の様子を捉え、学習課題にそって音読を聞き合ったり、考えたことを伝え合ったりしようとしている。
1学期	5月	3 (話す聞(3))	大事な ことを おとさずに 聞こう ひろい 公園 教科書:P32 ◇質問を落とさないように聞き、絵から答えを探す。 ★ここが 大事: 大事な ことを おとさずに 聞く ☆学習用語: 質問／様子／言葉／いつ／どこ／どんな／だれ／何	話聞	1	<見通しを もとう> 1. 教材名とリード文を読み、学習の見通しをもつ。 (1)公園の絵を見ながら質問を聞くという学習の見通しをもつ。 * 公園の絵を見ながら、気づいたことを自由に話す時間をとり、活動に対する児童の興味や意欲を引き出す。 2. 質問を聞いて、絵から答えを探す。 (1)教科書に描かれた、広い公園の中の様子の絵を見ながら、質問を聞く。 (2)質問の内容を確かめ、答えを話し合う。 * 質問に答える際に大事にしたことを確認する。 * p.35「ここが 大事」を確認する。 (3)絵を見て、同じような質問を作り、聞き合う。 * 適宜、「ここが 大事」を確認するとよい。	【知識・技能】 ○音節と文字との関係、アクセントによる語の意味の違いなどに気付くとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話している。(1)イ ◎共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。(2)ア 【思考・判断・表現】 ◎「話すこと・聞くこと」において、話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもっている。(A1)エ 【言語活動例】 ・尋ねたり応答したりするなどして、少人数で話し合う活動。(A2)イ 【態度】 ・進んで話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落

学期	月	時数	単元名／教材名／教科書ページ 学習内容 ★ここが大事／★学習用語	領域	時	学習活動／*留意点	評価規準 学習指導要領との対応
					2	3. 伝言クイズをする。 (1) 絵の中の様子を教師が伝え、伝言クイズをする。 * 絵からわかることを、人物・服装・持ち物・動き・関係等の観点からクイズにするようにする。 (2) 最後の人に伝言が伝わったら、伝言の内容と答えをグループで確かめる。 (3) 絵の中の様子を言葉にして、クイズを出したり答えたりする。 * 適宜、「ここが 大事」を確認するとよい。	とさないように集中して聞き、今までの学習を生かして、伝言クイズをしようとしている。
				3	4. p.36「書く」と同じでも、読むと「ちがう言葉」を読み、アクセントの違う言葉を集め、文を作って比べ合う。 <ふりかえろう> 5. 学習を振り返る。 * 学習全体を振り返り、できるようになったことや感想を交流する。 * 大事なことを落とさずに聞くために、どんなことに気をつけたかを振り返らせる。		
1学期	5月	1	言葉の文化① 回文を たのしもう 教科書:P37 △回文の意味を知り、楽しみながら回文を読む。 ★学習用語: 回文	文化	1	1. 教材文を読み、知っている回文を発表する。 * 回文の意味を知らせる。 2. 教科書の回文の例を声に出して読む。 * 教師の範読に合わせて上から読んだり、下から読んだりして、回文になっていることを確かめる。 3. 回文を作る。 * オリジナルの回文を作り、紹介し合う。 * 作った回文を学級で声に出して楽しむ。 4. 学習を振り返る。	【知識・技能】 ◎長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気付いている。(3イ) 【態度】 ・進んで長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気づこうとし、学習の見通しをもって回文を楽しみながら読んでいる。
1学期	5月	2	漢字の ひろば① 画と書きじゆん 教科書:P38 △漢字の画と筆順について理解し、正しく書く。 ★学習用語: 画／画数／書き順(筆順)	漢字	1	1. 学習内容を理解し、学習の見通しをもつ。 * 画・画数・書き順(筆順)について理解するという学習課題を確かめ、日常の言語生活にも生かしていくよう意識づける。 2. 「正」の字で数を数える画線法を行った経験を話し合う。 * なぜ「正」の字を使うか、画数に意識を向けることができるようにする。 * 「正」を例に、「画」および「画数」の名称とその意味について具体的に理解できるようにする。 3. 「土」「日」の字は、それぞれ何画で書くのかを考える。 * 板書では、一画めから三画めまでが見た目でわかるように色分けするとよい。 4. 漢字の画や画数の意味を知り、「山」「女」「糸」「右」「目」「馬」の画数と、それぞれの一画めがどこかを話し合う。 * 「山」「女」などをとくに、画数を正しく数えられるようにする。 * 画数の確認にあたっては、既習漢字および新出漢字の筆順を確認しておきたい。とくに「女」「右」「馬」などに重点をおくようにする。 5. これまでに学んだ漢字をもとに、画数についての問題を作り、互いに答え合う。 * 巻末P161からの『一下までに学んだ漢字』の表から出題するとよい。 * 実態に応じて、空書きや指書きをしたり、直接ノートに書いて確かめることなどが考えられる。	【知識・技能】 ◎第1学年においては、別表の学年別漢字配当表の第1学年に配当されている漢字を読み、漸次書き、文や文章の中で使っている。第2学年においては、学年別漢字配当表の第2学年までに配当されている漢字を読んでいる。また、第1学年に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、第2学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使っている。(11エ) 【態度】 ・積極的に漢字の筆順を理解し、学習の見通しをもって、正しい筆順で漢字を書こうとしている。
					2	6. 「書きじゆんのきまり」をもとに、筆順の三つの原則について、考える。 * 筆順には、一定のきまりがあることを理解できるようにする。 7. 三つの原則とは異なる「とくべつな書きじゆん」があることも、理解する。 * 筆順の原則についての知識を得ると同時に、画を組み立てられるようにすることが大切である。 8. 点画の長短、接し方や交わり方などに注意して、筆順に従って正しく書く。 * この時期においては、正しく整えて書くことが意識できるように、点画の細部にまで注意を払って丁寧に書くよう促したい。	

学期	月	時数	単元名／教材名／教科書ページ 学習内容 ★ここが大事／★学習用語	領域	時	学習活動／＊留意点	評価規準 学習指導要領との対応
1学期	5月	2 (書く2)	一年生で 学んだ 漢字① 教科書:P40 △絵を見て想像したことをもとに、1年生で学んだ漢字などを使って文を書く。	漢字	3・4	9. 絵の中の言葉として示されている漢字の読み方を確認し、一年生の時の一年間のできごとを振り返る。 ＊絵の中にある一年生の時に学んだ漢字の読み方を再確認する。 10. 教科書の絵と言葉を参考に短文を作り、句読点の打ち方に気をつけて書く。 ＊語と語を適切につなぎ、句読点の打ち方に気をつけて文を書くようにはたらきかける。主語のあと、従属節のあと、並列する語のあとなど必要な箇所に、適切に読点を打つことを理解させるようにする。 11. 学習したことを振り返る。 ＊画と書き順について正しく理解したり、漢字の使い方や表記などを理解できるようにしたりし、日常の言語生活にも生かしていくよう意識づける。	【知識・技能】 ◎第1学年においては、別表の学年別漢字配当表の第1学年に配当されている漢字を読み、漸次書き、文や文章の中で使っている。第2学年においては、学年別漢字配当表の第2学年までに配当されている漢字を読んでいる。また、第1学年に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、第2学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使っている。(1)エ 【思考・判断・表現】 ◎「書くこと」において、経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にしている。(B1)ア 【言語活動例】 ・身近なことや経験したことを報告したり、観察したことを記録したりするなど、見聞きしたことを書く活動。(B2)ア 【態度】 ・積極的に前学年で配当されている漢字を書き、学習の見直しをもって文を書くようとしている。

学期	月	時数	単元名／教材名／教科書ページ	領域	時	学習活動／＊留意点	評価規準 学習指導要領との対応	
1学期	5月	13 (書く3)	<p>二 じゅんじょに 気をつけて、二つの つながりを かんがえよう すみれと あり 教科書:P42</p> <p>□ありとの関わり気をつけながら、すみれが仲間を増やす仕組みについて説明した文章を読む。</p> <p>★ここが大事:「何が——どうする」に気をつけて読む</p> <p>☆学習用語: 順序／つながり／題名</p>	読む	1	<p><見直しをもとう></p> <p>1. 単元扉を読み、「じゅんじょに気をつけて、二つのつながりをかんがえよう」とは、どんな読み方なのかを考えたり、説明をする方法について確認したりして、学習の見直しをもつ。</p> <p>(1) すみれやありを、これまでどのような場所で見たとあるかを想起する。</p> <p>(2) 「じゅんじょに気をつけて二つのつながりをよむ」とは、本文に出てくるすみれとありにどのような結びつきがあるのかを考えて読むことだ、と確認をする。</p>	<p>【知識・技能】</p> <p>◎文の中における主語と述語との関係に気付いている。(1)カ</p> <p>○共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。(2)ア)</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>○「書くこと」において、語と語や文と文の続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。(B1)ウ)</p> <p>◎「読むこと」において、時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えている。(C1)ア)</p> <p>○「読むこと」において、文章の中の重要な語や文を考えて選び出している。(C1)ウ)</p>	
					2・3	<p><たしかめよう></p> <p>2. 本文に書かれた内容の大体を確認する。</p> <p>(1) 題名や、単元扉の写真から、どんなことが書かれた文章なのかを予想し、考えたことをペアで伝え合う。</p> <p>(2) すみれについて書かれたところと、ありについて書かれたところを見分ける。</p> <p>＊10段落、11段落はすみれとありの両方について書かれていることに気づかせると良いだろう。</p>		<p>【言語活動例】</p> <p>・身近なことや経験したことを報告したり、観察したことを記録したりするなど、見聞きしたことを書く活動。(B2)ア)</p> <p>・事物の仕組みを説明した文章などを読み、分かったことや考えたことを述べる活動。(C2)ア)</p> <p>【態度】</p> <p>・進んで時間的な順序や事柄の順序を考えながら読むことを通して、学習課題に沿って、文章の中の重要な語や文を考えて選び出そうとしている。</p>
					4～7	<p><くわしくよう></p> <p>3. すみれとありに、どのようなつながりがあるのか、書き出して整理をする。</p> <p>(1) 4～6段落までの、すみれが花をつけてから地面に落ちていくまでの流れを→などの記号を使って整理する。</p> <p>＊思考ツール(「ステップチャート」や「KWL」など)を使用するとよいだろう。</p> <p>(2) 7～9段落までの、ありが地面におちたすみれの種を巣に持ち帰り、捨てるまでの流れを→などの記号を使って整理する。</p> <p>＊思考ツール(「ステップチャート」や「KWL」など)を使用するとよいだろう。</p>		
					8～10	<p><まとめよう></p> <p>4. すみれとありのつながりを説明する文を3文で書きまとめる。</p> <p>(1) 10～11段落の文章の中で、書き手が伝えたいことは何かを考えながら大事な語や文を選ぶ。</p> <p>(2) 「すみれは」から始まる文、「ありは」から始まる文、「すみれとありは」から始まる文の3文を考えて書く。</p> <p>＊個人での解決が難しい場合は、P48学習の手引きに書かれた文章を参考にすることを伝える。</p>		
					11～13	<p><つたえあおう></p> <p>5. 前時に作成した3文を友達と読み合い、考えを共有する。</p> <p>(1) ペアを作り、3文の文章を互いに読み合う。</p> <p>＊文章のよさについて感想を伝えるように助言するといいたいだろう。</p> <p><ふりかえろう></p> <p>6. すみれとありのつながりを説明する文や感想についてのできばえを振り返る。</p> <p>(1) すみれとありについて考えたことを加筆する。</p>		

学期	月	時数	単元名／教材名／教科書ページ 学習内容 ★ここが大事／★学習用語	領域	時	学習活動／＊留意点	評価規準 学習指導要領との対応
1学期	6月	4 (書く4)	<p>わかりやすくきろくしよう かんさつ発見カード 教科書:P50</p> <p>■観察して同じところや違うところを見つけ、考えが明確になるように事柄の順序にそって簡単な構成を考え、「かんさつ発見カード」を書く。</p> <p>☆学習用語:観察／発見／観察のポイント／メモ／文章／最初／次に／最後に／横書き／算用数字</p>	書く	1	<p>1. 植物や生き物の様子をよく見て、「かんさつ発見カード」に書く学習活動について見通す。 ＊ここでいう「観察」「発見」の意味をおさえておく。よく見て新しく気づいたことを書くという学習の目的をつかませるためなので、厳密に区別する必要はない。 「観察」…対象を注意深く見て、様子を記録すること。 「発見」…今までと違うことを見つけたり、新しいことに気づいたりすること。</p> <p>2. 生活科の学習で継続して観察している動植物などから書く対象を決める。</p> <p>3. 観察して気づいたことをメモに書き出す。 ＊生活科と連携し、実際に見て観察メモを書くようにしたい。 ＊「かんさつのポイント」(P50)を意識させるようにする。</p>	<p>【知識・技能】 ◎文の中における主語と述語との関係に気付いている。(1)カ ◎共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。(2)ア)</p> <p>【思考・判断・表現】 ○「書くこと」において、経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にしている。(B1)ア) ◎「書くこと」において、自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えている。(B1)イ)</p> <p>【言語活動例】 ・身近なことや経験したことを報告したり、観察したことを記録したりするなど、見聞きしたことを書く活動。(B2)ア)</p> <p>【態度】 ・積極的に、発見したことをもとに簡単な構成を考え、学習課題にそって、「かんさつ発見カード」を書くようとしている。</p>
					2・3	<p>4. P51ふきだしを参考にし、書く順番を決める。 ＊吹き出しを活用し、「さいしよに」「つぎに」「さいごに」という言葉を使って書く順番を考えさせる。</p> <p>5. P53「横書きの書き方」を読んで、横書きのきまりを知る。 ＊「かんさつ発見カード」を書くときに生かすようにする。</p> <p>6. 「かんさつメモ」をもとにして「かんさつ発見カード」を書く。 ＊例文を読んで、どのような書く順番になっているのか意識させる。 ＊「どこがかわったか」「かわいい様子」「思ったこと」という観点を手がかりにすると書きやすい。</p>	
					4	<p>7. 「かんさつ発見カード」を読み返し、まちがいや書き落としたことがないか確かめる。</p> <p>8. 友達と「かんさつ発見カード」を読み合い、互いの発見や書き方のよさに目を向け、感想を伝え合う。 ＊感想を付箋紙等に書いて伝えたり、家の人に読んでもらい感想を書いてもらったりするなどの工夫ができる。</p> <p>9. どんなことに気をつけて「かんさつ発見カード」を書いたのか、めあてにそって振り返る。</p>	
1学期	6月	1	<p>言葉の文化② むかしのうたを 読もう 教科書:P54</p> <p>△平仮名四十七文字を全て使った歌や数字が歌詞に組み込まれた遊び歌があることを知り、音読する。</p> <p>☆学習用語:いろはうた／かな</p>	文化	1	<p>1. 学習の見通しをもつ。</p> <p>2. 「いろは歌」が、平仮名四十七文字を一回ずつ使って作られていることを確かめ、声に出して五七五のリズムのよさを楽しみながら読む。 ＊「い」「ろ」「は」「い」……と、一つずつ確認してみる。「ゐ」「ゑ」以外はかな表記通りの音でもかまわない。 ＊教師の範読に合わせて声に出して読ませ、リズムをもっていることを確かめる。七音五音の組み合わせに気づかせる。 ＊「いろは歌」には深遠な意味があり、意味に合わせた音読もあるが「色は匂えど」のような、二年生の段階で扱う必要はない。 ＊暗誦したり遊びながら唱えたりするなどを楽しめる雰囲気作りを留意する。</p> <p>3. 数え歌を知り、遊びながら読んだり歌ったりする。 ＊P141「2年生で読みたい本①」の『かぞえうたのほん』を例に、言葉遊びの本を紹介したい。 ＊お手玉の遊び歌(数え歌)を動作を入れて範読し、数え歌や遊び歌に興味をもたせるようにする。</p> <p>4. 家の人やお年寄りに遊び歌などを教わって集め、友達と紹介し合いながら遊ぶ。 ＊家の人や身近な大人の人に聞いて、集めたり教わったりするよう促す。 ＊集めた歌を友達と紹介し合う。</p> <p>5. 学習を振り返る。</p>	<p>【知識・技能】 ◎語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。(1)ウ) ◎長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気付いている。(3)イ)</p> <p>【態度】 ・進んで長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気づこうとし、学習の見通しをもって音読しようとしている。</p>

学期	月	時数	単元名／教材名／教科書ページ 学習内容 ★ここが大事／☆学習用語	領域	時	学習活動／＊留意点	評価規準 学習指導要領との対応
1学期	6月	3	言葉の ひろば① かたかなで書く言葉 教科書:P56 △片仮名で書く言葉の種類を知り、正しく使い分ける。	言語	1	1. 学習内容を理解し、日常化への見直しをもつ。 ＊教材冒頭の会話文によって、日常の言語生活との関連を意識づける。 2. P56を読んで、片仮名で書く言葉の種類を知り、P57の上段の設問をもとに片仮名で書く言葉を種類ごとに仲間分けをし、片仮名で書く言葉の種類を理解し、他にもあるか話し合う。 ＊言葉の中には、片仮名で表記するものがあり、それらは幾つかの種類に分けることができることに気づかせる。 ＊絵を見て片仮名の言葉を探し、仲間分けをする。 ＊仲間分けを確認しながら、片仮名の濁音と半濁音、長音や拗音の読み方や書き方を教師が示しながら指導をする。また、似た字形やまちがえやすい字形も確認しておくようにする。	【知識・技能】 ◎長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ(「」)の使い方を理解して文や文章の中で使っている。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使っている。(1)ウ ○身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気づき、言葉を豊かにしている。(1)オ 【態度】 積極的に片仮名で書く語の種類を知ろうとし、今までの学習を生かして文を書こうとしている。
					2・3	3. P57下段の絵から、片仮名で書く言葉を使った文を作り発表する。 ＊自分で文を作らせ、片仮名で書く言葉を確認する。 ＊絵で表現されているもの以外にも、関連してほかの言葉も示していくと、学習を広げていくことができる。 ＊絵以外のことで片仮名を取り入れたきのうのこと、自分の好きなことなどを文にして、身近な使用例を見つけ片仮名に親しみをもたせる。 4. 学習したことを振り返る。	
1学期	6月	2	読書の ひろば① 本でしらべよう 教科書:P58 △図書館で本を探す方法を知り、本を探して読む。 ☆学習用語: 目次／司書	読書	1	1. 図書館で本を探す方法を知り、本を探して読むという学習内容を捉え、学習の見直しをもつ。 2. 図書館に行き、本を探す方法を知る。 ＊司書教諭の話聞いてもよい。	【知識・技能】 ◎読書に親しみ、いろいろな本があることを知っている。(3)エ 【思考・判断・表現】 ○「読むこと」において、文章の中の重要な語や文を考えて選び出している。(C1)ウ 【言語活動例】 ・学校図書館などを利用し、図鑑や科学的なことについて書いた本などを読み、分かったことなどを説明する活動。(C2)ウ 【態度】 ・図書館で本を探す方法を知り、自分の目的の本を探す際に役立てようとしている。
					2	3. 自分が調べたり、読んだりしたいテーマの本を探して、読み、わかったことなどを項目ごとにメモする。 4. 学習を振り返る。	
1学期	6月	6 (書く6)	三本でしらべてしようかいしよう 「生きものクイズ」でしらせよう 教科書:P62 ■経験したことや本で調べたことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にする。 ★ここが大事: しりたいことをしらべ、クイズを作る ☆学習用語: クイズ／内容／目次／問題／答え／説明	書く	1	<見直しをもとう> 1. 身のまわりの生き物について調べ、「生きものクイズ」を作って友達に知らせるとい学習活動について見直す。 ＊生き物の本を紹介したり、クイズの本を使って実際にクイズを楽しんだりして興味・関心がもてるようにする。	【知識・技能】 ◎共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。(2)ア 【思考・判断・表現】 ◎「書くこと」において、経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にしている。(B1)ア 【言語活動例】 ・身近なことや経験したことを報告したり、観察したことを記録したりするなど、見聞きたことを書く活動。(B2)ア 【態度】 ・積極的にクイズにしたい生き物について調べたり必要な事柄を集めたりして、学習課題にそって、「生きものクイズカード」を書こうとしている。
					2	<きめよう・あつめよう>(重点) 2. クイズにしたい生き物を決め、詳しく調べる。 ＊図書資料についてはP58「本でしらべよう」の学習を活用し、図書館へ行って自分で探すこともできる。 ＊図書資料の目次や索引が活用できることを伝えておく。 ＊目次: 大体の内容を把握したり目的のページをすぐに開いたりすることができる。また、クイズにつながる特集ページやコラムのような囲み記事のあるページも把握しやすい。 ＊索引: 調べたい「生き物名」から必要なページを探せる。 ＊しおりを用意し、クイズに出したい内容があるページに、はさんでおくようにするとよい。 3. クイズにしたい内容をメモに書く。 ＊みんながあまり知らないようなこと、答えを聞くと驚いたり感心したりするような内容がクイズに適していることを伝え、「ここがすごい！」という観点を提示する。	
					3・4	<くみ立てよう・書こう> 4. 「生きものクイズカード」を書く。 ＊問題と答えは簡潔な文で対応させて書くようにさせる。 ＊「三択クイズ」か「○×クイズ」にすると簡潔な文章を書きやすい。 ＊答えの後に詳しく「せつめい」(P64吹き出し参照)を書くことで、楽しいクイズになることをおさえる。 <読みかえそう> 5. 作ったクイズを読み返す。 ＊問いと答えが対応しているか確認させるようにする。	
					5・6	<つたえあおう> 6. 「生きものクイズカード」を使って、クイズを出し合う。 ＊ペア、グループで出し合ったり、全体で共有したりするなどクイズの出し合い方を工夫して、楽しむ。 <ふりかえろう> 7. どんな工夫をしてクイズの内容を集めたり、クイズを作ったりしたか、めあてにそって振り返る。	

学期	月	時数	単元名／教材名／教科書ページ 学習内容 ★ここが大事／★学習用語	領域	時	学習活動／＊留意点	評価規準 学習指導要領との対応
1学期	6月	2	漢字の ひろば② なかまの 言葉と 漢字 教科書:P66 △意味をもとに仲間に分けた漢字について理解する。	漢字	1	1. 学習内容を理解し、学習の見直しをもつ。 ＊「なかまの言葉」について知るという学習課題を確かめ、日常の言語生活にも生かしていくよう意識づける。 2. 「朝・昼・夜」がどんなまとまりの言葉かを話し合う。 ＊「朝」「昼」「夜」の漢字から、「時を表す言葉」であることを理解できるようにする。 ＊一般的には「朝→夕」「昼→夜」が対義関係になるが、「朝→昼→夜」と時間の流れをつかむことができればよい。 3. 「家族を表す言葉」について考える。 ＊挿絵を参考に、左側が女、右側が男を、上段からおおよその年齢順になっていることを理解させたい。 ＊家族内での関係を表す漢字があることを知り、いろいろな家族を表す言葉を理解できるようにする。 ＊それぞれの漢字を声に出して読み、正しく読めているかどうかを確認する。	【知識・技能】 ◎第1学年においては、別表の学年別漢字配当表の第1学年に配当されている漢字を読み、漸次書き、文や文章の中で使っている。第2学年においては、学年別漢字配当表の第2学年までに配当されている漢字を読んでいる。また、第1学年に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、第2学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使っている。(1)イ ○身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気づき、語彙を豊かにしている。(1)オ 【態度】 ・積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を書き、学習の見直しをもって、漢字の意味のつながりを知ろうとしている。
					2	4. 意味をもとに漢字を仲間に分けることについて理解し、それぞれの漢字を関連づけて覚える。 ＊どんな仲間の言葉なのかについて着目させ、P68『「言葉のなかまさがしゲーム」をしよう』の学習につなげられるようにしておく。 ＊意味のつながりを考え、それぞれの漢字を関連させて覚えるようはたらかせかける。 5. 意味のつながりのある言葉や漢字を身のまわりから探して、ノートに書き、発表し合う。 ＊身のまわりから、意味をもとにした仲間分けの例を集めるようにする。 (例)「目・耳・口・手・足」「はれ・雨・くもり」「日・月・星」「犬・馬」など。 6. 反対の意味の漢字を確かめ、あてはめる。 ＊反対の意味を表す漢字を書くことを理解させてから、空欄にあてはまる漢字を記入する。 ＊身のまわりから、反対の意味を表す漢字の例を集めるようにする。 (例)「入・出」「話・聞」「書・読」など。 ＊既習漢字からだけでは集めることができない場合は、「今・むかし」「高い・ひくい」「近い・おおい」「前・うしろ」など、まだ漢字表記を学んでいないものを集めてもよい。 ＊P118『はんたいのいみの言葉、にたいみの言葉』(P150『ふろく・言葉の木』)の学習にむすびつうようにしておく。 7. 学習したことを振り返る。 ＊これからの漢字の学習でも、仲間の言葉、反対の意味の言葉などにまとめる習慣がもてるとよいことをおさえる。(下巻P18では、東西南北・春夏秋冬が提出される。)	
1学期	6月	2	言葉の ひろば② 「言葉のなかまさがしゲーム」を しよう 教科書:P68 △言葉が体系的をもつて存在していることに気づき、上位語・下位語の概念に基づいて、言葉を探したりまとめたりする。	言語	1	1. 言葉が仲間ごとにまとめられるということを知り、学習活動に対する見直しをもつ。 ＊教材冒頭の会話文を読み、みんなで「言葉のなかまさがしゲーム」の問題を作って出し合う活動を行ってみようという意欲をもたせる。 ＊P68の下段を読み、「だいこん・にんじん・じゃがいも」「やさい」という仲間(上位概念)でまとめて言うことができ、「りんご」は「くだもの」の仲間に含まれる下位概念であることを理解させる。 2. 「言葉のなかまさがしゲーム」を行うための準備をする。 ＊P69の上段を読み、まずはクラス全体で仲間ごとにどのような言葉があるのか集めてみる。 ＊グループに分かれ、教科書に示されているもの以外の「なかま」を設定し、それに合わせて言葉を集めてみる。 ＊ある程度言葉を集めたら、それが設定した「なかま」に含まれるかどうかを各グループで確かめさせる。 ＊言葉をグループで集める活動の中で、一つの上位概念も下位概念も、更にその上位概念・下位概念にあたる場合があることにも気づかせたい。	【知識・技能】 ◎身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気づき、語彙を豊かにしている。(1)オ ○共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。(2)ア 【態度】 ・積極的に、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気づこうとし、学習の見直しをもって言葉を分類しようとしている。
					2	3. P70の上段を読み、前時に集めた言葉を用いて「言葉のなかまさがしゲーム」の問題づくりを行う。 ＊グループで集めた言葉の仲間から幾つかを選ばせ、そこに別の仲間の言葉を交えて問題を作らせる。 4. 別のグループの友達と一緒に「言葉のなかまさがしゲーム」を行う。 ＊別のグループの児童と二人で組みになって問題を出し合う。 その際、ただ作った問題を見せるだけのやりとりをするのではなく、教材冒頭部にある「質問→応答」を意識して対話するよう促していくことが必要となる。 5. 学習したことを振り返る。 ＊P70下段を読んで言葉における上位語と下位語について理解できたかどうかを確かめる。 ＊上位概念を理解させる場合には、「まとめていう」という言い方をするとわかりやすいということを理解させる。 ＊下位概念を理解させる場合には、「細かく分けていう」という言い方をするとわかりやすいということを理解させる。	

学期	月	時数	単元名／教材名／教科書ページ	領域	時	学習活動／*留意点	評価規準 学習指導要領との対応
1学期	7月	15 (書<3)	<p>四 くりかえしに 気をつけて、とうじょう人物の様子を 読もう</p> <p>きつねのおきやくさま 教科書:P72</p> <p>口場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像し、文章の内容と自分の体験とを結びつけて、感想をもつ。</p> <p>★ここが大事:くりかえしの ある お話を 読む</p> <p>☆学習用語:場面／登場人物／繰り返し／順序／わけ</p>	読む	1	<p><見通しをもとう></p> <p>1. 単元扉を読み、単元の見通しをもつ。 * 単元扉の題名、言葉、絵を見て、お話を想像させる。 * 範読または児童の音読により、全体を通読する。 * 繰り返し表現と、おもしろかったところの関係に気づかせる。 * 新出漢字の確認と練習をする。</p>	<p>【知識・技能】</p> <p>◎語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読している。(C1)カ</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>◎「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。(C1)エ</p> <p>○「読むこと」において、文章の内容と自分の体験とを結びつけて、感想をもっている。(C1)オ</p> <p>【言語活動例】</p> <p>・読み聞かせを聞いたり物語などを讀んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動。(C2)イ</p> <p>【態度】</p> <p>・進んでお話の中の言葉や表現がもつよさを感じるとともに、学習課題にそって自分の思いや考えを伝え合おうとしている。</p>
					2・3	<p><たしかめよう></p> <p>2. P84「たしかめよう」の①②③の順序で、お話が繰り返されていることを確かめる。 * 三回の繰り返しがあることを、「ここが大事」を参考にして、以下の観点から確かめる。 ①誰かが誰かとお会う。 ②すみかなくて、困っている。 ③そろって、きつねの家に行く。 * 繰り返しの中の違うところにも気づかせたい。</p>	
					4～8	<p><くわしくよう></p> <p>3. 以下のそれぞれの場面のきつねの思いを想像し、場面の様子や登場人物の行動を具体的に読み取る。 (1)ひよこ、あひる、うさぎに「○○お兄ちゃん」と言われた時。 (2)「いや、まだいるぞ。きつねがいるぞ。」と言って、飛び出した時。 (3)恥ずかしそうに笑って死んだ時。 * 「ここがだいじ」にあるように、同じところと少し違うところに着目することで登場人物の変化や場面の様子の移り変わりに気づかせたい。 * お手紙のはじめとおわりの挿絵を用意し、1年生で学習した教材にも、似た場面の中で同じところと似たところがあつたことを振り返らせるのもよい。 * 挿絵も参考にしながら、きつねの考えたことを想像し、ノートに考えを書いてから交流させる。 * きつねの思いを想像させる際に、どの叙述からそう考えたかという理由を交えて発表させるようにする。 * 挿絵にふきだしを使って、きつねの考えたことを書かせたり、ペープサートを利用させたりするのもよい。</p>	
					9～11	<p><まとめよう></p> <p>4. きつねの性格について本文をもとに考える。 * きつねの性格は複数出てくることが考えられる。それぞれが文章表現のどこを手がかりにして考えたのかを、はっきりと示すことができるようにさせたい。 * 「このきつねは○○なきつねだと思います。どうかかというとき……のときに、……をしていたからです。」など。 * 難しい児童には、もう一度くわしくよう>で精読した場面を振り返り、それぞれの場面の具体的なきつねの様子から考えさせたい。</p>	
					12～14	<p><つたえあおう></p> <p>5. <まとめよう>で考えたきつねの性格をノートにまとめ、友達と紹介し合う。 * 意見交換をすることで、同じような性格だと考えていても、根拠となる言葉や表現が違っていたり、同じ言葉や表現を根拠としていても、受け取り方が少し違っている友達がいることに気づかせたい。</p>	
					15	<p><ふりかえろう></p> <p>6. この単元で学んだことを振り返る。 (1)繰り返しに気をつけて読んで気づいたことを振り返る。 (2)この学習を生かして、好きなお話や読んだことがあるお話の登場人物の性格や、繰り返しの表現について改めて考える。 * <くわしくよう><つたえあおう>の学習を振り返りながら、読書の楽しさを感じさせたい。</p>	
1学期	7月	5	<p>言葉の文化③</p> <p>いなばのしろうさぎ 教科書:P88</p> <p>△古くから伝わっている話を、興味をもって聞き、場面の様子を想像する。</p>	文化	1	<p>1. 学習の見通しをもつ。</p> <p>2. 絵を見て、どんなお話なのか、ストーリーを予想する。 * P88・89の挿絵を手がかりにしながら、どんなお話なのかを予想させる。 人物の服装から、この話のおおよその時代を考えたり、うさぎとわに(わに)が登場することなどを話し合わせる。</p>	<p>【知識・技能】</p> <p>◎昔話や神話・伝承などの読み聞かせを聞くなどして、我が国の伝統的な言語文化に親しんでいる。(C3)ア</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>○「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。(C1)エ</p> <p>【言語活動例】</p> <p>・読み聞かせを聞いたり物語などを讀んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動。(C2)イ</p> <p>【態度】</p> <p>・進んで昔話や神話・伝承などの読み聞かせを聞き、今までの学習を生かして昔話や神話・伝承の書かれた本を探して読もうとしている。</p>
					2・3	<p>3. 絵を見ながら、教師の音読を聞いて、場面の絵をもとにお話を確かめる。 * 教師の範読を聞く。その際、教科書の文章を目で追わせる。P88・89の挿絵を使って、話の順序をおさささせる。 * おもしろかったところを発表させる。</p>	
					4・5	<p>4. 昔話や神話・伝承の書かれた本を探して読む。 * ほかの日本の神さまの本や絵本を読む。</p> <p>5. 学習を振り返る。 * 地域の神社などの祭神について調べて知らせ、それにまつわる神話等に興味をもたせると生活に広がる。</p>	

学期	月	時数	単元名／教材名／教科書ページ 学習内容 ★ここが大事／★学習用語	領域	時	学習活動／＊留意点	評価規準 学習指導要領との対応
1学期	7月	4 (話す聞く2)	言葉の ひろば③ うれしくなる言葉 教科書:P90 △言葉が表す意味と、その言葉にこめられる気持ちについて考え、話し合う。	言語	1・2	1. 学校生活を振り返り、うれしかった言葉を想起して「うれしくなる言葉」について学ぶことへの見通しをもつ。 ＊相手や自分への「うれしくなる言葉」について考えることを通して、言葉にこめられる気持ちについて理解するという学習を意識づける。 2. 心に残っている「うれしかった言葉」を思い出して、①どんな時に言われたか、②誰から言われたか、③どんな言葉をかけられたか、④どう思ったかを思い出して、カードに書く。 ＊どうしてうれしかったのかを考えさせる。それは、「言葉にこめられた気持ち」によるものであることを理解させる。そこから、言葉で表現することの大切さなどについて気づかせたい。 3. カードに書いたものをグループで見せ合い、会話をしながらお互いの気持ちを伝え合う。 ＊まずは小集団で伝え合うことで、言葉と気持ちを共有しやすい状況を作る。 4. グループでの発表をもとに、次はクラス全体に代表者が発表する。 ＊うれしい言葉をクラスで共有し、うれしい言葉をかけ合う雰囲気を作ることで、言葉が通じ合うと心も通じ合うということの大切さに気づかせる。 5. 家族に言われてうれしかった言葉を思い出し、話し合いながらいろいろなエピソードを見つけ、言葉と経験を結びつける。 ＊日常でも意識できるようにはたらきかける。どんなタイミングで声をかけられるといいかなど話し合うと、言葉の使い方にまで広がる。	【知識・技能】 ◎言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付いている。(1)ア ◎身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付く。語彙を豊かにしている。(1)オ 【思考・判断・表現】 ◎「話すこと・聞くこと」において、身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選んでいく。(A)1)ア 【言語活動例】 ・尋ねたり応答したりするなどして、少人数で話し合う活動。(A)2)イ 【態度】 ・積極的に言葉には事物の内容を表す働きや経験したことを伝える働きがあることに気づこうとし、学習の見通しをもって「うれしくなる言葉」を伝え合おうとしている。
					3	6. 挿絵の友達の作品を見て、友達にかけるとよい言葉を考える。 ＊言葉の数が多ければいいわけではなく、相手の立場に立って、言葉を選んでいくかを大切にさせる。 ＊工夫した点をちゃんと評価してくれたり、自分のことを理解してくれたりするコメントはうれしい。また、自分が気づかなかったことを指摘してくれるコメントは、自分のことを見ていてくれているという気持ちが伝わるとうれしく感じる。よい人間関係の中で相手を思いやる心が言葉に表れるように考えさせる。 7. 言葉を考えながら友達にかけるとよい言葉はどのようなものがうれしいのか、相手の立場に立ったものを考えられるとよいことに気づく。	
					4	8. 友達の素敵なお話を思い浮かべて、みんなであれしくなる言葉を伝え合う。 9. 言葉によって相手や自分がどのような影響を受けるのかを考え、学習をまとめる。 ＊声の大きさ・調子、表情、身振りなどの話し方によって、気持ちが伝わることも気づかせたい。	
1学期	7月	1	読書の ひろば② ひろがる読書のせかい 教科書:P94 △「オリジナル図書カード」や「読書ゆうびん」を作成する活動を通して、いろいろな本があることを知る。	読書	1	1. 「オリジナル図書カード」や「読書ゆうびん」を作るという学習内容を捉え、学習の見通しをもつ。 2. 学校の図書室や地域の図書館などで、興味のある本を借りて、「オリジナル図書カード」や「読書ゆうびん」を作る。 ※夏休みの宿題との関連などが考えられる。 3. 学習を振り返る。	【知識・技能】 ◎読書に親しみ、いろいろな本があることを知っている。(3)エ 【思考・判断・表現】 ○「読むこと」において、文章を読んで感じたことや分かったことを共有している。(C)1)カ 【言語活動例】 ・読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動。(C)2)イ 【態度】 ・読書生活を振り返ったり、読みたい本を選んだりしている。

学期	月	時数	単元名／教材名／教科書ページ 学習内容 ★ここが大事／★学習用語	領域	時	学習活動／＊留意点	評価規準 学習指導要領との対応
2学期	9月	5 (話す聞く5)	じゅんじょを考えて話そう 話したいな、聞きたいな、夏休みのこと 教科書:P96 ◇夏休みのできごとを、順序を考えて話したり、 友達の話聞いて感想を述べ合ったりする。 ☆学習用語:始め／中／終わり	話聞	1	<見通しをもとう> 1. 教材名とリード文を読み、学習の見通しをもつ。 (1) 夏休みのできごとを順序を考えて話すという学習の見通しをもって、学習計画を立てる。 ＊ 友達の話が聞きたいという思いを高め、紹介し合う活動の見通しをもたせる。 2. 紹介する夏休みのできごとを決める。 (1) 夏休み明け、久しぶりに会った友達と夏休みのできごとについて二人で組みになり交流する。 ＊ 話題を決めることができるように、自由に話をさせるとよい。	【知識・技能】 ◎音節と文字との関係、アクセントによる語の意味の違いなどに気付くとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話している。(1)イ 【思考・判断・表現】 ◎「話すこと・聞くこと」において、相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基づいて、話す事柄の順序を考えている。(A1)イ 【言語活動例】 ・紹介や説明、報告など伝えたいことを話したり、それらを聞いて声に出して確かめたり感想を述べたりする活動。(A2)ア 【態度】 ・進んで相手に伝わるように話す事柄の順序を考え、今までの学習を生かして夏休みのできごとを紹介しようとしている。
					2	3. 紹介する夏休みのできごとの話す構成を考える。 (1) 話す順序を考えてメモを書く。 ＊ 始め・中・終わりでどのようなことを話すかを確かめる。 ＊ 中には、したこと、感じたこと、思ったことを話すことを確かめる。 (2) 組み立てメモを作る。 ＊ メモは短い文で書かせるようにする。	
					3	4. 三人で組みになり、話す練習をする。 (1) 話す練習をする。 ＊ 聞き手は質問や感想を伝える。 ＊ 練習では、メモを見ながら話してよい。 ＊ 写真や絵を提示しながら話す練習もするとよい。	
					4	5. クラスのみんなに話す。 (1) クラスのみんなに夏休みのできごとを話す。 ＊ 写真や絵を提示しながら話すようにさせる。	
					5	<ふりかえろう> 6. 学習を振り返る。 (1) 学習全体を振り返り、できるようになったことや感想を確かめる。 ＊ 全体で話したり聞いたりして、学習の自己評価をさせる。 ＊ どんなことに気がついて、夏休みの思い出を話したかを振り返らせる。	
2学期	9月	2	しを読もう てんとうむし 教科書:P98 □言葉のリズムや響きを楽しみながら、イメージの自由な広がりをとおして詩を楽しむ。	読む	1	1. 『てんとうむし』を音読し、気がついたことを発表し合う。 ＊ 詩を範読する前に「てんとうむしを見たことがあるか」「どこで見たか」「どんな形や色をしてたか」「どんな天候の時に見たか」などを発問して、てんとうむしのイメージを想起できるようにする。 ＊ どんなに小さな生き物でも、どんなに大きな生き物でも、生きとし生けるもの全て、「いのちをいっつもっている」。その事実を確かめたい。 2. 一人読み、ペア読み(一行ずつ交代して読む)、一斉読みなどをして、音読を繰り返す。 ＊ 「てんとうむし」になったつもりで、動作化を取り入れたり、読み方を工夫したりして、音読する。	【知識・技能】 ◎語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。(1)ク 【思考・判断・表現】 ◎「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。(C1)エ 【言語活動例】 ・読み聞かせを聞いたり物語などを讀んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動。(C2)イ 【態度】 ・すすんで言葉の響きなどに気を付けて、学習の見通しをもって感想を発表しようとしている。
					2	3. 『てんとうむし』を読んだ感想をグループごとに交流したあとに、音読の方法を工夫するために、話し合う。 ＊ 一人読み、ペア読み(一行ずつ交代して読む)、一斉読みなどをして、音読を繰り返しながら、どこの行に何人が読むか、誰が分担して読むか、どんな声で読むか、どんな声量で読むか、などについて相談する。 4. グループごとに工夫した音読を発表する。 5. 「生きものの『いのち』に、ちがいがいいのか」について考えて、意見交流をする。	

学期	月	時数	単元名／教材名／教科書ページ 学習内容 ★ここが大事／☆学習用語	領域	時	学習活動／*留意点	評価規準 学習指導要領との対応
2学期	9月	2	漢字のひろば③ 二つの漢字でできている言葉 教科書:P100 △二つの漢字でできた言葉の構成を確認し、二つの漢字のつながり方を考える。	漢字	1	1. 学習内容を理解し、学習の見直しをもつ。 * 二つの漢字のつながり方と言葉の意味を考えると学習課題を確かめ、日常の言語生活にも生かしていくよう意識づける。 2. 「小石」の意味を考える。 * 「小石」を声に出して読み、読み方を確認する。 * 漢字「小」の意味と、複数の読みを考える。 * 上の漢字から下の漢字に読み下すと、意味がわかりやすくなることに意識を向けられるようにする。 3. 「大木」「新年」「白線」という言葉の意味を考える。 * 二つの漢字が互いにつながりをもって結びついていることに意識を向けられるようにする。 * 提示する複合語や熟語を読み下すことで、意味を考えられるようにする。 4. 「子牛」の例をもとに「親鳥」「海水」「人名」という言葉の読み方と意味を考え、二つの漢字のつながり方を話し合う。 * 「どのような一口」「小石」「大木」「白線」など、「何の一口」「子牛」「親鳥」「海水」「人名」などのように、語相互の関係に着目できるようにする。 * これらの言葉を使って短文を作り、発表し合うようにする。	【知識・技能】 ◎第1学年においては、別表の学年別漢字配当表の第1学年に配当されている漢字を読み、漸次書き、文や文章の中で使っている。第2学年においては、学年別漢字配当表の第2学年までに配当されている漢字を読んでいる。また、第1学年に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、第2学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使っている。(1)1エ 【態度】 ・積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を書き、学習の見直しをもって、二つの漢字でできている言葉を読んだり書いたりしようとしている。
			2	5. 「青空・夜空・夏空」、「朝市・朝日・朝会」などの言葉の意味について話し合う。 * 「口→空」「朝→口」と読み下し、二つの漢字の意味関係を考えさせる。 * 同じ「空」でも、「青空－青い空(晴れ上がった青々とした空)」「夜空－夜の空(夜の暗い空)」「夏空－夏の空(夏の晴れたまぶしい空)」とその違いが比べられるとよい。 * 「朝の口」では共通しているが、「朝市－朝の市(朝開く魚・野菜などの市)」「朝日－朝の日(朝、東から昇る太陽)」「朝会－朝の会(朝、一日の始まりにみんなが集まって行う会)」などと具体的に考えられるとよい。 6. 二つの漢字をつないで言葉を作り発表し合う。 * つないで作った言葉の意味を考え、どんなときどのように使うかも発表し合えるとよい。 7. 「同じ点数」は、「同点」という二つの漢字でできた言葉になることを理解する。 * 二つの漢字でできた言葉を考え、理解できる語句の量や範囲を広げるようにする。 8. 二つの漢字を組み合わせて、いろいろな言葉を作り、発表し合う。 * 二つの漢字を組み合わせて言葉を作り、それをもとに短文を作り、発表し合い、話し合い、意見を出し合うことができるようにしたい。 * 二つの漢字を線でつないで言葉を作る活動の要領が理解できたら、同様の問題作りに取り組みせよ。			
2学期	9月	2 (書く2)	一年生で学んだ漢字② 教科書:P102 △絵を見て想像したことをもとに、1年生で学んだ漢字などを使って文を書く。	漢字	3・4	9. 絵の中の言葉の読み方を確認する。 * 絵に描かれたことと、言葉からわかる広場の様子をできるだけたくさん発表できるようにする。 10. 教科書の絵と言葉を参考に、広場の様子から想像できる短文を作る。 * 描かれている人物と行為、場の状況、物品など、視点を提示するとわかりやすい。 11. 主語と述語のつながりに気をつけて、絵の中の言葉を使って2文以上が続くように書き、発表し合う。 * まず、広場で、誰が何をしているかを「……が」「……は」で始まる文を書く。 * 語と語の続き方を考えて、主語と述語が整ったまとまりのある文となるようにする。 * 文と文の続き方に注意しながら、続きの文を書く。 (例)女の人が三びきの犬をさんぽさせています。また、ベンチのところで、おじさんが休んでいます。 12. 学習したことを振り返る。 * 二つの漢字でできている言葉について正しく理解したり、漢字の使い方や表記などを理解できるようにしたりし、日常の言語生活にも生かしていくよう意識づける。	【知識・技能】 ◎第1学年においては、別表の学年別漢字配当表の第1学年に配当されている漢字を読み、漸次書き、文や文章の中で使っている。第2学年においては、学年別漢字配当表の第2学年までに配当されている漢字を読んでいる。また、第1学年に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、第2学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使っている。(1)1エ 【思考・判断・表現】 ◎「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。(B)1ウ 【言語活動例】 ・身近なことや経験したことを報告したり、観察したことを記録したりするなど、見聞きしたことを書く活動。(B)2ア) 【態度】 ・積極的に文の中における主語と述語の関係に気づこうとし、学習の見直しをもって文や文章を書こうとしている。

学期	月	時数	単元名／教材名／教科書ページ	領域	時	学習活動／*留意点	評価規準 学習指導要領との対応	
2学期	9月	12 (書く3)	五 登場人物が考えていたことをそうぞうしよう わにのおじいさんのたからもの 教科書:P104 □文章を読み、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること。 ★ここが大事:登場人物の考えをそうぞうする ☆学習用語:登場人物、場面、想像する	読む	1	<見通しをもとう> 1. 単元の見通しをもつ。 * 単元扉を読み、単元の見通しをもたせる。 * 単元扉の題名、言葉、絵を見て、お話を想像させる。 * 範読後、児童による音読によって、通読する。 * 新出漢字や難語句を確認する。	【知識・技能】 ◎言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付いている。(1)ア) 【思考・判断・表現】 ◎「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。(C1)エ) ○「読むこと」において、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。(C1)オ)	
					2~5	<たしかめよう> 2. お話の内容の大体をつかむ。 (1)お話の登場人物を確かめる。 (2)お話のできごとを確かめる。 * だれが何をしたかを考える学習を生かし、おにの子とわにのおじいさんの行動からできごとを確認させる。次の<くわしくよう>の学習につながるので、一つ一つの行動や表現丁寧に読み取らせておきたい。		【言語活動例】 ・読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動。(C2)イ)
					6~8	<くわしくよう> 3. 場面の様子に着目し、登場人物の行動を想像する。 (1)わにのおじいさんがどうしておにの子のたからもの場所を教えたのかを考える。 (2)おにの子とわにのおじいさんそれぞれにとってのたからものは何かを考える。 * 「ここが大事」に示された例を取り上げて、どの表現からどのような「登場人物の考え」が想像できるかを考えさせるとよい。その際、簡単な動作化や、ふきだしの書き込みなどをとおして、人物の様子を想像させることも考えられる。 * <まとめよう>の学習とも重なるが、『きつねのおきゃくさま』できつねの性格を考えた学習を生かし、おにの子、わにのおじいさんの性格を考えていくことで、それぞれの宝物は何かを考える活動へとつなげていくのもよい。 * わにのおじいさんがおにの子の行動や言葉に心を打たれて宝の場所を教えていることをおさえる。宝の場所を教えたときの気持ちを想像する根拠とさせるとよい。		【態度】 ・学習課題にそって、進んで登場人物が考えていたことを、本文の言葉を根拠に想像しようとしている。
					9・10	<まとめよう> 4. おにの子がどのような人物かを考える。 * おにの子の行動や言葉にサイドラインを引き、それらを手がかりにしながら、おにの子の人物を考えさせる。 * 『きつねのおきゃくさま』の学習で性格を考える時に大切にすることを振り返るのもよい。		
					11・12	<つたえあおう> 5. この単元で学んだ内容や感想を伝え合う。 (1)お話の興味を持った部分や、登場人物に共感した部分に線を引き発表する。 (2)発表し、共有したことをもとに、おにの子か、わにのおじいさんに手紙を書く。 * お話のおもしろいと思ったところや、素敵だと思ったところに線を引き、なぜそう思ったのか理由も加えてノートにまとめ、発表する。 * 作品の表現や登場人物の魅力など、お話のよさがたくさんあることに気づかせる。 * 意見交換をすることで、同じ場面に興味をもっている、根拠となる言葉や表現が違っていたり、同じ言葉や表現を根拠としていても、受け取り方が少し違っている友達がいることに気づかせたい。		
					13	<ふりかえろう> 6. この単元で学んだことを振り返る。 (1)登場人物の行動や言葉に着目して気がついたことを振り返る。 (2)登場人物に手紙を書くときに気がつけたことを振り返る。 * 登場人物の行動や言葉に着目したことで、その人物の性格や人物像がはっきりしたことを確認する。 * 登場人物の行動や言葉に着目して精読したことで、よりよい手紙を書くことができたことを確認する。		

学期	月	時数	単元名／教材名／教科書ページ 学習内容 ★ここが大事／☆学習用語	領域	時	学習活動／＊留意点	評価規準 学習指導要領との対応	
2学期	9月	2	言葉のひろば④ ほんたいのいみの言葉、にたいみの言葉 教科書:P118 △対義語や類義語があることを知り、身近な言葉から対義語や類義語を集める。	言語	1	1. 言葉には、反対の意味をもつものや、似た意味をもつものがあることを知り、学習活動に対する見通しを持つ。 ＊P118・119の上段にある会話文を読み、反対の意味の言葉と似た意味の言葉に興味をもち、自分からそれらを探してみたいという意欲をもたせる。 2. 「ほんたいのいみの言葉」にはどのようなものがあるかを考え、組みになるカードを作る。 ＊P118の下段にある設問をクラス全体で考えたのち、板書・ワークシート等によって、ほかどのような言葉が反対の意味をもつのかについて理解を深め、各自で反対の意味をもつ言葉を探させる。 ＊うまく言葉を見つけることのできない児童に対しては、教師の側から言葉の一つ示し、その反対語を考えさせるようにする。 ＊打ち消しの言葉を反対語としないように気をつけさせたい。 3. 作ったカードを友達どうしで確かめ合う。 ＊作ったカードが反対の意味になっているかどうかを迷うものについては、全体で共有し確認を行う。 ＊確認がすんだカードを友達どうしで一つにまとめ、マッチングゲーム(バラバラに並べて反対語のペアを見つけるゲーム)をすることにより、知識の定着を図ってもよい。	【知識・技能】 ◎身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気づき、語彙を豊かにしている。(1)才 ○共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。(2)ア)	
					2	4. 「にたいみの言葉」にはどのようなものがあるのかについて考える。 ＊P119下段の一つめの設問をクラス全体で考えたのち、板書・ワークシート等によって、ほかどのような言葉が似た意味をもつ言葉になるのかについての理解を深めさせる。 ＊教科書の既習ページやワークシートを活用するなどして、それらの中で用いられている言葉と似た意味の言葉を各自で探させる。 5. 「にたいみの言葉」を分類したり、整理したりして、気づいたことを話し合う。 ＊P119下段の二つめの設問や自分で探した似た意味の言葉を分類・整理させ、気づいたことを発表させる。 6. 学習したことを振り返る。		【態度】 ・積極的に反対の意味をもつものや、似た意味をもつものがあることに気づこうとし、学習の見通しをもって言葉を使おうとしている。
2学期	10月	11 (書<11)	六 まとまりのある文章を書こう 町の「すてき」をつたえます 教科書:P120 ■生活科の町たんけんで見つけたことやわかったことをもとに、自分の思いや考えが明確になるように事柄の順序にそって簡単な構成を考え、町のすてきを伝える文章を書く。 ★ここが大事:まとまりのある文章を書く ☆学習用語:／メモ／理由／はじめ／中／おわり／組み立てひょう／じゅんじよ	書く	1	<見通しをもとう> 1. 生活科の町たんけんで見つけたことやわかったことをもとに、町の「すてき」を書き、友達や家の人に伝える学習活動について見通す。	【知識・技能】 ◎文の中における主語と述語との関係に気付いている。(1)カ ○共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。(2)ア) 【思考・判断・表現】 ◎「書くこと」において、自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えている。(B1)イ)	
					2・3	<きめよう・あつめよう> 2. 探検したときに書いた「町たんけんカード」をから、町の「すてき」を伝えるために必要なことをメモに書き抜く。 ＊生活科の町たんけんの学習と関連させ、工夫したい。 ＊ここでは生活科の町たんけん取材して書いた「町たんけんカード」から、「見つけたこと」「聞いたこと」「思ったこと」を区別して、メモとして付箋紙などに書き抜くようにさせている。 3. メモをペアで読み合い、内容を確認し合う。 ＊更「書きたす」とよいことなどを助言するようにさせる。 ＊メモは短い言葉で書くこと、観点別にマークを入れることを確認する。		【言語活動例】 ・身近なことや経験したことを報告したり、観察したことを記録したりするなど、見聞きしたことを書く活動。(B2)ア) 【態度】 ・他教科での学習や経験を関連させながら、事柄の順序にそって構成を考え、報告する文章を書いている。
					4・5	<組み立てよう>(重点) 4. 「はじめ・中・おわり」に何を書か考えて、組み立て表を作る。 ＊書いたメモを「はじめ」「中」「おわり」を意識して、三つのまとまりに分け、構成を考える。 ＊順序にしたがって書かせるようにする。この学習では時間的順序や場所的順序を意識させ、選ばせるようにする。 ＊紙面の関係で「中」が2段になっているが、実態に合わせて工夫するとよい。		
					6～8	<書こう> 5. 組み立て表をもとに、文章を書く。 ＊P124「大事な言い方」を使うと順序がわかりやすくなることをおさえる。同様に、伝聞の文末についてもおさえ、留意させるようにする。		
					9	<読みかえそう> 6. 書き終えたら、まちがいがなければ読み返す。 ＊自分で読み返す、ペアに読んでもらい助言をもらうなどの工夫が考えられる。		
					10	<つたえ合おう> 7. 書いた文章を読み合い、よいところを伝え合う。 ＊順序がわかりやすく書いてあるかなどに着目して読み合い、よさを伝える。		
					11	<ふりかえろう> 8. まとまりのある文章を書くためにどんな工夫をしたか、めあてにそって振り返る。		

学期	月	時数	単元名／教材名／教科書ページ 学習内容 ★ここが大事／☆学習用語	領域	時	学習活動／＊留意点	評価規準 学習指導要領との対応
2学期	10月	1 (話す聞く1)	国語の学習 つながる ひろがる 教科書:P126 ◇一年間の国語学習を振り返ったり、これからの学習について考えたりして、楽しみながら学習できるようにする。	話聞	1	1. 半年間の国語の学習で学んできたことや言葉を思い出して書いたり、出し合ったりする。 ＊上巻の教科書、学習のノート、作成物、プリント類(ポートフォリオ)などを合わせて振り返ることができるようにする。挿絵やふきだしを参考にする。単元名や教材名だけでなく、印象的な言葉や活動など思い出すなど内容は多様でよい。 ＊学んできたことを書き出したりして、グループや学級全体で発表し合う。 2. 1で出し合ったことが、ほかの教科や生活の中で、どんなことに生かしていけるか考える。 ＊国語の学習がさまざまな場面で生かされることに気づけるようにする。	【思考・判断・表現】 ◎「話すこと・聞くこと」において、話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもっている。(A(1)エ) ○「書くこと」において、経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア)
2学期	10月	11 (話す聞く3)	一 じゅんじよや様子をあらわす言葉に気をつけよう さげが大きくなるまで 教科書:P8 □さげの成長について、季節や場所、さげの様子の移り変わりを考えながら、内容の大体を読む。 ★ここが大事:時・場所・大きさを様子をせつめいする言葉 ☆学習用語:いつ(時)／どこで(場所)／どんな(大きさや様子)／じゅんじよ	読む	1	<見通しをもとう> 1. 単元名やリード文を読み、「じゅんじよや様子をあらわす言葉に気をつける」とは、どんな読み方なのかを考えたり、説明をする方法について確認したりして、学習の見直しをもつ。 (1)順序や様子を表す言葉とは、どんな言葉があるかを想起する。 (2)「じゅんじよや様子を表す言葉」は、本文に出てくるさげについて時(いつ)場所(どこで)大きさや様子(どんな)を考えて読むことだ、と確認をする。	【知識・技能】 ◎共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。(2)ア)
					2～3	<たしかめよう> 2. 感想を伝え合うことで本文に書かれた内容の大体を確認する。 (1)100～150文字程度の簡単な感想を書き、ペアで伝え合う。 ＊伝え合った後は加筆する時間を確保し、伝え合った成果が残せるようにする。 (2)1枚1枚の写真が「いつ(時)、どこで(場所)、どんな(大きさや様子)ことを捉えた写真なのかを説明することを通じて、内容の大体を確認する。 ＊学習の初期であるため、詳細な説明をするのではなく、大体どんな写真なのか表現できればよい。	【思考・判断・表現】 ○「話すこと・聞くこと」において、相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基づいて、話す事柄の順序を考える。(A(1)イ) ◎「読むこと」において、文章の中の重要な語や文を考えて選び出している。(C(1)ウ) ○「読むこと」において、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。(C(1)オ)
					4～7	<くわしくよもう> 3. さげが大きくなるまでの様子を、時・場所・大きさを表す言葉に気をつけてまとめる。 (1)2～3段落までの、大人のさげが川を上り、卵を産むまでを、表を使って整理する。 (2)4段落のふ化したさげの赤ちゃんの様子を整理する。 (3)5段落、6段落の、川を下ってきた子どものさげが八センチメートルぐらいに成長した様子を整理する。 (4)7～10段落までの、海を泳ぎ始めてから産卵期に自分が生まれたものと川へ帰ってくるまでの様子を整理する。 ＊P16学習の手引きのワークシートや、思考ツール(「ステップチャート」や「KWL」など)を使用するとよいだろう。	【言語活動例】 ・紹介や説明、報告など伝えたいことを話したり、それらを聞いて声に出して確かめたり感想を述べたりする活動。(A(2)ア) ・事物の仕組みを説明した文章などを読み、分かったことや考えたことを述べる活動。(C(2)ア)
					8～9	<まとめよう> 4. 「さげって、すごいな。」と自分がいちばん思うところと、そのわけを書く。 (1)挿絵と前時までの学習を確認し、自分がいちばん心に残った段落を選ぶ。 (2)選んだ箇所を中心に、どのようなことをすごいと思ったのかと、そのわけをノート等に記入する。 ＊個人での解決が難しい場合は、P17学習の手引きに書かれた文章を参考にすることを伝える。	【態度】 ・積極的に情報と情報との関係について理解しようとして、学習課題にそって、文章の中の重要な語や文を考えて選び出したりしている。
					10-11	<つたえあおう> 5. 前時に作成した文章を友達と読み合い、考えを広げる。 (1)ペアを作り、文章を互いに読み合う。 ＊文章のよさについて感想を伝えるように助言するといだろう。 (2)読み合いを通じて考えたことを加筆する。 <ふり返ろう> 6. さげが大きくなるまでの感想について、できればえを振り返る。 (1)「時・場所・大きさや様子」のうち、どんな言葉に気がつけたかを考え、記述して振り返る。 (2)自分の感想をまとめるときに、どんなことに気をつけて書いたかを考え記述して振り返る。	

学期	月	時数	単元名/教材名/教科書ページ	領域	時	学習活動/*留意点	評価規準 学習指導要領との対応	
2学期	10月	2	二まいのしゃしんのちがいをくらべよう この間に何があった? 教科書:P20 □1枚めの写真から視点を定めて、2枚めの写真になった際、何かが起きたことを想像する。 ☆学習用語:比べる	読む	1	1. P20・21の二枚の写真のちがいを比べ、間に何が起こったかを考える学習の見直しをもつ。 2. 二枚の写真を比べ、毛を刈られるところと、刈り終わったところであることを確かめる。 3. 間に何が起こったかを自分なりに想像し、考えをノートに書く。 4. ノートに書いたことを友達と伝え合う。 5. 伝え合って考えたことを更にノートに加筆する。 6. 二枚の写真のちがいを比べることを通じて、想像を広げることができたかを振り返る。	【知識・技能】 ◎共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。(I2ア) 【思考・判断・表現】 ◎「読むこと」において、時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えている。(C11ア) ○「読むこと」において、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。(C11オ) 【言語活動例】 ・事物の仕組みを説明した文章などを読み、分かったことや考えたことを述べる活動。(C12ア) 【態度】 ・進んで二枚の写真のちがいを比べることを通じて、学習課題にそって、二枚の写真の間にあったできごとを想像しようとしている。	
					2	7. P24・25の二枚の写真、P26・27のちがいを比べ、間に何が起こったかを考える学習の見直しをもつ。 * どちらの写真について考えるかを児童に選択させると主体的に学習に取り組むことができるだろう。 8. 二枚の写真を比べ、どのようなちがいがあるのかを確かめる。 9. 間に何が起こったかを自分なりに想像し、考えをノートに書く。 10. ノートに書いたことを友達と伝え合う。 11. 伝え合って考えたことを更にノートに加筆する。 12. 二枚の写真のちがいを比べることを通じて、想像を広げることができたかを振り返る。		
2学期	10月	10 (書く10)	二 様子をよく見て、くわしく書く おもしろいもの、見つけたよ 教科書:P28 ■見つけた物をよく見て、内容のまとまりがわかるように書き表し方を工夫して、友達に様子が伝わるように詳しく文章を書く。 ★ここが大事:様子がつたわるように書く ☆学習用語:メモ/様子/大きさ/色/形/さわった感じ/はじめ/中/おわり/まとまり/矢印/読み返す	書く	1	<見直しをもとう> 1. 友達に教えてあげたい、おもしろいものを友達に伝えるように紹介するという学習活動を見直す。 * 既習の観察記録文と共通することが多い。異なる点として、メモの観点を自分で書いたり、メモを同じ観点でまとめ整理する点、同じ大きさのものを例示したり矢印を使ったりする点がある。思考のてだてに重点が置かれている。	【知識・技能】 ◎身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付く。語彙を豊かにしている。(I1オ) 【思考・判断・表現】 ◎「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。(B11ウ) ◎「書くこと」において、文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見つけている。(B11イ)	
					2・3	<きめよう・あつめよう> 2. 見つけたものから、書くことを決める。 * 見つけたものの様子を短い言葉でメモに書く。形、大きさ、色など観点となる言葉も書くようにさせる。		【言語活動例】 ・身近なことや経験したことを報告したり、観察したことを記録したりするなど、見聞きしたことを書く活動。(B12ア)
					4・5	<組み立てよう> 3. 見つけたものの様子をメモに書き、まとまりごとに並べる。 * 「はじめ」「中」「おわり」を示した構成表の上にメモを置き、まとまりを考えさせるようにする。まとまりを枠で囲ませ、意識させるとよい。		【態度】 ・進んで、友達に自分が見つけたものの様子がわかるように書き表し方を工夫し、学習課題にそって、文章に対する感想を伝え合おうとしている。
					6・7	<書く>(重点) 4. まとまりに気をつけて、文章を書く。 * 例文を読み、「大事な言い方」に着目させる。大きさを数値と共に同じような大きさのものを例示していたり、矢印を用いて大きさの向きを分かりやすく表したりしていることに気づかせる。		
					8	<読みかえそう> 5. 書いた文章を、声に出して読み返す。 * 声を出して読むことで、推敲を習慣とし、誤字脱字などに自分で気づかせるようにする。		
					9	<つたえ合おう>(重点) 6. 友達と文章を読み合う。 * お互いの文章のよいところを認め合い、感想を伝えるようにさせる。		
					10	<ふりかえろう> 7. 見つけたものの様子を伝えるためにどんなことに気をつけたか、めあてにそって振り返る。 * 自分や友達の文章のよさにも着目させる。		
2学期	11月	1	言葉の文化④ 「あいうえお」であそぼう 教科書:P32 △折句の文を読み、自分の名前やすきなものの名前を使って折句の文を作る。	文化	1	1. 学習の見直しをもつ。 2. 教科書の「あいうえお」を使った文を声に出して読む。 * 文の中に「あいうえお」が使われていることを確認する。 3. 自分の名前やすきなものの名前をつかった折句の文を作る。 4. 作った文を紹介し合う。 * 作った文に、自分の名前やすきなものの名前の文字が使われているか確認する。 5. 学習を振り返る。	【知識・技能】 ◎長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気付いている。(I3イ) 【態度】 ・進んで長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気づこうとし、学習の見直しもって折句の文を作っている。	

学期	月	時数	単元名／教材名／教科書ページ 学習内容 ★ここが大事／★学習用語	領域	時	学習活動／＊留意点	評価規準 学習指導要領との対応	
2学期	11月	7	三 心にのこったところをしようかいし合おう ないた赤おに 教科書:P34 □登場人物の気持ちの移り変わりを考えながら、『ないた赤おに』を読み、心に残ったことを話し合う。 ★ここが大事:自分の考えをふりかえる ★学習用語:登場人物／できごと／変化	読む	1・2	<見通しをもとう> 1. 単元扉を読み、単元の見通しと初読の感想をもたせる。 * 単元扉の題名、言葉、絵を見て、お話を想像させる。 * 通読して最初の感想を交流してもよい。 * 新出漢字や難語句を確認させる。 <たしかめよう> 2. 登場人物とできごとを確かめる。 * 場面ごとに登場人物とできごとを確認しできごとの順序を整理させる。教科書のように表にしてもよい。	【知識・技能】 ◎語のまもりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。(C1)カ 【思考・判断・表現】 ○「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。(C1)エ ◎「読むこと」において、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。(C1)オ ◎「読むこと」において、文章を読んで感じたことや分かったことを共有している。(C1)カ 【言語活動例】 ・読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動。(C2)イ	
					3・4	<くわしくよう> 3. 人間たちや青おにとのかかわりから、赤おにがどのように変わったかを考える。 * 赤おにがどう変わったかではなく、「赤おにと人間たちとの関わり」「赤おにと青おにの関わり」がそれぞれ、どう変わったのかに着目させる。その際、P41、45、51の3枚の挿絵を用意して、考えさせるのもよい。		【態度】 ・進んで言葉や表現に着目しながらお話を読み、学習課題にそって繰り返し読むことで、初読の感想から自分の考えを深めようとしている。
					5	<まとめよう> 4. 赤おにと青おにがそれぞれどのようなおになのかを考える。 * <たしかめよう>で作成した表(場面ごとの登場人物・できごとをまとめた表)を生かしながら、それぞれのしたことに着目させ、どんな人柄であるのかを考えさせていく。 * 『きつねのおきゃくさま』『わにのおじいさんのたからもの』の学習を振り返ることで、二人の人物の行動や言動など、本文の言葉に着目させたい。		
					6・7	<つたえあおう> 5. お話を読んで心に残ったこととその理由を紹介し合う。 * 意見交換をすることで、同じ場面や表現に興味をもっても、根拠となる言葉が違っていたり、同じ言葉を根拠としていても、受け取り方が少し違っている友達がいることに気づかせたい。 <ふりかえろう> 6. 心に残ったことを考える時に大切にしたことや、心に残ったことを紹介し合って気づいたことを振り返る。 * <見通しをもとう>で出てきた初読の感想と、<つたえあおう>で出てきた感想を比べることで、自分の考えを振り返らせる。精読することで自分の考えが深まったことを実感させたい。		
2学期	11月	5	読書の広場③ 「お話びじゅつかん」を作ろう 教科書:P56 △自分の読んだ本の中でいちばん心に残ったところを絵に描いて紹介する。 ★学習用語:題名／作者	読書	1・2	1. 本の中でいちばん心に残ったところを絵に描いて紹介するという学習内容をつかみ、学習の見通しをもつ。 2. 今までに読んできた本を振り返り、心に残ったことやその訳をメモする。	【知識・技能】 ◎読書に親しみ、いろいろな本があることを知っている。(C3)エ 【思考・判断・表現】 ○「読むこと」において、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。(C1)オ ◎「読むこと」において、文章を読んで感じたことや分かったことを共有している。(C1)カ 【言語活動例】 ・学校図書館などを利用し、図鑑や科学的なことについて書いた本などを読み、分かったことなどを説明する活動。(C2)ウ 【態度】 ・「お話びじゅつかん」を作るという活動に見通しをもち、進んで今までに読んできた本を振り返って読んだり、カード作りに取り組んでいたりにしている。	
					3・4	3. 「お話びじゅつかん」の作品を作る。 (1)紹介したい本を選び、心に残ったところを絵に描く。 (2)作品に題名を工夫してつけ、展示する。		
					5	4. 「お話びじゅつかん」の作品の前で、本を紹介し合う。 5. 学習を振り返る。		

学期	月	時数	単元名／教材名／教科書ページ 学習内容 ★ここが大事／★学習用語	領域	時	学習活動／＊留意点	評価規準 学習指導要領との対応
2学期	11月	8 (話す聞く8)	四 つもんだり答えたりして、つないで話し合おう 「クラスお楽しみ会」をひらこう 教科書:P60 ◇話し合いでクラスで行う遊びを決め、「クラスお楽しみ会」を開く。 ★ここが大事:つないで話し合う ★学習用語:カード/理由/質問/つなぐ/話し合い/伝える	話聞	1	<見通しをもとう> 1. 単元名とリード文を読み、学習の見通しをもつ。 (1)「クラスお楽しみ会」で遊ぶ遊びを決めるために、グループで話し合うという学習の見通しをもって「学習の すずめ方」をもとに学習計画を立てる。 ＊「クラスお楽しみ会」のイメージをもたせ、自分たちでクラス遊びの内容を決め、「クラスお楽しみ会」を開く意欲をもたせる。	【知識・技能】 ◎共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。(A2ア) 【思考・判断・表現】 ◎「話すこと・聞くこと」において、互いの話に関心をもち、相手の発言を受けて話をつないでいる。(A1イ)
					2	<きめよう・あつめよう> 2. やりたい遊びを考える。 (1)やりたい遊びを書き出し、その中から一つ選ぶ。 ＊最初から一つを選ぶのではなく、いくつか出した中から選ばせるとよい。	【態度】 ・積極的に互いの話に関心をもち、相手の発言を受けて話をつないで、学習課題にそって「クラスお楽しみ会」で遊ぶ遊びを決めるために、グループで話し合おうとしている。
					3	<組み立てよう> 3. 考えた遊びとその理由をカードに書く。 (1)カードに「クラスお楽しみ会」でやりたい遊びとその理由を書く。 ＊理由は、短い文で書かせるようにする。 ＊理由はいくつあってもよいことを伝える。	
					4	<話そう・聞こう>(重点) 4. 話し合いを行い、クラスに伝える。 (1)P61とP62を読み、話し合いの流れを知る。 ＊役割読みをさせて、イメージをつかませるとよい。 (2)P63「ここが大事」を読み、話し合いの仕方を知る。 ＊つないで話し合うことが大事であることを伝える。	
					5	(3)カードを使って話し合う。 ＊互いに質問したり答えたりする。 ＊グループで、どの遊びがよいか一つ決めるようにする。また、その理由もまとめられるようにする。	
					6	(4)グループの話し合いをクラスに伝える。 ＊グループで決まった遊びとその理由を伝えられるようにする。 ＊教師が板書で、話し合いを整理するとよい。	
					7	<つたえ合おう> 5. 感想を伝え合う。 (1)グループでの話し合いについて、友達の話をつないで話し合うために、どんな工夫をしたかを伝え合う。 ＊児童の感想の中から、つないで話し合うために大切なことを板書し、整理する。	
					8	<ふりかえろう> 6. 学習を振り返る。 (1)学習全体を振り返り、できるようになったことや感想を確かめる。 ＊全体で話したり聞いたりして、学習の自己評価をさせる。 ＊友達の話をつないで話し合うために、どんな工夫をしたかを振り返らせる。 ＊特別活動の時間等を使って、「クラスお楽しみ会」を開く。	

学期	月	時数	単元名／教科名／教科書ページ 学習内容 ★ここが大事／★学習用語	領域	時	学習活動／＊留意点	評価規準 学習指導要領との対応
2学期	11月	5 (書く5)	<p>心がうごいたことを書こう みじかい言葉で 教科書:P64</p> <p>■語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりがわかるように書き表し方をくふうして心が動いたことを短い言葉で書く。</p> <p>★ここが大事:心がうごいたときに感じたことを短い言葉で書く</p> <p>★学習用語:心が動く／なりきる／短い言葉で</p>	書く	1	<p>1. P64・65を読み、心が動いた時に見たこと、したこと、感じたことを短い言葉で書くという学習活動を見通す。</p> <p>＊リズムを楽しんだり、様子を思い浮かべたりしながら音読するなど短い言葉で表現するよさやおもしろさを味わわせたい。</p> <p>＊学級文庫など身近なところに詩の本を配置し、興味・関心をもちやすくする。</p>	<p>【知識・技能】 ◎言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付いている。(1)ア)</p> <p>【思考・判断・表現】 ◎「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。(B)1ウ)</p> <p>【言語活動例】 ・簡単な物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。(B)2ウ)</p> <p>【態度】 ・進んで言葉の書き表し方を工夫し、学習の見通しをもって、心が動いたことを短い言葉で書いたり友達の作品のよさを見つけようとしていたりしている。</p>
					2	<p>2. 心が動いたことを書くときの表現を集める。</p> <p>＊P64・65の作者は何を感じて心が動いたのか、それをどのように書いたのかを考えさせたい。</p> <p>＊P64・65の作品のおもしろさや表現の特徴に着目させる。</p> <p>表現の特徴の例:「もしも～になったら」という想像／なりきっているところ／音を表す言葉／例え／繰り返し／比較</p>	
					3	<p>3. 心が動いたことを短い言葉で書く。</p> <p>＊「楽しかった」「おもしろかった」というような一般的な表現ではなく、自分の気持ちを素直に表現する言葉を探させたい。</p> <p>＊P64の吹き出しを参考にして、全員で何かになりきって書いてみてもよい。書くことが難しい児童には見立て遊びや教師との対話をそのまま表現するなどの支援が考えられる。</p>	
					4	<p>4. 作品を読み返す。</p> <p>＊自分が書いた言葉を読み返したり、友達と交換して読み合ったりして、推敲する。実態に応じて清書する。</p>	
					5	<p>5. 作品を読み合い、感想を伝え合う。</p> <p>＊友達の作品のよいところを見つけて、感想を伝え合う。よさを見つける観点を提示してもよい。</p> <p>観点例:繰り返しリズム／音を表す言葉のおもしろさ／なりきりや見立てのおもしろさ／題名のくふう</p> <p>＊付箋紙などに感想を書いて渡すと、意欲につながりやすい。</p> <p>6. 心が動いたことを短い言葉で書くためにどんな工夫をしたか、めあてにそって学習を振り返る。</p>	
2学期	12月	2	<p>漢字の広場④ 漢字のつかい方と読み方 教科書:P66</p> <p>△漢字の使い方や読み方、意味などを考えて漢字を正しく使う。</p> <p>★学習用語:おくりがな</p>	漢字	1	<p>1. 学習内容を理解し、学習の見直しをもつ。</p> <p>＊いろいろな使い方と読み方がある漢字について知るという学習課題を確かめ、日常の言語生活にも生かしていくよう意識づける。</p> <p>2. 「生」という漢字のいろいろな使い方を考える。</p> <p>＊これまでに学習した用例を思い起こすとよい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生きものクイズを作ろう。 ・たまごからさけの赤ちゃんが生まれます。 ・生活科の町たんけん。 <p>3. P66上段の設問をもとに「生」の読み方について、話し合う。</p> <p>＊P66上段の例文を声に出して読み、読み仮名をふって、漢字の読み方の違いを確かめ、それぞれの意味の違いを考えるようにする。</p> <p>＊同じ漢字でも、言葉によって違う読み方をするものがあることに興味をもてるようにする。</p> <p>4. 「後」「行」「通」の読み方と、それぞれの意味の違いを考え、話し合う。</p> <p>＊複数の読み方がある漢字について、ほかの言葉や漢字とのつながりを考え、使い方・読み方・意味などに着目して読むということをおさえる。</p>	<p>【知識・技能】 ◎第1学年においては、別表の学年別漢字配当表の第1学年に配当されている漢字を読み、漸次書き、文や文章の中で使っている。第2学年においては、学年別漢字配当表の第2学年までに配当されている漢字を読んでいる。また、第1学年に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、第2学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使っている。(1)エ)</p> <p>【態度】 ・積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を読み、学習の見直しをもって漢字を正しく使おうとしている。</p>
					2	<p>5. 送り仮名によって読み方が変わる漢字をもとに、「おくりがな」の役割を考える。</p> <p>＊「おくりがな」という語と、その意味、役割を理解できるようにする。</p> <p>＊「出る・出す」「回る・回す」「売れる・売る」などは、助詞に着目し、動詞とつなげて考えることもできる。</p> <p>6. P67下段の設問をもとに、読み方によって送り仮名が変わることを理解する。</p> <p>＊送り仮名の決まりについて、機械的に覚えるのではなく、おおまかなイメージがもてるようにする。</p> <p>＊読み方の違い、送り仮名の違いに気づくことができるようにし、なぜそのようになったか意識できるようにする。</p> <p>7. 複数の読み方がある漢字を集めて、短文を作り、発表し合う。</p> <p>＊P163「二上までに学んだ漢字」を参考に、たくさんの読み方がある漢字がほかにもあるか探し、語例を考え、それをもとに短文作りに取り組むとよい。</p>	

学期	月	時数	単元名/教材名/教科書ページ 学習内容 ★ここが大事/★学習用語	領域	時	学習活動/★留意点	評価規準 学習指導要領との対応
2学期	12月	2 (書く2)	一年生で学んだ漢字③ 教科書:P68 △絵を見て想像したことをもとに、1年生で学んだ漢字などを使って文を書く。	漢字	3-4	8. 絵の中の言葉の読み方を確認する。 * 絵に描かれたことと、言葉からわかる様子をたくさん発表できるようにする。 9. 教科書の絵と言葉を参考に、絵に描かれている様子から想像できる短文を作り、語と語の続き方に注意して文を書く。 * 絵の中には、「目・耳・手・足」「上・下」など互いに意味のつながりがある言葉があることを確認しておく。 10. 主語と述語のつながりに気をつけて、絵の中の言葉を使って2文以上が続くように書き、発表し合う。 * 語と語の続き方を考えて、主語と述語が繋がったまとまりのある文となるようにする。 * 文と文の続き方に注意しながら、続きの文を書く。 (例)女の子は、テーブルの上にノートをひろげ、文を書いています。そして、男の子は、手や足をうごかし、体を動かしています。 11. 学習したことを振り返る。 * 漢字の使い方と読み方について正しく理解したり、漢字の使い方や表記などを理解できるようにしたりし、日常の言語生活にも生かしていくよう意識づける。	【知識・技能】 ◎第1学年においては、別表の学年別漢字配当表の第1学年に配当されている漢字を読み、漸次書き、文や文章の中で使っている。第2学年においては、学年別漢字配当表の第2学年までに配当されている漢字を読んでいる。また、第1学年に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、第2学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使っている。(1)(1エ) 【思考・判断・表現】 ◎「書くこと」において、語と語や文と文の続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。(B)(1)(ウ) 【言語活動例】 ・簡単な物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。(B)(2)(ウ) 【態度】 ・積極的に前学年で配当されている漢字を書き、学習の見直しをもって文や文章を書こうとしている。
2学期	12月	12 (書く3)	五 せつめいのくふうをたしかめて読み、せつめい書を書こう ジャンプロケットを作ろう 教科書:P70 □順序を示す書き方を知る。 ★ここが大事:じゅんじよをしめす書き方でせつめいする ★学習用語:説明の工夫/順序/まず/つぎに	読む	1	<見直しをもとう> 1. 単元扉を読み、「せつめいのくふうをたしかめて読む」とは、どんな読み方なのかを考えた後、説明書を書く方法について確認したりして、学習の見直しをもつ。 (1)おもちゃの説明書に書かれている言葉には、どんな言葉があるかを想い起こす。 (2)「せつめいのくふう」は、本文に出てくるジャンプロケットの重要な語や文がどうやってわかりやすい書き方になっているかを読みとこと、と確認をする。	【知識・技能】 ◎共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。(2)(ア) 【思考・判断・表現】 ◎「書くこと」において、自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。(B)(1)(イ) ◎「読むこと」において、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。(C)(1)(オ) ◎「読むこと」において、文章を読んで感じたことや分かったことを共有している。(C)(1)(カ)
					2-3	<たしかめよう> 2. 本文に書かれた内容の大体を確認する。 (1)用意する材料と、道具は何だったのかを読み取り、ペアを作って確認する。 (2)作業手順がどんな順序となるか、段落の切れ目を確かめることで理解する。	【言語活動例】 ・身近なことや経験したことを報告したり、観察したことを記録したりするなど、見聞きしたことを書く活動。(B)(2)(ア) ・事物の仕組みを説明した文章などを読み、分かったことや考えたことを述べる活動。(C)(2)(ア)
					4-7	<くわしくよう> 3. ジャンプロケットが完成するまでの順序や、すること、気をつけることの種類で整理する。 * あらかじめ、写真に番号がついていることを確認するといいたい。 (1)「一 おもちゃの台を作る」を読み、表を使って整理する。 (2)「二 ロケットとはっしや台を作る」を読み、表を使って整理する。 (3)「あそび方」を読み、表を使って整理する。 * P77学習の手引きのワークシートや、思考ツール「ステップチャート」や「KWL」「クラゲチャート」などを使用するとよいだろう。	【態度】 ・進んで説明の工夫を見つつけようとし、学習課題にそって、感じたことやわかったことをノートにまとめている。
					8-9	<まとめよう> 4. 作り方をわかりやすく説明するためにされている工夫をノートにまとめる。 (1)本文の写真的な使い方について考える。 (2)文の書き方について、「わかりやすい」と思った工夫をノート等に記入する。 * 個人での解決が難しい場合は、P78の学習の手引きに書かれた文章を参考にすることを伝える。	
					10-12	<つたえあおう> 5. 前時に書いたノートを友達と読み合い、考えを広げる。 (1)ペアを作り、ノートを互いに読み合う。 * 自分の書いたことと友達に書いたことが同じかどうか、を伝えるように助言するといいたい。 (2)読み合いを通じて考えたことを加筆する。 <ふりかえろう> 6. 「ジャンプロケット」の作り方の説明の書き方を探したノートについて、できばえを振り返る。 (1)「ジャンプロケットを作ろう」の書き方について、どんな工夫を見つけたか、を振り返る。 (2)次の単元で「おもちゃのせつめい書」を書く際に、どんなことを真似してみたいか、記述をする。	

学期	月	時数	単元名／教材名／教科書ページ	領域	時	学習活動／＊留意点	評価規準 学習指導要領との対応
2学期	12月	7 (書く7)	<p>五 つつめいのくふうをたしかめて読み、せつめい書を書こう</p> <p>★ここが大事／★学習用語</p> <p>■おもちゃの作り方や遊び方について、順序にそって構成を考え、内容のまとまりがわかるように書き表し方を工夫して説明書を書く。</p> <p>★ここが大事：せつめい書を書く</p> <p>★学習用語：伝える／メモ／説明書／組み立て／じゅんじょ／作り方／あそび方／一、二、三…</p>	書く	1	<p><見通しをもとう></p> <p>1. おもちゃの説明書を書き、友達に伝える学習活動を見通す。</p> <p>＊P80「学習のすずめ方」参照。</p> <p>＊他教科で作ったおもちゃを取り上げて活用することもできる。</p> <p><きめよう・あつめよう></p> <p>2. おもちゃの作り方や遊び方を思い出し、メモに書く。</p> <p>＊おもちゃを作ったときや遊んだときを思い出せるように写真を掲示したり、一緒に遊んだ友達と対話させたりすることも効果的である。</p>	<p>【知識・技能】</p> <p>◎共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。(2/A)</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>◎「書くこと」において、自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えている。(B1)イ)</p> <p>【言語活動例】</p> <p>・身近なことや経験したことを報告したり、観察したことを記録したりするなど、見聞きたことを書く活動。(B2/A)</p> <p>【態度】</p> <p>・進んで説明する順序に注意し、学習課題にそって、わかりやすく説明する文章を書くこととしている。</p>
					2	<p><組み立てよう></p> <p>3. メモをもとに説明書の組み立てを考える。</p> <p>＊二人組になって意見を交換しながら説明書に書くことを確かめ合い、メモを整理することもできる。</p> <p>＊おもちゃを作ったときに気づけたこと、遊ぶときのポイントなど、作ったからこそわかることを書くようにすると書く必然性が増す。</p> <p>＊メモに書かなかった事柄は、組み立て表に直接書き添えてもよいこととする。</p>	
					3・4	<p><書こう>(重点)</p> <p>4. 説明書を書く。</p> <p>＊説明する順序を考え、項目にそって、誤りのないよう正確に書くことを心がけるようにさせる。</p> <p>＊P83「ここが大事」の順序を示す書き方(番号)を全体で確認し、順序立てて書かせる。</p> <p>＊一緒に作ったり遊んだりすることを想定しながら、読む人を意識して書くようにさせたい。</p>	
					5	<p><読みかえよう></p> <p>5. まちがいがなければ読み返す。</p> <p>＊P116「文章の見直すときに気づけること」の項目を提示したり、友達どうして助言し合ったりすると効果的である。</p>	
					6	<p><つたえ合おう></p> <p>6. 友達と読み合う。</p> <p>＊順序を考えて書けたか、作る際の注意点を思い出して書けたかなどを確認する。</p> <p>＊書いた説明書を使って、おもちゃを作ったり遊んだりする場を設けられると、書いた目的が達成でき、更に意欲につながる。</p>	
					7	<p><ふりかえろう></p> <p>7. おもちゃの作り方や遊び方がよくわかる説明書にするためにどんなところを工夫したか、めあてにそって振り返る。</p>	
					3学期	1月	

学期	月	時数	単元名／教材名／教科書ページ	領域	時	学習活動／*留意点	評価規準 学習指導要領との対応
3学期	1月	11 (話す聞く3)	六 場面や人物の様子をそうぞうして、音読けきをしよう かさこじぞう 教科書:P88 □文章を読んで、場面や登場人物の様子に着目して具体的に想像し、伝え合ったり演じたりする。 ★ここが大事: 場面や人物の様子がつたわるように音読する ☆学習用語: 登場人物／音読／場面／発表／様子	読む	1	<見通しをもとう> 1. 単元の見通しをもつ。 * 単元扉を読み、単元の見通しをもたせる。 * 単元扉の題名、文字、絵を見て、お話を想像させる。 * 音読発表会をめぐらして教材文を読んでいくことを確認させる。 * 新出漢字や難語句などを確認させる。	【知識・技能】 ◎語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。(C1)カ 【思考・判断・表現】 ◎「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。(C1)エ ○「読むこと」において、文章を読んで感じたことや分かったことを共有している。(C1)カ 【言語活動例】 ・読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動。(C2)イ 【態度】 ・すすんで、場面の様子に着目して登場人物の行動を具体的に想像し、学習の見通しをもって音読発表会をしようとしている。
					2	<たしかめよう> 2. お話の内容の大体をつかむ。 (1)登場人物を確かめる。 (2)お話の中のできごとや、はじめと終わりで何が変わったのかを確かめる。 * 物語のあらすじの大体をつかめるようにする。今までの学習を生かし、場面、登場人物、できごとの表を用意しておくもよい。 * 音読劇につなげるため、登場人物とは別に語り手がいることも確認する。	
					3~6	<くわしくよう> 3. 音読劇をするために、劇を通して伝えるべき場面や人物の様子を考える。 (1)6人の地蔵様は、なぜいろいろなものをじいさまとばあさまに届けたのでしょうか。 (2)じいさまとばあさまは、どのような人物だと思いますか。それがわかるところを見つけて紹介しましょう。 * 「たしかめよう」で作成した主なできごとの表でじいさまのしたことを確認したり、その時にじいさまが言っていた言葉を教科書にサイドラインを引いて確認したりすることを通して考えさせる。 * じいさまとばあさまのしたことや言った言葉に着目しながら人柄を考えさせる。	
					7・8	<まとめよう> 4. お話の中で好きな場面を選び、理由とともに紹介する。 * 教科書にある5つの場面の絵を用意しておくもよい。 * 好きな場面を選んだ人どうして集まり、その場面のよさを伝え合い、その場面のよさを改めて考えてよい。 * 好きな場面として選んだ場面が異なる人とグループを組み、思ったことを交流してもよい。 * 『ないた赤おに』の学習を生かし、自分の理由と友達理由を比べることで、自分の考えを振り返り、考えを深めさせたい。	
					9・10	<つたえあおう> 5. グループで役割分担をし、準備をして音読発表会を行う。 (1)場面や人物の様子が伝わるようにどこをどのように工夫するのかを相談しよう。 (2)役の分担を決めて、音読発表会を開きましょう。ほかのグループの発表を聞いて感想を伝えよう。 * 「ここが大事」を読み、音読の工夫についておさえる。 * 登場人物の行動から性格を想像していくことで、声量や間の取り方など、音読の際の根拠となることをおさえるとよい。 例：じいさま……じぞうさまを見つけたときの「おお、お気のどくな。さぞつめたかろうのう。」とあるから、優しい性格が伝わるようにゆっくり読むとよい。 * 実際に声を出しながら、音読の工夫をさせる。役を取り替えたり、あるいは一人のせりふを複数で読むなど、それぞれの学級の実態に合わせて、さまざまな分担の仕方を工夫する。 * どこを工夫していたかを瞬時に聞き取るのが難しければ、発表者が予めどこを工夫して音読するのかを発表させることも考えらえる。 * 読み方の工夫をしていた点に目を向けさせ、お互いのよさを感じられるようにしたい。	
					11	<ふりかえろう> 6. 音読発表会を振り返る。 (1)場面や人物の様子を考える時に、気をつけたことを振り返る。 (2)音読発表会を経て、改めて音読してみたいと思ったものを見つける。 * <つたえあおう>で出てきたお互いの工夫した点は、<くわしくよう>での活動が生きていたからだと気づかせたい。 * 自分で探するのが難しいようであれば、P105にあるような本を読み聞かせするのもよい。	
3学期	1月	3	言葉の文化⑤ かるたであそぼう 教科書:P106 △日本に古くから伝承されている昔遊び(かるた)を知り、実際に遊ぶこととおしてその魅力を知る。	文化	1・2	1. 昔から伝わるかるたについて知るとい見通しをもつ。 * 正月になると目にしたたり、体験したりした昔の遊びを自由に発表させてもよい。 * かるた遊びをなぜするのだろうか、と問うことで課題意識がもてるだろう。 2. グループでかるたを作成し、実際に体験する。	【知識・技能】 ◎長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気付いている。(C3)イ 【態度】 ・すすんで長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気づき、学習の見通しをもってかるたを楽しもうとしている。
					3	3. 地域のかかるたについて由来を調べ、実際に体験をとおして言葉の豊かさに気づく。 * 第1時と同様に、これらの遊びをなぜするのだろうか、と問うことで課題意識をもちながら遊ぶことができるだろう。 4. 学習を振り返る。	

学期	月	時数	単元名／教材名／教科書ページ 学習内容 ★ここが大事／★学習用語	領域	時	学習活動／＊留意点	評価規準 学習指導要領との対応	
3学期	1月	4 (話す聞く4)	じゅんじよに気をつけてせつめいしよう おはじきのあそび方 教科書:P108 ◇昔の遊びについて、遊び方を調べて説明する。 ☆学習用語:順序を表す言葉／メモ／説明／言葉／始め／中／終わり／順序	話聞	1	1. 単元名とリード文を読み、学習の見通しをもつ。 (1)昔の遊びについて、遊び方を調べて、友達に説明するという学習の見通しをもって学習計画を立てる。 ＊生活科の学習と関連させ、昔の遊びを思い出させる。 ＊一つの遊び道具でも多くの遊び方があることに気づかせ、友達がまだ知らない遊び方を知らせたいという意欲をもたせる。 2. 説明する遊びを決め、遊び方を調べる。 (1)新しく知った昔の遊びから説明する遊びを選ぶ。 ＊最初から一つを選ぶのではなく、いくつか出した中から選ばせるとよい。	【知識・技能】 ◎音節と文字との関係、アクセントによる語の意味の違いなどに気づくとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話している。(1)イ 【思考・判断・表現】 ◎「話すこと・聞くこと」において、相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基づいて、話す事柄の順序を考えている。(A1)イ 【言語活動例】 ・紹介や説明、報告など伝えたいことを話したり、それらを聞いて声に出して確かめたり感想を述べたりする活動。(A2)ア)	
					2	(2)遊び方を調べる。 ＊家族や地域の方に遊び方を聞いたり、図書館で調べたりする時間を設ける。		【態度】 ・積極的に相手に伝わるように話す事柄の順序を考え、今までの学習を生かして、昔の遊びの遊び方について説明しようとしている。
					3	3. 説明のメモを書き、練習をする。 (1)説明をするためのメモを書く。 ＊始め、中、終わりでのようなことを話すかを確かめる。 ＊中には、順序を表す言葉を使うことを確かめる。 (2)メモをもとに、遊び方について順序に気をつけて説明する練習をする。 ＊順序を表す言葉を意識して説明する練習をすることを確認する。		
					4	4. 遊び方を説明する。 (1)メモをもとに、遊び方について順序に気をつけて説明する。 ＊順序を表す言葉を意識して説明することを確認する。 5. 学習を振り返る。 (1)学習全体を振り返り、できるようになったことや感想を確かめる。 ＊全体で話したり聞いたりして、学習の自己評価をさせる。 ＊遊び方の説明をするとき、どんなことに気をつけて話したかを振り返らせる。		
3学期	2月	3	言葉の広場⑤ 主語とじゅつ語 教科書:P110 △文を読んで、主語と述語の対応を考え、正しく使うことができる。 ☆学習用語:主語／述語	言語	1	1. 冒頭の会話文をとおして、文作りにおいて主語と述語の対応が重要だということを知る。 ＊主語を明示することで文意が明確になることを意識させる。 2. 省略されている主語を考えることを通して、主語を明示することの重要性に気づく。 ＊冒頭の会話文を読んで、何が来たと言っているのか考えさせ、主語を補った文を発表させる。 ＊主語が明示されることで文意が明確になることに気づかせる。	【知識・技能】 ◎文の中における主語と述語との関係に気づいている。(1)カ) 【態度】 ・積極的に文の中における主語と述語との関係に気づき、学習の見通しをもって文を読んだり書いたりしようとしている。	
					2	3. 教科書を読みながら、①～③の例文の形を確認していく。 ＊①～③の例文の形を確認しながら、「だれが」「何が」を表す言葉が主語、「どうする」「どんなだ」「なんだ」を表す言葉が述語であることを理解させる。 ＊主語は「だれは(も)」などの形になることもあり、また、過去の事柄を表す際は述語が「どうした」などの形になることを理解させる。 ＊文脈による変化にも対応できるように教科書には示されていない例文を示すのもよい。		
					3	4. ①～③の例文と同じ形の文を作る。 ＊①～③の例文と同じ形の文を、まずは口頭で発表させる。 ＊文の作り方がわかってきたところで、それぞれがノートに書くようにさせる。 ＊作成した文を文型ごとに発表させて確認する。 5. 学習したことを振り返る。		

学期	月	時数	単元名／教材名／教科書ページ 学習内容 ★ここが大事／★学習用語	領域	時	学習活動／＊留意点	評価規準 学習指導要領との対応
3学期	2月	2	漢字の広場⑤ 同じ読み方の漢字 教科書:P112 △同じ読み方の漢字を集め、漢字を正しく使う。	漢字	1	<p>1. 学習内容を理解し、学習の見直しをもつ。 ＊同じ読み方の漢字を正しく使うことができるようにするという学習課題を確かめ、日常の言語生活にも生かしていくよう意識づける。</p> <p>2. P112上段の文を声に出して読み、気づいたことを話し合う。 ＊「長時間」の「長」と、「白鳥」の「鳥」は、漢字の意味が異なるがどちらも「チョウ」と読むことを確認する。 ＊読み方は同じでも、意味や使い方が違う漢字同士について関心をもてるようにする。</p> <p>3. P112下段の設問について考える。 ＊同じ「コウ」という読み方でも、「学校」「公園」「交番」「工場」のように意味や使い方によって、それぞれ適切な漢字を使うということを確認できるとよい。</p> <p>4. 「かい」「せい」など同じ読み方をする漢字を集めて文を作り、友達と読み合い、それぞれの漢字の意味や使い方の違いについて話し合う。 ＊同じ読み方をする漢字の仲間集めとして、ゲーム感覚で取り組み、同音の漢字に関心が向けられるようにする。 ＊ただ単に同音の漢字を並べるのではなく、語句や文などの用例をもとに、それぞれの意味の違いを考えられるようにすることが重要である。</p>	<p>【知識・技能】 ◎第1学年においては、別表の学年別漢字配当表の第1学年に配当されている漢字を読み、漸次書き、文や文章の中で使っている。第2学年においては、学年別漢字配当表の第2学年までに配当されている漢字を読んでいる。また、第1学年に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、第2学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使っている。(1)エ</p> <p>【態度】 ＊積極的に当該学年までに配当されている漢字を読み、学習の見直しをもって、同じ読み方の漢字を正しく使おうとしている。</p>
			<p>2</p> <p>5. P113の「か」「とう」「し」と読む漢字を集めて語句を作り、発表し合う。 ＊「か」「とう」「し」と読む漢字をそれぞれ集めるようにする。 -「か」下、火、花、科、夏、家、歌 -「とう」冬、当、東、答、頭 -「し」子、四、糸、止、市、思、紙 ＊あてはめてきた言葉について、意味を確認し、それをもとに短文を作り、発表し合い、聞き合い、その言葉の使い方が正しいかどうか確認できるとよい。</p> <p>6. 同じ読み方をする漢字を集めて問題を作り、解答し合う。 ＊巻末『漢字を学ぼう』を参考に、同音の漢字を集めて同様の問題を作るようにし、交流する。</p> <p>7. 学習したことを振り返る。 ＊同じ読み方の漢字を正しく使うことができるように、日常の言語生活でも注意していくよう意識づける。</p>				

学期	月	時数	単元名／教材名／教科書ページ 学習内容 ★ここが大事／★学習用語	領域	時	学習活動／＊留意点	評価規準 学習指導要領との対応
3学期	2月	13 (書く13)	七 思い出をくわしく書いて、読みかえそう こんなことができるようになったよ 教科書:P114 ■経験したことやできるようになったことなどについて、必要な事柄を集めたり確かめたりして文章を書き、まちがいがいいか読み返す。 ★ここが大事:けいけんしたことをくわしく書く／文章を読みよみかえす ★学習用語:思い出す／メモ／順序／日記／組み立て／組み立て表／はじめ／中／おわり／読み返す／見直す／たしかめる／小さく書く／点／丸／かぎ／会話／原稿用紙	書く	1	<見通しをもとう> 1. 2年生のできごとを思い出して、できるようになったことなどを書いて友達に伝える学習活動を見通す。 ＊P114f学習のすすめ方や教科書を読んで、学習の見通しをもつ。	【知識・技能】 ◎長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ(「」)の使い方を理解して文や文章の中で使っている。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使っている。(1)ウ 【思考・判断・表現】 ◎「書くこと」において、経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にしている。(B1)ア ◎「書くこと」において、文章を読み返す習慣を付けるとともに、間違いを正したり、語と語や文と文との続き方を確かめたりしている。(B1)エ 【言語活動例】 ・身近なことや経験したことを報告したり、観察したことを記録したりするなど、見聞きたことを書く活動。(B2)ア 【態度】 ・粘り強く文章を読み返して、今までの学習を生かして、まちがいを直そうとして確かめたりしている。
					2～4	<きめよう・あつめよう>(重点) 2. できごとを思い出して、書くことを決める。 ＊2年生のできごとの中から心に強く残っていることを発表し合い、文章に書く題材について考える。 ＊上巻P10・11「つづけて みよう 一日記」に関連したものを、各自が書いてきた日記があれば、そこから話題を探すこともできる。	
					5・6	<組み立てよう> 4. 文章の組み立てを考える。 ＊組み立て表を活用して、書くことを選び、順序を考える。 ＊順序を決めたら、メモに番号を振らせたり、組み立て表に貼らせたりして固定する。書き加えたいことが出てきたときは適宜メモを加えたり、矢印で示したりする。	
					7～9	<書こう> 5. 組み立て表の順序にそって、文章を書く。 ＊P119の原稿用紙の使い方を参照にさせたり、すぐに見られるように手引きとして別紙で用意したりするとよい。	
					10・11	<読みかえそう>(重点) 6. 間違いがないか、思い出として必要なことが書かれているか、読み返す。 ＊P116例文を全員で読み、「文章を見直すときに気をつけること」をヒントにして直したほうがよいところを見つけさせる。文章を直すことはよくなることであると確認し、積極的に認める。 ＊訂正するときの記号なども伝えてよい。 ＊表現のよい点についても気づかせる。会話が入っていることや感じたことや考えたことなどが詳しく書かれていることなどもおさえる。 ＊実態に合わせて、必要に応じて消書をする。	
					12	<つたえ合おう> 7. できあがった文章を読み合い、感想を伝え合う。 ＊作品のよさに着目して感想を伝え合うようにさせる。 ＊友達だけでなく、保護者に協力を求めて感想をもらってもよい。 ＊付箋紙に感想を書き、作品に貼るなどすると達成感を味わえたり、学習意欲が喚起されたりすることが期待できる。	
					13	<ふりかえろう> 8. できごとを詳しく書くためにどんな工夫をしたか、文章を読み返すときにどんなことに気がつけたか、めあてにそって振り返る。	

学期	月	時数	単元名／教材名／教科書ページ 学習内容 ★ここが大事／☆学習用語	領域	時	学習活動／*留意点	評価規準 学習指導要領との対応
3学期	2月	3	言葉の広場⑥ 音や様子をあらわす言葉 教科書:P120 △擬声語や擬態語のはたらきなどを理解し、文の中で使う。	言語	1	1. 言葉には、音や様子を表すことができるものがあることを理解し、学習活動に対する見直しをもつ。 *教材冒頭の会話文を読み、音や様子を表す言葉を用いて文を書いてみたいという意欲をもたせる。 2. 「音をあらわす言葉」のはたらきや表記の仕方について理解する。 *P120下段を読み、まずは「音をあらわす言葉」にはどのようなものがあるか具体的にあげさせ、板書等を活用して整理していく。 3. 「様子をあらわす言葉」のはたらきや表記の仕方について理解する。 *P121上段を読み、次に「様子をあらわす言葉」にはどのようなものがあるか具体的にあげさせ、板書等を活用して整理していく。 *一般的に、擬声(音)語は片仮名で、擬態語は平仮名で表記されることを確認し、おさえておく。	【知識・技能】 ◎身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気づき、語彙を豊かにしている。(11才) 【態度】 ・積極的に、音や様子を表すことができる言葉があることに気づき、学習の見直しをもって文の中で使おうとしている。
			2	4. 濁音の有無によって、「音や様子をあらわす言葉」から受ける感じが異なることを理解する。 *P121上段の一つめの設問をクラス全体で考え、清音と濁音の違いによって受ける印象に違うものがあることに気づかせる。 *教科書にあげられた例以外に、どのようなものがあるか各自で考え、全体で共有を図る。 5. 単純形と反復形によって、「音や様子をあらわす言葉」から受ける感じが異なることを理解する。 *P121上段の二つめの設問をクラス全体で考え、単純形と反復形の違いによって受ける印象の違うものがあることに気づかせる。 *教科書にあげられた例以外に、どのようなものがあるか各自で考え、全体で共有を図る。			
			3	6. 音や様子を表す言葉の種類を広げられるよう、P121下段の設問3を考える。 *前時までに学習したことを生かして考える。 7. 学習したことを振り返る。 *P121下段を読み、「音や様子をあらわす言葉」は、表現をより具体的にわかりやすいものにしてくれるものだとすることを理解させる。			
3学期	2月	2	漢字の広場⑥ 組み合わせてできている漢字 教科書:P122 △同じ部分をもつ漢字を集め、漢字を正しく使う。	漢字	1	1. 学習内容を理解し、学習の見直しをもつ。 *組み合わせてできている漢字について知るとい学習課題を確かめ、日常の言語生活にも生かしていくよう意識づける。 2. 「明」という漢字の分け方を考える。 *漢字には、幾つかの意味ある部分や既習漢字に分けることができるものがあることが気づくことができるようにする。 *二つに分けられない漢字には、どんなものがあるかも考えるようにする。 (例)山、木、日、月、人、田、車、上、下など。 3. 漢字の中には、左右・上下・内外などに分けられるものがあることを確かめ、漢字の組み立て方には一定のきまりがあることを理解する。 *P122では、組み合わせがわかりやすいように、いずれも既習の単体の漢字どうしの組み合わせでできている漢字を示している。 *漢字の組み立て方と筆順の関係にも目を向けるようにする。 ・左から右へ:「切」など。 ・上から下へ:「答」など。 4. 「心・田」などの漢字を組み合わせてできる漢字を考え、話し合う。 *「心」「田」をカードに書き、左右、上下、内外などに組み合わせ、考えるようにするとよい。同様に「生」「日」「売」「言」「会」「糸」などもカードにしてやってみる。 5. 「心・田」などと同じような問題を作り、解答し合う。 *漢字の組み合わせの基本的なパターンを把握できるようにし、今後学習する際の視点を示し、漢字学習への興味・関心を高めるようにする。	【知識・技能】 ◎第1学年においては、別表の学年別漢字配当表の第1学年に配当されている漢字を読み、漸次書き、文や文章の中で使っている。第2学年においては、学年別漢字配当表の第2学年までに配当されている漢字を読んでいる。また、第1学年に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、第2学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使っている。(11才) 【態度】 ・積極的に当該学年までに配当されている漢字を読み、学習の見直しをもって、同じ部分をもつ漢字を正しく使おうとしている。
			2	6. 熟語を手がかりに、「言」の部分をもつ漢字を探し、発表する。 *漢字はいろいろな形が複合して構成されているものが多くあり、部分を部分として認識することが、学習の効率化を図り、意欲を増すことにつながる。 *「会話・会計」と二通りの解答が想定される。また、解答は既習漢字を対象とすることが望ましい。しかし、ときに「試算・誤算」「国論・国訓・国設」などのような解答がみられる場合がある。その際は、多くの児童にとって意味がわかるものだけに限定したい。 7. 「日」を部分にもつ漢字について確かめる。 *「夜明け」「時間」など例示の語を声に出して読む。 *それぞれの言葉に使われている漢字のどこに「日」があるかを発表しあう。 8. 「土」「田」など、同じ部分(構成要素)をもつ漢字を集めて問題を作り、発表する。 *同じ部分をもつ漢字とそれを使った言葉を集めて交流することとおして、語彙の拡充につながるよう留意する。 *P159「漢字を学ぼう」を参考に集めるとよいことを伝える。			

学期	月	時数	単元名／教科名／教科書ページ 学習内容 ★ここが大事／☆学習用語	領域	時	学習活動／＊留意点	評価規準 学習指導要領との対応
3学期	2月	2 (書く2)	一年生で学んだ漢字④ 教科書:P124 △絵を見て想像したことをもとに、1年生で学んだ漢字などを使って文を書く。	漢字	3・4	9. 絵の中の言葉の読み方を確認する。 ＊絵に描かれたこと、言葉からわかる様子をたくさん発表できるようにする。 10. 教科書の絵と言葉を参考に、絵に描かれている様子から想像できる短文を作り、語と語の続き方に注意して文を書く。 ＊絵の中には、「森・林」「草・花」など互いに意味のつながりがある言葉があることを確認しておく。 ＊語と語との続き方を考えて、まとまりのある一文となるようにする。 11. 男の子と女の子の目に映ったものを、主語と述語のつながりに気をつけて、2文以上が続くように書き、発表し合う。 ＊文と文の続き方に注意しながら、続きの文を書く。 (例)赤いやねの家が町にあります。その家の前に青い色の車がとまっています。 12. 学習したことを振り返る。 ＊組み合わせてできている漢字について正しく理解したり、漢字の使い方や表記などを理解できるようにしたりし、日常の言語生活にも生かしていくよう意識づける。	【知識・技能】 ◎第1学年においては、別表の学年別漢字配当表の第1学年に配当されている漢字を読み、漸次書き、文や文章の中で使っている。第2学年においては、学年別漢字配当表の第2学年までに配当されている漢字を読んでいる。また、第1学年に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、第2学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使っている。(1)(エ) 【思考・判断・表現】 ◎「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。(B)(1)(ウ) 【言語活動例】 ・簡単な物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。(B)(2)(ウ) 【態度】 ・積極的に前学年で配当されている漢字を書き、学習の見直しをもって文を書くこととしている。
3学期	3月	16 (書く4)	八 何が、どのようにかわったかに気をつけて読み、お話をしようかいししよう アレクサンダとぜんまいねずみ 教科書:P126 □何が、どのようにかわったかに気をつけて読み、あらすじをまとめてお話を紹介する。 ★ここが大事：あらすじをまとめる ☆学習用語：登場人物、できごと、変化、あらすじ	読む	1	<見通しをもとう> 1. 単元の見直しをもつ。 ＊単元扉を読み、単元の見直しをもたせる。 ＊単元扉の題名、文字、絵を見て、お話を想像させる。 ＊単元末には、あらすじをまとめて友達に紹介するために、物語を詳しく読むことを確認させる。 ＊難語句や特別な表現についての解説や「言葉」の設問は、学習活動の中で適宜取り扱う。 ＊新出漢字の確認をする。	【知識・技能】 ◎言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付いている。(1)(ア) 【思考・判断・表現】 ◎「読むこと」において、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。(C)(1)(オ) ◎「読むこと」において、文章を読んで感じたことや分かったことを共有している。(C)(1)(カ) 【言語活動例】 ・読み聞かせを聞いたり物語などを读んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動。(C)(2)(イ)
					2・3	<たしかめよう> 2. 登場人物とできごとの順序を確認する。 (1)登場人物や主なできごとを確かめる。 (2)アレクサンダは2つの挿絵の場面で、それぞれどんな願いごとをしようとしていたかを考える。 ＊場面ごとの登場人物の行動や、話した言葉を確認する。今までの学習のように表にまとめるのもよい。 ＊登場人物の中で、はじめとおわりで変わった人物はいるか、変わった人物はどのように変わったのか、なぜ変わったのかを確認する。	【態度】 ・すすんで自分の体験と結びつけながらお話を読み、登場人物の行動や場面の様子に着目し、今までの学習を生かしてあらすじをまとめようとしている。
					4～11	<くわしくよう> 3. アレクサンダが願いを変えた場面について詳しく読む。 (1)アレクサンダは、いつ自分の考えを変えたのか、話し合う。 (2)アレクサンダは、なぜ考えを変えたのか、話し合う。 ＊挿絵にふきだしを書いて、場面ごとの登場人物の気持ちも考えさせたい。 ＊挿絵を用意して「はくは……」のあと、なぜ言いかけてやめたのかを考えさせたい。 ＊願いを変えた場面以外にも、アレクサンダの気持ちの変化につながる表現があることにも着目させたい。	
					12・13	<まとめよう> 4. アレクサンダが願いを変えたことについて自分の考えを書く。 ＊<くわしくよう>で挿絵にふきだしを書いたものを見返したり、<たしかめよう>で確認したアレクサンダが、これまでウイリーとしてきた会話やできごとを振り返ることで自分の考えに理由をもたせたい。	
					14～16	<つたえあおう> 5. あらすじと心に残った場面をまとめて、友達に紹介する。 ＊<たしかめよう>でまとめた、主なできごとを参考にしながら、あらすじが紹介できるとよい。 ＊P141<つたえあおう>の例文を紹介しながら、どのような構成で書くかをおさえる。 ＊ふくろうのふきだしを参考にさせる。「はじめ・中・おわり」については、P128、P136、P139の挿絵を用意しておくことよい。 ＊同じお話からも、感じ取り方はいろいろあることに気づかせたい。 <ふりかえろう> 6. この単元で学んだことを振り返る。 (1)あらすじをまとめるときに気をつけることを振り返る。 ＊「はじめ・なか・おわり」を読み取り、お話に起きたできごと、はじめとおわりで何が変わったのかを伝えることが大切だと確認する。 (2)あらすじをまとめて改めて紹介してみたいお話がないか振り返る。 ＊P143になるような本を紹介し、読み聞かせを行いながらあらすじを考えさせてもよい。	

学期	月	時数	単元名／教材名／教科書ページ 学習内容 ★ここが大事／☆学習用語	領域	時	学習活動／＊留意点	評価規準 学習指導要領との対応
3学期	3月	2 (話す聞く1・ 書く1)	国語の学習 これまで これから 教科書:P144 ■一年間の国語学習を振り返ったり、これからの学習について考えたりして、楽しみながら学習できるようにする。	書く	1	1. 一年間の国語の学習で学んできたことや言葉を思い出して書いたり、出し合ったりする。 ＊上・下巻の教科書、学習のノート、作成物、プリント類(ポートフォリオ)などを合わせて振り返ることができるようにする。挿絵やふきだしを参考にす。単元名や教材名だけでなく、印象的な言葉や活動など思い出す内容は多様でよい。 ＊学んできたことを書き出したりして、グループや学級全体で発表し合う。	【思考・判断・表現】 ○「話すこと・聞くこと」において、話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもっている。(A(1)エ) ◎「書くこと」において、経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア) 【態度】 ・すすんで経験したことから書くことを見つけ、今までの学習を生かして思い出したことや三年生でどんな学習をしたいかを共有しようとしている。
					2	2. 1で出し合ったことをもとにして、3年生の国語で学びたいことを出し合う。 ＊3年生になって「できるようになりたいこと」「やってみたいこと」「読んだり書いたりしてみたいこと」など、1で出たことに対応させていろいろな観点で自由に発表し合う。	

令和6年度 3年 国語 評価規準 上巻

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	主な学習活動	評価規準
4月	よく聞いて、じこしようかい 1時間(話・聞①) ○相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話すことができる。(知・技(1)イ) ○話し手が伝えたいことの内容を捉えることができる。(思・判・表A(1)エ) ■自己紹介をする。 ☆楽しい学級づくり(特別活動)	1	1 扉の詩を読み、目次やP5「国語の学びを見わたそう」を見て、国語学習の見通しをもつとともに、学習の進め方を確かめる。 2 P13を読み、3年生の国語学習での目標や楽しみなどを書く。 3 P14-15を読んで活動の流れを確かめ、自分の「好きなもの」を一つ考えて、前の人の話を繰り返ししながら、順番に紹介し合う。 4 友達の好きなものを聞いた感想を伝え合う。	【知・技】相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話している。(1(1)イ) 【思・判・表】「話すこと・聞くこと」において、話し手が伝えたいことの内容を捉えている。(A(1)エ) 【態】積極的に相手を見て話したり聞いたりし、学習課題に沿って自己紹介をしようとしている。
4月	どきん 1時間(読①) ◎文章全体の構成や内容の大体を意識しながら音読することができる。(知・技(1)ク) ○文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気づくことができる。(思・判・表C(1)カ) ■詩を楽しんで音読する。	1	1 「どきん」を読み、詩の特徴を確認する。 2 言葉の調子を楽しみながら、音読の練習をする。 ・行末の擬声語や擬態語に注意する。 ・強弱をつけたり、身振りを交えたりして読む。 3 音読を聞き合い、読み方を工夫したところを伝え合う。 4 学習を振り返る。 ・音読をして感じた楽しさをノートに書く。 ・「この本、読もう」で、詩集を読み広げることに関心をもつ。	【知・技】文章全体の構成や内容の大体を意識しながら音読している。(1(1)ク) 【思・判・表】「読むこと」において、文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気づいている。(C(1)カ) 【態】積極的に文章全体の構成や内容の大体を意識し、学習課題に沿って楽しんで詩を音読しようとしている。
4月	わたしのさいこうの一日 つづけてみよう 1時間(書①) ○相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、伝えたいことを明確にすることができる。(思・判・表B(1)ア) ○自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫することができる。(思・判・表B(1)ウ) ・様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、文章の中で使うことができる。(知・技(1)オ) ■日記を書く。	1	1 「さいこうの一日」の日記を書くことを確認し、したいことや起こってほしいことを書き出す。 2 「さいこうの一日」の日記を書く。 3 書いた日記を読み合い、感想を伝え合う。 4 P20「つづけてみよう」を読み、年間を通した継続的な活動に取り組む意欲をもち、ノートの書き方について学ぶ。	【知・技】様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、文章の中で使っている。(1(1)オ) 【思・判・表】 ・「書くこと」において、相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア) ・「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。(B(1)ウ) 【態】経験したことや想像したことなどから書くことを進んで選び、学習課題に沿って日記を書こうとしている。
4月	登場人物の気持ちをたしかめ、そうぞうしたことをつたえ合おう 春風をたどって 8時間(読⑧) ◎様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)オ) ◎登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えることができる。(思・判・表C(1)イ) ○文章全体の構成や内容の大体を意識しながら音読することができる。(知・技(1)ク) ■読んで想像したことを伝え合う。 ☆自然のすばらしさや不思議さを感じ取り、自然や動植物を大切にすることを育てる題材(道徳)	1 2~6 7~8	1 学習の見通しをもつ。 ・P21を見て、どのような物語なのかを想像する。 ・教材文を読み、「といをもとう」「もくひょう」を基に学習課題を設定し、学習計画を立てる。 2 四つの場面での「ルウ」の行動を確かめながら音読する。 3 「ルウ」の気持ちが分かる言葉を見つけ、ノートに書く。 ・P32「言葉に着目しよう」を参考にして、「ルウ」の気持ちが分かる言葉をまとめる。 4 「ルウ」の気持ちの変化を具体的に想像し、ノートにまとめる。 5 物語の続きを想像し、ノートに書く。 6 友達の書いたものを読み、感想を伝え合う。 7 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。 ・「この本、読もう」で読書への意欲をもつ。	【知・技】 ・様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、語彙を豊かにしている。(1(1)オ) ・文章全体の構成や内容の大体を意識しながら音読している。(1(1)ク) 【思・判・表】「読むこと」において、登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えている。(C(1)イ) 【態】進んで、登場人物の行動や気持ちなどについて叙述を基に捉え、学習課題に沿って想像したことを伝え合おうとしている。
4月	図書館たんいでいだん 1時間(知・技①) ◎読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気づくことができる。(知・技(3)オ) ■図書館の地図を作り、本を探す。 ☆図書館の配架を知る活動(図書館活用)	1	1 P35の写真を参考にして、学校図書館の工夫を考える。 2 P36を読み、図書館では内容ごとに本が分類され並べられていることを知る。 3 学校図書館に行き、本の分類を理解する。 ・グループで学校図書館の地図を作り、棚ごとどのような種類の本があるのかを調べる。 ・読みたい本や必要な本を、紹介コーナーや棚の番号などで探す。 ・読書記録のつけ方を知る。	【知・技】読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気づいている。(3(3)オ) 【態】読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことを積極的に知り、学習課題に沿って学校図書館の工夫について調べようとしている。
4月	国語辞典を使おう 2時間(知・技②) ◎辞書の使い方を理解し使うことができる。(知・技(2)イ) ☆考えをまとめる活動などの漢字の確かめ(総合的な学習の時間など)	1~2	1 国語辞典を使うときについて考える。 ・「問いをもとう」を基に、どのようなときに国語辞典を使うのかを考える。 2 国語辞典の見方を理解する。 ・国語辞典を開いたり、P38の二次元コードを参考にしたりして、「国語辞典のれい」の内容を確かめる。 3 見出し語の見つけ方を理解する。 ・国語辞典では、どのような決まりで言葉が示されているかを知る。	【知・技】辞書の使い方を理解し使っている。(2(2)イ) 【態】進んで辞書の使い方を理解し、学習課題に沿って国語辞典を使おうとしている。

令和6年度 3年 国語 評価規準 上巻

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	主な学習活動	評価規準
			4 言葉の意味を調べる。 ・P40の設問に取り組み、示されているいろいろな語を辞書で引く。 ・調べて分かった意味をノートにまとめる。 ・「いかそう」を読み、学んだことをいかしたい場面を考える。	
4月	漢字の広場① 2時間(書②) ◎第2学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。 (知・技(1)エ) ・間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整えることができる。(思・判・表B(1)エ) ■絵を見て想像したことを基に文を書く。	1~2	1 提示されている漢字の読み方、書き方を確認する。 2 P41を見て、動物や人の様子や、行動について説明する。 3 提示されている漢字を使って、動物園の様子を文に書く。 4 書いた文を友達と読み合う。	【知・技】第2学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。(1)エ 【思・判・表】「書くこと」において、間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整えている。(B(1)エ) 【態】積極的に第2学年までに配当されている漢字を書き、これまでの学習をいかして漢字を適切に使った文を作ろうとしている。
4月	春のくらし 2時間(書②) ◎語句の量を増し、話や文章の中で使い、語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)オ) ○経験したことや想像したことなどから書くことを選び、伝えたいことを明確にすることができる。(思・判・表B(1)ア) ■春を感じたことについて、文章に書く。 ☆我が国の伝統と文化に対する理解と愛情を養う題材(道徳) ☆春を感じたものの撮影(ICT活用)	1 2	1 「みどり」を読み、生活の中で春らしさを感じることを挙げる。 ・教科書の言葉や絵から知っていることを発表したり、連想する言葉を出し合ったりする。 2 身の回りで見つけた春を感じたものについて書く。 3 書いた文章を友達と読み合い、感想を交流する。	【知・技】語句の量を増し、話や文章の中で使い、語彙を豊かにしている。(1)オ 【思・判・表】「書くこと」において、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア) 【態】積極的に語句の量を増し、話や文章の中で使い、学習課題に沿ってその季節らしさを表現した文章を書こうとしている。
5月	知りたいことを考えながら聞き、しつもんしよう もっと知りたい、友だちのこと 【コラム】きちんとつたえるために 6時間(話・聞⑥) ◎相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話すことができる。(知・技(1)イ) ◎必要なことを質問しながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの内容を捉え、自分の考えをもつことができる。(思・判・表A(1)エ) ○目的を意識して、日常生活の中から話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶことができる。(思・判・表A(1)ア) ■知らせたいことを話したり、知りたいことを質問したりする。 ☆友達の新たな一面やよさを知る活動(特別活動、道徳)	1 2 3 4~6	1 学習の見通しをもつ。 ・友だちのことを知るために、グループになって話を聞き合う方法を知る。 ・「問いをもとう」「もくひょう」を基に、学習課題を設定し、学習計画を立てる。 2 友達に知らせたいことを決めて、ノートに書く。 ・友達に知らせたいことを箇条書きでノートに書き、その中から一つに決める。 3 話の聞き方や質問のしかたについて確かめる。 ・P45「しつもんもしゅるい」を参考にして、質問の種類や話の聞き方を整理する。 4 友達の話を聞いて、質問する。 ・P46の二次元コードから、聞き方や質問のしかたのよいところを考える。 ・聞き手は、話の中心に気をつけて聞き、自分が特に知りたいことをはっきりさせ、質問を考える。 ・大事なことを落とさないように質問したり、答えたりする。その際、P48「きちんとつたえるために」を参考にしてもよい。 5 どのような質問で話が広がったり、友達のことがよく分かったりしたかを伝え合う。 6 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で、単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。その際、P148「インタビュー」を参考にしてもよい。	【知・技】相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話している。(1)イ 【思・判・表】 ・「話すこと・聞くこと」において、目的を意識して、日常生活の中から話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選んでいる。(A(1)ア) ・「話すこと・聞くこと」において、必要なことを質問しながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの内容を捉え、自分の考えをもっている。(A(1)エ) 【態】粘り強く話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの内容を捉え、学習の見通しをもって話したり、質問したりしようとしている。
5月	漢字の音と訓 2時間(知・技②) ◎第3学年までに配当されている漢字を読むことができる。(知・技(1)エ)	1~2	1 漢字の「音」と「訓」の特徴を理解する。 ・P150「これまでに習った漢字」を使うなどして、既習の漢字の音と訓を確かめる。 2 音と訓の使い分けを練習する。 ・P51の設問に取り組む。	【知・技】第3学年までに配当されている漢字を読んでいる。(1)エ 【態】進んで第3学年までに配当されている漢字を読み、学習課題に沿ってよりよく漢字を学ぼうとしている。
5月	漢字の広場② 2時間(書②) ◎第2学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。 (知・技(1)エ) ○接続する語句の役割について理解することができる。(知・技(1)カ) ・間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整えることができる。(思・判・表B(1)エ) ■絵を見て想像したことを基に文を書く。	1~2	1 提示されている漢字の読み方、書き方を確認する。 2 P52を見て、宝物を探しに出かけた男の子の話を簡単に考える。 3 「そこで」「けれども」など接続詞の使い方を確認する。 4 提示されている漢字を使って、文を書く。 5 書いた文を友達と読み合う。	【知・技】 ・第2学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。(1)エ) ・接続する語句の役割について理解している。(1)カ) 【思・判・表】「書くこと」において、間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整えている。(B(1)エ) 【態】積極的に第2学年までに配当されている漢字を書き、これまでの学習をいかして漢字を適切に使った文を作ろうとしている。
5月	まとまりをとらえて読み、かんそうを話そう			

令和6年度 3年 国語 評価規準 上巻

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	主な学習活動	評価規準
	<p>単元的に想像することからできる。(知・技(1)エ)</p> <p>○様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)オ)</p> <p>■物語を読んで、好きな場面について話し合う。</p>	2~4	<p>2 「まいごのかぎ」を場面に分ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・場所や出来事に気をつけて読み、場面分けする。 ・各場面での出来事や、そのときの「りいこ」の気持ちをノートにまとめる。 <p>3 物語の最初と最後で「りいこ」にどのような変化があったのかを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「りいこ」の言動を表す言葉に着目して、不思議な出来事に対する「りいこ」の考え方や気持ちをまとめる。 <p>5 4 好きな場面とその理由をノートに書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「りいこ」の変化との関わりを考えながら、ノートにまとめる。 <p>6 5 好きな場面を友達と伝え合い、自分の考えとの共通点や相違点を話し合う。</p> <p>6 学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。 ・「この本、読もう」で読書への意欲をもつ。 	<p>物や人物の気持ちの変化や性格、情景によって、場面の移り変わり結び付けて具体的に想像している。(C(1)エ)</p> <p>【態】登場人物の気持ちの変化について、進んで場面の移り変わり結び付けて具体的に想像し、学習課題に沿って物語の好きな場面について話し合おうとしている。</p>
6月	<p>俳句を楽しもう</p> <p>1時間(知・技①)</p> <p>◎易しい文語調の俳句を音読したり暗唱したりするなどして、言葉の響きやリズムに親しむことができる。(知・技(3)ア)</p> <p>■俳句を音読する。</p> <p>☆我が国の伝統と文化に対する理解と愛情を養う題材(道徳)</p> <p>☆五音と七音を組み合わせさせた詩などを探す活動(図書館活用)</p>	1	<p>1 俳句の決まりを知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・俳句は、「5・7・5」の17音で作られていることや季語があることを確認する。 <p>2 俳句を声に出して読む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どこで区切るかを考えたり、音のリズムを確かめたりして、言葉の響きや調子を楽しむ。 ・P92の二次元コードから音声を開くのもよい。 <p>3 気に入った俳句を音読したり暗唱したりする。</p> <p>4 P93を読み、身の回りの五音と七音を組み合わせさせた詩や歌を探す。</p> <p>5 探した詩や歌を友達と見せ合う。</p>	<p>【知・技】易しい文語調の俳句を音読したり暗唱したりするなどして、言葉の響きやリズムに親しんでいる。(3)ア)</p> <p>【態】進んで言葉の響きやリズムに親しみ、学習課題に沿って俳句を音読しようとしている。</p>
6月	<p>こそあど言葉を使いこなそう</p> <p>2時間(知・技②)</p> <p>◎指示する語句の役割について理解することができる。(知・技(1)カ)</p>	1~2	<p>1 「こそあど言葉」を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「問いをもとう」を基に、生活の中でうまく伝わらなかったことを想起する。 ・「こそあど言葉」には、相手との距離や目的などによって、使い分けがあることを理解する。 ・P95の設問1に取り組み。 <p>2 「こそあど言葉」を使うことで、文をより簡潔に表現できるようになることを理解する。</p> <p>3 P95の設問2・3に取り組み、「こそあど言葉」が指す語句を考えたり、短い文章を作ったりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「いかそう」を読み、学んだことをいかしたい場面を考える。 	<p>【知・技】指示する語句の役割について理解している。(1)カ)</p> <p>【態】積極的に指示する語句の役割について理解し、学習課題に沿って使おうとしている。</p>
6月	<p>【じょうほう】引用するとき</p> <p>3時間(知・技①、書②)</p> <p>◎引用のしかたや出典の示し方を理解し使うことができる。(知・技(2)イ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫することができる。(思・判・表B(1)ウ) <p>■本などから調べたことを書き留め、引用して文章を書く。</p> <p>☆調べたことを文章にまとめる活動(社会など)</p>	1~3	<p>1 「引用」を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・P96を参考に、本などから調べたことを報告する際は、自分の考えと区別しなくてはならないことを理解する。その際、P160「学習に用いる言葉」を確かめる。 <p>2 「引用」の決まりを理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文章の中で引用する際の決まりを確かめる。 ・出典の示し方を理解し、それが奥付にまとめられていることを知る。 <p>3 P56「こまを楽しむ」から引用して、興味をもったこまとその遊び方を紹介する文章を書き、友達と読み合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「いかそう」を読み、学んだことをいかしたい場面を考える。 	<p>【知・技】引用のしかたや出典の示し方を理解し使っている。(2)イ)</p> <p>【思・判・表】書くことにおいて、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。(B(1)ウ)</p> <p>【態】積極的に引用のしかたや出典の示し方を理解し使い、学習課題に沿って本などから調べたことを引用して文章を書くようとしている。</p>
7月	<p>つたえたいことをはっきりさせて、ほうこくする文章を書く</p> <p>仕事のくふう、見つけたよ</p> <p>【コラム】符号など</p> <p>10時間(書⑩)</p> <p>◎相手や目的を意識して書くことを選び、伝えたいことを明確にすることができる。(思・判・表B(1)ア)</p> <p>○改行のしかたを理解して文や文章の中で使うとともに、句読点を適切に打つことができる。(知・技(1)ウ)</p> <p>○段落の役割について理解することができる。(知・技(1)カ)</p> <p>○自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫することができる。(思・判・表B(1)ウ)</p> <p>■調べたことを報告する文章を書く。</p> <p>☆調べたいことを決めて、調査を行い、報告する文章にまとめる活動(社会、総合的な学習の時間)</p> <p>☆調べる仕事についての本を探す活動(図書館活用)</p>	1~2	<p>1 学習の見直しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大人になったらしたい仕事を話し合い、そこにはどのような工夫があるかを想像する。 ・「問いをもとう」「もくひょう」を基に、学習課題を設定し、学習計画を立てる。 <p>2 身の回りにある仕事の中から、調べてみたい仕事を選ぶ。</p> <p>3 仕事について調べ、伝えることを選ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・興味のある仕事について、本を読んだり、見学をしたり、インタビューをしたりして調べる。 ・調べて分かったことはメモをする。 ・P99「つたえることをえらぶときは」やP100「土川さんのメモ」を参考にするなどして、特に伝えたいことは何かを考え、読み手のことを意識して伝えることを選ぶ。 <p>4 報告文の組み立てを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・P100を参考に、伝えたいことを内容のまとまりに分けて整理する。 	<p>【知・技】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・改行のしかたを理解して文や文章の中で使うとともに、句読点を適切に打っている。(1)ウ) ・段落の役割について理解している。(1)カ) <p>【思・判・表】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「書くこと」において、相手や目的を意識して書くことを選び、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア) ・「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。(B(1)ウ) <p>【態】進んで相手や目的を意識して書くことを選び、伝えたいことを明確にし、学習の見直しをもって調べたことを報告する文章を書くようとしている。</p>

令和6年度 3年 国語 評価規準 上巻

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	主な学習活動	評価規準
	☆見つけた工夫の撮影（ICT活用）	7～9 10	5 報告文を書く。 ・P101の文章や二次元コードを参考にし、気をつけることを確認してから書き始める。 ・句読点などの使い方などにも注意して書く。その際、P103「符号など」を参考にするとよい。 6 報告文を友達と読み合い、感想を伝え合う。 ・報告文の書き方や印象に残ったことなどについて伝え合う。 7 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。	
7月	夏のくらし 2時間（書②） ◎語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語彙を豊かにすることができる。（知・技(1)オ） ○経験したことや想像したことなどから書くことを選び、伝えたいことを明確にすることができる。（思・判・表B(1)ア） ■夏を感じたことについて文章に書く。 ☆我が国の伝統と文化に対する理解と愛情を養う題材（道徳） ☆夏を感じたものの撮影（ICT活用）	1 2	1 「はなび」を読み、生活の中で夏らしさを感じることを挙げる。 ・教科書の言葉や絵から知っていることを発表したり、連想する言葉を出し合ったりする。 2 身の回りで見つけた夏を感じたものについて、ノートに書く。 3 書いた文章を友達と読み合い、感想を交流する。	【知・技】語句の量を増し、文章の中で使うとともに、語彙を豊かにしている。（(1)オ） 【思・判・表】「書くこと」において、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、伝えたいことを明確にしている。（B(1)ア） 【態】積極的に語句の量を増し、話や文章の中で使い、学習課題に沿ってその季節らしさを表現した文章を書こうとしている。
7月	本は友だち 本で知ったことをクイズにしよう 鳥になったきょうりゅうの話 5時間（読⑤） ◎幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気づくことができる。（知・技(3)オ） ○文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気づくことができる。（思・判・表C(1)カ） ■図鑑や科学読み物を読んで、クイズを出し合う。 ☆本を選んで読む活動（図書館活用）	1 2 3～5	1 学習の見直しをもつ。 ・本から新しい知識を得た経験を想起する。 ・学習課題を設定し、学習計画を立てる。 2 本の読み方について考える。 ・どんな本を、どのように読んでいるかを友達と話し合う。 ・P160を見るなどして、索引の使い方を理解する。 3 P108を参考に、図鑑や科学読み物などの本の種類について知る。 4 「鳥になったきょうりゅうの話」を読み、初めて知ったことを伝え合う。 5 本を選んで読み、クイズ大会を開く。 ・「この本、読もう」などを参考にして本を選んで読む。 ・驚いたことや友達が知らないと思うことなどからクイズを考え、友達と出し合う。 6 学習を振り返る。 ・「読書に親しむために」で、本の読み方を押さえる。	【知・技】幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気づいている。（(3)オ） 【思・判・表】「読むこと」において、文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気づいている。（C(1)カ） 【態】進んで幅広く読書に親しみ、学習課題に沿って本で知ったことをクイズにしようとしている。
9月	わたしと小鳥とすずと 夕日がせなかをおしてくる 2時間（読②） ○文章全体の構成や内容の大体を意識しながら音読することができる。（知・技(1)ク） ○登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像することができる。（思・判・表C(1)エ） ■詩を読んで、思ったことや感じたことを話し合う。	1～2	1 二つの詩を音読する。 ・連ごとに様子を思い浮かべながら音読する。 2 「わたしと小鳥とすずと」を読み、どうして「わたし」は「みんなちがって、みんないい。」と言っているのかを考え、話し合う。 3 「夕日がせなかをおしてくる」を読み、誰が、どのように「さよなら」を言っているのかを考え、話し合う。 4 連と連の関係を考えながら二つの詩を読み、気づいたことや考えたことを話し合う。 5 学習を振り返る。 ・「この本、読もう」で読書への意欲をもつ。	【知・技】文章全体の構成や内容の大体を意識しながら音読している。（(1)ク） 【思・判・表】「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。（C(1)エ） 【態】進んで文章全体の構成や内容の大体を意識しながら音読し、学習課題に沿って詩を読んで思ったことや感じたことを話し合おうとしている。
9月	こんな係がクラスにほしい 3時間（話・聞③） ◎考えとそれを支える理由や事例について理解することができる。（知・技(2)ア） ○目的や進め方を確認して話し合い、互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめることができる。（思・判・表A(1)オ） ○目的を意識して、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を比較したり分類したりすることができる。（思・判・表A(1)ア） ■グループで話し合い、考えを整理してまとめる。 ☆係活動における話し合い（特別活動）	1～2 3	1 クラスの係活動を振り返り、新しく作りたい係を考える。 ・思いついた係や仕事を付箋に書き出す。 2 グループで話し合い、考えを整理してまとめる。 ・理由と目的を出し合い、質問するなどして考えを広げる。 ・目的や仕事内容に分けて付箋に書き、話し合ったことを整理する。 3 グループで話し合ったことを発表する。 ・それぞれのグループの発表を聞いて、感想を伝え合う。 4 学習を振り返る。 ・「たいせつ」で身につけた力を押さえる。	【知・技】考えとそれを支える理由や事例について理解している。（(2)ア） 【思・判・表】 ・「話すこと・聞くこと」において、目的を意識して、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を比較したり分類したりしている。（A(1)ア） ・「話すこと・聞くこと」において、目的や進め方を確認して話し合い、互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめている。（A(1)オ） 【態】進んで互いの意見の共通点や相違点に着目して考えをまとめ、学習の見直しをもってグループで話し合い、考えを整理してまとめようとしている。
9月	ポスターを読もう 2時間（読②） ◎文章を読み、理解し、自分の考えを表現することができる。（知・技(2)イ）	1	1 身の回りには、どのようなポスターがあるのかを想起する。	【知・技】比較や分類のしかたを理解し使っている。（(2)イ）

令和6年度 3年 国語 評価規準 上巻

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	主な学習活動	評価規準
	<p>◎文章を読んで理解したに基づいて、感想や考えをもつことができる。(思・判・表C(1)オ)</p> <p>○比較や分類のしかたを理解し使うことができる。(知・技(2)イ)</p> <p>○目的を意識して、中心となる語や文を見つけることができる。(思・判・表C(1)ウ)</p> <p>■ポスターを読み比べて、考えたことを伝え合う。</p>	2	<p>2 P124「ポスターのいい」を見て、工夫しているところを話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「キャッチコピー」について、P160「学習に用いる言葉」で確認するとよい。 <p>3 P126-127の(ア)(イ)のポスターを比べて読む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どちらのポスターのほうがお祭りに行きたくなるか、理由とともに友達と話し合う。 ・二つのポスターを比べて、共通点や相違点をノートに整理する。その際、整理のしかたはP163「図を使って考えよう」を参考にしてもよい。 ・ポスターが作られた目的や知らせたい相手を考えて、なぜ相違点があるのかを話し合う。 <p>4 学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「たいせつ」で身につけた力を押さえる。 	<p>【思・判・表】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「読むこと」において、目的を意識して、中心となる語や文を見つけている。(C(1)ウ) ・「読むこと」において、文章を読んで理解したに基づいて、感想や考えをもっている。(C(1)ウ) <p>【態】文章を読んで理解したに基づいて、進んで感想や考えをもち、学習課題に沿って考えたことを伝え合おうとしている。</p>
9月	<p>書くことを考えるときは 2時間(書②)</p> <p>◎比較や分類のしかたを理解し使うことができる。(知・技(2)イ)</p> <p>◎相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にすることができる。(思・判・表B(1)ア)</p> <p>■夏休みの思い出を書く。</p>	1~2	<p>1 図を使って考えを広げることを知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中心にテーマを書き、線をつなぎながら考えを広げる。 <p>2 書くことを選ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相手や目的を意識して書くことを選ぶ。 <p>3 選んだことを基に文章に書く。</p> <p>4 文章を友達と読み合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図を見ながら、どのようにして書くことを選んだのかを伝え合う。 <p>5 学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえ、この後の「書くこと」単元でも活用することを確かめる。 	<p>【知・技】比較や分類のしかたを理解し使っている。(2)イ)</p> <p>【思・判・表】「書くこと」において、相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア)</p> <p>【態】粘り強く集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にし、学習課題に沿って夏休みの思い出を書こうとしている。</p>
9月	<p>漢字の組み立て 3時間(知・技③)</p> <p>◎漢字が、へんやつくりなどから構成されていることについて理解することができる。(知・技(3)ウ)</p>	1~3	<p>1 「へん」「つくり」を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・P130を参考に、2枚のカードを組み合わせて漢字を作る。 ・P131の設問に取り組み、国語辞典などで確かめる。 <p>2 「へん」「つくり」以外の漢字の組み立てを知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・P132を参考に、2枚のカードを組み合わせて漢字を作る。 ・P133の設問に取り組み、国語辞典などで確かめる。 	<p>【知・技】漢字が、へんやつくりなどから構成されていることについて理解している。(3)ウ)</p> <p>【態】漢字がへんやつくりなどから構成されていることについて粘り強く理解し、学習課題に沿って漢字の構成を捉えようとしている。</p>
9月	<p>ローマ字 4時間(知・技④)</p> <p>◎日常使われている簡単な単語について、ローマ字で表記されたものを読み、ローマ字で書くことができる。(知・技(1)ウ)</p> <p>☆ローマ字入力(ICT活用)</p>	1~3	<p>1 P138の写真を参考に、身の回りにあるローマ字表記を想起する。</p> <p>2 P137のローマ字表を見ながら、ローマ字表記について知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ローマ字表の見方、書き表し方の決まり、ローマ字入力について理解する。 ・P135の設問に取り組み。 	<p>【知・技】日常使われている簡単な単語について、ローマ字で表記されたものを読み、ローマ字で書いている。(1)ウ)</p> <p>【態】進んでローマ字で表記されたものを読み、学習課題に沿ってローマ字で書いたり入力したりしようとしている。</p>
		4	<p>3 ローマ字入力に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・P134の設問に取り組む。 ・好きな言葉などをローマ字で入力する。 	

令和6年度 3年 国語 評価規準 下巻

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	主な学習活動	評価規準
		8	6 学習を振り返る。 ・話し合いのしかたでよかったところを伝え合う。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。	
11月	れいの書かれ方に気をつけて読み、それをいかして書こう ずがたをかえる大豆 食べ物のひみつを教えます 12時間(書⑥、読⑥) ◎比較や分類のしかた、辞書の使い方を理解し使うことができる。(知・技(2)イ) ◎書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をついたり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えることができる。(思・判・表B(1)イ) ◎目的を意識して、中心となる語や文を見つけることができる。(思・判・表C(1)ウ) ○幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気づくことができる。(知・技(3)オ) ■筆者の説明の工夫を見つけ、食材について説明する文章を書く。 ☆食育に関わる題材(総合的な学習の時間) ☆食べ物について書かれた本を探す活動(図書館活用)	1 2~3 4~6 7~9 10~11 12	1 学習の見通しをもつ。 ・P43を見て、大豆について知っていることなどを話し合う。 ・教材文を読み、「問いをもとう」「もくひょう」を基に、学習課題を設定し、学習計画を立てる。 2 文章全体の組み立てに着目して内容を捉える。 ・「はじめ」「中」「終わり」に分け、文章の話題を確かめる。 ・筆者が「中」で挙げている具体例を、表などにしてノートに整理する。 3 「はじめ」に「問い」を入れるとしたら、どのような「問い」を入れるかを考える。 4 「中」の書かれ方について考える。 ・それぞれの段落の中心となる文に線を引く。 ・どのような順序で事例が挙げられているのかを捉える。 5 筆者の説明の工夫をまとめ、考えを交流する。 ・文章全体の組み立てと各段落の組み立て、言葉の使い方、写真の使い方などに着目する。 6 P51の食べ物について書かれた本を読み、感想をまとめて友達に伝える。 ・初めて知ったことや説明のしかたなどの観点から感想をもつ。 7 学習を振り返り、次の学習の見通しをもつ。 ・「たいせつ」で身につけた力を押さえる。 ・P52「問いをもとう」「もくひょう」を基に、学習のめあてを確かめる。 8 取り上げる材料について、調べて整理する。 ・P53「調べたことを整理するときは」を参考にして、調べたことを図や表にして整理する。 9 文章の組み立てと例の書き方を考える。 ・P53「組み立てを考えるとときは」を参考にして、段落や事例の順序などを考える。 10 説明する文章を書く。 ・考えた組み立てに沿って、説明する文章を書く。 ・読み返して、間違いなどがなければ確かめる。 11 友達と感想を伝え合う。 ・書き方と内容の両面から、文章のよいところを伝え合う。 12 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。	【知・技】 ・比較や分類のしかた、辞書の使い方を理解し使っている。(2)イ) ・幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気づいている。(3)オ) 【思・判・表】 ・「書くこと」において、書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をついたり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えている。(B(1)イ) ・「読むこと」において、目的を意識して、中心となる語や文を見つけている。(C(1)ウ) 【態】目的を意識して、粘り強く中心となる語や文を見つけたり、それらを明確にして文章の構成を考えたりし、学習の見通しをもって筆者の説明の工夫をいかした文章を書こうとしている。
11月	ことわざ・故事成語 4時間(知・技②、書②) ◎長い間使われてきたことわざや慣用語、故事成語などの意味を知り、使うことができる。(知・技(3)イ) ◎目的を意識して、伝えたいことを明確にすることができる。(思・判・表B(1)ア) ■ことわざの意味を調べ、ことわざ辞典を作る。	1~2 3~4	1 知っていることわざや故事成語を出し合い、関心をもつ。 2 ことわざや故事成語について知る。 ・P57のことわざの意味を調べる。 ・P58の故事成語の意味や由来を調べたり、P152「知ると楽しい『故事成語』」を読んで故事成語への関心を広げたりする。 3 グループでことわざ辞典を作る。 ・好きなことわざを選び、意味と文例をカードに書く。 ・どのような順でとじるかを話し合う。 ・できあがったことわざ辞典を読み合い、感想を伝え合う。 ・「この本、読もう」で読書への意欲をもつ。	【知・技】長い間使われてきたことわざや慣用語、故事成語などの意味を知り、使っている。(3)イ) 【思・判・表】「書くこと」において、目的を意識して、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア) 【態】積極的にことわざや慣用語、故事成語などの意味を知り、使い、学習課題に沿ってことわざ辞典を作ろうとしている。
11月	漢字の意味 2時間(知・技②) ◎漢字と仮名を用いた表記を理解して文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)ウ)	1~2	1 同じ発音でも、意味が違えば使われる漢字が違うことを知る。 ・漢字と仮名を交えて書くことで、意味が分かりやすくなることを理解する。 2 設問に取り組み、漢字を正しく使い分けて書く。 3 P154「これまでに習った漢字」から、同じ読み方で意味の異なる漢字を見つけ、短文を作る。	【知・技】漢字と仮名を用いた表記を理解して文や文章の中で使っている。(1)ウ) 【態】積極的に漢字と仮名を用いた表記を理解し、これまでの学習をいかして文や文章の中で使おうとしている。
11月	短歌を楽しもう 1時間(知・技①) ◎易しい文語調の短歌を音読したり暗唱したりするなどして、言葉の響きやリズムに親しむことができる。(知・技(3)ア) ☆我が国の伝統と文化に対する理解と愛情を養う題材(道徳)	1	1 短歌について知る。 ・短歌は「5・7・5・7・7」の31音で作られていることや、情景や心情が込められていることなどを確認する。 2 言葉の調子や響きを楽しみながら、声に出して繰り返し読む。 ・P63の二次元コードから、音声を聞くのもよい。 3 気に入った短歌を暗唱する。	【知・技】易しい文語調の短歌を音読したり暗唱したりするなどして、言葉の響きやリズムに親しんでいる。(3)ア) 【態】進んで言葉の響きやリズムに親しみ、学習課題に沿って短歌を音読したり暗唱したりしようとしている。
11月	漢字の広場④	1~2	1 提示されている漢字の読み方、書き方を確認する。	【知・技】第2学年までに配当されている

令和6年度 3年 国語 評価規準 下巻

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	主な学習活動	評価規準
	2時間(書②) ◎第2学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。 (知・技(1)エ) ・間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確認したりして、文や文章を整えることができる。(思・判・表B(1)エ) ■絵を見て想像したことを基に文を書く。		2 P64の絵を見て、町の様子を説明する。 3 提示されている漢字を使って、町の様子を説明する文を書く。 4 書いた文を友達と読み合う。	漢字を書き、文や文章の中で使っている。 (1)エ 【思・判・表】「書くこと」において、間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確認したりして、文や文章を整えている。(B(1)エ) 【態】積極的に第2学年までに配当されている漢字を書き、これまでの学習をいかして、漢字を適切に使った文を作ろうとしている。
12月	登場人物の行動や気持ちをとらえて、えらんだ民話しようかいしゅう 三年とうげ 6時間(読⑥) ◎登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えることができる。(思・判・表C(1)イ) ○引用のしかたを理解し使うことができる。(知・技(2)イ) ○幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気づくことができる。(知・技(3)オ) ○文章を読んで理解したことに基いて、感想や考えをもつことができる。(思・判・表C(1)オ) ■民話や昔話を紹介する。 ☆世界の文化に対する興味・関心を促し、その理解を図る題材(道徳、総合的な学習の時間) ☆民話や昔話を探す活動(図書館活用)	1 2~3 4 5~6	1 学習の見通しをもつ。 ・これまでに読んだ民話や昔話を想起し、どんなところがおもしろかったかを伝え合う。 ・P65を見て、どのような内容の民話かを想像する。 ・教材文を読み、「問いをもとう」「もくひょう」を基に学習課題を設定し、学習計画を立てる。 ・並行読書を行う場合は、P77「この本、読もう」なども参考にし、学校図書館などで民話や昔話の本を探して読む。 2 「三年とうげ」の内容や書かれ方を確かめる。 ・設定、登場人物、出来事、展開、登場人物の行動や気持ちなどの観点から内容をまとめる。 3 「おじいさん」の変化を捉える。 ・行動や様子を表す言葉に着目し、ノートにまとめる。 4 「三年とうげ」のおもしろいところをノートに書く。 ・出来事、登場人物の行動や気持ち、考え方、言葉の使われ方や文の調子などの観点からまとめる。 5 民話を選んで読み、紹介する文章を書く。 ・おもしろいところを引用しながら、民話を紹介する文章を書く。 6 書いた文章を読み合い、感想を交流する。 7 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。	【知・技】 ・引用のしかたを理解し使っている。(2)イ ・幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気づいている。(3)オ 【思・判・表】 ・「読むこと」において、登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えている。(C(1)イ) ・「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基いて、感想や考えをもっている。(C(1)オ) 【態】登場人物の行動や気持ちなどについて、積極的に叙述を基に捉え、学習課題に沿って民話や昔話を紹介しようとしている。
12月	しょうかいする文章を書き、感想をつたえおもう わたしの町のよいところ 10時間(書⑩) ◎書こうとしたことが明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見つけることができる。(思・判・表B(1)オ) ○考えとそれを支える理由について理解することができる。(知・技(2)ア) ■町のよさを紹介する文章を書く。 ☆身近な地域を観察・調査する題材(社会) ☆文章に適切な写真の撮影(ICT活用)	1 2~3 4~5 6~8 9~10	1 学習の見通しをもつ。 ・自分が住む町には、どのようなものがあるかを想起する。 ・「問いをもとう」「もくひょう」を基に、学習課題を設定し、学習計画を立てる。 2 紹介するものを決める。 ・紹介したいものとその理由を図を使って書き出し、書くことを選ぶ。 3 組み立てを考える。 ・P83「水野さんの組み立てメモ」を参考にして、どのような順序で書くかを考える。 4 紹介する文章を書く。 ・P84「水野さんが書いた、しょうかいする文章」を読み、紹介する文章を書くときのポイントを確認する。 5 書いた文章を読み合い、感想を伝え合う。 ・内容と書き方の両面から感想を伝え合い、自分の文章のよい点を考える。 6 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。	【知・技】考えとそれを支える理由について理解している。(2)ア 【思・判・表】「書くこと」において、書こうとしたことが明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見つけている。(B(1)オ) 【態】積極的に文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見つけ、学習課題に沿って町のよさを紹介する文章を書こうとしている。
12月	冬のくらし 2時間(書②) ◎語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語彙を豊かにすることができる。 (知・技(1)オ) ○経験したことや想像したことなどから書くことを選び、伝えたいことを明確にすることができる。(思・判・表B(1)ア) ■冬を感じたことについて文章に書く。 ☆我が国の伝統と文化に対する理解と愛情を養う題材(道徳) ☆冬を感じたものの撮影(ICT活用)	1 2	1 「ゆき」を読み、生活の中で冬らしさを感じることを挙げる。 ・教科書の言葉や絵から知っていることを発表したり、連想する言葉を出し合ったりする。 2 身の回りで見つけた冬を感じたものについて、ノートに書く。 3 書いた文章を友達と読み合い、感想を交流する。	【知・技】語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語彙を豊かにしている。(1)オ 【思・判・表】経験したことや想像したことなどから書くことを選び、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア) 【態】積極的に語句の量を増し、話や文章の中で使い、学習課題に沿ってその季節らしさを表現した文章を書こうとしている。
1月	詩のくふうを楽しもう 4時間(書②、読②) ○文章全体の構成や内容の大体を意識しながら音読することができる。(知・技(1)ク) ○文章に対する感想や意見を伝え合い、自	1	1 6編の詩を音読し、詩の工夫を見つける。 ・言葉のリズムや響きを楽しみながら音読する。 ・それぞれの行の最初の字をつなげたり、文字や詩全体の形を絵のように見たりする。	【知・技】文章全体の構成や内容の大体を意識しながら音読している。(1)ク 【思・判・表】 ・「書くこと」において、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見つけている。(B(1)オ)

令和6年度 3年 国語 評価規準 下巻

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	主な学習活動	評価規準
	分の文章のよいところを見つけることができる。(思・判・表B(1)オ) ○文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつことができる。(思・判・表C(1)オ) ■詩を創作する。 ☆詩を探す活動(図書館活用)	2~4	2 6編の詩の中から好きな詩を選び、おもしろいと思うところを友達と話し合う。 3 詩を創作する。 ・6編の詩の工夫をいかしながら創作する。 4 作った詩を友達と読み合い、交流する。 5 学習を振り返る。 ・活動を通して気づいた詩のおもしろさを発表する。 ・「この本、読もう」で読書への意欲をもつ。	【知・技】「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。(C(1)オ) 【態】進んで文章全体の構成や内容の大体を意識しながら音読し、学習課題に沿って詩を創作しようとしている。
1月	四まいの絵を使って 2時間(書②) ◎書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくらせたり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えることができる。(思・判・表B(1)イ) ○段落の役割について理解することができる。(知・技(1)カ)	1~2	1 物語の基本的な組み立てを確かめる。 ・「始まり」「出来事」「解決」「結び」という組み立てを知る。 ・「三年とうげ」の組み立てを確かめる。 2 4枚の絵を並べ替えて、一つの物語を作る。 ・それぞれの絵について考えたことを、簡単に書き出す。 ・物語の基本的な組み立てを参考にして、おおまかな話の流れをメモする。 3 考えた物語の内容を友達と交流し、感想を伝え合う。 4 学習を振り返る。 ・「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。	【知・技】段落の役割について理解している。(1)カ) 【思・判・表】「書くこと」において、書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくらせたり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えている。(B(1)イ) 【態】書く内容の中心を明確にし、文章の構成を考えることに粘り強く取り組み、学習課題に沿って物語の流れを書こうとしている。
1月	カンジーはかせの音訓かるた 2時間(知・技②) ◎第3学年までに担当されている漢字を読むことができる。また、第2学年までに担当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、第3学年に担当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)エ)	1~2	1 設問の「カンジーはかせが作った歌」を音読する。 2 漢字の音と訓を両方使った歌を作る。 ・P95「作り方」を参考にして歌を作る。P154「これまでに習った漢字」、P159「この本で習う漢字」を参考にしてもよい。 ・正しく音と訓が使えているかを確認する。 3 作った歌を友達と読み合う。	【知・技】第3学年までに担当されている漢字を読んでいる。また、第2学年までに担当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、第3学年に担当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使っている。(1)エ) 【態】進んで第3学年までに担当されている漢字を読み、学習課題に沿って漢字の音訓を使った文を書こうとしている。
1月	漢字の広場⑤ 2時間(書②) ◎第2学年までに担当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)エ) ・間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確認したりして、文や文章を整えることができる。(思・判・表B(1)エ) ■絵を見て想像したことを基に文を書く。	1~2	1 提示されている漢字の読み方、書き方を確認する。 2 P96の絵を見て、学校でどんなことをしているのかを説明する。 3 提示されている漢字を使って、日記をつけるように学校の様子を書く。 4 書いた文を友達と読み合う。	【知・技】第2学年までに担当されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。(1)エ) 【思・判・表】「書くこと」において、間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確認したりして、文や文章を整えている。(B(1)エ) 【態】積極的に第2学年までに担当されている漢字を書き、これまでの学習をいかして、漢字を適切に使った文を作ろうとしている。
1月	読んで考えたことをつたえ合おう ありの行列 7時間(読⑦) ◎指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解することができる。(知・技(1)カ) ◎文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつことができる。(思・判・表C(1)オ) ◎文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気づくことができる。(思・判・表C(1)カ) ○言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解することができる。(知・技(1)オ) ■文章を読んで考えたことを伝え合う。 ☆生き物の生態や不思議さに目を向けさせる題材(理科)	1 2~5 6 7	1 学習の見直しをもつ。 ・P97を見て、ありやありの行列について知っていることを出し合う。 ・「問いをもとう」「もくひょう」を基に、学習課題を設定し、学習計画を立てる。 2 「ありの行列」で説明されていることを確かめる。 ・「問い」と「答え」が、どの段落にどのように書かれているか捉える。 ・ウイルソンが調べたことやそこから考えたことを捉える。 3 ウイルソンの研究の進め方、ありが行列を作る仕組みについて、書かれていることを短くまとめる。 ・P104「言葉に着目しよう」を参考にして、段落ごとに大事な言葉や文を見つける。 4 「ありの行列」とP103「もっと読もう」を読んで、考えたことを文章にまとめる。 ・興味をもったこと、もっと知りたいことを中心にして書く。 5 書いた文章を友達と読み合う。 ・共通点や相違点を見つけて伝え合う。 6 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。 ・「この本、読もう」で読書への意欲をもつ。	【知・技】 ・言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解している。(1)オ) ・指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解している。(1)カ) 【思・判・表】 ・「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。(C(1)オ) ・「読むこと」において、文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気づいている。(C(1)カ) 【態】進んで文章を読んで理解したことに基づいて感想や考えをもち、学習課題に沿って、考えたことを伝え合おうとしている。
1月 ~ 2月	言葉について考えよう つたわる言葉で表そう 5時間(知・技②、書③) ◎言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気づいている。(1)イ)	1~3	1 学習の見直しをもつ。 ・P107を読み、「問いをもとう」を基に、伝えたいことがうまく伝わらなかった理由について考える。	【知・技】 ・言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気づいている。(1)イ)

令和6年度 3年 国語 評価規準 下巻

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	主な学習活動	評価規準
	量を増し、語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)オ) ○登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像することができる。(思・判・表C(1)エ) ■登場人物について考えたことをまとめ、伝え合う。 ☆他者への愛情をもち、勇気をもって実行する姿勢を育てる題材(道徳)	10～12	3 登場人物の性格や気持ちの変化を想像する。 ・P134の「言葉に着目しよう」を参考にして、「豆太」の性格を想像する。 ・着目する点を選び、「豆太」は変わったのかどうかを考え、話し合う。 4 「豆太」について感じたことや考えたことを、ノートに書く。 ・文章のどの叙述から考えたのかを明確にし、自分の経験と比べて考えたことをまとめる。 5 まとめた考えを伝え合う。 ・友達の考えと自分の考えを比べて、共通点や相違点をノートに書く。 6 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。 ・「この本、読もう」で読書への意欲をもつ。	る。(C(1)エ) ・「読むこと」において、文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気づいている。(C(1)カ) 【態】登場人物の気持ちの変化や性格について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に粘り強く想像し、学習課題に沿って考えたことをまとめ、伝え合おうとしている。
3月	漢字の広場⑥ 2時間(書②) ◎第2学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)エ) ○修飾と被修飾との関係について理解することができる。(知・技(1)カ) ・間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確認したりして、文や文章を整えることができる。(思・判・表B(1)エ) ■絵を見て想像したことを基に文を書く。	1～2	1 提示されている漢字の読み方、書き方を確認する。 2 P137の絵を見て、季節ごとの人物の行動や周りの様子を説明する。 3 提示されている漢字を使って、それぞれの季節の様子を説明する文を書く。 4 書いた文を友達と読み合う。	【知・技】 ・第2学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。(1)エ) ・修飾と被修飾との関係について理解している。(1)カ) 【思・判・表】間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確認したりして、文や文章を整えている。(B(1)エ) 【態】積極的に第2学年までに配当されている漢字を書き、これまでの学習をいかして、漢字を適切に使った文を作ろうとしている。
3月	三年生をふり返って 1時間(書①) ○言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気づくことができる。(知・技(1)ア) ○経験したことや想像したことなどから書くことを選び、伝えたいことを明確にすることができる。(思・判・表B(1)ア) ■1年間の国語科での学びを振り返って、書く。 ☆一人一人のキャリア形成と自己実現を育む題材(特別活動)	1	1 3年生の学習を振り返る。 ・P140「『たいせつ』のまとめ」を基に、国語で学んだことを振り返る。 2 自分が身につけたと思う言葉の力を書き、友達と伝え合う。	【知・技】言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気づいている。(1)ア) 【思・判・表】「書くこと」において、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア) 【態】進んで経験したことや想像したことなどから書くことを選び、伝えたいことを明確にし、学習課題に沿って1年間の振り返りを書こうとしている。

令和6年度『ひろがる言葉 小学国語』4年 評価規準

江戸川区立東葛西小学校

〔第3学年及び第4学年〕目標(「学びに向かう力、人間性等」の単元目標)

- (1)日常生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができるようにする。
 - (2)筋道立てて考える力や豊かに感じたり想像したりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えをまとめることができるようにする。
 - (3)言葉がもつよさに気付くとともに、幅広く読書をし、国語を大切に、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。
- 「学習内容」…△知識・技能 ◇話すこと・聞くこと ■書くこと □読むこと

学期	月	時数	単元名／教材名／教科書ページ 学習内容 ★ここが大事／☆学習用語	領域	時	学習活動／*留意点	評価規準 学習指導要領との対応
1学期	4月	2 (話す聞く2)	よく見て、よく聞いて、受け止めよう つないで つないで 教科書:P8 ◇相手が言葉や動きをとおして伝えたいことは何か考えながら聞き、相手が伝えたいことの中心を捉え、自分の考えをもつ。 ☆学習用語:連想／ジェスチャー	話聞	1	<見通しをもとう> 1. リード文を確認する。 *リード文を確認し、活動の見通しをもたせる。 2. 「れんそうゲーム」の流れを確認する。 *数名の児童が見本を提示したり、p8のQRコードから動画でゲームの流れを確認したりする。 3. ペアで「れんそうゲーム」をする。 *相手の言葉を受け取り、連想した言葉を相手に返す、言葉のキャッチボールをする。どの子も安心して参加できるようにする。 4. グループで「れんそうゲーム」をする。 *4人程度の小グループを作る。 *時間できぎって、メンバーを変えて行う。 *全員が慣れてきたら始まりの言葉と終わりの言葉を決めて、理想しながら終わりの言葉にたどり着くという条件をつける。	【知識・技能】 ◎言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付いている。(1)ア) 【思考・判断・表現】 ◎「話すこと・聞くこと」において、必要なことを記録したり質問したりしながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え、自分の考えをもっている。(A1)エ) 【言語活動例】 ・説明や報告など調べたことを話したり、それらを聞いたりする活動。(A2)ア) 【態度】 ・相手の言葉や動きを受け止め、相手が伝えたいことは何かすすんで考え、自分の考えをもとうとしている。
					2	5. 「ジェスチャーゲーム」をする。 *「ジェスチャーゲーム」の流れを確認する。 *4人程度の小グループを作る。 *時間できぎって、メンバーを変えて行う。 <ふり返ろう> 6. 学習の振り返りをする。 *言葉で伝えることと体で伝えることの違いについて考えさせようとして、言葉、身振りや手振りを組み合わせることによって、より伝えやすくなることにも気づかせる。	
1学期	4月	1	楽しく声に出して読もう 春のうた／あり 教科書:P10 □繰り返し音読をしながら、言葉のリズムや響きを味わい、イメージの広がりを楽しむ。 ☆学習用語:音読／作者／題名／様子	読む	1	1. 『春のうた』の範読(教師の範読か、デジタル教材の音読)を聞いて、詩の世界のイメージをもつ。 2. 繰り返し音読し、それぞれの「ケルルン クック。」の読み方を話し合う。 *動作化を積極的に取り入れる。特に擬音語「つるつる」「そよそよ」を、手を用いた動作化をして、言葉のイメージを身体でつかめるようにする。 *一連と四連で「ほっ」が繰り返されていることに注目させる。「まぶしい」から、「おおきなくもがういてくる。」と、感覚が目覚め、気持ちも高ぶってくることを理解させ、それが「ケルルン クック。」の鳴き声に反映されるように感じさせたい。 3. 春を喜ぶかえるの姿を想像しながら、「ケルルン クック。」の読み方を工夫しながら音読する。 *詩全体が「春のうた」ではあるが、それを支えているのは「ケルルン クック。」の響きである。間や声の調子、リズムなどを考えて音読させるようにする。 4. 『あり』を音読する。 *「ありーありーこないさ」の音の連鎖と繰り返しを楽しみながら音読する。 *『あり』だから「ありっこない」なんだという音の連鎖への気づきを大事にして、繰り返し(リフレイン)を楽しみながら読むようにさせる。 *各連が3行であることに気づかせる。 *「十八メートル」という数字が出てくるので、具体的にどのくらいの長さかを発問して、大きさを捉えられるように配慮する。 *想像したありの姿のイメージが膨らむような音読、歌うように繰り返しのフレーズを楽しむ音読を工夫して調子よく読ませる。	【知識・技能】 ◎文章全体の構成や内容の大体を意識しながら音読している。(1)ク) 【思考・判断・表現】 ◎「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わり結び付けて具体的に想像している。(C1)エ) 【言語活動例】 ・詩や物語などを読み、内容を説明したり、考えたことなどを伝え合ったりする活動。(C2)イ) 【態度】 ・すすんで、登場人物の気持ちの変化や情景について具体的に想像し、学習の見通しをもって音読したりイメージを広げたりしようとしている。

学期	月	時数	単元名／教材名／教科書ページ	領域	時	学習活動／＊留意点	評価規準 学習指導要領との対応	
1学期	4月	10 (書く3)	<p>一 物語の「ふしぎ」について考えよう 白いぼうし 教科書:P14</p> <p>□物語の「ふしぎ」について考え、短い言葉で表し、紹介し合う。</p> <p>★ここが大事:できごとのきっかけをとらえる</p> <p>☆学習用語:文／漢字／物語／場面／気持ち／地の文／様子／会話／登場人物／性格／言葉／ふしぎ／においや香りを表す言葉／できごとのきっかけ</p>	読む	1	<p><見通しをもとう></p> <p>1. 「物語の『ふしぎ』について考える」という学習の見通しをもつ。</p> <p>(1) 題名「白いぼうし」から、どんな物語か想像する。</p> <p>(2) 教師の範読を聞き、感想をノートに書く。</p> <p>* 作品から受けた感じ、疑問に思ったことをノートに書く。</p> <p>(3) 感想を話し合う。</p> <p>* 子どもたちの素直な感想を受け止め、単元の学習課題につなげる。</p> <p>* 「女の子」「もんしろちよう」に不思議を感じる児童が多いと予想される。子どもたちが「あれ?」と不思議に思う気持ちを活かして学習課題の設定につなげたい。</p> <p>(4) 単元名やリード文から、単元の学習課題「物語の『ふしぎ』について考えよう」について見通しを持つ。</p>	<p>【知識・技能】</p> <p>◎様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにしている。(11才)</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>◎「読むこと」において、登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えている。(C11イ)</p> <p>○「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。(C11エ)</p> <p>【言語活動例】</p> <p>・詩や物語などを読み、内容を説明したり、考えたことなどを伝え合ったりする活動。(C21)</p>	
					2・3	<p><たしかめよう></p> <p>2. 場面の様子や登場人物を整理し、不思議だと思ったことを見つける。</p> <p>(1) 物語を読んで、不思議だと思った場面とその理由をノートに書く。</p> <p>* どのところが不思議だったか、具体的に示せるようにする。</p> <p>(2) 全体を四つの場面に分け、それぞれの場面で、松井さんが出会った人や、もの・ことを確かめる。</p> <p>* 場面に分けるには、「時・場・人物」に着目することを確認する。</p> <p>* それぞれの場面で松井さんがどのような人物やもの・ことに出会っているか、ノートに整理する。</p> <p>* 表の形で整理すると考えをまとめやすいことに気づかせる。</p>		<p>【態度】</p> <p>・不思議なできごとが起こるきっかけを見つけないがらすんで物語の「不思議」に思うところを見つけ、「不思議」について考えたことを短い言葉で表し、伝え合おうとしている。</p>
					4・5	<p><くわしくよう></p> <p>3. それぞれの場面の、松井さんの様子や気持ちを想像して、考えたことを話し合う。</p> <p>(1) 場面ごとの松井さんの様子や気持ちを、2(2)で整理したものに書き加え、松井さんの人柄を捉える。</p> <p>* P26の「言葉」とも関連させ、松井さんが関わった人物に着目しながら読むと、それぞれの登場人物の人物像が浮かび上がったり、その人物と接している松井さんの気持ちや人柄がより具体的に想像できたりする。</p>		
					6	<p>(2)「ふしぎ」に思ったことと関係がありそうなところを見つけ、考えたことを友達と話し合う。</p> <p>* P27の「ここが大事」を確認し、不思議なできごとが起こるきっかけを見つけないがらすながぎ合わせて読み、不思議なできごとが起こった理由や結果を考える。</p> <p>* 松井さんの人柄と関連づけて考えることで、物語の「ふしぎ」が松井さんの人柄と結びついていることのおもしろさを味わわせたい。</p>		
					7	<p><まとめよう></p> <p>4. 物語の「ふしぎ」について考えたことを、ノートにまとめる。</p> <p>* 2と3の学習活動を振り返りながら、考えたことをできるだけ具体的に書くようにする。</p>		
					8・9	<p><つたえあおう></p> <p>5. 物語の「ふしぎ」についてまとめたものを短い言葉で表し、紹介し合う。</p> <p>(1) 4の学習活動でノートにまとめた考えをもとに、物語の「ふしぎ」について端的に短い言葉で表す。</p> <p>* P27の「ここが大事」を改めて確認し、作品の「ふしぎ」を生み出している言葉のつながりを意識しながら考える。</p> <p>(2) 物語の「ふしぎ」をまとめた短い言葉を、友達と紹介し合う。</p> <p>* 短い言葉だけでなく、なぜその言葉で表したのか、理由もあわせて紹介する。</p>		
					10	<p><ふり返ろう></p> <p>6. 学習を振り返る。</p> <p>(1) 物語を「ふしぎ」について考えながら読むと、どのようなつながりが見つかったか振り返る。</p> <p>* 「ふしぎ」なできごとが起こるファンタジー作品の魅力やおもしろさを改めて実感させたい。</p> <p>* P27「本を読もう」やP151「4年生で読みたい本②」のファンタジー作品を紹介し、読書の広がりにつなげたい。</p> <p>(2) 短い言葉で物語の「ふしぎ」を表すとき、どのようなことに気づけたか振り返る。</p>		

学期	月	時数	単元名／教材名／教科書ページ	領域	時	学習活動／＊留意点	評価規準 学習指導要領との対応
1学期	5月	4 (書く4)	自分の気持ちに合った言葉で表そう 見つけよう、びっぴりの言葉 教科書:P28 ■心が動いたできごとを、短い文章で表現する。	書く	1	1. 学習の流れを知り、見直しをもつ。 ＊少しずつ書き溜めていく活動であるので、意欲を継続させるためにも、書く目的を決めて取り組むようにさせる。 2. 心が動いたことを思い出す。 (1)心が動いたできごとをメモに書く。 (2)友達と交流する。	【知識・技能】 ◎言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付いている。(1)ア) ◎漢字と仮名を用いた表記、送り仮名の付け方、改行の仕方を理解して文や文章の中で使うとともに、句読点を適切に打っている。また、第3学年においては、日常使われている簡単な単語について、ローマ字で表記されたものを読み、ローマ字で書いている。(1)ウ) 【思考・判断・表現】 ◎「書くこと」において、相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にしている。(B1)ア) 【言語活動例】 ・詩や物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。(B2)ウ) 【態度】 ・すすんで経験したことや想像したことなどから書くことを選び、学習の見直しをもって、心が動いたできごとを短い文章で表現しようとしている。
					2	3. 心の様子を直接的な表現を使わないで表現する。 (1)教科書の例文2作品を読む。 (2)自分で工夫した表現を考える。 ＊既習の教材文の中から探してよいことを伝える。その際、文章の中の会話文・情景描写・行動や様子を表す部分に着目させる。	
					3・4	4. 心が動いたことを書いたメモの中から、一つを選ぶ。 ＊なぜ、心が動いたのか(新しい発見や感情の揺れ動きの原因)について考えさせる。 ＊心の様子を、工夫した表現で表すように伝える。 5. 文章を書く ＊5、6文ぐらいの短い文章で書くようにさせる。 ＊気楽に書かせ、書くことを習慣づけるようにさせる。 6. 文章を読み返し、よりよい表現があれば書き直す。 7. 心が動いた瞬間についてさまざまな表現の仕方があることを知る。 ＊書き溜めたものは、下巻の第七単元『自分の成長をふり返って』の話題・題材を選ぶ際に活用することを確認する。 8. 心が動いた瞬間を表現する言葉を選ぶとき、どんなことに気をつけたか振り返る。	
1学期	5月	2	漢字の広場① 漢字の部首 教科書:P30 △漢字の部首について知り、漢字を覚えたり使ったりするときに役立てる。 ☆学習用語: あし／かんむり／つくり／部首／へん	漢字	1	1. 学習内容を理解し、学習の見直しをもつ。 ＊漢字の部首について知り、漢字を正しく使うことができるようになるという学習課題を確かめ、今後の学習に生かしていくよう意識づける。 ＊部首についての知識は、P50からの『漢字辞典の使い方』の学習に結びつく。 2. 共通している部分から、何に関係のある漢字かを考える。 ＊「漢字を主に意味のうえでなにか分けるときに、目印とする部分」が「部首」であることをおさえる。 ＊「部首と漢字の意味には深いつながりがある」ことを「日」「木」を部首とする漢字をもとに、具体的に考えられるようにする。 3. P30の下端の設問を解きながら、部首と漢字の意味とのつながりなどについて話し合う。 ＊部首は、「へん」だけではなく、また、「へん」が部首とは限らない場合がある。	【知識・技能】 ◎漢字が、へんやつくりなどから構成されていることについて理解している。(3)ウ) 【態度】 ・すすんで、漢字がへんやつくりなどから構成されていることについて理解し、学習の見直しをもって、漢字を覚えたり使ったりするときに役立てようとしている。
					2	4. P31の上段の設問に提示している漢字について、それぞれの部首を考える。 ＊提示してある部首の形に着目し、それぞれの漢字のどの部分に目印となる形が含まれているかを見つけれられるようにはたらかける。 ＊偏旁冠脚については三下で学んだ。 ＊ここに示す部首の呼称は、代表的なものである。「ほくづくり」は辞典によっては「ほくじょう」「のぶん」などと呼ぶこともある。また、「女」がへんの位置にくると「おんなへん」、「雨」がかんむりの位置にくると「あめかんむり」とも呼ばれる。 5. 巻末の『漢字を学ぼう』を使って、同じ部首の漢字を集める。 ＊ここでは、代表的な部首とその呼び名について理解させておきたい。 ＊漢字の組み立てと意味に興味をもてるようにする。興味、関心がこのあとの『漢字辞典の引き方』に結びつくようにしたい。 ＊それぞれの部首が、どんな意味に関係しているかを考えるのは、想起できるおおよその範囲でいい。 ＊それぞれの漢字の部首や部首の呼称などは、漢字辞典によって異なるものもあることをおさえる。	

学期	月	時数	単元名／教材名／教科書ページ	領域	時	学習活動／＊留意点	評価規準 学習指導要領との対応
1学期	5月	2 (書く2)	三年生で学んだ漢字① 教科書：P32 △絵を見て想像したことをもとに、3年生で学んだ漢字などを使って文を書く。	漢字	3・4	6. 教科書の絵を見て、描かれている様子について説明する。 ＊P32の絵を拡大して黒板に貼っておくと、指導する事柄を児童たち全体に示しやすくなる。 ＊絵の中にある3年生で学んだ漢字の読み方を再確認する。 ＊各自ばらばらに読むのではなく、言葉一つ一つを全員で声に出して読むようにし、読み方を確認できるようにする。 ＊絵に描かれたことと、言葉からわかる町の様子をできるだけたくさん発表できるようにする。 7. 3年生までに習った漢字を使って、絵に描かれている様子や物、人物がしていることなどを説明する文を書く。 ＊描かれている人物と行為、場や時間の状況、物品など、視点を提示するとうわりやすい。 ＊条件をつけて文を書くように促すと、記述の仕方に工夫がみられるようになる。 ＊敬体と常体が混在している場合は、読み直して、どちらかに統一するようはたらきかける。 8. 作った文を互いに発表し合う。 ＊正しく漢字が使われているか確かめ合う。 ＊互いの文や文章のよいところを発表し合うようにする。 ＊書いた文や文章を互いに読み合ったり音読し合ったりして、その内容や表現について、感想や意見を述べ合い、自分の文や文章のよいところを見つけるようはたらきかける。 9. 学習を振り返る。 ＊漢字の部首について正しく理解したり、漢字の使い方や表記などを理解できるようにしたりし、日常の言語生活にも生かしていくよう意識づける。	【知識・技能】 ◎第3学年及び第4学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読んでいる。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使っている。(1)エ) 【思考・判断・表現】 ○「書くこと」において、書こうとしたことが明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けている。(B1)オ) 【言語活動例】 ・詩や物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。(B2)ウ) 【態度】 ・積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を使い、学習課題にそって、教科書の絵の中の言葉を使って文を書くこととしている。
1学期	5月	2	二 けっかと考察とのつながりをとらえよう ぞうの重さを量る 教科書：P34 □象の重さを量るといふ問題をつかむ過程や解決する過程の考えの筋道を、叙述をおさえながら読む。 ☆学習用語：筋道	読む	1・2	1. 題名と本文を結びつけて、誰がどのようにして象の重さを量ったのか確認する。 ＊P34上段に書かれているてびきを利用して読み取る。 2. 「わかりやすい文章」とはどのようなものなのか考える。 (1)この文章の読みやすさを考察する。 ＊P35上段の「考えるすじみち」やイラストを利用して、「まず」「次に」「最後に」という文の構成が分かりやすさのポイントであることを確認する。 (2)自分でも「まず」「次に」「最後に」を使って、簡単な文章を書いてみる。 (3)学習を振り返る。	【知識・技能】 ◎主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解している。(1)カ) ◎考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解している。(2)ア) 【思考・判断・表現】 ◎「読むこと」において、段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えている。(1)ア) ○「読むこと」において、目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約している。(1)ウ) 【言語活動例】 ・記録や報告などの文章を読み、文章の一部を引用して、分かったことや考えたことを説明したり、意見を述べたりする活動。(1)ア) 【態度】 ・すすんで、読みやすい文章のポイントについて考えることをとおして、学習課題にそって、筋道立てて文章を書くこととしている。

学期	月	時数	単元名／教材名／教科書ページ	領域	時	学習活動／＊留意点	評価規準 学習指導要領との対応
1学期	5月	10 (書く3)	<p>二 けっかと考察とのつながりをとらえよう 花を見つける手がかり 教科書:P36</p> <p>□「もんしろちょうは何を手がかりに花を見つけるか」という問題を説明していく一つ一つの実験の結果とそこから引き出される結論、実験を繰り返していき考えの筋道などを、叙述をおさえながら読む。</p> <p>★ここが大事:けっかと考察</p> <p>☆学習用語:記録／筋道／段落／結果／結論／考察／事実／比べる</p>	読む	1	<p><見通しをもとう></p> <p>1. 筋道立てて文章を読み、本文中にいくつ実験が書かれているか読み取る。 *「まず」は同じだが、「次に」と「最後に」は同義語になっているため、読み取る際に配慮が必要である。ただし、最初から違う言葉になっていることを告げることなく、言い換えに気づく子どもの姿を期待する。</p>	<p>【知識・技能】</p> <p>◎主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解している。(11カ)</p> <p>◎考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解している。(22ア)</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>○「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。(B(1)ウ)</p> <p>◎「読むこと」において、段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えている。(C(1)ア)</p> <p>○「読むこと」において、目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約している。(C(1)ウ)</p> <p>【言語活動例】</p> <p>・調べたことをまとめて報告するなど、事実やそれを基に考えたことを書く活動。(B(2)ア)</p> <p>・記録や報告などの文章を読み、文章の一部を引用して、分かったことや考えたことを説明したり、意見を述べたりする活動。(C(2)ア)</p> <p>【態度】</p> <p>・積極的に、言葉に着目しながら実験内容を読み取り、学習課題にそって、段落相互の関係をおさえながら文章を読もうとしている。</p>
					2	<p><たしかめよう></p> <p>2. この文章の主題を読み取る。 (1)文章構成を明確にする。 * 始め・中・終わりで全体を3つに分ける。 (2)この文章でどのような疑問を解き明かそうとしているのか話し合う。 * 文章構成の特いどの部分を読む必要があるのか確認する。 (3)文章構成の「始め」の部分に書かれていることを意義づける。</p> <p>3. 具体的な実験内容を表にまとめる。 * 子どもの実態に応じて、個人作業を重視するか集団学習でまとめていくかは判断する。</p>	
					3～5	<p><くわしくよう></p> <p>4. 実験1と実験2を比べて、日高先生たちの考え方の特徴を明らかにする。</p> <p>5. 実験2と実験3で比べて、日高先生たちの考え方の特徴を明らかにする。 * 第2時に作成した表を再度見直したり、本文を読み直したりして考える。</p>	
					6・7	<p><まとめよう></p> <p>6. 結論部分を読み取る。 * 疑問に対する答えを明らかにする。</p> <p>7. 日高先生たちの実験の進め方と、結論について考えたことをノートにまとめる。 * ノートにまとめにくい場合は、小集団や学級全体で話し合っまとめてもよい。</p>	
					8	<p><つたえあおう></p> <p>8. 前時までにまとめたものを友達と読み合う。 (1)さまざまな友達との読み合いをする。 (2)読み合う中で見つけた、自分と友達との同じ点や違う点、友達の書いた内容のよい点についてノートに書く。 (3)書いたことを友達と交流する。</p>	
					9・10	<p><ふり返ろう></p> <p>9. 3つの実験を表にまとめたとき、どのような言葉に気をつけて行ったかを確認し、語彙を増やす。</p> <p>10. この文章の学習を通して、自分が文章を書くときに生かしてみたい点を明らかにする。</p>	
1学期	6月	4	<p>読書の広場① 分類をもとに本を見つけよう 教科書:P46</p> <p>△学校や地域の図書館へ行き、「日本十進分類法」を利用して本を探して読んだり、図書館の分類の仕方を確かめたりする。</p> <p>☆学習用語:巻冊記号／所在記号／請求記号／図書記号／分類記号／ラベルの記号／日本十進分類法</p>	読書	1	<p>1. 分類記号を手がかりに本を探すという学習内容をつかみ、学習の見通しをもつ。</p> <p>2. 図書館の本の分類の仕方を知る。 (1)身のまわりで、分類されているものを考える。 (2)図書館に行き、本が内容ごとに分類され置いてあることを確かめる。 (3)「日本十進分類法」の仕組みを知る。 (4)ラベルの記号について知る。</p>	<p>【知識・技能】</p> <p>◎比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方理解し使っている。(2イ)</p> <p>◎幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付いている。(3オ)</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>○「読むこと」において、目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約している。(C(1)ウ)</p> <p>【言語活動例】</p> <p>・記録や報告などの文章を読み、文章の一部を引用して、分かったことや考えたことを説明したり、意見を述べたりする活動。(C(2)ア)</p> <p>・学校図書館などを利用して、事典や図鑑などから情報を得て、分かったことなどをまとめて説明する活動。(C(2)ウ)</p> <p>【態度】</p> <p>・分類を手がかりに目的の本を見つけ、読んでわかったことを記録しようとしている。</p>
					2	<p>3. 分類記号を手がかりに本を探す。</p> <p>4. 分類記号を手がかりに、自分が読みたい本を探して読む。</p>	
					3・4	<p>5. 本を読んでわかったことや、本に関する情報などを「読書カード」に記録し、友達と読み合う。 (1)本に関する情報、調べたいこと、読んでわかったことや感想などを「読書カード」に記録する。 (2)「読書カード」を友達と読み合い、興味をもった本を探して読む。</p> <p>6. 学習を振り返る。</p>	

学期	月	時数	単元名／教材名／教科書ページ	領域	時	学習活動／*留意点	評価規準 学習指導要領との対応
			学習内容 ★ここが大事／★学習用語				
1学期	6月	2	言葉の広場① 漢字辞典の使い方 教科書:P50 △漢字辞典の引き方を理解し、活用する。 ☆学習用語:漢字辞典／総画数／漢字／音／訓／部首／画数／音訓索引／総画索引／部首索引／五十音順／片仮名／平仮名／見出し／索引／順序／筆順／漢字の成り立ち	言語	1	1. 学習の見通しをもつ。 *教材冒頭の会話文によって、日常の言語生活との関連を意識づける。 2. 教材文を読んで、漢字辞典の引き方を理解する。 *漢字の読み方や意味、使い方などを知るには、漢字辞典を活用するとよいことに気づかせ、漢字辞典に興味をもたせる。 3. 手がかりによって、どの索引を活用すればよいかを理解する。 *教材文にそって漢字辞典の引き方を確認させ、理解させる。 *漢字辞典は、部首索引・総画索引・音訓索引のどれかを利用して引くことを確認させ、実際に引きながら確認する。 *辞典によって、漢字の並び方のきまりや記号の使われ方が異なることがあるので、自分の持っている辞典を確認し、使えるように指導する。 *筆順が載っているなど便利な機能もある場合があるので、それに気づかせ、辞典の活用の幅を広げることできる。	【知識・技能】 ◎比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使っている。(2イ) ○漢字が、へんやつくりなどから構成されていることについて理解している。(3ウ) 【態度】 ・積極的に辞書や事典の使い方を理解し、学習の見通しをもって漢字辞典を活用しようとしている。
				2	4. 設問に従って、部首索引・総画索引・音訓索引を活用して漢字を調べる。 *一人一人が独力で、それぞれの引き方で調べられるようにする。 *どの索引を使えば引きやすいかを見当づけられるようにする。見当をつけさせて引かせ、友達どうしてどの引き方がわかりやすかったのかを発表させると、さらに引き方に慣れさせることができる。 *知らない漢字や熟語に出会ったときには、辞典を活用することの便利さを意識できるように、辞典の使い方に慣れさせておくことよい。 5. 学習を振り返る。		

学期	月	時数	単元名／教材名／教科書ページ	領域	時	学習活動／*留意点	評価規準 学習指導要領との対応	
1学期	6月	3 (話す聞く3)	必要なじょうほうを落とさないように聞こう メモの取り方のくふう 教科書:P54 ◇メモの取り方を工夫したり、質問したりしながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいこと の中心を捉え、自分の考えをもつ。 ☆学習用語:聞き取りメモ/理由/ポスター/ 縦書き/横書き/箇条書き	話聞	1	<見通しをもとう> 1. 話を聞いてメモを取った経験を振り返り、どのような目的でどのようにメモを取ってきたのか、自分の経験をもとに話し合う。 *児童が話を聞く場面で工夫してきたことや、メモを取っていても困っていたことなどを整理しながら話し合っていくとよい。 2. 教師が工場長の前田さんの話を音読し、メモを取りながら聞く。 3. 自分が書いたメモを振り返り、よい点と課題が残る点を考える。 4. 自分が書いたメモのよい点と課題が残る点について話し合う。 5. 次時の学習の見通しをもつ。 *これからよりよいメモの取り方を学ぶことを確認し、次時への学習意欲を高める。	【知識・技能】 ◎比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使っている。(I2イ) 【思考・判断・表現】 ◎「話すこと・聞くこと」において、必要なことを記録したり質問したりしながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいこと の中心を捉え、自分の考えをもっている。(A(1)エ) 【言語活動例】 ・説明や報告など調べたことを話したり、それらを開いたりする活動。(A(2)ア)	
					2	<話そう・聞こう> 6. p.55を読んで、東野さんたちのメモの取り方の工夫を見つける。 7. メモの取り方の工夫について話し合う。 8. 自分に生かすことができるメモの取り方を考える。 9. 友達にインタビューをして、メモを取りながら聞いたことをまとめる。 10. メモの取り方について振り返る。 *インタビューをしながらメモを取ってみて、自分がわかったことや思ったこと、考えたことを伝えるようにする。		【態度】 ・メモの取り方を工夫したり、相手に質問したりしながら、必要な情報について積極的に聞き、自分の考えをもととして いる。
					3	<ふり返ろう> 11. 東野さんたちのメモの工夫を踏まえて、更によくするように考える。 12. 東野さんたちのメモの工夫を踏まえて、これからメモを取るときに、大切にしたいことや実践してみたいことについて話し合う。 *日常生活においても大事なことを落とさないように工夫してメモを取りながら聞くことができるように意欲づける。		
1学期	6月	10 (書く10)	三 伝わりやすい組み立てを考えて書こう リーフレットでほうこく 教科書:P58 ■リーフレットの特徴を生かした組み立てを考え、見学したことや調べたことを報告する。 ☆学習用語:課題/リーフレット/組み立て/ 資料/説明/効果的に伝える/読み返す/出典/引用/見出し	書く	1	<見通しをもとう> 1. 「学習の進め方」を読み、何を誰に報告するのかを考え、学習活動の見通しをもつ。 *相手意識や、目的意識をしっかりとめさせる。 *学習の流れを確認し、見通しをもって活動できるようにする。	【知識・技能】 ◎漢字と仮名を用いた表記、送り仮名の付け方、改行の仕方を理解して文や文章の中で使うとともに、句読点を適切に打っている。また、第3学年においては、日常使われている簡単な単語について、ローマ字で表記されたものを読み、ローマ字で書いている。(I1ウ) 【思考・判断・表現】 ◎「書くこと」において、書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくらせたり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えている。(B(1)イ) 【言語活動例】 ・調べたことをまとめて報告するなど、事実やそれを基に考えたことを書く活動。(B(2)ア) 【態度】 ・積極的に、書く内容の中心を明確にし、文章の構成を考え、学習の見通しをもってリーフレットの組み立てを考えよう としている。	
					2・3	<決めよう・集めよう> 2. 課題を見つけ、伝えたいことを決める。 (1)自分が調べたい課題を見つける。 *学校図書館や各種資料をもとに取材活動を行う。 *社会科の教科書や資料などをもとに、疑問に思ったことなどから課題が設定できるようにする。 *教師が教えるのではなく、児童が発見できるようにする。 (2)見学してきたことをもとに、伝えたいことを決める。 *それぞれの見学メモが一望できるようにし、見学前に考えていた課題と見学してわかったことが比較できるようにする。 *見学してから疑問に感じたことなども調べ、メモに書く。 *何を伝えたいか(リーフレットに書きたいか)を決める際には、読む人が誰かを意識させるとよい。		
					4~6	<組み立てよう> 3. リーフレットの組み立てを考える。 (1)メモの中から取り上げたい項目を選ぶ。 *見学メモや調べたことメモの中から、特に伝えたいことを探す。P60のように、メモに「くふう①」と番号をつけるなど、メモに直接書き込みながら、取り上げる要素を考えさせる。 (2)伝えたいことが明確になるような構成・配置を考える。 *P61上段のような下書き用紙を使い、リーフレットの構成を考える。伝えたいことが明確になるような構成を児童に考えさせる。参考としてさまざまな構成(割り付け)例を提示するとよい。 *前時から使っていたメモを直接下書き用紙に貼り、構成を考えるとよい。 (3)グラフや図、写真などを整理したり、それぞれの項目と関連づけたりする。 *引用資料やグラフ、出典を適切に用いるように指導する。その際、書く内容に対してどのような図やグラフがあるとわかりやすくなるか、客観的な資料を使うことで、どのような点が明確になるかを考えさせておくようにする。		
					7・8	<書こう> 4. リーフレットを作る。 下書き用紙と見比べ、必要なことが抜けていないかを確認する。 *特に、見出し、文末表現や敬体の表現について丁寧に指導する。		
					9	<読み返そう> 5. 読み返す。 *見出しやイラストの工夫などについてもあわせて指導したい。読む人を考えた工夫がなされているかについて、再度確認する。 *かぎの使い方、直し方などを確認する。		
					10	<伝え合おう> 6. 読み合う。 *学級で交流し、伝えたいことがはっきり伝わるように書かれているか、意見を述べ合う。 *完成したリーフレットは、想定した読み手に合わせた場所に展示できるとよい。 <ふり返ろう> 7. 伝わりやすい組み立てにするために、工夫したことを振り返る。		

学期	月	時数	単元名／教材名／教科書ページ	領域	時	学習活動／＊留意点	評価規準 学習指導要領との対応
1学期	6月	2 (書く2)	学習内容 ★ここが大事／★学習用語 相手やもくてきに合わせて手紙を書こう いろいろな手紙 教科書:P64 ■手紙の書き方を知り、送る相手や伝える目的に合わせて手紙を書く。 ☆学習用語:後付け／始めの挨拶／季節の言葉／自己紹介／結びの挨拶	書く	1	1. 教材の学習の進め方を理解して見通しをもち、手紙を書くことに興味をもつ。 ＊3年時の学習『自分の気持ちを手紙に』を想起させ、その学習との違いを明確にする。 2. 封筒、はがき、電子メールのそれぞれの書式や目的の違いについて話し合う。 3. はがき、電子メールにおける手紙の構成を確認する。 ＊川上さんの手紙を読みながら、案内のはがきの構成を板書で確認する(P64の注記と対比しながら、構成を確認する)。 ＊島崎さんの手紙を読みながら、電子メールの構成を板書で確認する(P65の注記と対比しながら、構成を確認する)。	【知識・技能】 ◎丁寧な言葉を使うとともに、敬体と常体との違いに注意しながら書いている。(11)キ 【思考・判断・表現】 ◎「書くこと」において、相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にしている。(B1)ア) 【言語活動例】 ・行事の案内やお礼の文章を書くなど、伝えたいことを手紙に書く活動。(B2)イ) 【態度】 ・粘り強くまちがいを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめ、学習の見通しをもって、送る相手や伝える目的に合わせた手紙を書こうとしている。
					2	4. 誰にどのような案内やお願いをするのかを考えながら、手紙に書く事柄を決める。 ＊社会科の学習や総合的な学習の時間の活動など、学級の実態に合わせて相手や依頼の目的を設定するとよい。 5. 構成を考えながら案内の手紙またはお願いの手紙の文章を書いたり、ましがいがなが読み直したりする。 ＊季節の言葉は、子どもたちが自分で考えてもよいし、「手紙の書き方」などの類書から、教師が児童の実態に合ったものをいくつか用意しておいてもよい。 ＊時間があれば、お互いの手紙を読み合う。 6. はがきや電子メールの特徴を踏まえて、相手や目的に合った手紙を書くために、どのようなことに気をつけたか振り返る。	
1学期	6月	4 (書く1)	言葉の文化① 短歌の世界 教科書:P66 △短歌を声に出して読み、言葉のリズムにふれる。 ☆学習用語:短歌	文化	1	1. P66・67を読んで、学習のめあてをつかむ。 ＊短歌の特徴をつかみ、短歌を読み、リズムを感じたり、情景をイメージしたりすることをとおさえる。 2. 短歌の特徴を知る。 ＊P66の持統天皇の歌をもとに、音数確かめる。	【知識・技能】 ◎易しい文語調の短歌や俳句を音読したり暗唱したりするなどして、言葉の響きやリズムに親しんでいる。(3)ア) 【思考・判断・表現】 ○「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。(B1)ウ) 【言語活動例】 ・調べたことをまとめて報告するなど、事実やそれを基に考えたことを書く活動。(B2)ア) 【態度】 ・すすんで易しい文語調の短歌を音読したり暗唱したりするなどし、学習の見通しをもって、言葉のリズムを楽しんだり様子や気持ちを想像したりしようとしている。
					2・3	3. 解説を読みながら、それぞれの短歌の描き出す情景や心情を想像して音読する。 ＊写真などを手がかりにしなが、どんな情景や心情が描かれているのかを頭の中に思い浮かべさせる。 ＊リズムや響きを感じ取ることを大事にしたい。 ＊音読しての感想を自由に言わせてもよい。	
					4	4. 好きな短歌を選んで、書き写したり、感想を書いたりする。 ＊リズムを意識しながら、何度も声に出して読ませる。また、気に入った短歌を選んで、ノートに書き、友達どうしで交流させる。	
1学期	7月	2	漢字の広場② 漢字の音を表す部分 教科書:P72 △形声文字における部首と音符について知り、漢字を覚えたり使ったりするときに役立てる。 ☆学習用語:音／部首／音訓索引	漢字	1	1. 学習内容を理解し、学習の見通しをもつ。 ＊漢字の音を表す部分について知り、漢字を正しく使うことができるようになるという学習課題を確かめ、今後の学習に生かしていくよう意識づける。 2. 「持・時」「飯・板」に共通している部分がそれぞれ何を表しているか考える。 ＊全ての漢字に「音を表す部分」があるわけではない。ここでは、漢字の中には「音を表す部分」をもつものに着目できればよい。なお、「形声文字」の語は五下で学ぶ。 3. 例示する漢字の部首と音を表す部分が、それぞれ、「へん」や「つくり」など構成要素のどの位置にあるかを確かめ、話し合う。 ＊部首と同様に、音を表す部分が、偏旁冠脚のさまざまな位置にあることがわかれればよい。	【知識・技能】 ◎漢字が、へんやつくりなどから構成されていることについて理解している。(3)ウ) 【態度】 ・すすんで漢字がへんやつくりなどから構成されていることについて理解し、学習課題にそって、「音を表す部分」を漢字を覚えたり使ったりすることに役立てようとしている。
					2	4. P73の上段の設問を解き、音を表す部分への関心を深める。 ＊提示の文を各自で音読する。 ＊この学習を通して、未習の漢字でも、音を表す部分を手がかりに、経験的に読み方を推測できることに役立てればよい。 5. 漢字辞典の音訓索引を使い、音を表す部分を共通にもつ漢字の仲間を探し、ノートにまとめ、発表し合う。 ＊調べた漢字を使う熟語を集めたり、短文を作ったりするとよい。 (例)「体育館の前で水道管の工事が始まりました。」 ＊漢字辞典や巻末の『漢字を学ぼう』などを活用して調べる活動を十分に取り入れ、興味・関心を喚起できるようにする。 6. 音を表す部分の中には、文字によって音が違うものがあることを知る。 ＊「主・住・注・柱」など、例示の漢字を使う熟語を探したり、短文を作ったりして、それぞれの読み方を声に出して確かめるとよい。 (例)「主」…「主語・住所・注意・電柱」 (例)「豆」…「短期間だったが、登校の列の先頭を歩いた。」	
1学期	7月	1 (書く1)	都道府県名に用いる漢字 教科書:P74 △都道府県名に用いる漢字などを使って文を書く。 ☆学習用語:都道府県	漢字	3	5. 都道府県名に用いる漢字について学ぶ。 ＊社会科における都道府県の名称と位置についての学習と関連づけて指導する。なお、社会科と関連づけて、指導する時期や内容を意図的・計画的に位置づけるようにする。 ＊都道府県について知っていることを発表する。 ＊47ある都道府県名の読み方を確認し、覚える。 ＊新出漢字の書き方を学ぶ。 6. 都道府県名を使って文を作り、発表し合う。 ＊正しく漢字が使われているかを確かめ合う。 ＊互いの文のよいところを発表し合うようにする。	【知識・技能】 ◎第3学年及び第4学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読んでいる。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使っている。(1)エ) 【態度】 ・積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使い、学習課題にそって、都道府県名を覚えたり書いたりしようとしている。

学期	月	時数	単元名／教材名／教科書ページ	領域	時	学習活動／＊留意点	評価規準 学習指導要領との対応
			学習内容 ★ここが大事／★学習用語				
1学期	7月	2 (書く2)	3年生で学んだ漢字② 教科書:P76 △絵を見て想像したことをもとに、3年生で学んだ漢字などを使って文を書く。	漢字	4・5	7. 教科書の絵を見て、描かれている様子について説明する。 ＊P76の絵を拡大して黒板に貼っておくと、指導する事柄を児童たち全体に示しやすくなる。 ＊絵の中にある3年生で学んだ漢字の読み方を再確認する。 ＊絵に描かれたことと、言葉からわかる病院の中の様子をできるだけたくさん発表できるようにする。 8. 3年生までに習った漢字を使って、絵に描かれている様子や物、人物がしていることなどを説明する文を書く。 ＊描かれている人物と行為、場や時間の状況、物品など、視点を提示するのわかりやすい。 ＊自分が書こうとしていることが、はっきりわかるよう書き表し方を工夫するようはたらきかける。 ＊条件をつけて文を書くように促すと、記述の仕方に工夫がみられるようになる。 9. 書いた文を見直し、適切な表現に替えたり、まちがいを正したりして、発表し合う。 ＊敬体と常体が混在している場合は、読み直して、どちらかに統一するようはたらきかける。 ＊正しく漢字が使われているかどうかを確認し合う。 ＊互いの文や文章のよいところを発表し合うようにする。 10. 学習を振り返る。 ＊送り仮名の使い方や都道府県名に用いる漢字について正しく理解したり、漢字の使い方や表記などを理解できるようにしたりし、日常の言語生活にも生かしていくよう意識づける。	【知識・技能】 ◎第3学年及び第4学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読んでいる。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使っている。(1)イエ 【思考・判断・表現】 ○「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。(B1)ウ 【言語活動例】 ・詩や物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。(B2)ウ 【態度】 ・積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を使い、学習課題にそって、教科書の絵の中の言葉を使って文を書くこととしている。
1学期	7月	10 (話す聞く2)	四 落語を声に出して楽しもう 落語 ぞろぞろ 教科書:P78 □落語を読んで見つけたおもしろさが伝わるように、音読したり演じたりして楽しむ。 ★ここが大事：読み方をくふうする ★学習用語： 噺家／落語／落語家／話芸／聞き手／繰り返し／せりふ／言葉づかい／音読記号／間／話し手／話し言葉	読む	1	<見通しをもとう> 1. 学習の見通しをもつ。 (1)単元扉とP78を読み、伝統芸能「落語」について知る。 ＊「話芸」、「落語家(噺家)」、「落ち」などの言葉と意味を知り、落語に対する興味を高める。 (2)落語『ぞろぞろ』の音声を見て、映像を見て、友達と感想を伝え合う。 ＊できるだけ実際の落語を見せるなどして、落語のおもしろさにふれることを大事にする。	【知識・技能】 ◎相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話している。(1)イ ◎文章全体の構成や内容の大体を意識しながら音読している。(1)カ 【思考・判断・表現】 ○「読むこと」において、登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えている。(C1)イ ○「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりや結び付けて具体的に想像している。(C1)エ ◎「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。(C1)オ ◎「読むこと」において、文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付いている。(C1)カ
					2	<たしかめよう> 2. 話の全体をつかむ。 (1)落語の特徴の一つである「繰り返し」に着目する。 ＊繰り返しの効果を考えながら声に出して読むようにする。 (2)場面の様子や登場人物のやり取りを想像して読む。 ＊登場人物のやり取りを具体的に想像して、せりふの言い方などをイメージする。	
					3～5	<くわしくみよう> 3. 場面の様子や登場人物の気持ちを想像して読み、おもしろいところを見つける。 (1)茶店のじいさんの「お稲荷さんのご利益」に対する考え方は、落語のはじめと終わりでどのように変わったかを考える。 (2)茶店のじいさんのせりふと、床屋の親方のせりふを手がかりに、二人がそれぞれどのような様子や気持ちなのかを想像する。	【言語活動例】 ・詩や物語などを読み、内容を説明したり、考えたことなどを伝え合ったりする活動。(C2)イ 【態度】 ・すすんで場面の様子や登場人物の気持ちを具体的に想像して読み、おもしろいと思ったところを伝え合い、今までの学習を生かして落語を音読したり演じたりして楽しもうとしている。
					6・7	<まとめよう> 4. おもしろいと思ったところについて、なぜそう思ったのか、自分なりの理由を考える。 ＊落ち、言葉のくり返し、話の構成、話し方など、おもしろいと思った理由を具体的に示せるようにする。 ＊音読したり、演じたりするときに、いちばん盛り上げたいところはどの場面かを考えさせ、自分が演じてみたい場面や人物にしぼって練習や発表をするようにつなげていく。	
					8・9	<つたえあおう> 5. みつけたおもしろいところが伝わるように、音読したり落語のように演じたりする。 (1)おもしろいところが伝わるように、工夫して音読したり、演じたりする。 ＊読むときにどのような工夫ができそうか、実際の落語を見たり聞いたりして、噺家の話し方のおもしろいところや上手だったことを話し合わせるように。 ＊P93の音読記号や読むときの気持ちを書きこんだ音読台本を作って、読み方の工夫を具体化する方法もある。 ＊P94「言葉」とP95「ここが大事」を確認し、顔の向きや登場人物に応じて話し方を変えるなどの工夫をする。 (2)友達工夫しているところを見つけ、感想を伝え合う。	
					10	<ふり返ろう> 6. おもしろいと思ったところを伝え合った活動を振り返り、感想をノートに書く。 ＊読み方を工夫するときに気をつけたことを振り返る。 ＊P95「本を読もう」の落語の本を紹介し、興味関心を深める。	

学期	月	時数	単元名／教材名／教科書ページ	領域	時	学習活動／＊留意点	評価規準 学習指導要領との対応
1学期	7月	1	<p>学習内容</p> <p>★ここが大事／★学習用語</p> <p>読書の広場② ひろがる読書の世界 教科書:P96</p> <p>△「本について語り合う」、「同じ作者の本を読む」という学習活動を通して、幅広く読書に親しむ。</p>	読書	1	<p>1. 「本について語り合う」、「同じ作者の本を読む」という学習内容を捉え、学習の見直しをもつ。</p> <p>2. 学校の図書室や地域の図書館などで、興味のある本を借りて、本について語り合ったり、今まで読んできた本を「読書りれき」などを活用して振り返り、印象に残っている本を書いた作者の別の作品を読んでみたりする。 ＊夏休みの宿題との関連などが考えられる。</p> <p>3. 学習を振り返る。</p>	<p>【知識・技能】</p> <p>◎幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付いている。(3才)</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>○「読むこと」において、文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付いている。(C1)カ)</p> <p>【言語活動例】</p> <p>・詩や物語などを読み、内容を説明したり、考えたことなどを伝え合ったりする活動。(C2)イ)</p> <p>【態度】</p> <p>・読書生活を振り返り、読みたい本を選んだり、これからの読書生活を考えたりしている。</p>
2学期	9月	6 (話す聞く6)	<p>五 話の組み立てを考えて発表しよう</p> <p>写真から読み取る 教科書:P98</p> <p>◇伝えたいことをはっきりさせて、理由や事例などをあげながら筋道を立てて話す。</p> <p>★ここが大事:写真から読み取ったことを話す</p>	話聞	1	<p><見直しをもとう></p> <p>1. 単元名やリード文を読み、話の組み立てを考えて発表するというめあてについて確認し、学習計画を立てる。</p>	<p>【知識・技能】</p> <p>◎考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解している。(2ア)</p>
					2	<p><決めよう・集めよう></p> <p>2. 話すための写真を選ぶ。 ＊p.98・99の4枚の写真を見て、写っているもの、写真の撮り方の特徴を話し合って整理する。</p>	<p>【思考・判断・表現】</p> <p>○「話すこと・聞くこと」において、相手に伝わるように、理由や事例などを挙げながら、話の中心が明確になるよう話の構成を考えている。(A1)イ)</p>
					3	<p><組み立てよう></p> <p>3. 読み取ったことを整理し、組み立てを考える。 (1) p.100を参考に読み取れることをメモにまとめ、組み立てを考える。 ＊写真を見て気づいたことや想像したことをメモにまとめる。 ＊メモをもとに、話す構成を考える。 ＊北原さんの発表を参考にして、話す練習をする。 ＊グループで聞き合い、感想や意見を交流する。</p>	<p>【言語活動例】</p> <p>・説明や報告など調べたことを話したり、それらを聞いたりする活動。(A2)ア)</p> <p>【態度】</p> <p>・粘り強く、理由や事例などを挙げながら話の中心が明確になるように構成を考え、学習の見直しをもって、写真から読み取ったことを話そうとしている。</p>
					4	<p><話そう・聞こう></p> <p>4. 発表する。 (1) メモをもとに写真を見せながら発表する。 ＊教科書の写真を使って発表するだけでなく、自分で撮影した写真や、探してきた写真をもとにして話す活動も取り入れる。その際も同様の流れを踏まえる。 ・写真を決める。 ・写真から読み取ったことをメモにまとめる。 ・メモをもとに話す構成を考える。 ・発表し合う。</p>	
					5	<p><伝え合おう></p> <p>5. 感想を伝え合う。 (1) 自分や友達の発表を振り返る。 ＊写真のどの部分からそう考えたのか、相手にわかるように発表することができたか、人によっていろいろな見方や考え方があったかどうか確かめる。</p>	
					6	<p><ふり返ろう></p> <p>6. 学習を振り返る。</p>	

学期	月	時数	単元名／教材名／教科書ページ	領域	時	学習活動／＊留意点	評価規準 学習指導要領との対応
2学期	9月	5 (書く5)	<p>六 集めたざいりょうでわかりやすく伝えよう 作るう学級新聞 教科書:P102</p> <p>■割り付けを工夫して、わかりやすい紙面の新聞を作る。</p> <p>★ここが大事：新聞で伝える</p> <p>☆学習用語：新聞／見出し／題名／発行日／ 発行者／トップ記事／割り付け／消書／下書き ／読み返す</p>	書く	1	<p><見直しをもとう></p> <p>1. 新聞の作り方を読んで作り方の流れを知り、学習の見直しをもつ。</p> <p>(1)教科書の新聞例から、どんな工夫をしているか話し合う。</p> <p>* 一般紙や子ども新聞と比較する。できれば子ども新聞のほうが読みやすい。</p> <p>* 新聞をとっていない家庭もあるので学校で準備するとよい。</p> <p>(2)教科書の新聞の作り方を読んで、活動の流れを確認する。</p> <p>* 割り付け、トップ記事、題名、見出しなど、新聞を書くうえで必要な事項を確認する。</p> <p>* 情報の重要度によって、記事の大きさや位置を工夫していることを確認する。</p> <p>* 写真や図表の効果について確認する。</p> <p><決めよう・集めよう></p> <p>2. 知らせたいことを決め、調べる。</p> <p>(1)記事を書くために取材をする。</p> <p>* 相手や目的に応じて何を書くのかを考えさせる。</p> <p>* 相手に応じて取材する内容を考えさせる。</p>	<p>【知識・技能】</p> <p>◎漢字と仮名を用いた表記、送り仮名の付け方、改行の仕方を理解して文や文章の中で使うとともに、句読点を適切に打っている。また、第3学年においては、日常使われている簡単な単語について、ローマ字で表記されたものを読み、ローマ字で書いている。(11ウ)</p> <p>◎考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解している。(12ア)</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>◎「書くこと」において、相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にしている。(B11ア)</p> <p>【言語活動例】</p> <p>・調べたことをまとめて報告するなど、事実やそれを基に考えたことを書く活動。(B12ア)</p> <p>【態度】</p> <p>・粘り強くまちがいを正したり文章を整えたりし、学習の見直しをもって新聞を作ろうとしている。</p>
					2	<p><組み立てよう></p> <p>3. 記事の割り付けを考える。</p> <p>* 新聞の内容、目的に合わせて、トップ記事を決めさせる。</p> <p>* 誰がどの記事を書くかの分担を決めさせる。</p> <p>* 伝えたいことの中心を決めて、簡潔に一文を短くして書くよう指導する。</p> <p>* 記事の順番や大きさなどの違い、また、どんな写真を選ぶかなどによって、読み手に与える印象が変わってくるなどについても意識させる。(メディア学習の観点)</p>	
					3	<p><書こう></p> <p>4. 記事の下書きをする。</p> <p>* 伝えたいことの中心を決めて、簡潔に一文を短くして書くよう指導する。</p>	
					4	<p><読み返そう></p> <p>5. 読み返して、消書する。</p> <p>* 書き方がわかりやすいかどうか、交流をさせるようにする。</p> <p>* 記事の見出しのつけ方やデザインの仕方によって印象が変わってくるなどについても理解できるようにしたい。(メディア学習の観点)</p>	
					5	<p><伝え合おう></p> <p>6. 新聞を読み合う。</p> <p>* 学級で交流し、伝えたいことがはっきり伝わるように書かれているか、意見を述べ合う。</p> <p>* 国語の授業や他教科等の学習に生かすようにする。</p> <p><ふり返ろう></p> <p>7. どのところを工夫して、資料を集めたり、新聞を作ったりしたか振り返る。</p>	
2学期	9月	2	<p>漢字の広場③ 送りがなのつけ方 教科書:P106</p> <p>△送り仮名は、漢字の読みや意味をはっきりさせるはたらきをもつことを理解し、漢字を正しく使う。</p> <p>☆学習用語：送り仮名</p>	漢字	1	<p>1. 学習内容を理解し、学習の見直しをもつ。</p> <p>* 送り仮名のつけ方について理解し、漢字を正しく使うことができるようになるという学習課題を確かめ、今後の学習に生かしていくよう意識づける。</p> <p>* 三上『漢字の広場③ 送りがな』で学んだ内容の定着状況を把握しておく。</p> <p>2. 言い方によって形が変わる言葉の送り仮名を考える。</p> <p>* 「ふつうの言い方」「ていねいな言い方」「動作を打ち消す言い方」「動作がすんだことを表す言い方」などの観点をもとに、送り仮名の違いを考える。</p> <p>* 動詞として使われる漢字について、活用によって送り仮名がどう変わるのかを具体的に考え、的確に読み書きできるようにしていきたい。</p> <p>3. 送り仮名に着目し、常体を敬体に変えて、話し合う。</p> <p>* それぞれの語を使い短文を作り、比較するとよい。</p> <p>(例)わたしは、きのう、本を読まなかった。 わたしは、きのう、本を読みませんでした。</p> <p>* 活用語尾を送るという送り仮名の原則的なつけ方についての理解を深め、活用についての意識がもてるようにする。</p>	<p>【知識・技能】</p> <p>◎漢字と仮名を用いた表記、送り仮名の付け方、改行の仕方を理解して文や文章の中で使うとともに、句読点を適切に打っている。また、第3学年においては、日常使われている簡単な単語について、ローマ字で表記されたものを読み、ローマ字で書いている。(11ウ)</p> <p>【態度】</p> <p>・すすんで送り仮名の付け方を理解して文や文章の中で使いい、学習課題にそって、漢字を正しく使おうとしている。</p>
2	<p>4. P107の上段の設問を解き、例文を常体と敬体、肯定と否定、現在形と過去形などにそれぞれ書きかえ、送り仮名を確認する。</p> <p>* 常体と敬体、肯定と否定、現在形と過去形などの別に基づく動詞の語形変化の法則性を経験的に理解できるようにする。</p> <p>5. 訓読みが複数ある漢字について、送り仮名によって読み方と意味を使い分けることについて習熟を図る。</p> <p>* 今後の新出漢字の学習で、送り仮名がつくものについては、送り仮名に注意して書くことができるよう、この教材で意識化できるようにしておく。</p> <p>6. 動詞として使われる漢字を集め、活用によって送り仮名がどう変わるかを調べ、発表する。</p> <p>* 発表に際しては、意味の通る短い文で書き表すようはたらきかけたい。</p>						

学期	月	時数	単元名／教材名／教科書ページ	領域	時	学習活動／＊留意点	評価規準 学習指導要領との対応
			学習内容 ★ここが大事／★学習用語				
2学期	9月	2 (書く)	3年生で学んだ漢字⑩ 教科書:P108 △絵を見て想像したことをもとに、3年生で学んだ漢字などを使って文を書く。	漢字	3・4	7. 教科書の絵を見て、描かれている様子について説明する。 ＊P108の絵を拡大して黒板に貼っておくと、指導する事柄を児童たち全体に示しやすくなる。 ＊絵の中にある3年生で学んだ漢字の読み方を再確認する。 ＊絵に描かれたことと、言葉からわかる教室の様子をできるだけたくさん発表できるようにする。 ＊席の近くの友達と、クラスの友達とよいところについて、話し合うとよい。 8. 3年生までに習った漢字を使って、絵に描かれている様子や物、人物がしていることなどを説明する文を書く。 ＊自分が書くこととしていることが、はっきりわかるよう書き表し方を工夫するようはたらきかける。 ＊条件をつけて文や文章を書くように促すと、記述の仕方に工夫が見られるようになる。 9. 表現を改めたり、書きまがいがいなどを正したりして、書いた文を発表し合う。 ＊敬体と常体が混在している場合は、読み直して、どちらかに統一するようはたらきかける。 ＊正しく漢字が使われているかを確認し合う。 ＊互いの文や文章のよいところを発表し合うようにする。 10. 学習を振り返る。 ＊漢字の音を表す部分について正しく理解したり、漢字の使い方や表記などを理解できるようにしたりし、日常の言語生活にも生かしていくよう意識づける。	【知識・技能】 ◎第3学年及び第4学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読んでいる。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使っている。(1)エ 【思考・判断・表現】 ○「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。(B1)ウ) 【言語活動例】 ・「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。(B1)ウ) 【態度】 ・積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を使い、学習課題にそって、教科書の絵の中の言葉を使って文を書くこととしている。
2学期	9～10月	9 (書く)	七 場面の様子をくらべて読み、感想をまとめよう 一つの花 教科書:P110 □場面の様子を比べて読み、感想を伝え合う。 ★ここが大事: 文章中の大切な言葉について考える ★学習用語: 物語／場面／感想文／題名／比べる／登場人物／あらすじ／戦争の時代を表す言葉・文	読む	1・2	<見通しをもとう> 1. 単元扉を読んで、学習の見通しをもつ。 ＊場面の様子を比べながら人物の思いを想像して読み、物語の感想文を書くという単元の見通しをもたせる。 <たしかめよう> 2. 場面の様子を大きく捉え、物語の全体像をつかむ。 (1)「一つの花」という題名から、どのようなことを想像したか、友達と話し合う。 ＊既に本文を読んでいる、内容を知っている児童が多い場合は、「一つ」という言葉を意識化させて、その印象を話し合わせてもよい。 (2)この物語がどのようなお話なのか、次のことに注意しながら、確かめる。 ●どのような人物が出てくる物語か。(登場人物) ●いつの時代の物語か。(時代背景) ●どのようなできごとが起きたか。(あらすじ) (3)初発の感想をまとめる。	【知識・技能】 ◎様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにしている。(1)オ) ◎考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解している。(2)ア) 【思考・判断・表現】 ○「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりや結び付けて具体的に想像している。(C1)エ) ◎「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。(C1)オ) 【言語活動例】 ・詩や物語などを読み、内容を説明したり、考えたことなどを伝え合ったりする活動。(C2)イ)
					3～6	<くわしくよう> 3. 戦争中と十年後の場面を比べながら、ゆみ子の様子や、お父さんとお母さんの思いを読み、文章中に繰り返し出てくる「一つ」という言葉の意味を考え、話し合う。 (1)戦争中と十年後の場面を、次のような観点で比べて、表などに整理し、考えたことを話し合う。 ●お父さんとお母さん ●ゆみ子 ●ゆみ子の家 ●その他(食べ物など) ＊教科書に示されている観点の他に、子どもたちから出てきた観点も適宜取り上げる。 ＊「ゆみ子のしたこと」や「お父さん・お母さんのしたこと」は、本文中から具体的に(要約して)引用する。 (2)題名「一つの花」と文章中に繰り返し出てくる「一つ」という言葉が、それぞれどのような意味で使われているのか考え、話し合う。 ＊思いつきや感想ではなく、前時までの学習を踏まえて、根拠をはっきりさせながら考えを発表し合う。 ＊戦争中の場面では「一つ」「一つだけ～」などの言葉が頻出している。一方、十年後の場面では、「一つ」という言葉は出てこず、「いっぱい」「お話ししているかよう～」「お肉とお魚と、どっち～」となっている。「戦争中」と「戦後」を比べることを通して、「一つ」の意味を考える。 ＊「願いや気持ち」は、はっきりした記述がない。本文から離れすぎずとはいえないが、読み手の推測が入った記述になってもよいこととする。	【態度】 ・すすんで場面の様子を比べて読み、大切な言葉から作品に込められたメッセージや作者の思いを積極的に想像し、今までの学習を生かし、自分の考えたことや感想を感想文に書いて、伝え合おうとしている。
					7・8	<まとめよう> 4. 題名「一つの花」と、文章に出てくる「一つ」という言葉の意味について考えたことがわかるように、心に残った場面やできごとをはっきりさせて、物語の感想文を書く。 ＊P121に感想文の書き方の例がある。内容を一、二点にしぼり、特に心に残った場面やできごとについて書くようにする。 ＊「ここが大事」を確認し、題名や文章中で繰り返し出てくる言葉に着目して作品に込められたメッセージや作者の思いについて考え、自分の感想や考えがわかるように書くようにする。	
					9	<つたえあおう> 5. 書いた感想文を友達と読み合う。 <ふり返ろう> 6. 学習を振り返る。 (1)詳しく読む前と読んだ後で、物語に対する感じ方がどのように変わったか振り返る。 ＊初発の感想と読み深めた後の感想の違いを意識させる。 (2)感想文を書くときに気づけたことはどんなことが振り返る。 ＊伝える相手は友達である。互いに物語の内容を知っているという前提で、自分の思いや考えがわかるように書くことが大切であると意識させる。	

学期	月	時数	単元名／教材名／教科書ページ	領域	時	学習活動／＊留意点	評価規準 学習指導要領との対応
			学習内容 ★ここが大事／★学習用語				
2学期	10月	2	言葉の広場② 修飾語 教科書:P124 △文の中での修飾語のはたらきを理解する。 ★学習用語:修飾語／主語／述語	言語	1	1.冒頭の会話文を通して、修飾語のはたらきの違いに気づく。 ＊冒頭の会話文から、二人の感心していることが違うと受け取れるのは、文のどの部分が異なっているからか発表させる。 ＊修飾語が異なることに関心をもたせ、文意の違いを考えさせる。 2.教材文を読み、修飾語とは何か、どのようなはたらきの言葉かを理解する。 ＊前学年の学習では、内容を詳しくするという修飾語のはたらきを学んだが、ここでは何を詳しくするのかによって修飾語が分類できることを理解させる。	【知識・技能】 ◎主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解している。(1)(カ) 【態度】 ＊すすんで修飾と被修飾との関係について理解し、学習の見直しをもって、修飾語を見ついたり、修飾語の種類を見分けたりしようとしている。
					2	3.設問に取り組み、修飾語を見つたり、修飾語の種類を見分けたりする。 ＊上段の問題では、「どんな」「どのように」「何を」などを指標にしながら修飾語を正しく抜き出させるようにする。 ＊下段の問題では、各修飾語が直後の(体言を含む)文節に係るのか、文末の(用言を含む)文節に係るのか見分けるとともに、それが「どんな」にあたるのか、「どのように」にあたるのか考えさせる。 4.学習を振り返る。 ＊教科書の説明を読んで、複数の文節がまとまって一つの修飾語になることもあるということを確認しておく。	
2学期	10月	6 (書く6)	八 自由に想像を広げて書こう 作ろう！「ショートショート」 教科書:P126 ■不思議な言葉を作り、想像を広げて「ショートショート」を書く。 ★ここが大事:不思議な物語を作る ★学習用語:ショートショート／物語／中心人物／登場人物／場面／始め／中／終わり	書く	1	<見通しをもとう> 1.「学習の進め方」を読み、学習の見通しをもつ。 ＊学習の流れを知り、単元のゴールを明確にする。児童に「書きたい」という気持ちが生まれるよう言葉がけをする。 ＊巻末付録『レモン自転車』を読み、「ショートショート」とはどんなお話か、どんなおもしろさがあるかを確認する。	【知識・技能】 ◎漢字と仮名を用いた表記、送り仮名の付け方、改行の仕方を理解して文や文章の中で使うとともに、句読点を適切に打っている。また、第3学年においては、日常使われている簡単な単語について、ローマ字で表記されたものを読み、ローマ字で書いている。(1)(ウ) 【思考・判断・表現】 ◎「書くこと」において、相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にしている。(B)(1)(ア) 【言語活動例】 ・詩や物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。(B)(2)(ウ) 【態度】 ・積極的に、相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりし、学習の見直しをもって「ショートショート」を書こうとしている。
					2	<決めよう・集めよう> 2.組み合わせを工夫して不思議な言葉を作り、想像を広げる。 (1)いろいろなもの名前などを十個探して書く。 ＊まずは思いつく名詞を十個ワークシートに書かせる。書く名詞に関連性や規則性をもたせる必要はない。自由に楽しんで書かせる。 (2)言葉の一つを選び、その言葉から思いつくことを自由に書く。 ＊名詞の中から一つを選び、思いつくことを自由に書く。書く言葉に制限などは設けず、自由な発想を大事にして書かせる。 (3)言葉を組み合わせ、不思議な言葉を作る。 ＊不思議な言葉が完成したら、そのものの絵を描かせて、更に想像を膨らませるとよい。 (4)不思議な言葉から想像を広げる。 ＊一人で考えるのではなく、二人組やグループでの活動をクラスの実態に応じて取り入れる。友達の意見を聞くことで、発想が更に広がることも期待できる。 ＊ワークシートに欄はないが、「よいこと」「悪いこと」以外に思いついたことも書かせてもよい。	
					3	<組み立てよう> 3.設定や物語の展開を考える。 ＊ワークシートにそって「中心人物」「登場人物」「いつ」「どこで」「どんなことか」など、場面設定や展開を考えさせる。これまで学習してきた教科書教材を教師が例として板書してもよい。 ＊ワークシートの設問「それから？」にそって展開を考えさせる。また、前時のワークシートを見直ししながら、結末を決める。友達とヒントを出し合いながら考えさせてもよい。	
					4	<書こう> 4.想像を広げながら、「ショートショート」を書く。 ＊話のまとまりを意識させる。 ＊文章量はクラスの実態によるが、「ショートショート」であるということを踏まえ、400字程度にするとよい。クラスの様子や児童の実態に合わせて、字数は増減させる。 ＊時間があれば、挿絵を描かせてもよい。	
					5	<読みかえよう> 5.読み返す。 ＊場面の様子や会話文、心の声を書きたすように促す。 ＊場面ごとに段落を変えるなど、段落を意識させる。	
					6	<伝え合おう> 6.友達と読み合い、感想を伝え合う。 ＊交流し、友達の作品の内容面・記述面、両方で感想を言わせる。 ＊コメントカード、本の帯などクラスの様子に合わせて活用して、交流させる。 ＊交流の観点(不思議な言葉のアイデアや結末のおもしろさ・会話文や登場人物の心情の表現など)を決めて交流させるとよい。 ＊例えば、完成作品は、2週間程度学校図書館に置き、異学年の児童が読めるようにする。その際、感想カードを記入してもらうようにすることで児童の意欲も向上する。 <ふり返ろう> 7.想像を広げるために、どんなところを工夫したか振り返る。 ＊振り返りでは「何を学んだのか」「どこを工夫すると、よりよい作品ができたのか」などについて、学習過程を振り返るようにする。	

学期	月	時数	単元名／教材名／教科書ページ	領域	時	学習活動／＊留意点	評価規準 学習指導要領との対応
			学習内容 ★ここが大事／★学習用語				
2学期	10月	1	言葉の文化② 「月」のつく言葉 教科書:P132 △昔から「月」に対してさまざまな呼称があったことを知り、「月」に関する言葉を集める。 ☆学習用語:月のつく言葉／国語辞典／漢字	文化	1	1. 教材文を読み、「月」の呼称について知る。 ＊教科書の写真や理科図鑑などを活用して、さまざまな「月」の呼称について知らせる。 2. 教材文末の言葉について国語辞典などを調べたり、さらに「月」に関わるさまざまな言葉や表現を調べてノートに書き、友達と交流する。 ＊辞典を利用して調べる方法を身につけさせる。また、その結果を、互いに交流させる。	【知識・技能】 ◎長い間使われてきたことわざや慣用語、故事成語などの意味を知り、使っている。(3)イ 【思考・判断・表現】 ○「書くこと」において、相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア) 【言語活動例】 ・調べたことをまとめて報告するなど、事実やそれを基に考えたことを書く活動。(B(2)ア) 【態度】 ・すすんで「月」に関わる言葉を音読するなどして言葉の響きやリズムに親しみ、学習の見通しをもって「月」に関する言葉を集めようとしている。
2学期	10月	1 (書く1)	国語の学習 つながる ひろがる 教科書:P134 ■一年間の国語学習を振り返ったり、これからの学習について考えたりして、すすんで学習できるようにする。	語文	1	1. 半年間の国語の学習を振り返り、自分が学んできたことを書き出したり話し合ったりする。 ＊上巻の教科書、学習のノート、作成物、プリント類(ポर्टフォリオ)などから振り返ることができるようにする。 ＊挿絵やふきだし、「四年生で学ぶこと」を参照する。 ＊楽しかったことを中心に思い出させる。 ＊心に残っている単元や教材、学習活動、また心に残っている言葉などを具体的に書き、発表し合う。 ＊友達の発表を共感して聞き、交流し、学んできたことを共有できるようにする。 2. 1で出したことが、他教科や生活の中で、どんなことに生かしているか考える。 ＊国語の学習がさまざまな場面で生かされることに気づけるようにする。	【知識・技能】 ◎相手を見て話したり聞いたりしていると、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話している。(1)イ 【思考・判断・表現】 ○「話すこと・聞くこと」において、話の中心や話す場面を意識して、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫している。(A(1)ウ) ◎「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。(B(1)ウ) 【態度】 ・すすんで話の中心や話す場面を意識して、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫し、今までの学習を生かして、上巻の教科書での国語の学習を振り返ったり下巻の教科書での国語の学習への希望を話し合ったりしようとしている。
2学期	10月	8 (書く2)	一 登場人物の気持ちの変化を考えて、日記を書こう ごんぎつね 教科書:P8 □登場人物「ごん」の気持ちを詳しく想像して読み、気持ちの変化がわかるように「ごん日記」を書く。 ★ここが大事:情景を読む ☆学習用語:物語／気持ち／場面／始め／日記／題名／言葉／説明する／登場人物／中心人物／情景／情景描写／二つの言葉が組み合わさってきた言葉	読む	1	<見通しをもとう> 1. 単元扉を読んで、学習の見通しをもつ。 ＊単元扉にある「おれと同じ、ひとりぼっちの兵十か。」に着目させ、想像したことを発表させる。 ＊作品との出会い、教師の範読などでもよい。 ＊初発の感想を簡単に書かせておくとよい。	【知識・技能】 ◎様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにしている。(1)オ) 【思考・判断・表現】 ◎「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。(C(1)エ) ○「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。(C(1)オ) 【言語活動例】 ・詩や物語などを読み、内容を説明したり、考えたことなどを伝え合ったりする活動。(C(2)イ) 【態度】 ・すすんで、登場人物の気持ちの変化や情景について場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像し、学習課題にそって登場人物になりきって、気持ちの変化がわかるように日記を書こうとしている。
				2-3	<たしかめよう> 2. 登場人物を確認し、作品の全体像を捉える。 (1)「1」の場面を読んで登場人物を確認し、ごんと兵十がそれぞれどのような人物か考え、話し合う。 ＊物語では、冒頭場面で登場人物が紹介されていることが多い。それぞれどのような人物として紹介されているかを丁寧に読み取ることが、後の深い読みにつながる。 (2)始めと終わりの場面を比べて、ごんと兵十の関係がどのように変わっているかを考え、ノートにまとめて紹介し合う。 ＊中心人物の一人であるごんに着目し、その様子や気持ちの変化を大きく捉えさせる。		
				4-6	<くわしくよう> 3. ごんの気持ちの移り変わりを読む。 (1)ごんの気持ちがわかる表現をノートに書き出し、気持ちの移り変わりを話し合う。 ＊「ここが大事」を読んで、情景描写の中には、人物の気持ちが想像できるようなものがあることを確認し、ごんの気持ちが具体的に想像できる情景描写がないか気をつけて読む。 ＊ごんが慣れ始めたきつかけを考える。 (2)もう一人の中心人物である兵十のごんに対する気持ちを考える。 (3)ごんと兵十の関係の変化を読む。 ＊最初に、文章中の表現からごんの気持ちの移り変わりを捉え、それに対して兵十がどのように思っているかを考えさせる。ごんの気持ちの変化を、兵十との関係の変化と結びつけて考えさせる。 ＊ごんの気持ちは兵十に近づいているが、それに対して兵十のごんに対する思いは、ごんを撃つまで変わっていないことに気づかせる。		
				7	<まとめよう> 4. もしもごんが日記を書いていたら、どのような日記になるかを想像して、「ごん日記」を書く。 ＊作品全体を読み直して、ごんの気持ちの変化を見直すときよい。日記の内容が、作品に対する主題の捉えにつながっていく。 ＊てびき下段にある日記の例を参考にし、ごんと兵十の関係がわかるように書く。		
				8	<つたえあおう> 5. 日記を見せ合って、感想を伝え合う。 ＊書いた日記を見せ合うと、それぞれが「ごんぎつね」という物語をどのように読み、受け止めたかがわかってくる。共通点や相違点を考えながら日記を見せ合わせるようにする。 <ふり返ろう> 6. 学習を振り返る。 (1)登場人物の変化を考えると、どのようなことに気をつけたか振り返る。 (2)日記を書くときに、どのようなことに気をつけたか振り返る。 ＊今までの学習を振り返るには、まとめたノートやワークシートなどを見直すとともに、自分の書いた日記をもとに、物語をどのように受け止めたかを改めて考えさせるようにする。		

学期	月	時数	単元名/教材名/教科書ページ	領域	時	学習活動/*留意点	評価規準 学習指導要領との対応
			学習内容 ★ここが大事/★学習用語				
2学期	11月	5	読書の広場③ 「読書発表会」をしよう 教科書:P30 △紹介したい本を何冊か選び、「読書発表会」を行い、読書の幅を広げる。 ☆学習用語:組み立て/ブックトーク/物語/記録/題名/あらすじ/読書発表会	読書	1・2	1. 「読書発表会」でテーマにそって本を紹介するという学習内容をつかみ、学習の見直しをもつ。 2. 紹介したい本を選び、「読書発表会」の準備をする。 (1) 発表のテーマにそった本を集める。	【知識・技能】 ◎幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付いている。(3才)
					3・4	(2) 紹介する本の順番を決め、組み立てメモをもとに、発表内容を考える。 (3) 発表の原稿を作成する。	【思考・判断・表現】 ◎「読むこと」において、文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付いている。(C11カ)
					5	3. 「読書発表会」をする。 4. 学習を振り返る。	【言語活動例】 ・詩や物語などを読み、内容を説明したり、考えたことなどを伝え合ったりする活動。(C2イ) ・学校図書館などを利用し、事典や図鑑などから情報を得て、分かったことなどをまとめて説明する活動。(C2ウ) 【態度】 ・ブックトークに向けて、すすんで本を集めたり発表内容を考えたりし、粘り強く活動に取り組んでいる。
2学期	11月	4 (話す聞く1)	言葉の広場③ 言葉が表す感じ、言葉から受ける感じ 教科書:P34 △言葉や音が表すイメージや、イメージに即した言葉を考えたりすることによって、言葉の特性について考える。	言語	1	1. 「言葉」について学ぶという学習内容を理解して、学習の見直しをもつ。 *言葉や音が表す感じや言葉から受ける感じについて考えたり、言葉を作ったりすることを通して、言葉の特性について理解するという学習の見直しをもたせる。 2. 犬や身近なものを表す名前などをもとに、言葉から受けるイメージについて考えて、話し合う。 *「子口」という言葉から受けるイメージについて考え、また、なぜそのようなイメージが生じるのかについて考える。 *言葉から受けるイメージが、誰でも共通のことなのかどうかなどについて確かめる。	【知識・技能】 ◎言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付いている。(11ア)
					2	3. 擬声(音)語や擬態語をもとに、音とイメージの関係について考える。 *それぞれの擬声(音)語・擬態語によってどのような感じ方の違いが生じるかを確かめさせる。 *清音と濁音・半濁音の感じ方の違いにも気づかせる。	【思考・判断・表現】 ○「話すこと・聞くこと」において、相手に伝わるように、理由や事例などを挙げながら、話の中心が明確になるよう話の構成を考えている。(A11イ)
					3・4	4. 「強そう名前」「はじける感じ」など、言葉(音声)と感覚の結びつきについて考え、話し合う。 *形や大きさ・色・硬さなど、具体的に想定することが前提になる。自由に発想させる。 5. 自分でお菓子の名前を考えて、意味や気持ちなどが共有できるかどうか確かめる。 *想定したお菓子のどのような性質・特徴を表した名前なのかを認識させる。 6. 意味や気持ちを伝えられる言葉とそうでないものについて考え、言葉の特性について理解する。 *自分で考えたイメージを表す名前が、他者に通じるものなのか考えたり、どうしたら通じるようになるのか考えたりすることが大切である。 7. 学習を振り返る。 *言葉の性質やおもしろさ、他者とイメージを共有させることのおもしろさ、また共有できないときの難しさなどを意識させる。	【言語活動例】 ・互いの考えを伝えるなどして、グループや学級全体で話し合う活動。(A2ウ)
					8	<決めよう・集めよう> 2. 誰とどんな新スポーツをやりたいかを考え、クラスで話し合う新スポーツについて決める。	【態度】 ・すすんで、言葉には考えたことや思ったことを表すはたらきがあることに気づこうとし、学習課題にそって、言葉がもつイメージについて考えようとしている。
2学期	11月	8 (話す聞く8)	二 役わりに気をつけて話し合おう みんなが楽しめる新スポーツ 教科書:P38 ◇司会者や発言者などの役割を果たしながら、話し合いの進行に合わせ、互いの考えを伝え合って話し合う。 ★ここが大事:役わりに気をつけて話し合う ☆学習用語:役割/司会/記録係/質問/意見/課題/発言者/提案者/話し合い/メモ/賛成/共通点/反対/説明/理由	話聞	1	<見直しをもとう> 1. 単元名やリード文を読み、役割を決めたり、進行に従って話したりする方法について話し合い、学習の見直しをもつ。 (1)これまでのクラスの話し合いを振り返る。 (2)これまでにどんなことを話し合ったか話し合う。	【知識・技能】 ◎考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解している。(2ア) ◎比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使っている。(2イ)
					2	<決めよう・集めよう> 2. 誰とどんな新スポーツをやりたいかを考え、クラスで話し合う新スポーツについて決める。	【思考・判断・表現】 ◎「話すこと・聞くこと」において、目的や進め方を確認し、司会などの役割を果たしながら話し合い、互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめている。(A11オ)
					3	<組み立てよう> 3. 役割を決め、進行について打ち合わせをする。 (1)これまでの話し合いの仕方や結果などのよかった点・問題点などを話し合う。 (2)それぞれの役割が何をするのか確認する。 *時間配分を確認し、教科書の「進行」と「話し合い例」をもとに、自分たちのクラス用の簡単な台本を作成する。 *台本をもとにロールプレイを行う。	【言語活動例】 ・互いの考えを伝えるなどして、グループや学級全体で話し合う活動。(A2ウ)
					4・5	<話そう・聞こう>(重点) 4. 役割に気をつけて、クラスで話し合う。 (1)教科書を読み、P40~42の例をもとに学習の流れをつかむ。 (2)新ゲームを決める話し合い(1回め)を行う。	【態度】 ・積極的に目的や進め方を確認し、司会などの役割を果たし、学習の見直しをもってクラスで話し合おうとしている。
					6・7	5. 話し合いを振り返る。 (1)P40~42の話し合いをもう一度読み、どこがよいのか発表し、役割ごとの留意点を確認する。 (2)話し合い(2回め)を行い、振り返りをして、次の準備を行う。 (3)話し合い(3回め)を行い、振り返りをする。 <伝え合おう> (4)自分たちの話し合いについて気になる点に注意できたか、友達の見解と自分の意見をつないだり、比べたりして話し合えたか、ノートに書いて発表し合う。	
					8	<ふり返ろう> 6. 今後のクラスでの話し合いについて考える。	

学期	月	時数	単元名／教材名／教科書ページ	領域	時	学習活動／*留意点	評価規準 学習指導要領との対応
			学習内容 ★ここが大事／☆学習用語				
2学期	11月	2	漢字の広場④ いろいろな意味を表す漢字 教科書:P44 △一つの漢字には、複数の意味がある場合が多いことを理解する。	漢字	1	1. 学習内容を理解し、学習の見直しをもつ。 *いろいろな意味を表す漢字について理解し、漢字を正しく使うことができるようになるという学習課題を確かめ、今後の学習に生かしていくよう意識づける。 2. 「手」という漢字がもつ複数の意味について考える。 *一つの漢字に、いくつかの意味を表すことがあるということを「手」を例に考える。 *「行く手」「手作り」など例示の語を使って短文を作り、具体的に考えさせる。 3. 「手」の五つの意味別に、語句を集め、話し合う。 *「手」の漢字を中心に、構成される語句を意味ごとにつないでいくマップにまとめてよい。	【知識・技能】 ◎第3学年及び第4学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読んでいる。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使っている。(1)エ 【態度】 ・積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使い、学習課題にそって、漢字がもつ複数の意味について考えようとしている。
					2	4. 選択肢のそれぞれの言葉の意味を考え、「本」「原」「名」という漢字がもつ複数の意味と比べる。 *漢字を中心に、その漢字から構成される語句を意味ごとにつないでいくようなマップにまとめてよい。 5. 漢字辞典を使って、「長」「家」「礼」「親」「運」がもつ複数の意味を調べる。 *漢字の意味と、熟語や複合語などの語句の意味とを関連させて考える習慣を身につけられるようにしたい。 6. 漢字辞典を使って、これまでに学習した漢字がもつ複数の意味を整理し、意味別に熟語を集め、ノートにまとめる。 *漢字辞典を活用して調べる活動を取り入れ、漢字の意味と語句の意味との関連に興味をもてるようにしたい。	
2学期	11月	2 (書く2)	3年生で学んだ漢字④ 教科書:P46 △絵を見て想像したことをもとに、3年生で学んだ漢字などを使って文を書く。	漢字	3・4	7. 教科書の絵を見て、描かれている様子について説明する。 *P46の絵を拡大して黒板に貼っておく、指導する事柄を児童たち全体に示しやすくする。 *描かれている人物と行為、場や時間の状況、物品など、視点を提示するとわかりやすい。 8. 3年生までに習った漢字を使って、絵に描かれている様子や物、人物がしていることなどを説明する文を書く。 *この校庭の様子がはっきりわかるよう、書き表し方を工夫するようはたらきかける。 *条件をつけて文を書くように促すと、記述の仕方に工夫がみられるようになる。 *内容につながりのある文を二つ以上書くようにすると、言葉が適切に使っているかどうかのわかりやすくなる。 9. 作った文を互いに発表し合う。 *敬体と常体が混在している場合は、読み直して、どちらかに統一するようはたらきかける。 *正しく漢字が使われているかを確認し合う。 *表現を改めたり、書きまがいがいなどを正したりして、書いた文を発表する。 *互いの書いた文章を読み合ったり音読し合ったりして、その内容や表現について、感想や意見を述べ合い、自分の文章のよいところを見つけるようはたらきかける。 10. 学習を振り返る。 *いろいろな意味を表す漢字について正しく理解したり、漢字の使い方や表記などを理解できるようにしたりし、日常の言語生活にも生かしていくよう意識づける。	【知識・技能】 ◎第3学年及び第4学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読んでいる。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使っている。(1)エ 【思考・判断・表現】 ○「書くこと」において、書こうとしたことが明確になっているか、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けている。(B1)オ 【言語活動例】 詩や物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。(B2)ウ 【態度】 ・積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を使い、学習課題にそって、教科書の絵の中の言葉を使って文を書くようとしている。
2学期	12月	9 (書く2)	三 大事な言葉や文に気をつけて要約しよう ウミガメの命をつなぐ 教科書:P48 □ウミガメの産卵や成長を研究する名古屋港水族館の取り組みを時系列にそって読み、興味をもった点から整理して文章を要約する。 ★ここが大事:要約する ☆学習用語:要約／事例	読む	1	<見直しをもとう> 1. 題名や単元扉の2枚の写真を手がかりに、学習の見直しをもつ。 *2枚の写真やその説明から文章の内容を予想したり、単元名から学習の内容を確認したりして、学習の見直しをもたせる。	【知識・技能】 ◎考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解している。(2)ア ◎比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方理解している。(2)イ 【思考・判断・表現】 ○「書くこと」において、書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくらたり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えている。(B1)イ ◎「読むこと」において、目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約している。(C1)ウ ○「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。(C1)オ 【言語活動例】 ・調べたことをまとめて報告するなど、事実やそれを基に考えたことを書く活動。(B2)ア ・記録や報告などの文章を読み、文章の一部を引用して、分かったことや考えたことを説明したり、意見を述べたりする活動。(C2)ア 【態度】 ・すすんで、本文を読んで自分が興味をもった部分を要約することを通して、学習課題にそって、本文をわかりやすく紹介する文章を書くようとしている。
					2～6	<たしかめよう> 2. 本文を読んで興味をもったことについてまとめ、友達と話し合う。 3. ウミガメの現状や名古屋港水族館の取り組みの概要について読み取る。 *はじめからP50L2までの内容を確認する。 4. 「ウミガメのさんらん研究」について読み取る。 *P50L3～P51L7までの内容を確認する。 5. 「子ガメを海に放流する研究」について読み取る。 *P51L8～P54L2までの内容を確認する。 6. 2011年からの水族館の取り組みについて読み取る。 *P54L4から最後までまでの文章を扱う。	
					7	<<わくわくよう> 7. 興味をもったことを中心に、100～200字くらいに要約する。 *P56の「要約の仕方」やP59の「ここが大事『要約』」、P57の要約例を参考にまとめる。	
					8	<まとめよう> 8. 要約した文章も用いて、「ウミガメの命をつなぐ」を紹介する文章を書く。 *構成は、P57の例を参考にする。	
					9	<つたえあおう> 9. 紹介文を友達と読み合い、友達の文章と自分の文章を比べて、自分との違いやよいところを見つけて伝え合う。また、学習全体を振り返り、文章を要約するときのポイントや紹介文を書くときに大事なことをまとめる。 (1)紹介文を友達と読み合う。 (2)読み合って感じた、友達の文章と自分の文章の違いや、友達の文章のよいところを発表する。 <ふり返ろう> 10. 学習全体を振り返って、文章を要約するときのポイントや紹介文を書くときに大事なことをノートに書いてまとめる。	

学期	月	時数	単元名／教材名／教科書ページ	領域	時	学習活動／*留意点	評価規準 学習指導要領との対応
			学習内容 ★ここが大事★学習用語				
2学期	12月	2	言葉の広場④ 二つのことがらをつなぐ言葉 教科書:P60 △二つの事柄をつなぐとき、使う言葉によって内容が大きく変わること理解し、接続語のはたらきを意識して、正しく使い分けろ。 ★学習用語:ここがら	言語	1	1. 冒頭の問いを通して、二つの事柄をつなぐ言葉について興味をもつ。 * 接続助詞が違うことでどのように文意が違ってくるか考えさせる。 2. 教科書を読み、二つの事柄をつなぐ言葉(接続詞や接続助詞)のはたらきを理解する。 * 接続助詞によるつながり方の違いで、文意がどのように違ってくるか理解させる。	【知識・技能】 ◎主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解している。(1)(1カ) 【態度】 *すんで接続する語句の役割について理解し、学習の見直しをもって、接続語のはたらきを意識して正しく使い分けようとしている。
				2	3. 接続助詞と接続詞の対応を考えながら1文を2文に分ける。 * 接続助詞が表す意味を考えさせながら、対応する接続詞を選ばせる。 * 1文を2文に分ける際、接続詞が適切な位置にきているか、各文の文末が言い切りの形になっているか確認させる。 4. 接続助詞の意味を考えながら、あとに続く文を考える。 * 作成した文は発表させるなどして、不自然な点がないか確認するとともに、いくつか文が作れることに気づかせる。 5. つなぐ言葉に注意しながら2文を1文にする。 * 接続助詞に対応する接続詞を考え、接続詞の位置、文末の形に気をつけながら文を作成させる。 6. 学習を振り返る。		
2学期	12月	6 (書く6)	四 調べたことをわかりやすく書く クラスの「不思議ずかん」を作ろう 教科書:P62 ■図や写真などの資料を活用し、紙面を工夫して図鑑を作る。 ★ここが大事:わかりやすく書く ★学習用語:取材／組み立て／原稿／説明／読み返す／題名／資料／目次／言葉づかい／情報／著作権／メディア／新聞／インターネット／引用／意見／出典	書く	1	<見通しをもとう> 1. 教科書の作品例を読み、筆者が工夫していることを確認する。 * 題名の工夫・書き出しの工夫・写真や図表の工夫・「ひと言メッセージ」や「参考資料」を書き加えている等 * 「学習の進め方」を読み、学習活動の見直しをもたせる。	【知識・技能】 ◎比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方理解している。(1)(2イ) 【思考・判断・表現】 ◎「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。(B1)(1ウ) ◎「書くこと」において、書くことしたことが明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けている。(B1)(1オ) 【言語活動例】 ・調べたことをまとめて報告するなど、事実やそれを基に考えたことを書く活動。(B2)(ア) 【態度】 ・積極的に、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして書き表し方を工夫し、学習の見直しをもって「不思議ずかん」を作ろうとしている。
				2	<決めよう・集めよう> 2. 図鑑に載せるものを決め、調べる。 * 気づいたことや疑問に思ったことをメモしたり、もっと詳しく知りたくなったことを図書館で調べたりするよう指導する。 (1)身のまわりの不思議を集め、書きたいことを選ぶ。 (2)題材について取材する。 * 必要に応じて、デジタル機器(パソコン・タブレット端末・デジタルカメラ等)も活用させる。 * P67「じょうほうを集めて活用しよう」を参考に、目的に合った調べ方を学ばせる。		
				3	<組み立てよう> 3. 組み立て表を作り、グループで話し合う。 (1)できた組み立て表をグループの友達と交換して読み、意見を伝え合う。 * できた組み立て表を友達と見合いながら、書き手の目的や意図、伝えたい内容と表現の関係に注意して、わかりやすく伝えられているか意見を述べ合う場を設定する。		
				4	<書こう>(重点) 4. 図鑑の原稿を書く。 * 必要に応じて図や写真などの資料を入れたり、資料と関連する表現を書かせたりする。		
				5	<読み返そう> 5. 原稿を読み返す。		
				6	<伝え合おう>(重点) 6. グループで発表し合う。 * 読む人が興味をもって読めるような内容になっているか、伝えたいことがわかりやすく伝わるような表現になっているかどうか、などの観点で交流させる。 * 表紙、目次などをつけて本の形にする。 <ふり返ろう> 7. 読む人にとってわかりやすく、おもしろい図鑑を作るために、どんな工夫をしたか振り返る。 * グループでの話し合いを通してわかった、自分や友達の文章のよいところはどんなところか振り返る。		
2学期	12月	4 (書く1)	言葉の文化③ 故事成語 教科書:P68 △故事成語の意味を知り、友達に紹介するためのカードを作る。 ★学習用語:故事成語	文化	1	1. 教科書を読んで、知っている故事成語について話し合う。 * 「五十歩百歩」を読んで、意味と成り立ちがあるという故事成語の特徴をおさえる。 * 「五十歩百歩」「漁夫の利」「蛇足」「矛盾」にあてはまるような日常生活の場面を想起し、故事成語がどのように生活の中で使われてきたのかを考えさせる。	【知識・技能】 ◎長い間使われてきたことわざや慣用語、故事成語などの意味を知り、使っている。(3)(イ) 【思考・判断・表現】 ○「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。(B1)(1ウ) 【言語活動例】 ・調べたことをまとめて報告するなど、事実やそれを基に考えたことを書く活動。(B2)(ア) 【態度】 ・積極的に、長い間使われてきた故事成語の意味を知り、学習の見直しをもってカードにまとめようとしている。
				2	2. 教科書P73に例示されている故事成語について、辞典を使って意味と成り立ちを調べる。 * 辞典や故事成語について書かれた書物を使って調べ、ノートにまとめさせる。		
				3	3. 故事成語を集めて、もとになった故事や意味を、辞典を使って調べ、カードに書き、互いに交流する。 * 辞典で、集めた故事成語の用法も調べさせる。 * 使いやすい大きさのカードを用意しておくことよい。カードを交換して、友達どうして読み合うようにする。		
				4	4. 好きなカードを選び、それぞれの故事成語の意味として書かれた場面(意味)を、これまでの自分の経験や生活の中の一場面だとする簡単な文を書き、発表する。 * 故事成語の意味が自分たちの生活の場面に正しくたとえられているか、確認する。 * みんなの発表がわかりやすく簡潔になっているかどうか、評価する。 5. 学習を振り返る。		

学期	月	時数	単元名／教材名／教科書ページ	領域	時	学習活動／＊留意点	評価規準 学習指導要領との対応
			学習内容 ★ここが大事／★学習用語				
3学期	1月	1	詩を読もう いろいろな詩／おおきな木 教科書:P74 □さまざまな形の作品を読みながら、詩の世界を楽しむ。	読む	1	『いろいろな詩』 1. それぞれの詩を読み、感じたことを発表し合う。 ＊題名と詩とのイメージのつながりを話し合う。 2. それぞれの詩の題名から、どのようなことを思い浮かべるかを考える。 ＊題名から浮かぶ、自分なりのイメージを一行程度の言葉で表す「一行詩」を作る。 ＊B5の大きさの白い画用紙を用意して、自分が作った一行詩を書く。時間があつたら、題名を隠しておいて、仲間に向けて「詩の題名当てクイズ」を行うとよい。 『おおきな木』 3. 詩を音読し、内容を把握する。 ＊「おおきくなって」や「ようけ」などの言葉に気をつけて内容を理解させる。 4. 詩に見られる表現の工夫を考える。 ＊気がついたことや思ったことなど、自由に発表し合うように促す。 ＊表記の工夫、視覚的な効果。(作品全体が木の形になっている。)必ずこの効果について話し合う。 ＊初行と終行との対応 ＊「おおき」の繰り返し ＊「おおき」の意味の違い ＊方言(関西弁)のおもしろさ	【知識・技能】 ◎文章全体の構成や内容の大体を意識しながら音読している。(1)ク 【思考・判断・表現】 ◎「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。(C1)エ 【言語活動例】 ・詩や物語などを読み、内容を説明したり、考えたことなどを伝え合ったりする活動。(C2)イ 【態度】 ・すすんで、詩を読んで理解したことに基づいて感想や考えをもち、学習の見直しをもって発表し合おうとしている。
3学期	1月	2	漢字の広場⑤ 熟語のでき方 教科書:P78 △二つの漢字を組み合わせた熟語の構成について、問題を解きながら確認し、二つの漢字のつながり方を考える。 ☆学習用語:熟語	漢字	1	1. 学習内容を理解し、学習の見通しをもつ。 ＊熟語のでき方を理解し、漢字を正しく使うことができるようになるという学習課題を確かめ、今後の学習に生かしていくよう意識づける。 ＊三下『漢字の広場⑥二つの漢字の組み合わせ』で学んだ内容の定着状況を把握しておく。 2. 「高温」「寒冷」「苦楽」という言葉にある二つの漢字の意味のつながりを考える。 3. 「熟語」の定義を知り、漢字の意味を考え、熟語の構成について理解する。 ＊「熟語」は今後も常用する用語なので、定義をしっかりとおさえるようにする。 4. 「良薬」を例に「上の漢字が下の漢字を修飾する熟語」について考える。 ＊熟語をもとの単語に分解し、意味を類推できるようになることが重要である。 ＊「良薬」から「良い薬」と読み下すとともに、「良い薬」から「良薬」を想起できるようにすることも大切である。 ＊四上の『修飾語』での学習を生かすようにする。 5. 「お祝いの日」「清らかな流れ」という意味を表す熟語を考え、話し合う。 ＊考えた熟語をもとに短文を作り、もとの語句と比べるとよい。 (例)山おくの清らかな流れに魚が泳ぐ。 山おくの清流に魚が泳ぐ。	【知識・技能】 ◎第3学年及び第4学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読んでいる。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使っている。(1)エ 【態度】 ・積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を使い、学習課題にそって、二つの漢字を組み合わせた熟語の構成について考えようとしている。
					2	6. 「関係のある意味の漢字がならぶ熟語」について考える。 ＊意味のうえでつながりのある漢字がならぶ熟語は、現代日本語の二字熟語のうち約2割を占める。使用機会が多いことと、抽象的な概念を表す語に多いことから、この教材で意識的に取り組み、漢字の意味から語句の意味が想起できるようにしたい。 ＊国語辞典や漢字辞典を活用して、漢字の意味と語句の意味との関連を調べるようにする。 7. 「思考」のような「にた意味の漢字を組み合わせた熟語」について問題に答えたり、集めてノートにまとめたりする。 ＊漢字どうしが類義語の関係になっていることをおさえる。 (例)学習一まなぶならう 8. 「前後」のような「反対の意味の漢字を組み合わせた熟語」について問題に答えたり、集めてノートにまとめたりする。 ＊漢字どうしが対義語の関係になっていることをおさえる。 (例)多少一おおいすくない 9. 国語辞典や漢字辞典を使い、集めた熟語の意味を調べる。 ＊辞典を活用して、一つ一つの漢字の意味を確認し、熟語の意味と対比できるようにしたい。	

学期	月	時数	単元名／教材名／教科書ページ	領域	時	学習活動／＊留意点	評価規準 学習指導要領との対応
			学習内容 ★ここが大事／★学習用語				
3学期	1月	2 (書く2)	三年生で学んだ漢字⑩ 教科書:P80 △絵を見て想像したことをもとに、3年生で学んだ漢字などを使って文を書く。	漢字	3・4	10. 教科書の絵を見て、描かれている様子について説明する。 ＊P80の絵を拡大して黒板に貼っておくと、指導する事柄を児童たち全体に示しやすくなる。 ＊絵の中にある3年生で学んだ漢字の読み方を再確認する。 ＊絵に描かれたことと、言葉からわかる町の様子をできるだけたくさん発表できるようにする。 ＊描かれている人物と行為、場や時間の状況、物品など、視点を提示するとうわりやすい。 11. 3年生までに習った漢字を使って、絵に描かれている様子や物、人物がしていることなどを説明する文を書く。 ＊読み手が理解しやすいように、伝えたいこと、知らせたいことを明確にして書くようにはたらきかける。 ＊条件をつけて文を書くように促すと、記述の仕方に工夫がみられるようになる。 ＊内容につながりのある文を二つ以上書くようにすると、言葉を適切に使っているかどうかのわりやすくなる。 12. 書いた文を見直し、適切な表現に変えたり、まちがいを正したりして、発表し合う。 ＊敬体と常体が混在している場合は、読み直して、どちらかに統一するようにはたらきかける。 ＊正しく漢字が使われているかを確認し合う。 ＊互いの文や文章のよいところを発表し合うようにする。 13. 学習を振り返る。 ＊熟語の使い方について正しく理解したり、漢字の使い方や表記などを理解できるようにしたりし、日常の言語生活にも生かしていくよう意識づける。	【知識・技能】 ◎第3学年及び第4学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読んでいる。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使っている。(1)(エ) 【思考・判断・表現】 ○「書くこと」において、相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にしている。(B)(1)(ア) 【言語活動例】 ・詩や物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。(B)(2)(ウ) 【態度】 ・積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を使い、学習課題にそって、教科書の絵の中の言葉を使って文を書くこととしている。
3学期	1月	6 (書く1)	五 自分の経験と結びつけて考えたことを伝え合おう くらしを便利にするために 教科書:P82 □「便利」とはどのようなことを考えながら読み、自分の経験と照らし合わせながら考えをまとめる。 ★ここが大事:経験と結びつけて読む ★学習用語:引用／具体例	読む	1	<見通しをもとう> 1. 身のまわりにある便利なものについて考える。 (1)自分が便利と思うものをあげ、その理由を考える。 (2)便利と思うものとその理由について、友達と話し合う。 (3)「便利」とはどのようなことを考える。 ＊自分の生活体験から考えさせる。	【知識・技能】 ◎考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解している。(2)(ア) ◎比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方理解している。(2)(イ) 【思考・判断・表現】 ○「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。(B)(1)(ウ) ◎「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基いて、感想や考えをもっている。(C)(1)(オ) ○「読むこと」において、文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気づいている。(C)(1)(カ) 【言語活動例】 ・調べたことをまとめて報告するなど、事実やそれを基に考えたことを書く活動。(B)(2)(ア) ・記録や報告などの文章を読み、文章の一部を引用して、分かったことや考えたことを説明したり、意見を述べたりする活動。(C)(2)(ア) 【態度】 ・積極的に筆者の考えと自分の考えを比べながら読むことを通して、具体例な経験をもとに考えをまとめることの有効性に気づいている。
					2	<たしかめよう> 2. 具体例を通して「便利」について考える。 (1)本文中に書かれている具体例の数を確認する。 (2)それぞれの具体例について、筆者は、だれにとつて「便利」で、だれにとつてそうでないか述べているかノートに表を描いて整理する。 (3)全体を確認する。	
					3	<くわしくよう> 3. 筆者の考えを捉える。 (1)文章構成を確認する。 (2)「終わり」の部分を中心に読み、筆者の考えを読み取る。 (3)筆者はこの文章を通して「便利」であるとはどのようなことだと述べているか整理する。	
					4	<まとめよう> 4. 筆者の考えと自分の考えを比べてまとめる。 (1)筆者の考えを確認する。 (2)第1時でもった自分の考えと筆者の考えを比べる。 (3)まとめたことを発表する。 ＊自分の考えをもつとき、自分の経験をもとにまとめるように促す。	
					5	<つたえあおう> 5. 前時にまとめた考えを発表し、共通点や相違点を明らかにする。 (1)まとめたことをグループで発表する。 (2)発表をもとに、共通点と相違点を明らかにする。 (3)明らかになったことを隣どうして伝え合う。	
					6	<ふり返ろう> 6. この学習を通して「気をつけたこと」を整理し、次の学習に生かすことができるようにする。 (1)「便利」ということについての筆者の考えを読むとき、どのようなことに気をつけたのか発表する。 (2)「だれにとつても「便利」である」ことがどのようなことなのかまとめるとき、どのようなことに気をつけたのか発表する。 (3)学習の感想をまとめる。	
3学期	1月	1 (話す聞く1)	目で見える言葉で話そう 手話であいさつをしよう 教科書:P92 ◇声を使わないで考えや思いを伝え合う手話について知り、簡単な挨拶をする。 ★学習用語:手話	話聞	1	1. 手話を見た経験について話し合う。 ＊手話は声を使わない目で見える言語であることを確認する。 2. 手話で挨拶を表現する。 (1)こんにちは、よろしくお願ひします、いただきます、ごちそうさま、ありがとう ＊体験する段階なので、声で補ったり、動画で確認したりするなど、手話に親しむことができるように配慮する。 ＊朝の会や授業開始の挨拶等で実際に使ってみるとよい。 (2)他にも手話で知りたい表現がないか話し合う。 ＊図書資料やタブレットなどで調べてもよい。 3. 学習を振り返る。	【知識・技能】 ◎言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気づいている。(1)(ア) 【思考・判断・表現】 ◎「話すこと・聞くこと」において、目的を意識して、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を比較したり分類したりして、伝え合うために必要な事柄を選んでいる。(A)(1)(ア) 【言語活動例】 ・互いの考えを伝えるなどして、グループや学級全体で話し合う活動。(A)(2)(ウ) 【態度】 ・手話には考えや思いを伝えるはたらきがあることに気づき、学習課題にそって手話であいさつしようとしている。

学期	月	時数	単元名／教材名／教科書ページ	領域	時	学習活動／*留意点	評価規準 学習指導要領との対応
3学期	2月	8 (話す聞8)	<p>六 調べてわかったことを発表しよう 「便利」をさがそう 教科書:P94</p> <p>◇調べてわかったことを、相手に伝えるように資料を示したり、話し方を工夫して、発表する。</p> <p>★ここが大事: 資料を使って、伝えるように工夫して発表する</p> <p>★学習用語: 引用／出典</p>	話聞	1	<p><見通しをもとう></p> <p>1. 単元名やリード文を読み、調べたわかったことを資料を使って発表するという活動内容を確認し、学習計画を立てる。</p> <p>(1) 調べてわかったことを発表した経験を振り返る。</p> <p>(2) 資料を示して発表するということを確認する。</p> <p>* 教科書P94からP101までの内容を確認、単元の活動全体をつかむようにする。</p>	<p>【知識・技能】</p> <p>◎比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解している。(2イ)</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>◎「話すこと・聞くこと」において、話の中心や話す場面を意識して、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫している。(A1)ウ)</p> <p>【言語活動例】</p> <p>・質問するなどして情報を集めたり、それらを発表したりする活動。(A2)イ)</p> <p>【態度】</p> <p>・身のまわりの「便利」について調べ、わかったことを図などの資料を示しながら、言葉の調子や強弱、間の取り方に気をつけて発表しようとしている。</p>
					2・3	<p><決めよう・集めよう></p> <p>2. 身のまわりの道具や設備について振り返り、どんな人でも使いやすくなる工夫についてどんなものがあるか話し合う。</p> <p>* ユニバーサルデザインやバリアフリーといった視点で考えるように促す。</p> <p>3. 詳しく調べたい道具や設備を決め、どんな人でも使いやすい工夫について調べる。</p> <p>* 4～5人の小グループごとにテーマを決める。</p>	
					4・5	<p><組み立てよう></p> <p>4. 調べてわかったことを整理し、発表の組み立てを考えて、練習する。</p> <p>(1) 調べてわかったことをもち寄り、発表の組み立てを考える。</p> <p>* P96の発表計画表をもとに、発表の組み立てについて話し合う。話す内容と、どの資料をどのように示すか、P97の資料例を参考に考えるようにする。</p> <p>(2) 発表の練習をする。</p> <p>* 「○○という本によると…」この資料は○○というサイトから引用したものです」など、資料を示す際の言い方について確認する。</p> <p>* 聞き手のことを考えて、資料の使い方や間の取り方に気をつけるようにする。</p> <p>* 発表について協力するグループを決め、互いに練習を見せ合い、意見をもたってもよい。</p>	
					6・7	<p><話そう・聞こう>(重点)</p> <p>5. 発表会を行う。</p> <p>(1) 話すめあて・聞くめあてを確認する。</p> <p>(2) グループごとに発表をする。</p> <p><伝え合おう></p> <p>6. 質問や感想を伝える。</p> <p>* グループの発表ごとに質問や感想を伝える時間をとる。発表、質問、感想の流れを繰り返すようにする。</p>	
					8	<p><ふり返ろう></p> <p>7. 学習を振り返る。</p> <p>* P101「ここが大事」を確認し、図などの資料を使って発表するとき、聞き手に伝えるためにどんな工夫をしたか振り返る。</p>	

学期	月	時数	単元名／教材名／教科書ページ	領域	時	学習活動／＊留意点	評価規準 学習指導要領との対応
3学期	2月	2	言葉の広場⑤ 点(く)を打つところ 教科書:P102 △読点のはたらきを理解して、正しく使い分ける。 ☆学習用語:読点	言語	1	1. 学習内容を理解し、日常化への見通しをもつ。 ＊教材冒頭の例文によって、日常の言語生活との関連を意識づけろ。 2. 「かぜを早く治すには……」の例文を読み、読点のはたらきや読点の必要性について話し合う。 ＊例示された文を声に出して読むことで、なぜ、読点を打たなければならないのかの問題意識を明確にもたせる。 3. 例文に読点を打ち、意味がどう変わるのか確かめる。 ＊読点を入れて読むことで、読点が読みやすさに及ぼす影響を考えさせる。 4. 読点の打ち方の原則を理解する。	【知識・技能】 ◎漢字と仮名を用いた表記、送り仮名の付け方、改行の仕方を理解して文や文章の中で使うとともに、句読点を適切に打っている。(1)ウ ○主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解している。(1)カ 【態度】 ・すすんで句読点のはたらきを理解し、学習課題にそって、文や文章の中で適切に使おうとしている。
				2	5. 「点を打つ場所」に気をつけて、設問に取り組む。 ＊どのように打つべきかの原則を、教科書にそって学習する。 ＊適切に区切って、読みやすい文章を作るようにする。適切に区切れるかは、文の意味を理解しているかにつながる。 ＊文を書くときにも、読む人の立場に立って読点を打つようにする意識をもたせたい。 6. 学習を振り返る。		
3学期	2月	9 (書く9)	七 伝えたいことをはっきりさせて書こう 自分の成長をふり返って 教科書:P104 ■様子がわかるように、よりよい表現を選んで書く。 ★ここが大事:伝えやすい組み立てで書く／文章を読み返す ☆学習用語:組み立て表／会話文／段落／主語／述語	書く	1	<見通しをもとう> 1. 「学習の進め方」を読んで学習の流れを知り、見通しをもつ。 ＊教科書を読み、「学習の進め方」を確認し、単元のゴールを明確にする。 ＊教科書の作品例を読み、羽田さんが工夫していることを確認する。 ・題名の工夫・書き出しの工夫 ・会話文の工夫 ・構成の工夫「始め」「中」「終わり」 ・いちばん書きたかったこと	【知識・技能】 ◎漢字と仮名を用いた表記、送り仮名の付け方、改行の仕方を理解して文や文章の中で使うとともに、句読点を適切に打っている。また、第3学年においては、日常使われている簡単な単語について、ローマ字で表記されたものを読み、ローマ字で書いている。(1)ウ ◎主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解している。(1)カ 【思考・判断・表現】 ◎「書くこと」において、書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくらたり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えている。(B1)イ ◎「書くこと」において、間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確認したりして、文や文章を整えている。(B1)エ 【言語活動例】 ・調べたことをまとめて報告するなど、事実やそれを基に考えたことを書く活動。(B2)ア 【態度】 ・積極的に、書くこととしたことが明確になっているかなど文章に対する感想や意見を伝え合い、学習の見直しをもって、よりよい表現を選んで文章を書くこととしている。
				2	<決めよう・集めよう> 2. 自分の成長を感じたできごとを思い出し、書くことを決める。 ＊メモにどんどん書き出して、思い出させる。 ＊一人で思い出せない児童には、友達にインタビューさせて書かせるなど、まず口頭で言わせるようにする。		
				3・4	<組み立てよう>(重点) 3. 組み立て表を書き、友達と意見を交換する。 ＊友達からもらった意見を参考にして、組み立て表を見直し、書く内容を考え直す。 ＊組み立て表をもとに交流し、いちばん伝えたいことを一つにしるるようにする。 ＊中心となる場面が「中」になるようにする。 ＊友達の意見を参考に、組み立て表を見直し、もう一度書く内容を整理させる。 ＊いちばん伝えたいことが詳しくなるように、友達に質問してもらい、詳しく書けるようにする。		
				5～7	<書こう> 4. 文章を書く。 ＊中心となる場面を「中」にし、詳しく書かせる。 ＊会話文や心内語を多く入れるなどの工夫を促す。 ＊段落意識をもたせ、場面ごとに段落を変えるようにする。		
				8	<読み返そう>(重点) 5. 文章を読み返す。 ＊中心となる場面が詳しいか、文字のまちがいや主語・述語のねじれはないか、気持ちを表す言葉はその言葉で適切か、段落分けはできているか、などを確認する。		
				9	<伝え合おう> 6. 文章を読み合い、感想を伝え合う。 ＊内容面で感想を伝えるだけでなく、書き方の工夫も伝えるようにする。 ＊心の動いた場面が詳しく書けたかどうか振り返らせる。 <ふり返ろう> 7. 学習を振り返る。 ＊文章の組み立てを考えると、どんなことを工夫したか振り返る。 ＊どんなところに気をつけて文章を読み返したか振り返る。		
3学期	2月	1 (書く1)	言葉の文化④ 雪 教科書:P110 △「雪」を扱った言語表現を集める。 ☆学習用語:「雪」に関わる言葉	文化	1	1. 教科書の文章から「雪」を使った表現や歌を知り、声に出して読む。 ＊「雪月花」の意味を知り、上巻で学習した「月」の言葉や表現を思い出し、「雪」や「花」について言葉や表現を集める意欲をもたせる。 ＊「雪」を使用した言語表現の多様さに気づかせる。また、和歌や唱歌を音読して、文語のリズムに親しませる。 2. 「雪」に関する歌や言葉を辞典などを使って調べて、ノートに書く。 ＊どのような種類の辞典や参考書を見ればよいのかを考えさせる。 ＊発展として、「花」の表現研究を家庭学習などで促すことも考えられる。	

学期	月	時数	単元名／教材名／教科書ページ	領域	時	学習活動／＊留意点	評価規準 学習指導要領との対応
			学習内容 ★ここが大事／★学習用語				
3学期	2月	2	漢字の広場⑥ 同じ読み方の漢字の使い分け 教科書:P112 △異字同訓や同音異義語の使い分けについて意識をもって、漢字を読んだり書いたりする。 ☆学習用語: 同じ読み方の漢字／訓読み	漢字	1	1. 学習内容を理解し、学習の見直しをもつ。 ＊同じ読み方の漢字の使い分けについて理解し、漢字を正しく使うことができるようになるという学習課題を確かめ、今後の学習に生かしていくよう意識づける。 ＊三上『漢字の広場②』漢字の音と訓で学んだ内容の定着状況を把握しておく。 2. 「はい」を例に、場面の様子や意味をもとに同じ訓の漢字の使い分けについて考え、話し合う。 ＊例文を音読し、意味を考えるようにする。 3. 場面の様子や意味をもとに「鳴く・泣く」の使い分けを考える。 ＊人が涙を流すのは「泣く」、鳥・けもの・虫が「なく」と書くことを確認する。 4. 「以外・意外」「機械・機会」を例に、同じ音の漢字の使い分けについて、熟語の意味をもとに考え、話し合う。 ＊同音や同訓の語の中には、「以外」と「意外」のようにアクセントによって弁別できるものがある。同じ読み方の部分に注意しながら用例の文を声に出して読み、言葉の響きへの関心を高めるようにしたい。 5. 同じ訓の言葉(異字同訓)や同じ音の熟語(同音異義語)のそれぞれの意味を国語辞典で調べて、短文を作り、漢字の使い分けについて話し合う。 ＊組みごとのそれぞれの漢字のもつ意味と使い方を正しく理解できるようにすることが大切である。国語辞典を利用し、それぞれの漢字の意味や使い方(熟語など、用例文など)を調べて比較し、整理できるようにしたい。	【知識・技能】 ◎漢字と仮名を用いた表記、送り仮名の付け方、改行の仕方を理解して文や文章の中で使うとともに、句読点を適切に打っている。また、第3学年においては、日常使われている簡単な単語について、ローマ字で表記されたものを読み、ローマ字で書いている。(1)ウ 【態度】 ・すすんで同じ読み方の漢字の使い分けを理解し、学習課題にそって、文や文章の中で正しく使おうとしている。
				2	6. 同じ読み方の漢字の使い分けについては、別の言葉に言いかえて考えるという方法を知る。 ＊「熟語をもとの単語に分解し、意味を類推する」という『漢字の広場⑤熟語のでき方』での学習を生かすようにする。 7. 別の言葉に言いかえる方法を使い、P113下段の設問を解き、それぞれの言葉の違いを国語辞典で確認する。 ＊あてはまらないほうの言葉を使った文を作り、意味の違いを比べるとよい。 (例)全員がいっしょに席に着く。 ほこりが、みんなの席に付く。 8. 異字同訓や同音異義語を使った短文を作り、それぞれの意味の違いを話し合う。 ＊同じ読み方であっても漢字や熟語の意味が全く異なることがあるおもしろさに気づかせることが大事である。言葉の使い方の感覚にいつもの関心をもつことができるようにしたい。		
3学期	2月	2 (書く2)	3年生で学んだ漢字⑥ 教科書:P114 △絵を見て想像したことをもとに、3年生で学んだ漢字などを使って文を書く。	漢字	3・4	9. 教科書の絵を見て、描かれている様子について説明する。 ＊漢字の使い方や表記などを理解できるようにし、日常の言語生活にも生かしていくよう意識づける。 ＊P114の絵を拡大して黒板に貼っておくと、指導する事柄を児童たち全体に示しやすくなる。 ＊絵の中にある3年生で学んだ漢字の読み方を再確認する。 ＊絵に描かれたことと、言葉からわかる事柄をできるだけたくさん発表できるようにする。 ＊描かれている人物と行為、場や時間の状況、物品など、視点を提示するとわかりやすい。 10. 3年生までに習った漢字を使って、絵に描かれている様子や物、人物がしていることなどを説明する文を書く。 ＊絵に描かれている図書の中から、中心に述べたいお話を一つにしぼり、文章の構成を考えるようはたらきかける。 ＊条件をつけて文や文章を書くように促すと、記述の仕方に工夫がみられるようになる。 ＊内容に「つながり」のある文を二つ以上書くようにすると、言葉を適切に使っているかどうかのわかりやすくなる。 11. 書いた文を見直し、適切な表現に替えたり、まちがいを正したりして、発表し合う。 ＊敬体と常体が混在している場合は、読み直して、どちらかに統一するようはたらきかける。 ＊正しく漢字が使われているかを確かめ合う。 ＊互いの文や文章のよいところを発表し合うようにする。 12. 学習を振り返る。 ＊同じ読み方の漢字の使い分けについて正しく理解したり、漢字の使い方や表記などを理解できるようにしたりし、日常の言語生活にも生かしていくよう意識づける。	【知識・技能】 ◎第3学年及び第4学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読んでいる。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使っている。(1)エ 【思考・判断・表現】 ○「書くこと」において、書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくらせたり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えている。(B1)イ 【言語活動例】 ・詩や物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。(B2)ウ 【態度】 ・積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を使い、学習課題にそって、お話の一場面を書こうとしている。

学期	月	時数	単元名／教材名／教科書ページ	領域	時	学習活動／＊留意点	評価規準 学習指導要領との対応
3学期	3月	8 (書く2)	<p>八 登場人物のせいかくや気持ちのうつり変わりを読もう</p> <p>人形げき 木竜うるし 教科書:P116</p> <p>□登場人物の性格の違いや気持ちの移り変わりを考えながら読み、考えを伝え合う。</p> <p>★ここが大事:登場人物のせいかくや気持ちの変化をとらえて読む</p> <p>☆学習用語:脚本／ト書き／地の文</p>	読む	1	<p><見通しをもとう></p> <p>1. 単元扉を読んで、学習の見通しをもつ。 * 初発の感想を書き、それをもとに登場人物の性格や考え方の違いを読むという学習の課題を確認する。 * 『木竜うるし』は人形劇であり、「脚本」の形で書かれている。脚本がどんな文章か、これまで学習してきた物語文と比べて確認させる。 * 脚本は、「せりふ」と「ト書き」からできていることを知る。</p>	<p>【知識・技能】</p> <p>◎相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話している。(C1)イ)</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>◎「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。(C1)エ)</p> <p>○「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。(C1)オ)</p> <p>○「読むこと」において、文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付いている。(C1)カ)</p> <p>【言語活動例】</p> <p>・詩や物語などを読み、内容を説明したり、考えたことなどを伝え合ったりする活動。(C2)イ)</p> <p>【態度】</p> <p>・積極的に登場人物の性格の違いや気持ちの移り変わりを考え、学習課題にそって、考えたことを根拠をはっきりさせて伝え合おうとしている。</p>
					2	<p><たしかめよう></p> <p>2. 作品の全体をつかむ。 (1)それぞれの場面でのようなできごとが起きたかを確かめて、おおまかにまとめる。 (2)登場人物について思ったことを書く。</p>	
					3・4	<p><くわしくようよう></p> <p>3. 登場人物の性格や気持ちの移り変わりを読み取る。 (1)「一」の場面の「深いふちのそば」を読んで、権八と藤六の性格について話し合う。 * 「ここが大事」を確認し、せりふや行動を手がかりに、権八と藤六の性格の違いを読む。また、それが表れるように工夫して音読する。 (2)権八の気持ちが少しずつ変化していることがわかるせりふと、そこを選んだ理由をノートにまとめて発表する。 * 起伏する感情や意思が大きく表れている箇所に線を引いていけば考えやすい。 * 権八は、自分の欲の深さを多少は自覚している。そこから、気持ちが変わったわけを考えるようにする。 * 権八は、冒頭と結末とで言動や気持ちに大きな変化が見られる。権八の気持ちが変化したのはどこからなのか、どのように変わっていったのかを、せりふを通して考えさせる。 * P140の「言葉」については、学習活動の中で適宜取り扱う。</p>	
					5・6	<p><まとめよう></p> <p>4. 権八の気持ちが変わったのはなぜか、自分の考えをノートに書く。 * 「変わったわけ」については、前後の状況を踏まえながら、根拠をはっきりさせて想像を膨らませるようにする。 * 権八の気持ちの変化を、藤六との関わりも重ねて考えさせる。</p>	
					7・8	<p><つたえあおう></p> <p>5. 権八と藤六の性格や、権八の気持ちの変化を、ノートに書いたことをもとに話し合う。 * どうしてそう考えたのか、根拠をはっきりさせて自分の考えを伝えさせるようにする。</p> <p><ふり返ろう></p> <p>6. 学習を振り返る。 (1)登場人物の性格や気持ちの移り変わりがどのような部分からわかったか振り返る。 (2)友達の考えを聞いて、自分の考えと似ているところや違うところを見つけ、感想をもつ。</p>	
3	3月	2 (話す聞く・書く1)	<p>国語の学習 これまで これから 教科書:P142</p> <p>■一年間の国語学習を振り返ったり、これからの学習について考えたりして、すすんで学習できるようにする。</p>	書く	1	<p>1. 一年間の国語の学習を振り返り、自分が学んできたことを書き出したり話し合ったりする。 * 上・下巻の教科書、学習のノート、作成物、プリント類(ポートフォリオ)などから振り返ることができるようにする。 * 挿絵やふきだし、「四年生で学ぶこと」を参照する。 * 楽しかったことを中心に思い出させる。 * 心に残っている単元や教材、学習活動、また心に残っている言葉などを具体的にメモし、発表し合う。 * 友達の発表を共感して聞き、交流し、学んできたことを共有できるようにする。</p>	<p>【知識・技能】</p> <p>◎相手を見て話したり聞いたりしているとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話している。(C1)イ)</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>○「話すこと・聞くこと」において、話の中心や話す場面を意識して、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫している。(A1)ウ)</p> <p>◎「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。(B1)ウ)</p> <p>【態度】</p> <p>・すすんで話の中心や話す場面を意識して、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫し、今までの学習を生かして、一年間の国語の学習を振り返ったり次年への希望を話し合ったりしようとしている。</p>
2	<p>2. 5年生になったら1で出したことがどのように広がっていくのか、想像したり希望を出し合ったりする。 * 5年生になって「またやってみよう活動」「もっと読んだり書いたりしてみよう活動」「取り組んでみたい活動」など、いろいろな観点で話し合うようにする。</p>						

令和6年度 5年 国語 評価規準

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	主な学習活動	評価規準
4月	ひみつの言葉を引き出そう 1時間(話・聞①) ○言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気づくことができる。(知・技(1)ア) ○目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、伝え合う内容を検討することができる。(思・判・表A(1)ア) ○話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉えることができる。(思・判・表A(1)エ) ■友達から「ひみつの言葉」を引き出せるように話す。	1	1 扉の詩、目次、P9「国語の学びを見わたそう」を見て、学習の進め方を確かめたり、見直しをもったりする。 2 P17を読み、5年生の国語学習での目標や楽しみなどを書く。 3 P18-19を読み、活動のしかたを確かめる。 4 気持ちや様子を表す言葉を、一人一つずつカードに書く。他の人に言葉が見えないように、グループの中で交換する。 5 一人がカードを持ち、グループで2分間話す。 ・カードを持たないメンバーは、どうすればカードを持つ人が「ひみつの言葉」を口にするかを考えながら話す。 6 カードに書かれている言葉を確認、会話を振り返る。 7 カードを持つ人を交代して、再度行う。 8 話してみて感じたことを振り返る。	【知・技】言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気づいている。(1)ア 【思・判・表】 ・「話すこと・聞くこと」において、目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、伝え合う内容を検討している。(A(1)ア) ・「話すこと・聞くこと」において、話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉えている。(A(1)エ) 【態】進んで自分が聞こうとする意図に応じて話の内容を捉え、学習の見直しをもって友達から「ひみつの言葉」を引き出せるように話そうとしている。
4月	かんがえるのって おもしろい 1時間(読①) ◎詩を音読することができる。(知・技(1)ケ) ○詩を読んでまとめた感想を共有し、自分の考えを広げることができる。(思・判・表C(1)カ) ■音読して、想像したことを伝え合う。	1	1 詩を声に出して読んだり、友達の音読を聞いたりして、描かれていることを想像する。 ・「どこかとおく」「しらないけしき」などの言葉が表していることを考える。 2 思い浮かべた様子や自分の経験と重ねて感じたことをノートに書く。 3 ノートに書いたことを基にして、詩を読んで感じたことを伝え合う。 4 学習を振り返る。	【知・技】詩を音読している。(1)ケ 【思・判・表】「読むこと」において、詩を読んでまとめた感想を共有し、自分の考えを広げている。(C(1)カ) 【態】進んで詩を音読し、学習課題に沿って想像したことを伝え合おうとしている。
4月	名前を使って、自己しょうかい 続けてみよう 1時間(書①) ○言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気づくことができる。(知・技(1)ア) ○文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開について理解することができる。(知・技(1)カ) ○目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選ぶことができる。(思・判・表B(1)ア) ○文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想を伝え合い、自分の文章のよいところを見つけることができる。(思・判・表B(1)カ) ■自分を紹介する文章を書く。	1	1 P23の作例を基に、名前を使って自分を紹介する文章の書き方を確かめる。 2 自分を紹介する文章を書く。 ・名前の文字から始まる言葉を思い浮かべ、自分の書きたいことに合ったものを選ぶ。 ・前後の文とのつながりを考えながら、文章を書く。 3 書いた文章をグループで読み合い、感想を伝える。 4 「いいな。」と思った作品を、クラス全体に紹介する。 5 名前を使って自己紹介をしてみようという意図を振り返る。 6 P24「続けてみよう」を読み、日々のことを記録することの大切さに気づき、ノートの書き方について学ぶ。	【知・技】 ・言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気づいている。(1)ア) ・文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開について理解している。(1)カ) 【思・判・表】 ・「書くこと」において、目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選んでいる。(B(1)ア) ・「書くこと」において、文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想を伝え合い、自分の文章のよいところを見つけている。(B(1)カ) 【態】積極的に文章の構成や展開について理解し、これまでの学習をいかして自分を紹介する文章を書こうとしている。
4月	人物の心情や人物どうしの関わりをとらえ、印象に残ったことを伝え合おう 銀色の裏地 5時間(読⑤) ◎比喩や反復などの表現の工夫に気づくことができる。(知・技(1)ク) ◎登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えることができる。(思・判・表C(1)イ) ○情報と情報との関係づけのしかた、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができる。(知・技(2)イ) ■印象に残ったことを伝え合う。 ☆友情、信頼や相互理解に関わる題材(道徳)	1	1 学習の見直しをもつ。 ・P25を見て、物語の内容を想像する。 ・教材文を読み、「問いをもとめ」「目標」を基に学習課題を設定し、学習計画を立てる。	【知・技】 ・比喩や反復などの表現の工夫に気づいている。(1)ク) ・情報と情報との関係づけのしかた、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使っている。(2)イ) 【思・判・表】「読むこと」において、登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えている。(C(1)イ) 【態】粘り強く登場人物の相互関係や心情を捉え、学習の見直しをもって印象に残ったことを伝え合おうとしている。
		2	2 「理緒」の心情や、他の人物との関係を捉える。 ・P36「言葉に着目しよう」を参考に、「理緒」の心情や、他の人物との関わりが表れているところに線を引く。 ・P37「関係を図に表す」を参考に、線を引いたところを使って、登場人物の関係を図に表す。	
		3	3 登場人物の心情や人物どうしの関係が、どのように変化したのかについて想像する。 ・変化のきっかけになった出来事や言動について考える。 ・「理緒」から見た「高橋さん」の人物像について考える。 ・題名でもある「銀色の裏地」という言葉の意味について考える。	
		4	4 P37「考えのまとめ方」を参考に、強く印象に残ったことをまとめる。 ・物語の中の印象的な表現や、自分の経験と重ねて感じたことから考える。	
		5	5 考えたことを伝え合い、新たに考えたことや感じたことをノートに書く。 6 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。 ・「この本、読もう」で読書への意欲をもつ。	
4月	図書館を使いこなそう 1時間(知・技①)	1	1 何かをさまざまな角度から調べるときに、どのように本を探しているかについて、経験を紹介し合う。	【知・技】日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに役立つこと

令和6年度 5年 国語 評価規準

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	主な学習活動	評価規準
	◎日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに役立つことに気づくことができる。(知・技(3)オ) ■本を探して、記録カードを書く。 ☆図書館で本を探す活動(図書館活用)		2 図書館での本の探し方について理解する。 ・「日本十進分類法」について知る。 ・著作権の観点から、図書館を活用する際の留意点を確かめる。 3 図書館で、複数の棚から本を探す。 ・自分でテーマやキーワードを決めて探す。 4 P41の記録カードの例を見て、読書記録のつけ方を知る。	に気づいている。(3)オ 【態】進んで読書が自分の考えを広げることに役立つことに気づき、これまでの学習をいかして本を探して、記録カードを書こうとしている。
4月	漢字の成り立ち 2時間(知・技②) ◎漢字の由来、特質などについて理解することができる。(知・技(3)ウ)	1 2	1 漢字には、大きく分けて四つの成り立ちがあることを、例とともに確認する。 2 P43の設問1に取り組む。 ・漢字辞典を使って、形声文字について確かめる。 3 P43の設問2に取り組む。 ・漢字辞典を使って、漢字の成り立ちを確かめる。 4 学習を振り返る。	【知・技】漢字の由来、特質などについて理解している。(3)ウ 【態】進んで漢字の由来、特質などに関心をもち、学習課題に沿ってそれらを理解しようとしている。
4月	春の空 1時間(書①) ◎親しみやすい古文を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しむことができる。(知・技(3)ア) ○語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うことができる。(知・技(1)オ) ○目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選ぶことができる。(思・判・表B(1)ア) ■春らしいものや様子を文章に書く。 ☆我が国の伝統と文化を尊重する態度を養う題材(道徳)	1	1 「枕草子」を音読して、言葉の響きやリズムを味わい、感じたことを伝え合う。 2 「枕草子」やP45の春に関わる言葉、俳句を参考にし、春らしいものや様子を文章に書く。 3 書いたものを交流して、感想を伝え合う。 4 学習を振り返る。	【知・技】 ・語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。(1)オ ・親しみやすい古文を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しんでいる。(3)ア 【思・判・表】「書くこと」において、目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選んでいる。(B(1)ア) 【態】積極的に言葉の響きやリズムに親しみ、学習課題に沿って春らしいものや様子を文章に書こうとしている。
5月	話の意図を考えてきき合い、「きくこと」について考えよう きいて、きいて、きいてみよう 6時間(話・聞⑥) ◎情報と情報との関係づけのしかた、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができる。(知・技(2)イ) ◎話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができる。(思・判・表A(1)エ) ◎話し言葉と書き言葉との違いに気づくことができる。(知・技(1)イ) ○目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係づけたりして、伝え合う内容を検討することができる。(思・判・表A(1)ア) ■インタビューをし、報告する。 ☆インタビューを行い、報告する活動(社会、総合的な学習の時間) ☆インタビューの録音・録画(ICT活用)	1 2 3 4 5 6	1 学習の見通しをもつ。 ・生活の中で、どのような「きく」があるのかを出し合う。 ・「問いをもと」 「目標」を基に、学習課題を設定し、学習計画を立てる。 2 インタビューの順番を決め、話題を考える。 ・話し手との関わりを思い出しながら、きいてみたい話題をいくつか挙げる。 ・その人の人柄を引き出せそうな話題を考え、質問を挙げる。 3 インタビューのためのメモを用意する。 ・絞った話題について、質問に対する答えを予想し、インタビューのためのメモを書く。 4 活動のしかたや気をつける点を確認する。 ・P48-49を読み、きき手、話し手、記録者の役割やインタビューの具体的なやり取り、報告のしかたなどについて、全体で確認する。 5 役割を交代しながらインタビューをする。 6 記録したメモを基に報告の準備をする。 7 記録者がインタビューの内容について報告を行い、報告を聞いて気づいたことを伝え合う。 8 「きくこと」について考えたことを伝え合う。 ・役割の違いによって、きき方がどのように違うのかについて話し合う。 9 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。	【知・技】 ・話し言葉と書き言葉との違いに気づいている。(1)イ ・情報と情報との関係づけのしかた、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使っている。(2)イ 【思・判・表】 ・「話すこと・聞くこと」において、目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係づけたりして、伝え合う内容を検討している。(A(1)ア) ・「話すこと・聞くこと」において、話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめている。(A(1)エ) 【態】粘り強く話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて話の内容を捉え、学習の見通しをもってインタビューをしたり、報告したりしようとしている。
5月 ～ 6月	文章の要旨をとらえ、考えたことを伝え合おう 見立てる 言葉の意味が分かること 【情報】原因と結果 7時間(知・技①、読⑥) ◎原因と結果など情報と情報との関係について理解することができる。(知・技(2)ア) ◎事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握することができる。(思・判・表C(1)ア) ○文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解することができる。(知・技(1)カ) ○文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができる。(思・判・表C(1)オ) ■考えたことを伝え合う。	1～2 3 4 5～6	1 学習の見通しをもつ。 ・P51を見て、文化や言葉ともの見方の関わりについて考える。 ・学習課題を設定し、学習計画を立てる。 2 「見立てる」を読み、事例や文章構成に着目して筆者の主張を見つけて、自分の考えを伝え合う。 3 「言葉の意味が分かること」を読み、筆者の主張を見つめる。 ・教材文を読み、「問いをもと」 「目標」を基に学習のめあてを確認する。 ・文章を「初め」「中」「終わり」に分けて、各段落の内容を捉え、文章構成と内容を確認する。 4 文章の要旨を150字以内でまとめる。 5 文章構成や事例の挙げ方、原因と結果の関係、事例と筆者の考えの結び付きなどを確かめる。 ・P63「原因と結果」、P60-61「言葉に着目しよう」を参考にする。	【知・技】 ・文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解している。(1)カ ・原因と結果など情報と情報との関係について理解している。(2)ア 【思・判・表】 ・「読むこと」において、事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握している。(C(1)ア) ・「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。(C(1)オ) 【態】粘り強く文章全体の構成を捉えて要旨を把握し、学習課題に沿って考えたことを伝え合おうとしている。

令和6年度 5年 国語 評価規準

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	主な学習活動	評価規準
	※外国語や異文化への興味をもち、理解する態度を養う題材（外国語、道徳、総合的な学習の時間）	6 7	6 筆者の考えや、事例の示し方に対する自分の考えをまとめる。 ・共感できる点や疑問に思う点に変化があったかを考える。 7 自分の考えを伝え合う。 ・筆者の考えに触れながら、文章から読み取れる筆者の考えに対する自分の考えを話す。 8 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。 ・「この本、読もう」で読書への意欲をもつ。	
6月	敬語 2時間（知・技②） ◎日常よく使われる敬語を理解し使い慣れることができる。（知・技(1)キ） ○言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気づくことができる。（知・技(1)ア） ☆礼儀や言葉遣いが、円滑な人とのつながりをつくることについて考える題材（道徳）	1 2	1 敬語について知る。 ・「問いをもとう」を基に、言葉遣いについて自分なりの考えとその理由をもつ。 ・丁寧語・尊敬語・謙譲語について理解し、ノートにまとめる。 2 P65の設問1に取り組む。 ・どのような表現に変えるとよいかを考え、理由とともにノートに書いて、話し合う。 3 学習を振り返る。 ・「いかそう」を基に、これからの生活にいかす視点をもつ。	【知・技】 ・言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気づいている。（(1)ア） ・日常よく使われる敬語を理解し使い慣れている。（(1)キ） 【態】進んで日常よく使われる敬語について理解し、学習課題に沿って使い慣れようとしている。
6月	表現を工夫して、俳句を作ろう 日常を十七音で 3時間（書③） ◎比喩や反復などの表現の工夫に気づくことができる。（知・技(1)ク） ◎俳句の構成や書き表し方などに着目して、俳句を整えることができる。（思・判・表B(1)オ） ○俳句の中で漢字と仮名を適切に使い分けすることができる。（知・技(1)ウ） ○目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。（思・判・表B(1)ウ） ■俳句を作る。	1 2 3	1 学習の見通しをもつ。 ・P66の二つの俳句を読み、「問いをもとう」に沿って感想を話し合う。 ・「問いをもとう」「目標」を基に、学習課題を設定し、学習計画を立てる。 2 俳句を作る材料を集める。 ・P67のメモの例を参考にして、生活の中で気づいたことや、驚いたこと、心が動いたことなどを短い文で書き留める。 3 材料を基に、5・7・5の17音の形にする。 4 P68を参考に、表現の工夫のしかたを確かめる。 5 作った俳句の表現を工夫する。 6 作った俳句を友達と読み合い、言葉や表現を工夫したところや、友達の俳句への感想を伝え合う。 7 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。	【知・技】 ・俳句の中で漢字と仮名を適切に使い分けしている。（(1)ウ） ・比喩や反復などの表現の工夫に気づいている。（(1)ク） 【思・判・表】 ・「書くこと」において、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。（B(1)ウ） ・「書くこと」において、俳句の構成や書き表し方などに着目して、俳句を整えている。（B(1)オ） 【態】粘り強く構成や書き表し方などに着目して文言を整え、学習の見通しをもって俳句を作ろうとしている。
6月	漢字の広場① 1時間（書①） ◎第4学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。（知・技(1)エ） ・文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えることができる。（思・判・表B(1)オ） ■示された言葉を使って、絵を基にして文を書く。	1	1 P70に提示された言葉を使いながら、図書館の人になったつもりで、本の場所や図書館の使い方などについて説明する文や文章を書く。 2 書いた文や文章を読み返し、構成などを整える。 3 書いた文や文章を読み合い、交流するとともに、示された漢字について確認する。	【知・技】第4学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。（(1)エ） 【思・判・表】「書くこと」において、文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えている。（B(1)オ） 【態】進んで第4学年までに配当されている漢字を書き、これまでの学習をいかして文を書くようとしている。
6月	古典の世界（一） 2時間（知・技②） ◎親しみやすい古文を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しむことができる。（知・技(3)ア） ○古典について解説した文章を読んだり作品の内容の大体を知ったりすることを通して、昔の人のものの見方や感じ方を知ることができる。（知・技(3)イ） ■古文を音読する。 ☆我が国の伝統と文化を尊重する態度を養う題材（道徳）	1 2	1 古典の世界を想像して、関心をもつ。 ・P71の絵や文章から気づいたことを出し合う。 2 二次元コードの音声を参考に、四つの古典作品の冒頭を音読し、現代語訳や解説から内容の大体を知る。（(3)ア） 3 作品を読んで感じたことや考えたことなどをノートに書き、伝え合う。 4 四つの作品を再度読んだり、子ども向けの古典作品集などを読んだりする。 ・「この本、読もう」で紹介されている本も参考にするとよい。 5 学習を振り返る。	【知・技】 ・親しみやすい古文を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しんでいる。（(3)ア） ・古典について解説した文章を読んだり作品の内容の大体を知ったりすることを通して、昔の人のものの見方や感じ方を知っている。（(3)イ） 【態】進んで言葉の響きやリズムに親しみ、学習課題に沿って古文を音読しようとしている。
6月	【情報】目的に応じて引用するとき 2時間（書②） ◎引用して、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。（思・判・表B(1)エ） ○情報と情報との関係づけのしかたを理解し使うことができる。（知・技(2)イ） ■引用カードを書く。 ☆レポート等を作成する際に、目的に応じて適切な引用を行う活動（理科、社会、総合的な学習の時間）	1～2	1 P76上段を見て、自分にも似た体験がないか想起して紹介し合い、目的に応じた引用の重要性について考えることを押さえる。 2 P76下段を読んで、情報を書き留めるときに気をつけることを確認する。 3 P77の文章と「山下さんの引用カード」を読んで、気づいたことを話し合う。 4 「山下さんの引用カード」を参考に、「手洗いの際に、蛇口を閉めることの大切さを説明する文章を書く場合」という設定で、引用カードを書く。 5 どのような引用カードを書いたのか、伝え合う。 6 学習を振り返る。 ・「いかそう」を基に、これからの生活にいかす視点をもつ。	【知・技】情報と情報との関係づけのしかたを理解し使っている。（(2)イ） 【思・判・表】「書くこと」において、引用して、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。（B(1)エ） 【態】進んで目的に応じた引用のしかたを理解し、学習課題に沿って引用カードを書くようとしている。

令和6年度 5年 国語 評価規準

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	主な学習活動	評価規準
6月 ～ 7月	伝えたいことを整理して、報告しよう みんなが使いやすいデザイン 8時間(書⑧) ◎目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係づけたりして、伝えたいことを明確にすることができる。(思・判・表B(1)ア) ○情報と情報との関係づけのしかたを理解し使うことができる。(知・技(2)イ) ■報告する文章を書く。 ☆よりよい社会や学校生活をつくろうと考える題材(道徳、総合的な学習の時間) ☆調べたことを報告する文章の書き方を工夫する活動(理科、社会、総合的な学習の時間) ☆インターネットによる情報収集(ICT活用)	1 2 3～4 5 6 7 8	1 学習の見直しをもつ。 ・ユニバーサルデザインについて、知っていることを紹介し合う。 ・「問いをもと」「目標」を基に、学習課題を設定し、学習計画を立てる。 2 調べたいことを見つける。 ・P79を参考にして、家や町の中にあるものから、誰もが使いやすいように工夫されているものを探す。 ・見つけたものから、特に調べたいものを選ぶ。 3 調べ方を選んで取材し、集めた情報を整理する。 ・P80「さまざまな調べ方と特長」を参考に、適切な方法を選んで調べる。 ・P76「目的に応じて引用するとき」の学習を参考にし、調べたことを記録する。 ・P80「さまざまな調べ方と特長」を参考にしながら、集めた情報を整理する方法について考える。 4 報告する文章の構成を考える。 ・P82の作例や二次元コードから見られる作例(全文)を参考にし、文章の構成を考える。 5 報告する文章の下書きを書く。 ・小見出しを立てるなどして、まとまりが分かるように書く。 ・本などから引用する場合は、他と区別して書く。 ・まとめは、それまでに述べてきたことと対応させる。 6 下書きを読み直して、清書する。 7 書いた文章を読み合って感想を伝え合う。 ・どんなところがよかったか、そう感じた理由とともに、感想を伝え合う。 8 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。	【知・技】情報と情報との関係づけのしかたを理解し使っている。(2)イ 【思・判・表】「書くこと」において、目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係づけたりして、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア) 【態】粘り強く目的や意図に応じて集めた材料を分類したり関係づけたりし、学習の見直しをもって報告する文章を書くこととしている。
7月	同じ読み方の漢字 2時間(知・技②) ◎第5学年までに配当されている漢字を読むとともに、漸次書き、文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)エ)	1 2	1 P84上段の問題に取り組み、同じ訓をもつ漢字でも、意味や使い方に違いがあることに気づく。 2 P84の設問1・2に取り組み。 3 P85上段を読み、同じ音をもつ熟語でも、意味や使い方に違いがあることに気づく。 4 P85の設問3・4に取り組み。 5 学習を振り返る。	【知・技】第5学年までに配当されている漢字を読むとともに、漸次書き、文や文章の中で使っている。(1)エ 【態】進んで同じ読み方の漢字の使い分けに関心を持ち、これまでの学習をいかしてそれらを理解しようとしている。
7月	夏の夜 1時間(書①) ◎親しみやすい古文を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しむことができる。(知・技(3)ア) ○語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うことができる。(知・技(1)オ) ◎目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選ぶことができる。(思・判・表B(1)ア) ■夏らしいものや様子を文章に書く。 ☆我が国の伝統と文化を尊重する態度を養う題材(道徳)	1	1 「枕草子」を音読して、言葉の響きやリズムを味わい、感じたことを伝え合う。 2 「枕草子」やP87の夏に関わる言葉、俳句を参考にし、夏らしいものや様子を文章に書く。 3 書いたものを交流して、感想を伝え合う。 4 学習を振り返る。	【知・技】 ・語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。(1)オ ・親しみやすい古文を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しんでいる。(3)ア 【思・判・表】「書くこと」において、目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選んでいる。(B(1)ア) 【態】積極的に言葉の響きやリズムに親しみ、学習課題に沿って夏らしいものや様子を文章に書くこととしている。
7月	本は友達 作家で広げるわたしたちの読書 モモ 5時間(読⑤) ◎日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに役立つことに気づくことができる。(知・技(3)オ) ○文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げることができる。(思・判・表C(1)カ) ■本の魅力を伝え合う。 ☆作家を意識して選んだ本を読む活動(図書館活用)	1 2～4 5	1 学習の見直しをもつ。 ・普段、どのように本を探しているかを想起する。 ・学習課題を設定し、学習計画を立てる。 2 自分の本の選び方について、友達と話す。 ・さまざまな観点があってよいが、作家に着目した発言が出るようにしたい。 3 「モモ」を読んで、感想を伝え合う。 4 これから読みたい作家を決めて、その作家の本を探して読む。 5 P91の作例を参考に「しょうかいカード」を書き、本を紹介し合う。 6 自分の選んだ作家や作品の魅力を紹介し合い、気づいたことを伝え合う。 7 学習を振り返る。 ・「読書に親しむために」で、本の読み方を押さえる。	【知・技】日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに役立つことに気づいている。(3)オ 【思・判・表】「読むこと」において、文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げている。(C(1)カ) 【態】積極的に読書に親しみ、学習の見直しをもって本の魅力を伝え合おうとしている。
9月	かほちゃのつるが われは草なり (詩歌)	1	1 二つの詩を音読する。 ・繰り返しの表現に着目しながら読む。	【知・技】比喩や反復などの表現の工夫に気づいている。(1)ク

令和6年度 5年 国語 評価規準

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	主な学習活動	評価規準
	2時間(読②) ◎比喩や反復などの表現の工夫に気づくことができる。(知・技(1)ク) ○詩の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができる。(思・判・表C(1)エ) ■考えたことを伝え合う。	2	2 「かぼちゃのつるが」を読み、繰り返しの表現により、どのような様子が想像されるかについて、話し合う。 ・「はい上がり」「葉をひろげ」が、どう繰り返され、何を表しているかを考える。 3 「われは草なり」を読み、「われは草なり」とは、どのようなことを表しているかについて考える。 ・繰り返しの表現が、各連の中で、他の表現とどう結び付いているかについて話し合う。 4 二つの詩を読んで、繰り返しの表現があることの効果について、考えをまとめる。 5 学習を振り返る。	【思・判・表】「読むこと」において、詩の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。(C(1)エ) 【態】進んで比喩や反復などの表現の工夫に気づき、学習課題に沿って考えたことを伝え合おうとしている。
9月	どちらを選びますか 2時間(話・聞②) ◎思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うことができる。(知・技(1)オ) ◎互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりすることができる。(思・判・表A(1)オ) ■立場に分かれて話し合う。 ☆適切な資料を用意し、相手が納得する説明をする活動(特別活動)	1~2	1 P104-105を読み、学習の進め方を確認する。 2 海を薦めるチーム(二人)と、山を薦めるチーム(二人)に分かれて、チームごとに薦める理由を考えてノートに書き出す。 3 話し合いを行う。 ・それぞれのチームが意見を言った後、質疑応答をして、互いの考えの違いをはっきりさせる。 ・各チームは、質疑応答を踏まえて考えを整理し、改めて意見を述べる。 ・先生役は、説得力があったチームを判定する。 4 学習を振り返る。 ・「たいせつ」で身につけた力を押さえる。	【知・技】思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使っている。(1)オ 【思・判・表】「話すこと・聞くこと」において、互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりしている。(A(1)オ) 【態】積極的に互いの立場を明確にして、これまでの学習をいかして立場に分かれて話し合おうとしている。
9月	新聞を読もう 2時間(読②) ◎目的に応じて、文章と図表などを結び付けたり必要情報を見つけたりと、論の進め方について考えたりすることができる。(思・判・表C(1)ウ) ○文章の構成や、文章の種類とその特徴について理解することができる。(知・技(1)カ) ○事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握することができる。(思・判・表C(1)ア) ■新聞記事を読む。 ☆新聞記事等による情報収集(社会、総合的な学習の時間)	1 2	1 新聞の1面の構成について確認する。 ・実際の新聞を用意し、構成を確認しながら、気づいたことや疑問点などをノートに書く。 ・新聞のそれぞれの面には、どのような分野の記事が書かれているかを確認する。 2 P108-109の二つの記事を読み、どんな違いがあるか、どうして違うのかを考え、ノートに書く。 3 二つの記事を比べて考えたことについて話し合う。 4 新聞の中から自分が興味をもったニュースを一つ選び、そのニュースについて、複数の記事を読み比べ、思ったことや考えたことをノートに書く。 5 ノートに書いたことを基に、自分の選んだニュースや記事について紹介し合う。 6 学習を振り返る。 ・「たいせつ」で身につけた力を押さえる。	【知・技】文章の構成や、文章の種類とその特徴について理解している。(1)カ 【思・判・表】 ・「読むこと」において、事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握している。(C(1)ア) ・「読むこと」において、目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つけたりと、論の進め方について考えたりしている。(C(1)ウ) 【態】進んで必要な情報を見つけたりと、論の進め方について考えたりし、学習課題に沿って新聞記事を読もうとしている。
9月	文章に説得力をもたせるには 2時間(書②) ◎筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考慮することができる。(思・判・表B(1)イ) ○文の中の語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解することができる。(知・技(1)カ) ■考えたことを伝え合う。	1 2	1 意見文における「主張」と「根拠」について知る。 2 P110-111の意見文の例を読み、「主張」と「根拠」がどのように書かれているかを確かめる。 ・「予想される反論」と「反論に対する考え」があるのとないのとでは、主張の伝わり方がどのように変わるかを考える。 ・「まとめ」で「主張」と同じ内容が繰り返されていることの効果を考える。 3 自分が毎日を安全に過ごすための方法について意見文を書くことと仮定して、構成や、どのまとまりにどんなことを書くかを考えて、伝え合う。 4 学習を振り返る。 ・「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。	【知・技】文の中の語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解している。(1)カ 【思・判・表】「書くこと」において、筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えている。(B(1)イ) 【態】積極的に筋道の通った文章となるように文章全体の構成や展開を考え、学習の見通しをもって考えたことを伝え合おうとしている。
9月	漢字の広場② 1時間(書①) ◎第4学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)エ) ・文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えることができる。(思・判・表B(1)オ) ■示された言葉を使って、絵を基にして文を書く。	1	1 P112に提示された言葉を使いながら、作家になったつもりで、登山家の半生を文章に書く。 2 書いた文章を読み返し、構成などを整える。 3 書いた文章を友達と読み合い、交流するとともに、示された漢字について確認する。	【知・技】第4学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。(1)エ 【思・判・表】「書くこと」において、文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えている。(B(1)オ) 【態】進んで第4学年までに配当されている漢字を書き、これまでの学習をいかして文を書こうとしている。
9月 ~ 10月	物語の全体像を想像し、考えたことを伝え合おう たずねびと 6時間(読⑥) ◎人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができる。(思・判・表C(1)エ) ○比喩や反復などの表現の工夫に気づくことができる。(知・技(1)ク) ■考えたことを伝え合う。 ☆戦争や平和について考えさせるとともに、平和を願う心を養う題材(道徳) ☆紹介された本を選んで読む活動(図書館)	1 2	1 学習の見通しをもつ。 ・P113を見て、物語の内容を想像する。 ・教材文を読み、「問いをもと」「目標」を基に学習課題を設定し、学習計画を立てる。 2 本文を読んで、「綾」の心情の変化を捉える。 ・それぞれの場面で「綾」が出てきたものや、登場人物を確かめる。 ・P128「心情の変化をとらえる」を参考に、行動や会話、心情や情景を表す表現に着目して、「綾」の心情の変化を捉える。	【知・技】比喩や反復などの表現の工夫に気づいている。(知・技(1)ク) 【思・判・表】「読むこと」において、人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。(C(1)エ) 【態】粘り強く物語の全体像を具体的に想像し、学習の見通しをもって考えたことを伝え合おうとしている。

令和6年度 5年 国語 評価規準

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	主な学習活動	評価規準
	活用)	3~4	3 P129「言葉に着目しよう」を参考にし、物語の全体像を想像する。 ・「きれいな川」や「ただの名前」が、「綾」にとってどんなものになったかを考える。 ・原爆や戦争に対する「綾」の見方がどう変わったかを考える。 ・「綾」が訪ねた場所や出会った人が、それぞれ「綾」に何を伝える役割をしていたかについて考える。	
		5	4 自分の思いや考えにどのような変化があったかについて、ノートにまとめる。 ・P129「考えをまとめる例」を参考にする。	
		6	5 まとめたことを友達と伝え合う。 6 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。 ・単元で身につけた力をいかして、P260「チェロの木」を読むことを確かめる。 ・「この本、読もう」で読書への意欲をもつ。	
10月	漢字の広場③ 1時間(書①) ◎第4学年までに担当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。 (知・技(1)エ) ・文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えることができる。 (思・判・表B(1)オ) ■示された言葉を使って、絵を基にして文を書く。	1	1 P131に提示された言葉を使いながら、各教科での学習や学校生活について、学級日誌に記録するように文章を書く。 2 書いた文章を読み返し、構成などを整える。 3 書いた文章を友達と読み合い、交流するとともに、示された漢字について確認する。	【知・技】第4学年までに担当されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。 (1)エ 【思・判・表】「書くこと」において、文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えている。(B(1)オ) 【態】進んで第4学年までに担当されている漢字を書き、これまでの学習をいかして文を書くようとしている。
10月	方言と共通語 2時間(知・技②) ◎共通語と方言との違いを理解することができる。(知・技(3)ウ)	1~2	1 方言と共通語について知る。 ・「問いをもとう」を基に、言葉の中には方言があることに気づく。 ・「方言分布図」を参照し、自分の住んでいる地方で、塩の味を表す言葉としてどう言うか、話し合う。 2 方言と共通語の特徴と必要性を確かめる。 3 設問に取り組む。 ・自分の住む地域の方言を知る。 ・「たずねびと」の方言の効果について話し合う。 ・方言を使った場合と共通語を使った場合のそれぞれのよさを考える。 4 学習を振り返る。 ・「いかそう」を読み、これからの生活にいかす視点をもつ。	【知・技】共通語と方言との違いを理解している。(3)ウ 【態】進んで方言と共通語の違いに関心をもち、学習課題に沿ってそれらを理解しようとしている。
10月	秋の夕 1時間(書①) ◎親しみやすい古文を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しむことができる。(知・技(3)ア) ◎語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うことができる。(知・技(1)オ) ◎目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選ぶことができる。(思・判・表B(1)ア) ■秋らしいものや様子を文章に書く。 ☆我が国の伝統と文化を尊重する態度を養う題材(道徳)	1	1 「枕草子」を音読して、言葉の響きやリズムを味わい、感じたことを伝え合う。 2 「枕草子」やP135の秋に関わる言葉、俳句を参考にし、秋らしいものや様子を文章に書く。 3 書いたものを交流して、感想を伝え合う。 4 学習を振り返る。	【知・技】 ・語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。(1)オ ・親しみやすい古文を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しんでいる。(3)ア 【思・判・表】「書くこと」において、目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選んでいる。(B(1)ア) 【態】積極的に言葉の響きやリズムに親しみ、学習課題に沿って秋らしいものや様子を文章に書こうとしている。
10月	たがいの立場を明確にして、話し合おう よりよい学校生活のために 【コラム】意見が対立したときには 6時間(話・聞⑥) ◎情報と情報との関係づけのしかた、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができる。(知・技(2)イ) ◎目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係づけたりして、伝え合う内容を検討することができる。(思・判・表A(1)ア) ◎互いの立場や意図を明確にしながらいかに話し合い、考えを広げたりまとめたりすることができる。(思・判・表A(1)オ) ◎思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うことができる。(知・技(1)オ) ■身の回りの問題について、それぞれの立場から考えを伝えて話し合う。	1	1 学習の見直しをもつ。 ・学校生活の中でこうなるといいと思うことについて、考えを出し合う。 ・「問いをもとう」「目標」を基に、学習課題を設定し、学習計画を立てる。	【知・技】 ・思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使っている。(1)オ ・情報と情報との関係づけのしかた、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使っている。(2)イ 【思・判・表】 ・「話すこと・聞くこと」において、目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係づけたりして、伝え合う内容を検討している。(A(1)ア) ・「話すこと・聞くこと」において、互いの立場や意図を明確にしながらいかに話し合い、考えを広げたりまとめたりしている。(A(1)オ) 【態】粘り強く互いの立場や意図を明確に
		2	2 学校生活の中から、議題を決める。 ・新たにしてみたいことや解決したい身近な課題を見つけて、ノートに書く。 ・書いた課題を基にクラスで一つの課題を選び、議題を決める。	
		3	3 自分の立場を明らかにするために、考えを書き出す。 ・P138「自分の考えを明らかにするときは」を参考にする。 ・議題についての自分の意見を付箋等に書き出して整理しておく。	

令和6年度 5年 国語 評価規準

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	主な学習活動	評価規準
	☆身近な問題に気づき、仲間と共に解決を図る学習（特別活動、社会、総合的な学習の時間） ☆ICT端末の機能を使って、出てきた考えを整理する活動（ICT活用）	4	4 話し合いのしかたを全体で確認して、進行計画を立てる。 ・P138「進め方の例」を参考にする。 ・グループごとに司会や記録などの役割や、時間配分等を決める。 5 話し合いのときに気をつけることを確認する。 ・「考えを広げる話し合い」「考えをまとめる話し合い」それぞれについて、よりよい意見の伝え方や質問のしかた、意見のまとめ方などを確かめる。 ・P142「意見が対立したときには」を読み、意見が対立したときの伝え合い方について知る。	しながら、学習の見通しをもって身の回りの問題を解決するために話し合おうとしている。
		5	6 計画に沿って、グループで話し合う。 ・前時までの学習をいかして話し合う。 ・各自の考えを書いた付箋を利用して、それぞれの考えを整理する。P140「ふせんを使って整理する例」を参考にする。	
		6	7 話し合った結果をクラス全体へ報告し、感想を伝え合う。 ・話し合いの中でよかったところを伝え合い、話し合いのよりよい進め方として確かめ合う。 8 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。	
11月	浦島太郎——「御伽草子」より 1時間（知・技①） ◎古典について解説した文章を読んだり作品の内容の大体を知ったりすることを通して、昔の人のものの見方や感じ方を知ることができる。（知・技(3)イ） ○親しみやすい古文の文章を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しむことができる。（知・技(3)ア） ○時間の経過による言葉の変化に気づくことができる。（知・技(3)ウ） ■古典の文章を読み、知っている話と比べて思ったことを話す。 ☆二次元コードから朗読を視聴（ICT活用）	1	1 P144-145を読み、「浦島太郎」の結末について知ることを発表し合う。 2 二次元コードを活用して古典の文章の朗読を聞いたのち、繰り返し音読する。 3 「知っている話と違う」「今の自分たちにも、気持ちが分かる」などの視点で考えをもち、友達と話し合う。 4 学習を振り返る。 ・昔の言葉と今の言葉を比べたり、昔の人のものの見方や感じ方について感想をもったりしてまとめる。	【知・技】 ・親しみやすい古文の文章を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しんでいる。（(3)ア） ・古典について解説した文章を読んだり作品の内容の大体を知ったりすることを通して、昔の人のものの見方や感じ方を知っている。（(3)イ） ・時間の経過による言葉の変化に気づいている。（(3)ウ） 【態】進んで昔の人のものの見方や感じ方を知り、学習課題に沿って古典の文章について思ったことを話そうとしている。
11月	和語・漢語・外来語 2時間（知・技②） ◎語句の由来などに関心をもつとともに、世代による言葉の違いに気づくことができる。（知・技(3)ウ） ○語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うことができる。（知・技(1)オ）	1	1 言葉には、「和語」「漢語」「外来語」があることを知る。 ・「問いをもとう」を基に、違う言い方があることに気づき、使い分け方について考える。 ・P146の①と②を読み、それぞれから受ける印象の違いについて伝え合う。 ・和語、漢語、外来語の定義を理解する。	【知・技】 ・語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。（(1)オ） ・語句の由来などに関心をもつとともに、世代による言葉の違いに気づいている。（(3)ウ） 【態】進んで和語・漢語・外来語などの由来に関心をもち、学習課題に沿ってそれらを理解しようとしている。
		2	2 P147の設問に取り組み、漢語と和語で意味が異なる場合があることを知る。 3 和語・漢語・外来語の使い分けについて考える。 ・それぞれの特徴をまとめる。 4 身の回りにある文章から、和語・漢語・外来語を探して発表し合い、どのような文章の中に多く見られるかを確かめる。 5 学習を振り返る。 ・「いかそう」を基に、これからの生活にいかす視点をもつ。	
11月	資料を用いた文章の効果を考え、それをいかして書こう			
	固有種が教えてくれること 自然環境を守るために 【コラム】統計資料の読み方 10時間（書⑤、読⑤） ◎原因と結果など情報と情報との関係について理解することができる。（知・技(2)ア） ○引用したり、図表やグラフを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。（思・判・表B(1)エ） ○目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つけたら、論の進め方について考えたりすることができる。（思・判・表C(1)ウ） ○日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに関心をもつことができる。（知・技(3)オ） ○事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握することができる。（思・判・表C(1)ア） ■筆者の説明のしかたの工夫について、考えをまとめて話し合ったり、統計資料を根	1	1 学習の見通しをもつ。 ・P149を見て、固有種について知っていることや、自然環境について関心のあることなどを出し合う。 ・自然環境について、自分の考えを文章に書くことを確かめる。 ・教材文を読み、P158「問いをもとう」「目標」を基に、学習課題を設定し、学習計画を立てる。	【知・技】 ・原因と結果など情報と情報との関係について理解している。（(2)ア） ・日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに関心をもつことに気づいている。（(3)オ） 【思・判・表】 ・「書くこと」において、引用したり、図表やグラフを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。（B(1)エ） ・「読むこと」において、事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握している。（C(1)ア） ・「読むこと」において、目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つけたら、論の進め方について考えたりしている。（C(1)ウ） 【態】粘り強く文章と図表などを結び付けて読み、学習の見通しをもって、読み取った筆者の工夫をいかして統計資料を用いた意見文を書こうとしている。
		2~3	2 「固有種が教えてくれること」を読むことで、初めて知ったことや興味をもったことを出し合う。 ・筆者の説明の工夫に着目して読んでいくことを確かめる。 3 文章の構成を整理して、内容を捉える。 ・「初め」「中」「終わり」のまとまりを確かめる。 ・筆者の考えの中心を捉える。 ・「中」のそれぞれの段落に見出しをつけて整理して、「中」を大きく二つに分ける。 ・文章の要旨を150字以内でまとめる。 4 筆者が図表やグラフ、写真を使った意図と効果を考える。 ・P158「資料の効果を考えるときは」を読み、意図や効果を考えるときの手がかりにする。	

令和6年度 5年 国語 評価規準

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	主な学習活動	評価規準
	○登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えることができる。 (思・判・表C(1)イ) ■伝記を読み、自分の生き方について考えたことを交流する。 ☆自分の郷土に目を向けさせる題材(総合的な学習の時間) ☆伝記の選書(図書館活用)	2~3 4 5	2 伝記に取り上げられている出来事を確かめる。 ・P182「伝記の表現」から、特色を知る。 ・それぞれの出来事で「たかし」がしたことや考えたこと、人生における意味を確かめる。 3 考え方に着目して、「たかし」の人物像をまとめる。 4 「たかし」の行動や考え方について、自分の考えを書く。 5 選んで読んだ本(伝記)について、考えたことを200字程度で書く。 6 書いた文章を読み合い、感想を伝え合う。 7 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」で身につけた力を押さえる。	解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。(C(1)オ) 【態】積極的に文章を読んで理解したことに基づいて自分の考えをまとめ、学習課題に沿って考えたことを交流しようとしている。
12月	意見文を書いて読み合い、よいところを見つけよう あなたは、どう考える 6時間(書⑥) ◎語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うことができる。 (知・技(1)オ) ◎文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見つけることができる。(思・判・表B(1)カ) ○文章の構成や展開、文章の種類とその特徴について理解することができる。(知・技(1)カ) ○目的や意図に応じて、事実と感想、意見を区別して書くことで、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。(思・判・表B(1)ウ) ■意見文を書く。 ☆自分の関心のあることから題材を決め、詳しく知りたいと思うことを調べる活動(社会、総合的な学習の時間) ☆意見や理由とその根拠を説明する活動(社会、総合的な学習の時間) ☆ICT端末に文章構成の表を用意し、付箋機能を使い、文章の構成を考える活動(ICT活用)	1 2 3 4~5 6	1 学習の見直しをもつ。 ・他の人の意見を読んで共感したり、意見をもったりした経験について発表する。 ・「問いをもとう」「目標」を基に、学習課題を設定し、学習計画を立てる。 2 自分の関心のあることから題材を決め、主張を考える。 ・P187の作例を読み、よいところを見つける。 ・P185の投書の例や「題材の例」を参考にして、題材を集めて、その中から決める。 ・P185「主張をはっきりさせるには」を参考に主張の理由や根拠を書き出す。 3 自分の考えを見直したり、グループで見せ合ったりして、他の立場から自分の考えを見直す。 ・主張や理由、根拠について、説得力があると感じたところや補ったほうがよいところを友達と伝え合う。 ・友達の見解を参考にして、自分の主張に対する反論を予想する。 ・必要に応じて、実際にあった出来事を思い出したり、図書館やインターネットで情報を調べたりする。 4 文章の構成を考える。 ・P186の倉田さんの例を参考に、集めた情報から、どれをどの順番で取り上げるかを決める。 ・P186「学びをいかそう」を参考に、説得力を意識した文章構成になるように確かめる。 5 構成を基に、意見文を書く。 ・P187「考えを表す言葉」を参考に、 6 書いた文章を読み返して、文章を推敲する。 7 意見文を読んで感想を伝え合い、文章のよさを見つける。 ・P188の感想の例や質問の例を参考に、 ・P188「感想や質問を伝え合うときは」を参考にして、質問や感想で意見文のよさを引き出したり、気づいたりできるようにする。 8 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。	【知・技】 ・語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。(1)オ ・文章の構成や展開、文章の種類とその特徴について理解している。(1)カ) 【思・判・表】 ・「書くこと」において、目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くことで、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。(B(1)ウ) ・「書くこと」において、文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見つけている。(B(1)カ) 【態】積極的に文章に対する感想や意見を伝え合い、学習の見直しをもって意見文を書こうとしている。
12月	冬の朝 1時間(書①) ◎親しみやすい古文を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しむことができる。(知・技(3)ア) ○語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うことができる。 (知・技(1)オ) ○目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選ぶことができる。(思・判・表B(1)ア) ■冬らしいものや様子を文章に書く。 ☆我が国の伝統と文化を尊重する態度を養う題材(道徳)	1	1 「枕草子」を音読して、言葉の響きやリズムを味わい、感じたことを伝え合う。 2 「枕草子」やP191の冬に関わる言葉、俳句を参考にして、冬らしいものや様子を文章に書く。 3 書いたものを交流して、感想を伝え合う。 4 学習を振り返る。 ・自分が書いた「春夏秋冬らしいものや様子」を見直して、振り返ることができることさらによい。	【知・技】 ・語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。(1)オ) ・親しみやすい古文を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しんでいる。(3)ア) 【思・判・表】 ・「書くこと」において、目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選んで、(B(1)ア) 【態】積極的に言葉の響きやリズムに親しみ、学習の課題に沿って冬らしいものや様子を文章に書こうとしている。
1月	好きな詩のよさを伝えよう 2時間(書①、読①) ◎比喩や反復などの表現の工夫に気づくことができる。(知・技(1)ク) ○目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選ぶことができる。(思・判・表B(1)ア) ○文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げることができる。(思・判・表C(1)カ) ■詩を紹介する文章を書く。 ☆詩集を読む活動(図書館利用)	1 2	1 教科書にある詩を繰り返し音読し、好きなところや気づいたことなどについて、ノートに書く。 2 それぞれの詩の工夫を確かめる。 ・「言葉に着目しよう」を参考に考え、伝え合う。 3 教科書にある詩からお気に入りの詩を選び、どこがよいのかをまとめて書く。 4 好きな詩を紹介するカードを書く。 ・これまでに読んだ詩や詩集などからお気に入りの詩を選び、表現のよさを考える。 5 カードを基にして詩を紹介し合う。 6 学習を振り返る。 ・「この本、読もう」で読書の幅を広げる。	【知・技】比喩や反復などの表現の工夫に気づいている。(1)ク) 【思・判・表】 ・「書くこと」において、目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選んで、(B(1)ア) ・「読むこと」において、文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げている。(C(1)カ) 【態】積極的に詩を読んでまとめた感想を共有し、学習課題に沿って詩を紹介しようとしている。

令和6年度 5年 国語 評価規準

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	主な学習活動	評価規準
1月	言葉でスケッチ 2時間(書②) ◎目的や意図に応じて事実と感想とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。 (思・判・表B(1)ウ) ○比喩や反復などの表現の工夫に気づくことができる。 (知・技(1)ク) ■情景が伝わるように書く。	1 2	1 メモの書き方をつかむ。 ・P194「観点にそってメモに書き出そう。」を参考に する。 ・教材にある子どもの写真を基に、観点を作ってメモ を作成する。 ・メモを作成して、観点に沿って整理する。 2 P195「例」のよいところを見つけて、情景が伝わって くる表現の工夫のしかたを確かめる。 3 自分が選んだ写真を、言葉で表現する。 4 完成した文章を読み合い、よいところを伝え合う。 5 学習を振り返る。 ・「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さ え、この後の「書くこと」単元で活用することを確か める。	【知・技】比喩や反復などの表現の工夫に 気づいている。(1)ク 【思・判・表】「書くこと」において、目 的や意図に応じて事実と感想とを区別して 書くなど、自分の考えが伝わるように書き 表し方を工夫している。(B(1)ウ) 【態】粘り強く自分の考えが伝わるように 書き表し方を工夫し、学習課題に沿って情 景が伝わるように書こうとしている。
1月	熟語の読み方 2時間(知・技②) ◎第5学年までに担当されている漢字を読 むことができる。(知・技(1)エ)	1 2	1 P196上段の熟語は、それぞれの漢字を音読みと訓読み のどちらで読んでいるかを考える。 2 重箱読みと湯桶読みの熟語について理解する。 3 設問1に取り組み、音読みと訓読みの組み合わせに なっている熟語を探す。 ・重箱読みと湯桶読みに分ける。 4 P197を読んで、特別な読み方をする熟語があることを 知る。 5 設問2に取り組み、熟語の読み方を考える。 6 特別な読み方をする熟語を見つけてクイズにして、紹 介し合う。	【知・技】第5学年までに担当されている 漢字を読んでいる。(1)エ 【態】進んで熟語の読み方に関心をもち、 学習課題に沿ってそれらを理解しようと している。
1月	漢字の広場⑤ 1時間(書①) ◎第4学年までに担当されている漢字を書 き、文や文章の中で使うことができる。 (知・技(1)エ) ・文章全体の構成や書き表し方などに着目 して、文や文章を整えることができる。 (思・判・表B(1)オ) ■示された言葉やつなぎ言葉を使って、道 順を案内する文を書く。	1	1 P198に提示された言葉とつなぎ言葉を使って、駅から おばあちゃんの家までの道順を案内する文章を書く。 2 書いた文章を読み返すなどして、つなぎ言葉の使い方 や構成などを考える。 3 書いた文章を見せ合い、違う道順や違う表現で書いた 友達と紹介し合うとともに、示された漢字を確認す る。	【知・技】第4学年までに担当されている 漢字を書き、文や文章の中で使っている。 (1)エ 【思・判・表】「書くこと」において、文 章全体の構成や書き表し方などに着目し て、文や文章を整えている。(B(1)オ) 【態】進んで第4学年までに担当されてい る漢字を書き、これまでの学習をいかして 文を書こうとしている。
1月	事例と意見の関係をおさえて読み、考えたことを伝え合おう	1 2~3 4 5 6	1 学習の見通しをもつ。 ・P199を見て、「想像力のスイッチ」という言葉から 連想することを出し合う。 ・教材文を読み、「問いをもと」「目標」を基に学 習課題を設定し、学習計画を立てる。 2 筆者が伝えようとしていることを捉える。 ・文章のまとまりごとに述べられていることをままと めて、概略をつかむ。 3 筆者が挙げた事例と、それぞれの事例に対する筆者の 意見をまとめる。 4 事例を挙げて説明することの効果について話し合う。 5 筆者が考える「想像力のスイッチ」について、まとめ る。 ・なぜその表現にしたのかを考える。 ・表現に対する自分の意見をもつ。 6 P206「もっと読もう」を参考に、自分の経験を想 起して、メディアとの関わり方についての自分の考え を文章に書く。 7 書いたものを読み合い、互いの考え方の類似点や相違 点を見つけて伝え合う。 ・取り入れたい友達の考えを明らかにする。 8 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るととも に、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さ える。 ・「この本、読もう」で読書への意欲をもつ。	【知・技】文章の構成や展開、文章の種類 とその特徴について理解している。(1) カ) 【思・判・表】 ・「読むこと」において、文章を読んで理 解したことに基づいて、自分の考えをまと めている。(C(1)オ) ・「読むこと」において、文章を読んでま とめた意見や感想を共有し、自分の考えを 広げている。(C(1)カ) 【態】積極的に文章を読んで理解したこ とに基づいて自分の考えをまとめ、学習の見 通しをもってメディアとの関わり方につい て話し合おうとしている。
1月	複合語 2時間(知・技②) ◎語句の構成や変化について理解し、語彙 を豊かにすることができる。(知・技(1) オ)	1 2	1 複合語について知る。 ・「問いをもと」を基に、言葉と言葉が結び付い て、新しい意味をもつことに気づく。 2 複合語の種類を確かめる。 ・複合語の組み合わせ方を理解して、設問1に取り組 む。 3 複合語の特徴を確かめる。 ・長い複合語や略語について理解する。 ・発音や音の高低が変わる複合語があることを確かめ る。 ・設問2に取り組み。 4 学習を振り返る。 ・「いかそう」を基に、これからの生活にいかす視点 をもつ。	【知・技】語句の構成や変化について理解 し、語彙を豊かにしている。(1)オ) 【態】進んで複合語の構成や変化につい て関心をもち、学習課題に沿ってそれらを理 解しようとしている。
2月	言葉について考えよう			

令和6年度 5年 国語 評価規準

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	主な学習活動	評価規準
	<p>言葉を使い分けよう 3時間（知・技①、書②）</p> <p>○言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気づくことができる。（知・技(1)ア）</p> <p>○語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うことができる。（知・技(1)オ）</p> <p>○目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。（思・判・表B(1)ウ）</p> <p>■手紙を書く。</p>	1 2 3	<p>1 学習の見直しをもつ。 ・P213を読み、「問いをもとう」を基にどんなことを考えていくかの見直しをもつ。</p> <p>2 相手に応じた言葉の選び方について考える。 ・「お知らせをどう書き換えればいいのか」について話し合う。 ・P214「言葉を選ぶときは」を読んで、選び方について確認する。</p> <p>3 相手や場に応じた言い方について考える。 ・「お知らせ」をどう書き換えればいいのかについて話し合う。 ・P215「言い方を変えるときは」を読んで、よりよい言い方について確認する。</p> <p>4 P215の課題に取り組む。 ・相手に合わせて言葉を選び、相手や場に応じた言い方をするの大切さを確認する。</p> <p>5 言葉や表現に気をつけて手紙の文面を考える。 ・友達と評価し合う。</p> <p>6 学習を振り返る。 ・これからの生活や学習にいかす視点をもつ。</p>	<p>【知・技】</p> <p>・言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気づいている。（(1)ア）</p> <p>・語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。（(1)オ）</p> <p>【思・判・表】</p> <p>「書くこと」において、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。（B(1)ウ）</p> <p>【態】積極的に語感や言葉の使い方に対する感覚を意識し、学習課題に沿って手紙を書こうとしている。</p>
2月	<p>読む人を意識して構成を考え、物語を書こう</p> <p>もう一つの物語 6時間（書⑥）</p> <p>◎話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解することができる。（知・技(1)カ）</p> <p>◎筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えることができる。（思・判・表B(1)イ）</p> <p>■別の物語に書き換える。</p>	1 2 3 4 5 6	<p>1 学習の見直しをもつ。 ・別の展開について考えてみたい物語を想起する。 ・「問いをもとう」「目標」を基に、学習課題を設定し、学習計画を立てる。</p> <p>2 2 作例を基に、「何を」「どのように」書き換えているかをつかむ。</p> <p>3 書き換えたい物語を選び、変える部分を考える。 ・P218「変える部分を考えるときは」を読み、変え方の参考にする。 ・変える部分を友達と紹介し合っ、書き換える物語と、書き換える部分について決める。</p> <p>4 読む人を意識して、物語の構成を考える。 ・P219「物語の基本的な構成」「塩谷さんの構成メモ」を参考に、構成メモを作成する。 ・塩谷さんの構成の工夫を見つけて、読む人にどう楽しんでもらおうとしているかを予想する。 ・P219「物語の構成を考えるときは」を読んで、構成を考える参考にする。</p> <p>5 表現を工夫して、物語の下書きをする。 ・読む人にどう感じてほしいかを意識して、物語の「どこに」「何を」書けばよいかを考える。 ・物語の場面を想像して、会話文や登場人物の様子、情景などを工夫して書き表す。</p> <p>6 物語を清書する。 ・P220「学びをいかそう」を参考に、表現を工夫する。 ・推敲して、仕上げる。</p> <p>7 読み合っ、感想を伝え合う。</p> <p>8 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。</p>	<p>【知・技】話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解している。（(1)カ）</p> <p>【思・判・表】</p> <p>「書くこと」において、筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えている。（B(1)イ）</p> <p>【態】粘り強く文章全体の構成や展開を考え、学習の見直しをもって物語を書こうとしている。</p>
2月 3月	<p>事実と感想、意見とを区別して、説得力のある提案をしよう</p> <p>「子ども未来科」で何をする 6時間（話・聞⑥）</p> <p>◎話し言葉と書き言葉との違いに気づくことができる。（知・技(1)イ）</p> <p>◎話の内容が明確になるように、事実と感想、意見とを区別するなど、話の構成を考えることができる。（思・判・表A(1)イ）</p> <p>○文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解することができる。（知・技(1)カ）</p> <p>○資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫することができる。（思・判・表A(1)ウ）</p> <p>■提案するスピーチを行う。</p> <p>☆自分の関心のあることから題材を決め、詳しく知りたいと思うことを調べる活動（社会、総合的な学習の時間）</p> <p>☆意見や理由と根拠を説明する活動（社会、総合的な学習の時間）</p> <p>☆練習時のスピーチの録音・録画（ICT活用）</p>	1 2 3 4	<p>1 学習の見直しをもつ。 ・自分が学んでみたいことを考え、発表し合う。 ・「問いをもとう」「目標」を基に、学習課題を設定し、学習計画を立てる。</p> <p>2 P225「山下さんのスピーチ」を参考に、「何を」「どのように」に伝えるスピーチなのかの見直しをもつ。</p> <p>3 考えてみたいテーマを決める。 ・どんな課題があるかを想起して、自分が考えたいテーマを決める。 ・課題にしようとしているテーマについて、グループで情報交換する。</p> <p>4 テーマから課題を考え、情報を集める。 ・自分が決めたテーマについての課題を挙げて、「子ども未来科」で学べそうなことを考える。 ・P223「情報を集めるときは」を参考に、説得力を上げるための情報を集める。</p> <p>5 スピーチの構成を考える。 ・内容や話す順序を考え、スピーチメモを作る。 ・提示する資料を作る。 ・P224「構成を考えるときは」「資料を作るときは」を読んで、参考にする。</p>	<p>【知・技】</p> <p>・話し言葉と書き言葉との違いに気づいている。（(1)イ）</p> <p>・文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解している。（(1)カ）</p> <p>【思・判・表】</p> <p>「話すこと・聞くこと」において、話の内容が明確になるように、事実と感想、意見とを区別するなど、話の構成を考えている。（A(1)イ）</p> <p>・「話すこと・聞くこと」において、資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫している。（A(1)ウ）</p> <p>【態】粘り強く話の構成を考え、学習の見直しをもって提案するスピーチをしようとしている。</p>

令和6年度 5年 国語 評価規準

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	主な学習活動	評価規準
		5 6	6 スピーチメモを基にして、練習をする。 ・P225「山下さんのスピーチ」や二次元コードを参考に、効果的な言葉の選び方や話し方、資料の示し方などを工夫する。 7 スピーチをする。 ・動画に撮っておき、見返す。 8 感想を伝え合う。 ・話の構成、話し方の両面から、友達のスピーチのよかったところを伝え合う。 9 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。	
3月	登場人物の心情の変化に着目して読み、物語のみりよくを伝え合おう 大造じいさんとガン 6時間（読⑥） ◎文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げることができる。 （思・判・表C(1)カ） ○比喩や反復などの表現の工夫に気づくことができる。（知・技(1)ク） ○文章を音読したり朗読したりすることができる。（知・技(1)ケ） ○人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができる。（思・判・表C(1)エ） ■物語の魅力伝える文章を書く。 ■物語の魅力が表れているところを朗読する。	1 2～3 4 5～6	1 学習の見直しをもつ。 ・P227を見て、物語の内容を想像する。 ・教材文を読み、「問いをもと」「目標」を基に学習課題を設定し、学習計画を立てる。 2 「残雪」に対する「大造じいさん」の心情と、その変化に着目して、物語の内容を捉える。 ・P246「言葉に着目しよう」を参考に、「大造じいさん」の心情を表す情景描写の効果について考える。 3 物語の山場について考える。 ・「大造じいさん」の心情が大きく変わるところを探す。 4 読み深める観点を選んで、物語の魅力を見つけて自分の言葉でまとめる。 ・P247「選んで読み深めよう」を参考にする。 ・観点が同じ人どうしや違う人どうしで考えを伝え合い、考えを深める。 5 物語の魅力とそう考える理由をまとめる。 ・物語の魅力がよく表れている場面や文を選んで、そう思う理由を書き表す。 6 選んだ場面や文を朗読で表現する。 ・物語の魅力について書いた文章や朗読について、グループで紹介し合い、考えを比べる。 7 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。 ・「この本、読もう」で読書への意欲をもつ。	【知・技】 ・比喩や反復などの表現の工夫に気づいている。（(1)ク） ・文章を音読したり朗読したりしている。（(1)ケ） 【思・判・表】 ・「読むこと」において、人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。（C(1)エ） ・「読むこと」において、文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げている。（C(1)カ） 【態】積極的に意見や感想を共有し、学習の見直しをもって物語の魅力伝え合おうとしている。
3月	漢字の広場⑥ 1時間（書①） ◎第4学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。 （知・技(1)エ） ・文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えることができる。 （思・判・表B(1)オ） ■示された言葉を使って、出来事を報道する文を書く。	1	1 P249に提示された言葉を使いながら、新聞記者になったつもりで、出来事を報道する文章を書く。 2 書いた文章を読み返すなどして、構成などを考える。 3 書いた文章を見せ合い、交流するとともに、示された漢字を確認する。	【知・技】第4学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。（(1)エ） 【思・判・表】「書くこと」において、文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えている。（B(1)オ） 【態】進んで第4学年までに配当されている漢字を書き、これまでの学習をいかして文を書こうとしている。
3月	五年生をふり返って 1時間（書①） ○言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気づくことができる。 （知・技(1)ア） ○目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選べる。 （思・判・表B(1)ア） ■1年間の国語科での学びを振り返って、書く。	1	1 1年間の国語学習を振り返る。 ・P252「『たいせつ』のまとめ」を読んで、領域ごとに自分が大切だと思ったことを書き加える。 ・学習で使ったノートやワークシートなどを見返して、それぞれの単元、時間で学んだことを想起する。 2 「自分自身について言葉の力」と「その力のいかし方」について、自分の考えをまとめて書く。 3 書いた考えを友達と紹介し合う。	【知・技】言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気づいている。（(1)ア） 【思・判・表】「書くこと」において、目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選んでいる。（B(1)ア） 【態】進んで考えたことなどから書くことを選び、学習課題に沿って1年間の振り返りを書こうとしている。

令和6年度『ひろがる言葉 小学国語』6年 評価規準

江戸川区立東葛西小学校

〔第5学年及び第6学年〕目標(「学びに向かう力、人間性等」の単元目標)

- (1) 日常生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができるようにする。
 - (2) 筋道立てて考える力や豊かに感じたり想像したりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げることができるようにする。
 - (3) 言葉がもつよさを認識するとともに、進んで読書をし、国語の大切さを自覚して、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。
- 「学習内容」…△知識・技能 △話すこと・聞くこと ■書くこと □読むこと

学期	月	時数	単元名／教材名／教科書ページ 学習内容 ★ここが大事／☆学習用語	領域	時	学習活動／*留意点	評価規準 学習指導要領との対応
1学期	4月	2 (話す聞2)	質問に答えるかたちで自分のことを話そう 自分との対話 教科書:P8 ◇自分のことを客観的に捉えて話す。	話聞	1	1. クラスのみんなに聞いてみたい質問を出し合い、自分のことを話す活動であるということを確認する。 2. みんなへの質問をカードに書く。 *教科書の例を参考にしながら、質問を考える。 3. カードを引いて、質問を決める。 4. 質問にどう答えるか考える。 *自分で具体的な質問を考えて答えを書き出す。	【知識・技能】 ◎言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気付いている。(1)ア) 【思考・判断・表現】 ◎「話すこと・聞くこと」において、目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討している。(A1)ア) 【言語活動例】 *意見や提案など自分の考えを話したり、それらを聞いたりする活動。(A2)ア) 【態度】 *積極的に自分のことを客観的に捉え、今までの学習を生かして質問について考えようとしている。
					2	5. グループで発表する。 6. 感想を伝え合う。 *友達の話を聞いて、印象に残ったことや共感したことなどについて交流するようにする。 <ふり返ろう> 7. 学習の振り返りをする。	
1学期	4月	1	楽しく声に出して読もう 風景 純銀もざいぐ 教科書:P10 □繰り返しの響きや意味に気をつけて音読し、言葉の意味を考える。 ☆学習用語: 音読/詩	読む	3	1. 『風景 純銀もざいぐ』を音読する。 *何度も音読をすることによって、繰り返しの効果に気づくようにする。理屈ではなく身体で詩の表現の効果についてつかませたい。 *一連・二連・三連で、見えたり、聞こえたりしたことを考える。 *児童が理解しにくい言葉「むぎぶえ」「ひばり」「や(病)める」という語の意味については、写真等の資料を見せて補足し、説明を加えるとよい。 *発問例「どのような色が見えてきたかな」「このなのはな畑はどれくらい広いかな」「どのような音が聞こえてきたかな」「どのような匂いがしてきたかな」 2. 音読して気づいたことや気になったことをグループで話し合い、詩の表す世界について、意見交流する。 *遠方から聞こえる「かさかなむぎぶえ」、上空から聞こえる「ひばりのおしゃべり」、そのさらに上に見える「やめるひるのつき」という各連の8行めについて、どのような違いがあるのかに着目するようにと助言する。	【知識・技能】 ◎比喩や反復などの表現の工夫に気付いている。(1)ク) ◎文章を音読したり朗読したりしている。(1)ケ) 【思考・判断・表現】 ◎「読むこと」において、人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。(C1)エ) 【言語活動例】 *詩や物語、伝記などを読み、内容を説明したり、自分の生き方などについて考えたことを伝え合ったりする活動。(C2)イ) 【態度】 *すすんで言葉の意味を考え、繰り返しの響きや意味に気をつけて音読しようとしている。
1学期	4月	2	一 情景描写に着目して感想を話し合おう あの坂をのぼれば 教科書:P14 □情景描写に着目して登場人物の心情の変化を想像し、物語の読みを深める。 ★ここが大事: 物語の読みを深める ☆学習用語: 登場人物/情景/作者	読む	1	<見通しをもとう> 1. 単元扉を読んで、学習の見通しをもつ。 <たしかめよう> 2. 登場人物の心情がどのように変化したのかを考える。 *登場人物と似た経験がある子どもがいた場合には、そのときの経験を話させて、具体的に想像できるようにしてもよい。 <くわしくよう> 3. 繰り返される「あの坂をのぼれば、海が見える。」に表れている心情について情景描写などに着目しながら考え、話し合う。 *「あの坂をのぼれば、海が見える。」の繰り返しを確認し、登場人物の心情の変化を想像する。	【知識・技能】 ◎思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにしている。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、話や語句を使っている。(1)オ) ◎文の中の語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解している。(1)カ) 【思考・判断・表現】 ◎「読むこと」において、登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えている。(C1)イ) ◎「読むこと」において、人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。(C1)エ) 【言語活動例】 *詩や物語、伝記などを読み、内容を説明したり、自分の生き方などについて考えたことを伝え合ったりする活動。(C2)イ) 【態度】 *すすんで情景描写に着目して読み、学習の見通しをもって感想を話し合おうとしている。
					2	<まとめよう> 4. 素敵だと思ふ情景描写について、感想をまとめる。 *「ここが大事」にもあるように、心情は、直接的に描写される場合もあるが、登場人物どうしの関わりや行動、会話、情景などを通して表現される場合もある。情景描写とは、形式や場面の様子が詳しく書かれている表現であることを確認する。 <つたえあおう> 5. まとめたものを伝え合う。 *考えを広げるために、互いの感想の違いに着目したり、よいところを認め合ったりする。 <ふり返ろう> 6. 学習を振り返る。	

学期	月	時数	単元名／教材名／教科書ページ	領域	時	学習活動／*留意点	評価規準 学習指導要領との対応
			学習内容 ★ここが大事／☆学習用語				
1学期	4月	3 (書く3)	図に表して整理しよう 考えを図や表に 教科書:P22 ■目的や意図に応じて、考えや意見を図に書き出して、関係づけたり比較したりすることができる。 ☆学習用語:課題／情報／インターネット／比べる／共通点／相違点	書く	1	1. 教科書を読んで、考えを広げたり、まとめたりする際には、いろいろな図があることを知り、学習の見通しをもつ。 * 同じ図でも、発想を広げる方法、分類したり比べたりする方法と2種類あることに気づかせる。 * P22上の図では、インターネットについて、日常生活の中で感じたり考えたりしてきた疑問や課題を書き出して関係づけたりしながら、課題や課題意識を明確にしていることを確かめたい。 * P22下の図では、インターネットについて長所と短所の二つの観点で分類整理していることを確かめたい。	【知識・技能】 ◎情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使っている。(I2イ) 【思考・判断・表現】 ◎「書くこと」において、目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にしている。(B1)ア) 【言語活動例】 ・事象を説明したり意見を述べたりするなど、考えたことや伝えたいことを書く活動。(B2)ア) 【態度】 ・粘り強く伝えたいことを明確にしようとし、学習の見通しをもって考えや意見を図に書いてまとめようとしている。
				2	2. 実際に考える図を使ってみる。(随筆や意見文を書く際に使う。) * 実際の学習の中で活用することで、効果を実感させたい。		
				3	3. どのように考えをまとめたか友達と交流する。 * 意見をまとめるノートづくりを、学期に15分程度の1モジュールずつ確認し、交流してもよい。 * ノートの工夫は年間を通じて確認していきたい。 4. 学習を振り返る。		
1学期	5月	4 (書く1)	言葉の文化① 春はあけぼの 教科書:P24 △『枕草子』の文章にふれ、リズムや響きを味わいながら音読し、『枕草子』ふうの文章を書く。	文化	1	1. P24を読み、教材の概略をつかむ。 * 文語の散文との初めての出会いである。まずは、教材の概略をつかませる。 2. 教科書P29を読んで、学習の見通しをもつ。 * 自分の経験や考えと比べながら読み、「私の枕草子」を書くという学習の見通しをもたせる。 3. 教師の範読に合わせて読み、リズム等をつかんで、原文を繰り返し音読する。 * 句読点など、くぎり方に気を付けてゆっくりと読ませる。慣れてきたら、リズムをつけて音読させる。	【知識・技能】 ◎親しみやすい古文や漢文、近代以降の文語調の文章を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しんでいる。(I3ア) 【思考・判断・表現】 ◎「書くこと」において、文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けている。(B1)カ) ◎「読むこと」において、文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げている。(C1)イ) 【言語活動例】 ・事実や経験を基に、感じたり考えたりしたことや自分にとっての意味について文章に書く活動。(B2)ウ) 【態度】 ・すすんで語感や言葉の使い方に対する感覚を意識し、学習の見通しをもって『枕草子』ふうの文章を書くこととしている。
				2・3	4. 各「季節」の情景をイメージする。 * 大意や写真を参考に、情景をイメージする。四季について、自分たちの経験や感じていることを想起させると、よりイメージが膨らんでくるだろう。 5. 好きな「季節」の文章を、大意を参照しながら、何度も音読する。 * 気に入った「季節」の文章を選び、なめらかに読めるように何度も繰り返し読むようにさせる。暗唱に取り組ませてもよい。		
				4	6. 自分の感じる季節感を『枕草子』ふうに書いて、交流する。 * 自分の経験をもとにして、季節感を強く感じた場面を、簡潔な表現で文章化させる。		
1学期	5月	2	言葉の広場① 主語と述語の対応をかくにんしよう 教科書:P30 △主語と述語の対応を確認して、文のねじれに気づき、正しく直す。 ☆学習用語:主語／述語／伝える／漢字	言語	1	1. 冒頭の会話文をとおして、文を見直す際に主語と述語の対応を確認する大切さを知る。 * 主語と述語が対応していない文は言いたいことが正しく伝わらない文になることに気づかせる。 2. 教科書の例文を読み、どのように直せば主語と述語が対応するか理解する。 * 教科書の例文を児童に提示してどのように直せばいいか考えさせたりして教科書の説明を読むようにする。 * ねじれ文の直し方は1つに限られるものではないことに気づかせる。	【知識・技能】 ◎文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、語や文章の構成や展開、語や文章の種類とその特徴について理解している。(I1)カ) 【態度】 ・積極的に主語と述語の対応について理解し、今までの学習を生かして、文のねじれに気づき、正しく直そうとしている。
				2	3. ねじれ文を修正することで、主語と述語の対応について理解を深める。 * ノートに直した文を書かせ、主語(のまとめり)と述語(のまとめり)に線を引かせて、主語と述語の対応を確認させる。 4. 文章を書くときに、主語と述語の対応をよく確認しているか振り返る。 * 日頃の言語生活を振り返り、学習の成果を生かしていくことができるよう意識づける。 5. 学習したことを振り返る。		

学期	月	時数	単元名／教材名／教科書ページ	領域	時	学習活動／*留意点	評価規準 学習指導要領との対応
1学期	5月	1	学習内容 ★ここが大事／☆学習用語 漢字の広場① 三字以上の熟語の構成 教科書:P32 △三字以上の熟語の構成について理解を深め、由来に関心をもつ。 ☆学習用語:構成／熟語／話し合う	漢字	1	1. 学習内容を理解し、学習の見直しをもつ。 * 5年生上巻『漢字の広場③ 熟語の構成』で学んだ二字熟語の構成を再確認し、型に分けて、整理しておく。 2. 「少人数」「保健室」「身体測定」という熟語の意味を考える。 * 言葉の切れ目に「/」を入れて、構成を考えるようにする。 * 言葉のつながりをもとに読み下し、熟語の意味を推測させる。 * どれも二字熟語が基本単位となっていることをおさえる。 3. P32の説明にそって、三字と四字の熟語の構成について知る。 * 切れ目に「↓」「↑」「 」「=」などを入れて、構成を考える。 * つながりをもとに読み下し、熟語の意味を推測できるようにする。 4. 辞典を利用して、三字と四字の熟語を集め、その構成を考え、ノートにまとめ、発表し合う。 * 国語辞典や漢字辞典で、漢字や熟語を調べ、推測した意味と比較するとよい。 5. 切れ目に「/」を入れて、三文字以上の熟語の構成について話し合う。 * 例示の「緑地化計画」をもとに、熟語が切れ目ごとに並んでいるというよりも、何段階かの階層をもって結びついていることをおさえる。 6. 三字の熟語における結びつき方を考える。 7. 略語と、略す前の熟語とを比べる。	【知識・技能】 ◎思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにしている。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。(1)イ 【態度】 ・積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使い、学習の見直しをもって熟語の由来に関心をもち調べようとしている。
1学期	5月	1 (書く1)	5年生で学んだ漢字① 教科書:P34 △絵を見て想像したことをもとに、5年生で学んだ漢字などを使って文を作り、書く。	漢字	2	8. 教科書の絵を見て、描かれている様子について説明する。 * 教科書の絵を拡大して黒板に貼っておく、指導することがらを児童たち全体に示しやすくなる。 * 絵の中にある5年生で学んだ漢字の読み方を再確認する。 * 絵に描かれたことと、言葉からわかる美術館の中の様子をできるだけたくさん発表できるようにはたらきかける。 * 描かれている人物と行為、場や時間の状況、物品など、視点を提示するとわかりやすい。 9. 5年生までに習った漢字を使って、絵に描かれている様子や物、人物がしていることなどを説明する文を書く。 * 描かれている人物と行為、場や時間の状況、物品など、視点を提示するとわかりやすい。 * 読み手が理解しやすいうように伝えたいこと、知らせたいことを明確にして書くようはたらきかける。 * 条件をつけて文を書くよう促すと、記述の仕方に工夫がみられるようになる。 * 内容につながるのある文を二つ以上書くようにすると、言葉を適切に使っているかどうかのわかりやすくなる。 10. 互いの作った文を読み合い、感想や意見を述べ合う。 * 互いの文のよいところを見つけて伝え合うことをとおして、それらを自分の表現に生かすようはたらきかける。 11. 学習したことを振り返る。 * 三字以上の熟語の構成について正しく理解したり、漢字の使い方や表記などを理解できるようにしたりし、日常の言語生活にも生かしていくよう意識つける。	【知識・技能】 ◎第5学年及び第6学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読んでいる。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使っている。(1)エ 【思考・判断・表現】 ◎「書くこと」において、筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えている。(B1)イ 【言語活動例】 ・事象を説明したり意見を述べたりするなど、考えたことや伝えたいことを書く活動。(B2)ア 【態度】 ・積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を使い、学習課題にそって、教科書の絵を説明する文を書くこととしている。
1学期	5月	1	二 文章と資料をあわせて読み、筆者の考えをとらえよう アイスは暑いほどおいしい?—グラフの読み取り 教科書:P36 □グラフについての説明を生かしてグラフを読み取り、全体の傾向や変化について説明する。 ☆学習用語:グラフ／傾向／最大値／最小値／変化	読む	1	<見直しをもとう> 1. 単元名やリード文を読んで、学習の見直しをもつ。 2. グラフについての説明を読んで、グラフの構成要素を理解する。 3. 「気温とアイス・シャーベット支出額」のグラフを読み取り、全体の傾向や一年間の変化について話し合う。	【知識・技能】 ◎情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使っている。(2)イ 【思考・判断・表現】 ◎「読むこと」において、事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握している。(C1)ア 【言語活動例】 ・説明や解説などの文章を比較するなどして読み、分かったことや考えたことを、話し合ったり文章にまとめたりする活動。(C2)ア 【態度】 ・すすんでグラフの意味や構成要素を理解しようとし、これまでの経験を生かし、どのような傾向や変化が読み取れるか、考えようとしている。

学期	月	時数	単元名／教材名／教科書ページ	領域	時	学習活動／*留意点	評価規準 学習指導要領との対応	
1学期	5月	6 (書く2)	二 文章と資料をあわせて読み、筆者の考えをとらえよう 雪は新しいエネルギー——未来へつなぐエネルギー社会 教科書:P38 □雪エネルギーの利用に対する筆者の主張と取り上げた事例の関係について、文章と資料を合わせながら読み、筆者の説明の仕方について考えをまとめる。 ★ここが大事: 筆者の説明の工夫をとらえる ☆学習用語:課題/事実/事例/文章/結果/分析	読む	1	<たしかめよう> 1. 本文を読んで、問いかけと筆者の主張について考える。 (1)筆者の問いかけについて、なぜ、化石燃料にたよらない社会をつくる必要があるのか、その理由について話し合う。 (2)筆者の問いかけに対する考えを探し、伝え合う。 *「P48学習の手引き」を参照することをおさえる。	【知識・技能】 ◎情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使っている。(I2イ) 【思考・判断・表現】 ○「書くこと」において、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。(B1ウ) ○「読むこと」において、事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握している。(C1ア) ◎「読むこと」において、目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりしている。(C1ウ)	
					2	<くわしくよう> 2. 筆者が問いかけに対する考えを述べるために、どのような事例を示しているのか、文章と資料をあわせて読みながら考える。 *筆者がグラフをどのような意図で示しているのかを考えることをおさえる。		
					3・4	<まとめよう> 3. 筆者の説明の仕方の工夫について考え、ノートにまとめる。 *説明の仕方は「表現方法」と「具体例の順序」の二つの視点から考えることをおさえる。 *筆者が書利用についての課題を切り口に述べている点を児童の気づきからおさえる。		【言語活動例】 ・事象を説明したり意見を述べたりするなど、考えたことや伝えたいことを書く活動。(B2ア) ・説明や解説などの文章を比較するなどして読み、分かったことや考えたことを、話し合ったり文章にまとめたりする活動。(C2ア)
					5・6	<つたえあおう> 4. 筆者の説明の仕方について、考えを紹介し、感想を伝え合う。 *友達と伝え合うことを通じて自分の見方が広がった点について加筆・修正することをおさえる。 <ふり返ろう> 5. 文章と資料を結びつけて読む時や自分の考えを人に伝える時に、どのようなことに気をつけるとよいか振り返る。		【態度】 ・今までの学習を生かして、筆者の主張と取り上げた事例の関係について、文章と資料を合わせながら粘り強く読み、筆者の説明の仕方について考えをまとめようとしている。
1学期	6月	6 (話す聞く6)	三 立場を明確にして主張しよう パネルディスカッション——地域の防災 教科書:P52 ◇意見の違いを大事にしなが話し合い、考えを深める。 ★ここが大事: 立場を決めて話し合う ☆学習用語:立場/討論/パネラー/パネリスト/パネルディスカッション/フロア/主張/要点/共通点/相違点	話聞	1	<見通しをもとう> 1. 単元名やリード文を読み、立場を明確にして話し合うことについて考え、学習の見通しをもつ。 (1)教科書を読み、パネルディスカッションの意図と進め方を知る。	【知識・技能】 ◎思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにしている。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。(I1オ) 【思考・判断・表現】 ◎「話すこと・聞くこと」において、互いの立場や意図を明確にしなが計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたっている。(A1イ) 【言語活動例】 ・それぞれの立場から考えを伝えるなどして話し合う活動。(A2ウ) 【態度】 ・意見の違いを大事にしなが粘り強く話し合い、学習の見通しをもって考えを深めようとしている。	
					2	<決めよう・集めよう> 2. 立場を決め、詳しく調べる。 (1)自分たちが話し合うテーマを設定する。 *事前に話し合いたいテーマについてアンケートをとり、いくつかテーマの候補を決めておいてもよい。 (2)立場を決め、調べる。		
					3	<組み立てよう> 3. 資料をもとに主張を組み立てる。 (1)自分たちが設定したテーマにそって、パネルディスカッションの準備を行う。 *テーマに対して調べる観点と立場、グループのメンバーを決める。 *グループで情報を集めたり、整理したりして、自分たちの主張をまとめる。		
					4・5	<話そう・聞こう> 4. パネルディスカッションを行う。 *司会者とパネリストを決め、フロアの役割を確認する。 *2回めのパネルディスカッションを行う。		
					6	<伝え合おう> 5. 感想を伝え合う。 <ふり返ろう> 6. 学習を振り返る。		

学期	月	時数	単元名/教材名/教科書ページ	領域	時	学習活動/*留意点	評価規準 学習指導要領との対応
1学期	6月	4 (書く4)	三 立場を明確にして主張しよう みんなで作ろうパンフレット 教科書:P58 ■相手や目的に応じて内容や構成を考え、パンフレットを作る。 ★ここが大事:パンフレットで知らせる ☆学習用語:パンフレット/パネルディスカッション/立場/構成/アンケート	書く	1	<見通しをもとう> 1. 教科書を読み、どのようにパンフレットを作るのかイメージし、学習の見通しをもつ。 *パンフレットを集めさせ、読み比べて、パンフレットという表現方法の特徴を理解させる。 *読んでもらう相手や目的を明確にする。その際、相手が大人なのか子どもなのか、どのようなことを中心に伝えるのかなど、具体的に考えさせる。 <決めよう・集めよう> 2. ちがう立場の人どうしてグループになり、知らせたい内容を話し合う。 *前単元のパネルディスカッションを踏まえ、その中で感じた個々の課題を振り返らせる。パネルディスカッション時のグループとは別のグループメンバーと話し合うことで、さまざまな立場からの課題や意見を交流できる。 *誰に何を伝えたいかを明確にすることで、パンフレットに載せる題材や分量も定まってくるだろう	【知識・技能】 ◎情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使っている。(I2イ) 【思考・判断・表現】 ◎「書くこと」において、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。(B1ウ) 【言語活動例】 ・事象を説明したり意見を述べたりするなど、考えたことや伝えたいことを書く活動。(B2ア) 【態度】 ・積極的に相手や目的に応じて内容や構成を考え、学習課題にそってパンフレットを作ろうとしている。
				2	<組み立てよう> 3. 書く分担を決め、構成を考える。 *構成については、P59下段の構成例を参考にすのほか、地域で配布されているパンフレットや広報誌など、身近にあるパンフレットを用意して、参考にさせてもよい。 *中学年で学ぶリーフレットや、5年生で作ったポスターなど、相手や目的、伝えたい分量に合わせて、さまざまな伝え方があることを確認させたい。		
				3	<書こう>(重点) 4. パンフレットを作る。 *読み手にわかりやすくなるように工夫をさせる。写真やイラストを効果的に使うために、パンフレットの紙面展開の中で必要な事柄を文章で説明する部分と、写真やイラストで伝える部分の配分をどのようにするとよいか、具体的にイメージさせる。 <読み返そう> 5. おたがいの文章を読み返す。 *読み手に、よりわかりやすく伝えるにはどうしたらよいか、という観点で推敲させる。推敲する際の観点例:「他の言葉でわかりやすくすることはできないか」「見やすくするためにできる工夫はあるか」など。		
				4	<伝え合おう> 6. パンフレットを読み合う。 *クラス内だけでなく、全校生徒や地域の方に読んでもらえるよう、展示してもよい。読んでもらって、喜んでもらうことが大切である。そのことが、また書きたいという気持ちにつながる。 <ふり返ろう> 7. 知らせたいことや読む人のことを考えて、わかりやすいパンフレットを作るために、どんな工夫をしたか振り返る。		
1学期	6月	1 (書く1)	言葉の文化② 雨 教科書:P62 △「雨」を扱った言語表現を集め、日本語の豊かさに気づく。	文化	1	1. 教科書の文章から「雨」を取り上げた言語表現を知り、その背景を考える。 *「雨」を使用した言語表現の多様さに気づかせる。 2. さまざまな言語表現を、辞典などで調べたり、これまで読んだ本の描写を思い出して確かめたりしながら「言葉ノート」を作る。 *どういう種類の辞典や参考書を見ればよいかを考えさせる。 *これまで読んだ本で記憶に残っている雨の描写をいろいろな人と交流して集め確かめ合うようにさせる。雨を題材とした歌などの楽曲なども対象にしてよい。	【知識・技能】 ◎語句の由来などに関心をもつとともに、時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気づき、共通語と方言の違いを理解している。また、仮名及び漢字の由来、特質などについて理解している。(I3ウ) 【思考・判断・表現】 ○「書くこと」において、目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にしている。(B1ア) 【言語活動例】 ・短歌や俳句をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。(B2イ) 【態度】 ・粘り強く「雨」を扱った言語表現を集め、学習の見直しをもって「言葉ノート」を作ろうとしている。

学期	月	時数	単元名／教材名／教科書ページ	領域	時	学習活動／*留意点	評価規準 学習指導要領との対応
1学期	6月	2	言葉の広場② 世代による言葉のちがひ 教科書・P64 △世代による言葉の違いのちがひについて理解し、相手や場面に応じて適切な言葉を選んで使うことができるようになる。 ☆学習用語：世代による言葉の違い	言語	1	1. 世代によって使用する言葉に違いがあることもあるということを知り、学習活動に対する見直しをもつ。 *教材冒頭の会話文を読み、世代による言葉の違いについて調べてみたいという意欲をもたせる。 *世代による言葉の違いは、あくまでも相対的なものであり、年長だからといってすべての人が「ジーンズ」・「いささか」を用いるわけではなく、若い世代の人でもこれらの言葉になじんでいることがある。柔軟に扱うように配慮する。 2. 言葉には、年上の世代の人たちには使われていたが、今はほとんど使われなくなったものがあるということについて理解する。 *P64下段を読み、板書やワークシートを活用しながら教科書に挙げられたもの以外にも今はほとんど使われなくなった言葉があることに気づかせる。 3. 言葉には、自分たちの世代にしか通用しないものもあるということを知り、理解する。 *P65上段を読み、ここに挙がっている「なにげに」「ビミョー」「ほほほほ」という言葉を使ったことがあるかどうか内省させ、他にもこのような言葉がないかどうか探させる。 4. 言葉には、人が成長する過程で一時的に用いられるものもあるということを知る。 *P65下段を読み、幼児がよく使っている言葉にはどのようなものがあるか探させる。 *世代による言葉の違いについて、家の人たちにインタビューしてくるよう指示を出す。	【知識・技能】 ◎語句の由来などに関心をもつとともに、時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気づき、共通語と方言との違いを理解している。また、仮名及び漢字の由来、特質などについて理解している。(3)ウ 【思考・判断・表現】 ○「話すこと・聞くこと」において、互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、考えを広げたりまとめている。(A1)オ 【言語活動例】 ・インタビューなどをして必要な情報を集めたり、それらを発表したりする活動。(A2)イ 【態度】 ・積極的に世代による言葉の違いのちがひについて理解し、学習課題にそって相手や場面に応じて適切な言葉を選んで使おうとしている。
					2	5. 家の人に行ったインタビューの内容をグループでまとめて確かめよう。 *調べてきた内容をグループごとにそれぞれまとめ、気づいたことについて話し合わせる。 6. 世代によって使われる言葉の違いや、普段友達どうして話しているときに使ってしまうだけだった表現の言葉について、クラス全体で話し合う。 *それぞれの世代によって使う言葉が変化することや、ものを表すのにいろいろな言葉があることのおもしろさについて感じさせる。 *今の言葉も、使う人や文体などによって、古い言い方や新しい言い方が交ざっていることに気づかせる。 7. 学習したことを振り返る。 *P65のまとめを読み、世代によって使われる言葉の違いや、ふだん友達どうして使うようになった表現の言葉など、相手や場面によって使われる言葉の違いがあることを知り、自分が使う場面で、より適切な言葉を選べるようにすることが大切であることを理解させる。	
1学期	6月	1	漢字の広場② 複数の意味をもつ漢字 教科書・P66 △複数の意味をもつ漢字が構成する熟語の意味に関心をもつ。 ☆学習用語：象形文字	漢字	1	1. 学習内容を理解し、学習の見直しをもつ。 *複数の意味をもつ漢字について理解するという学習課題を確かめ、漢字の使い方などを理解できるようにし、日常の言語生活にも生かしていくよう意識づける。 2. 「象」という漢字の意味を考える。 *一つの漢字には、もともとの意味の他に、あとから意味が加わったり、変化したりするものがあることを「象」を例に知る。 3. P66を読み、「象」という漢字には、もともとの意味と、派生した意味をあわせもっていることを知る。 *具体的なものを表す具象語だけでなく、同じ漢字から抽象的な概念を表す抽象語も構成されていることに気づくことができるようにする。 4. 「布」「針」を使ったそれぞれの熟語がどのような意味で使われているかを話し合う。 *「布」「針」を使った言葉を使い短文作りに取り組み、それぞれの言葉と漢字の意味を想起できるようにする。 *辞書でそれぞれの言葉と漢字の意味を確認する。 5. P67下段の設問に取り組み、傍線の漢字がそれぞれどのような意味で使われているかを考え、違いを話し合い、辞典で調べる。 *声に出して文を読み、傍線の漢字のおおよその意味を推測し、それぞれの意味の違いを話し合うようにする。 *漢字辞典を活用して調べる活動を取り入れ、漢字の意味と語句の意味との関連に興味をもてるようにしたい。	【知識・技能】 ◎語句の由来などに関心をもつとともに、時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気づき、共通語と方言との違いを理解している。また、仮名及び漢字の由来、特質などについて理解している。(3)ウ 【態度】 ・積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使い、学習の見直しをもって複数の意味をもつ漢字が構成する熟語の意味を考えようとしている。

学期	月	時数	単元名／教材名／教科書ページ	領域	時	学習活動／*留意点	評価規準 学習指導要領との対応
1学期	6月	1 (書く1)	五年生で学んだ漢字② 教科書:P68 △絵を見て想像したことをもとに、5年生で学んだ漢字などを使って文を作り、書く。	漢字	2	6. 教科書の絵を見て、描かれている様子について説明する。 *漢字の使い方や表記などを理解できるようにし、日常の言語生活にも生かしていくよう意識づける。 *教科書の絵を拡大して黒板に貼っておくと、指導することが児童たち全体に示しやすくなる。 *絵の中にある5年生で学んだ漢字の読み方を再確認する。 *絵に描かれたこと、言葉からわかる工場の中の様子をできるだけたくさん発表できるようにはたらきかける。 *描かれている人物と行為、場や時間の状況、物品など、視点を提示するとわかりやすい。 7. 5年生までに習った漢字を使って、絵に描かれている様子や物、人物がしていることなどを説明する文を書く。 *描かれている人物と行為、場や時間の状況、物品など、視点を提示するとわかりやすい。 *読み手が理解しやすいように伝えたいこと、知らせたいことを明確にして書くようはたらきかける。 *内容につながりのある文を二つ以上書くようにすると、言葉を適切に使っているかがわかりやすくなる。 8. 互いの作った文を読み合い、感想や意見を述べ合う。 *互いの文のよいところを見つけて伝え合うことをとおして、それらを自分の表現に生かすようはたらきかける。 9. 学習したことを振り返る。 *複数の意味をもつ漢字について正しく理解したり、漢字の使い方や表記などを理解できるようにしたりし、日常の言語生活にも生かしていくよう意識づける。	【知識・技能】 ◎第5学年及び第6学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読んでいる。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使っている。(1)1エ) 【思考・判断・表現】 ○「書くこと」において、筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えている。(B)1(イ) 【言語活動例】 ・事象を説明したり意見を述べたりするなど、考えたことや伝えたいことを書く活動。(B)2(ア) 【態度】 ・積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を使い、学習課題にそって、教科書の絵を説明する文を書くこととしている。
1学期	7月	7 (話す聞(2))	四 表現が読み手にあたえる効果について考えよう 川とノリオ 教科書:P70 □優れた表現を味わいながら、人物の心情を読み、優れた表現についての感想を話し合う。 *ここが大事: すぐれた表現を読む ☆学習用語: 擬人法／体言止め／比喩／情景／心情／朗読	読む	1	<見通しをもとう> 1. 単元扉を読んで、学習の見通しをもつ。 *時代背景や難語句については、適宜説明を加える。	【知識・技能】 ◎比喩や反復などの表現の工夫に気付いている。(1)1ク) ◎文章を音読したり朗読したりしている。(1)1ケ) 【思考・判断・表現】 ○「読むこと」において、登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えている。(C)1(イ) ◎「読むこと」において、人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えている。(C)1(エ) ○「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。(C)1(オ) ○「読むこと」において、文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げている。(C)1(カ) 【言語活動例】 ・詩や物語、伝記などを読み、内容を説明したり、自分の生き方などについて考えたことを伝え合ったりする活動。(C)2(イ)
					1・2	<たしかめよう> 2. いつどんでできごとが起こったかに気をつけて読み、印象に残った場面を紹介し合う。 *「いつ」がわかる部分にサイドラインを引くことで、起こったできごとを見つけやすくなる。 *いつ、どのようなできごとが起こったのか表に整理すると、物語の全体を捉えやすくなる。川や川つぶちがノリオに対してどのような様子であったかも確認する。 *物語の中で、ノリオはどのように変容したのか。なぜ変容したのか。「初めは…。最後は…。そう変わった理由は…。」のような形を示し、考えられるようにしたい。また、場面とともに移り変わるノリオの心情についてもふれたい。	
					3	3. 印象に残った場面を紹介し合う。	
					4	<くわしくよう> 4. 「比喩」「色」「体言止め」「擬人法」「音や様子」「くり返し」などの表現を探し、その効果について話し合う。 *教科書では、六つの表現を取り上げている。「ここが大事」に、「すぐれた表現が、読み手の想像を広げ、物語の世界を豊かにしてくれます。」とある。想像を広げること、物語の世界の豊かさを確かめたい。 *その他にも、「倒置法」「対句」のような表現がみられる。 *擬人化された「川」とノリオとの関わりを捉える。「川つぶち」とあるのは、「川」そのものだけでなく、もう少し広い意味で捉えようとしている。 * P90 の「言葉」の設問は、学習活動の中で適宜取り扱う。	
					5	<まとめよう> 5. 表現の効果を考えながら、心に残った場面について、自分の考えたことが伝わるように朗読する。 *同じ表現を選んでいても朗読の仕方はさまざまに表れる。自分の感じたことがどのようなことを明確にしておくことが大切である。 *「音読が文章の内容や表現をよく理解し伝えることに重点があるのに対して、朗読は、児童一人一人が思ったり考えたりしたことを、表現性を高めて伝えることに重点がある。」(『学習指導要領・解説』より)ことに留意する。	
					6	<つたえあおう> 5. 心に残った表現について感想を話し合う。 ・物語の中で、特に心に残った表現 ・ノリオの心情の変化を、具体的にわかりやすく表している表現 ・自分では、思いつかないような表現 *教科書に例示されている三つの観点を参考にノートに書く。なぜ、それが「心に残った」のか、根拠を明確にする。 *互いの考えの違いに着目したり、よいところを認め合ったりして、考えを広げる	
					7	<ふり返ろう> 6. 学習を振り返る。 (1)物語の世界を想像するときには、どのような表現に着目したいか考える。 (2)朗読して伝えたい他の物語はあるか考える。	

学期	月	時数	単元名／教材名／教科書ページ 学習内容 ★ここが大事／☆学習用語	領域	時	学習活動／*留意点	評価規準 学習指導要領との対応
1学期	7月	1	読書の広場① 地域の施設を活用しよう 教科書:P92 △身のまわりに情報を集めることのできる施設があることを知る。	読書	1	1. 情報を探ることのできる施設について知るとい学習内容を知り、活動に見通しをもつ。 2. 情報を探ることができる施設について、二次元コードを活用したりインターネットで検索したりし、自分が住んでいる地域の施設を調べる。 3. 学習を振り返る。	【知識・技能】 ◎情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使っている。(12イ) 【思考・判断・表現】 ○「読むこと」において、目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりしている。(C1ウ) 【言語活動例】 ・学校図書館などを利用して、複数の本や新聞などを活用して、調べたり考えたりしたことを報告する活動。(C2ウ) 【態度】 ・地域の施設について調べ、情報収集のための活用方法を考えられている。
1学期	7月	1	読書の広場② ひろがる読書の世界 教科書:P94 △特別な一冊を紹介したり、伝記の人物から学んだことを漢字で表したりする活動とおして、日常的に読書に親しむ。	読書	1	1. 「私の特別な一冊を紹介する活動」、「伝記の人物から学んだことを漢字で表す」という学習内容を捉え、学習の見通しをもつ。 2. 「私の特別な一冊を紹介する活動」、「伝記の人物から学んだことを漢字で表す」ために、学校の図書室や地域の図書館などで、興味のある本を借り、「読書りれき」などを活用し、自分の考えをまとめる。 * 夏休みの宿題との関連などが考えられる。 3. 学習を振り返る。	【知識・技能】 ◎日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに関与することに気付いている。(13才) 【思考・判断・表現】 ○「読むこと」において、文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げている。(C1カ) 【言語活動例】 ・詩や物語、伝記などを読み、内容を説明したり、自分の生き方などについて考えたことを伝え合ったりする活動。(C2イ) 【態度】 ・読書生活を振り返り、「特別な一さつ」を紹介し合ったり、これからの読書生活を考えたりしている。
2学期	9月	2 (話す聞2)	相手の思いを考えながら聞こう 聞かせて！「とっておき」の話 教科書:P96 ◇話し手の意図を考慮しながら聞き、自分の意見と比べて考えをまとめる。	話聞	1	<見通しをもとう> 1. 教材名やリード文から、本教材の目標や活動をつかむ。 * 二人組で、話し手が詳しく話せるように、受け答えをしながら聞き、自分の考えや経験との共通点や相違点を意識して、感想を伝え合うことを確認する。 2. 知らせたい「とっておき」を考える。 (1) 教科書の例を参考にしながら、友達と共通点がありそうでできごとを学級で話し合う。 * 「家族」「一年生のお世話」「将来の夢」「好きなスポーツ(野球)」「夏休み」「初めての体験」等が項目として考えられる。 (2) できごとの項目から候補を三つ選び、それぞれ自分のエピソードを思い出す。 2 3. 「とっておき」について話す。 (1) 二人で組みになり、エピソードをあげながら順番に話をする。 4. 感想を伝え合う。 (1) 友達のエピソードと自分の考えを紹介する。 (2) 紹介を聞き終えたら、感想を伝える。 * 自分の考えや経験との共通点や相違点を意識して、感想を伝えるようにする。 <ふり返ろう> 5. 学習の振り返りをする。	【知識・技能】 ◎言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気付いている。(11ア) 【思考・判断・表現】 ◎「話すこと・聞くこと」において、話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめている。(A1エ) 【言語活動例】 ・インタビューなどをして必要な情報を集めたり、それらを発表したりする活動。(A2イ) 【態度】 ・積極的に話し手の意図を考慮し、今までの学習を生かして自分の意見と比べて考えをまとめようとしている。
2学期	9月	1	詩を読もう イナゴ 教科書:P98 □凝縮された言葉の美しさや豊かさを味わいながら、詩の世界を楽しむ。 ☆学習用語:連	読む	1	1. 「イナゴ」を音読して、一連と二連の「イナゴ」と「ほく」の様子をもとに、詩の世界を想像する。 * 一連が、色彩豊かな秋のひとときであることを知る。 * 二連が、一連の世界とは一転して、緊張しているイナゴのクローズアップであることを知る。 2. 一連と二連で、僕の目に映るイナゴの姿にはどのような違いがあるか、その対比について、グループで話し合い、意見を交流する。視点の違いについて気づかせたい。 3. 三連について考えたことを、全体で話し合う。 * 三連、強い生きもの(ほく=人間)と、よわい生きもの(イナゴ=昆虫)の間の「イネのにおい」とは、何を表しているか、比喩表現や象徴表現の意味について考える。この時に、一つの「正解」に追い込まないように、注意する。 * 「川のように流れるイネのにおい！」から、どのようなことを想像したか考える。「イネ」そのものを見たことがない児童がいる場合は、写真や動画で資料を見せたり、5年生の社会科で学習した「稲作」を想起させたりするとよい。	【知識・技能】 ◎比喩や反復などの表現の工夫に気付いている。(11ク) ◎文章を音読したり朗読したりしている。(11ケ) 【思考・判断・表現】 ◎「読むこと」において、人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。(C1エ) 【言語活動例】 ・詩や物語、伝記などを読み、内容を説明したり、自分の生き方などについて考えたことを伝え合ったりする活動。(C2イ) 【態度】 ・積極的に言葉の広がりを味わい、学習課題にそって詩の世界を楽しもうとしている。

学期	月	時数	単元名/教材名/教科書ページ	領域	時	学習活動/*留意点	評価規準 学習指導要領との対応
2学期	9月	1 (書く1)	言葉の文化③ 「知恵の言葉」を集めよう 教科書:P100 △昔から広く継承されてきた「知恵の言葉」を知ることによって、言語文化の奥深さに気がつくとともに、自らの体験をもとに新たな「知恵の言葉」を創作する。	文化	1	1. くらしの中に、もの名前や物事の手順を唱え言葉で覚える工夫があることを知り、教材文を読んで集めたり調べたりする意欲をもつ。 * 教師の知っている唱え言葉による暗記などの工夫を紹介し、家で教わったり自分で工夫したりした工夫を思い出したりさせる。 * 教材文での「知恵の言葉」のいろいろを唱えさせ、いろいろな「知恵」があることに気づかせるようにする。 2. 自分の知っている「知恵の言葉」や本で調べた覚え歌、ことわざなどを集めたり整理したりして友達と交流する。 * 「知恵の言葉」の唱えやすさが言葉のリズム等にあることに気づかせる。 * 本、インターネット、家の人の口癖など、いろいろな方面から集めるよう助言する。 3. 自分の得意技や知っているコツを伝えやすいように「知恵の言葉」にして紹介し合う。 * 交通標語なども「知恵の言葉」に入ることに気づかせ、自分の心覚えや下学年へのアドバイスなど唱えやすい言葉で作るようにさせる。	【知識・技能】 ◎思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにしている。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。(1)オ 【思考・判断・表現】 ◎「書くこと」において、目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にしている。(B)(1)ア 【言語活動例】 ・事象を説明したり意見を述べたりするなど、考えたことや伝えたいことを書く活動。(B)(2)ア 【態度】 ・すすんで語感や言葉の使い方に対する感覚を意識し、学習の見通しをもって自分の「知恵の言葉」を作ろうとしている。
2学期	9月	5 (書く5)	五 てんかいを工夫して物語を書こう あなたは作家 教科書:P102 ■写真から想像を広げ、展開を考えて物語を作る。 ★ここが大事:物語を作る ☆学習用語:中心人物/視点/クライマックス/やま場/情景描写	書く	1	<見通しをもとう> 1. 「学習の進め方」を読み、学習の見通しをもつ。 * 物語を創作することを伝え、活動の具体的なイメージをもてるようにし、児童の意欲を高める。 <決めよう・集めよう> 2. 物語の設定を考える。 (1) 登場人物を選び、人物設定を考える。 * 教科書の写真を見て気づいたことや感じたことを自由に発言させる。断片的な気づきでもよいし、また、ストーリーを想像させるしかけ(例:写真両端のボストの近くにいる男女は待ち合わせをしているのではないかなど)に気づいた児童がいれば、そこから想像を広げるおもしろさを実感させることもできるだろう。 * 写真の中の人物の行動や服装、持ち物などに注目させ、どんな会話が生まれているかなどについて考えてもよい。 * 写真はデジタル教材で大きく提示するなどの工夫も効果的だろう。 * 選ぶ登場人物は一人でも複数人でもよい。 (2) 物語の大体を考える。 (3) 物語の展開される時や場所を考える。 * 人物の行動や服装、持ち物などから、人物の性格や生涯についてイメージさせる。絵をかかせるとイメージが具体的になる。 * マッピングで発想をさらに膨らませてよい。	【知識・技能】 ◎文の中の語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解している。(1)カ 【思考・判断・表現】 ◎「書くこと」において、筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えている。(B)(1)イ 【言語活動例】 ・短歌や俳句をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。(B)(2)イ 【態度】 ・積極的に物語のつくりの特徴について理解し、学習課題にそって写真から想像を広げ、展開を考えて物語を作ろうとしている。
					2	<組み立てよう>(重点) 3. 物語を組み立てる。 * 一人で考えるのではなく、友達の意見を聞くことで、自分では考えつかなかったおもしろいアイデアが生まれることもある。積極的に交流させたい。 * あらすじでは、自分が伝えたいことを「やま場」(クライマックス)にもっていき、よいことを助言する。 * 「やま場」については既習事項(5年上巻『大造じいさんとがん』)だが、再度意味を確認するとよい。	
					3	<書こう> 4. 物語を書く。 (1)書き出しを工夫する。 (2)表現を工夫する。 * やま場を詳しく書くように指導する。会話文や心内語を入れると場面がいきいきする。 * これまでに学んだ文学作品を取り上げて、表現の工夫によって、作品にどんな効果が表れているかを確認させる。	
					4	<読み返そう> 5. 物語を読み返す。 * 自分が伝えたいことがその言葉で読み手に伝わるかどうかを考えて、推敲を行わせる。	
					5	<伝え合おう> 6. 友達と読み合う。 * 読んでもらって、喜んでもらうことが大切である。また物語を作りたいという気持ちにつなげたい。 <ふり返ろう> 7. いろんなことを意識し、物語の展開を考えたら振り返る。	

学期	月	時数	単元名／教材名／教科書ページ	領域	時	学習活動／*留意点	評価規準 学習指導要領との対応	
2学期	9月	3 (話す聞く1)	言葉の広場③ なぜ、わかり合えなかったのかな？ 教科書:P108 △伝え方次第で相手に自分の考えが伝わらないことを理解し、自分の考えを適切に伝える。	言語	1	1. ふだんの会話やSNS上のやりとりの中で、自分の伝えなかったことが、相手にうまく伝わらなかった経験を思い返し、学習に対する見直しをもつ。 2. 西川さんと田村さんのやりとりについて話し合う。 * どのようにすれば誤解なくやり取りができたのかを考えさせる。 * 話し合ったことをもとに、実際に西川さんと田村さんになりきって誤解なくやりとりができるか、ペアでやりとりを試みる。	【知識・技能】 ◎言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気付いている。(1)ア) 【思考・判断・表現】 ○「話すこと・聞くこと」において、話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめている。(A1)エ)	
					2	3. P109の3つの状況下で、どのように「いいよ」と言えばよいか話し合う。 * 話し合ったことをもとに、実際にペアでやり取りをする。 * 話すときの声の調子、表情、身ぶりや態度が相手に伝えるときに、大切であることに気づかせる。 4. P109の「すみません」「やばい」の言い方について話し合う。 * 言い方だけでなく、誤解のないよう、別の言葉に言い換えることも大切であることを気づかせる。 * いろいろな言い方で実際にやり取りをする。 5. 「いいよ」「すみません」のほかに気をつける言葉を探す。 * 実際にやりとりをし、どのような言い方や言い換えが適切か考えさせる。		【言語活動例】 * それぞれの立場から考えを伝えるなどして話し合う活動。(A2)ウ) 【態度】 * すんで、言葉には伝え方次第で相手に自分の考えがうまく伝わらないことに気づき、見直しをもって、自分の考えを適切に伝えようとしている。
					3	6. 本田さんと竹中さんのSNS上でのやりとりについて話し合う。 * どのようにすれば誤解なくやり取りができたのかを考えさせ、どんな言葉をもとに使うとよいのかを考えて伝えることが大切であることを気づかせる。 7. P111を読み、SNS上で絵文字・顔文字を利用するよさや留意点を知る。 * 実際にタブレット端末を利用してやり取りを行わせ、絵文字・顔文字を利用するよさや難しさを体感させてもよい。 8. 学習したことを振り返る。		
2学期	9月	1	漢字の広場③ 熟語の使い分け 教科書:P112 △意味のよく似た熟語の使い方の違いを理解し、使い分ける。 ☆学習用語: 熟語	漢字	1	1. 学習内容を理解し、学習の見直しをもつ。 * 熟語の使い分けについて理解するという学習課題を確かめ、漢字の使い方などを理解できるようにし、日常の言語生活にも生かしていくよう意識づける。 2. 「大事」と「重要」の使い方の違いを考え、それぞれの文には、どちらがふさわしいかを話し合う。 * 「大事」と「重要」の二語の使い方の違いを実際を考え、熟語の使い分けに感心もてるようにすることをねらいとしている。 * 意味のよく似た熟語の使い分けについては、用例をとおして直感的に判断したり、感覚的に捉えられるようにすることを第一とする。 * 児童自身の体験や読書経験を生かし、できるだけたくさん用例を集め、使い分けを考えられるようにする。 3. 「制限」と「限定」等の使い方の違いを考え、二つの熟語の使い分けを考えたり、国語辞典などを利用してそれぞれの意味と用例を調べたりして、確かめる。 * 辞典を利用し、比較する二語の意味の共通点と相違点を調べ、用例が重なる場合と、使い分けられる場合があることを理解できるようにする。 * 「事実」「現実」などのように、やや抽象的な概念を表す熟語については、それが表す具体的な中身を考えられるようにする。 * P114「経験」「体験」などは、日常生活を思い起こして考えられるといい。 4. よく似た熟語を使って短文を作り、それぞれの違いを比べる。 * 作った短文を発表し合い、その熟語が短文の使用例として適切かどうか、みんなで確かめてもよい。 【例】「延期・延長」、「感動・感激」、「周囲・周辺」	【知識・技能】 ◎思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにしている。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。(1)オ) 【態度】 * 積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使い、学習の見直しをもって、意味のよく似た熟語の使い方の違いを理解し、使い分けようとしている。	
2学期	9月	1 (書く1)	5年生で学んだ漢字③ 教科書:P115 △絵を見て想像したことをもとに、5年生で学んだ漢字などを使って文を作り、書く。	漢字	2	5. 教科書の絵を見て、描かれている様子について説明する。 * 教科書の絵を拡大して黒板に貼っておくと、指導することが児童たち全体に示しやすくなる。 * 絵の中にある5年生で学んだ漢字の読み方を再確認する。 * 絵に描かれたことと、言葉からわかる場面の様子をできるだけたくさん発表できるようにはたらきかける。 * 描かれている人物と行為、場や時間の状況、物品など、視点を提示するとわかりやすい。 6. 5年生までに習った漢字を使って、絵に描かれている様子や物、人物がしていることなどを説明する文を書く。 * 描かれている人物と行為、場や時間の状況、物品など、視点を提示するとわかりやすい。 * 内容につながりのある文を二つ以上書くようにすると、言葉を適切に使っているかどうかのわかりやすくなる。 * 条件をつけて文を書くよう促すと、記述の仕方に工夫がみられるようになる。 7. 書いた文を見直し、適切な表現に替えたり、まちがいを正したりして、発表し合う。 * 表現を改めたり、書きまちがいを正したりして、書いた文を発表する。 * 互いの文のよいところを見つけて伝え合うこととおして、それらを自分の表現に生かすようはたらきかける。 * 初めに書いた文と推敲した後の文を比べ、書き直してどこがよくなったかを互いに指摘し合うとよい。 8. 学習したことを振り返る。 * 熟語の使い分けについて正しく理解したり、漢字の使い方や表記などを理解できるようにしたりし、日常の言語生活にも生かしていくよう意識づける。	【知識・技能】 ◎第5学年及び第6学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読んでいる。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使っている。(1)エ) 【思考・判断・表現】 ○「書くこと」において、文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えている。(B1)オ) 【言語活動例】 * 事象を説明したり意見を述べたりするなど、考えたことや伝えたいことを書く活動。(B2)ア) 【態度】 * 積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を使い、学習課題にそって、教科書の絵を説明する文を書くこととしている。	

学期	月	時数	単元名／教材名／教科書ページ 学習内容 ★ここが大事／☆学習用語	領域	時	学習活動／*留意点	評価規準 学習指導要領との対応
2	9月	1 (話す聞く1)	国語の学習 つながる ひろがる 教科書・P116 ◇半年間の国語学習を振り返ったり、これからの学習について考えたりして、計画的に学習できるようにする。	話聞	1	1. 半年間の国語の学習を振り返り自分が学んできたことを、「六年生で学ぶこと」を見ながら書き出したり話し合ったりする。 * 上巻の教科書、学習のノート、作成物、プリント類(ポートフォリオ)などから振り返ることができるようにする。「六年生で学ぶこと」や挿し絵や吹き出しを参照する。楽しかったことを中心に思い出させたい。 * 心に残っている単元や教材、学習活動、また心に残っている言葉などを具体的にメモし、発表し合う。 * 友達の発表を共感して聞き交流し、学んできたことを共有できるようにする。 2. 1で出し合ったことが、他の教科や生活の中で、どんなことに生かしていけるか考える。 * 国語の学習がさまざまな場面で生かされることに気づけるようにする。	【知識・技能】 ○話の構成や展開、話の種類とその特徴について理解している。(1)カ) 【思考・判断・表現】 ◎「話すこと・聞くこと」において、目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討している。(A(1)ア) ○「書くこと」において、目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア) 【態度】 ・積極的に上巻の教科書での国語学習を振り返ったり、これからの学習について考えたりして、今までの学習を生かして計画的に学習しようとしている。

学期	月	時数	単元名／教材名／教科書ページ	領域	時	学習活動／*留意点	評価規準 学習指導要領との対応	
2学期	9月	8 (書く2)	ファンタジーを読み、自分の考えをまとめよう きつねの窓 教科書:P8 □登場人物の心情の変化を考えながら読み、想像したことを書く。 ★ここが大事:ファンタジーを読む	読む	1	<見通しをもとう> 1. 単元扉を読んで、学習の見通しをもつ。	【知識・技能】 ◎思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにしている。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。(1)オ	
					1~3	<たしかめよう> 2. 子ぎつねに対する「ぼく」の心情の変化をまとめる。 * 子ぎつねとの出会いから別れるまでの、「ぼく」の心情の変化を考えよう。		
					4・5	<くわしくよう> 3. 窓に映るものと、不思議な世界に行ったあとの「ぼく」の変化について考え、話し合う。 (1)窓にはどのようなものが映るのか、子ぎつねの「窓」に映ったものと、「ぼく」の窓に映ったものを比べて考える。 * P26教科書下段にもあるように、両者に共通している事柄を抽出することによって、「窓」の意味やはたらきがはっきりしてくる。 (2)不思議な世界に行ったことによって、「ぼく」にはどのような変化があったのかを考え、話し合う。 * 「ここが大事」にあるように、「ファンタジーの特徴の一つ」である「不思議な世界に入り、また戻って来る」物語である。一般に、戻って来た登場人物には変化(成長)がみられることが多い。この物語の場合はどうか。そこが話し合いの中心になる。 * 「変わらない」、「変わった」、「変わった」とすれば、どのように変わったのか。クラスで一つにまとめる必要はなく、意見、考えを交流することに、話し合いの主眼を置く。「なぜならば……」と、根拠をはっきりさせて発言するようにする。 * 「ここが大事」にあるように、不思議の世界が、「ぼく」にとってどのような意味をもっているのかを考えることも必要である。		【思考・判断・表現】 ◎「読むこと」において、人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。(C1)エ ◎「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。(C1)オ
					6	<まとめよう> 4. 自分が「窓」で見たものを考え、その理由も明らかにして、工夫して紹介する。 (1)自分は「窓」でどのようなものが見たいか、理由も明らかにして、想像したことを書く。 * 「きつねの窓」における「窓」はどのようなものなのかを確認し、見たいものを理由とともに想像できるようにする。 (2)表現の仕方を工夫して紹介しよう。 * 新聞やポスター、ポップなど、表現方法を選べるようにする。		【言語活動例】 ・詩や物語、伝記などを読み、内容を説明したり、自分の生き方などについて考えたことを伝え合ったりする活動。(C2)イ 【態度】 ・すすんで登場人物の心情の変化を考え、学習の見通しをもって想像したことを書くこととしている。
					7	<つたえあおう> 5. 作ったものを見せ合い、感想を伝え合う。 * 「なるほどと思ったところ」「いいなと思うところ」など、長所を中心に感想を伝え合うようにする。		
					8	<ふり返ろう> 6. 学習を振り返る。 (1)ファンタジーを読むときに、どのようなことに気づいたか振り返る。 (2)窓に映したいものを考えたときに、それを選んだ理由は何か考える。 * P28の「言葉」の設問は、学習活動の中で適宜取り扱う。		
2学期	10月	4 (書く1)	言葉の文化④ 言葉は時代とともに 教科書:P30 △言葉がその時代の人々とともに変化してきたことを知り、自分の考えをまとめる。 ☆学習用語:言葉づかい／歴史的仮名遣い	文化	1・2	1. 『言葉は時代とともに』を読み、言葉の変化について考える。 * 「言葉は時代とともに」変化しているという、教材の概略を捉えさせる。 2. 『万葉集』や近代の代表的な文学者の作品にふれて、その言語表現を味わう。 * 『万葉集』や正岡子規、夏目漱石、芥川龍之介の作品を音読して、それぞれの文章の違いに気づかせる。	【知識・技能】 ◎古典について解説した文章を読んだり作品の内容の大体を知ったりすることを通して、昔の人のものの見方や感じ方を知っている。(3)イ 【思考・判断・表現】 ○「書くこと」において、文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けている。(B1)カ 【言語活動例】 ・事象を説明したり意見を述べたりするなど、考えたことや伝えたいことを書く活動。(B2)ア 【態度】 ・積極的に言葉がその時代の人々とともに変化してきたことを理解し、学習課題にそって自分の考えをまとめようとしている。	
					3	3. 身のまわりの事物から、言葉の変化を考えてみる。 * 身のまわりの事物や言葉の変化を調べる。その際、書物からだけでなく、お年寄りにきいてみることも大事な取材活動になる。 * 言葉の変化は、発音や文章の文体、文法など、さまざまな観点から考える必要があるが、ここでは言葉の変化が中心になるだろう。		
					4	4. 時代とともに変化していく言葉について調べて、考えたことを交流する。 * 「言葉の変化」について、自分の取材をもとに意見を書かせ、友達と交流させる。		

学期	月	時数	単元名／教材名／教科書ページ	領域	時	学習活動／*留意点	評価規準 学習指導要領との対応
2学期	10月	6 (書く6)	二 説得力のある文章を書こう 十二歳の主張 教科書:P38 ■理由や根拠を示して、説得力のある意見文を書く。 ★ここが大事:説得力をもたせて書く/推敲する ☆学習用語:課題提起/結論/序論/本論/投書	書く	1	<見直しをもとう> 1.「学習の進め方」を読み、どのように意見文を書くのかイメージし、学習の見直しをもつ。 *活動の流れを意識させ、児童の意欲を高める。 *小学生が書いた投書を読み、意見文や投書がどのようなものなのかつかませてもよい。 <決めよう・集めよう> 2.課題を決めて、取材する。 *日頃感じている問題や改善したいこと、困っていることを話し合わせ、意見文に書くテーマを考えさせる。 *自分が経験したこと、きっかけだけではなく、引用することを前提として資料を探させる。そうやって取材することで根拠が明確になり、説得力のある意見文になることを確認する。引用の際は、正確に引用できるように、書誌情報を明記させる。	【知識・技能】 ◎文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解している。(1)力 【思考・判断・表現】 ◎「書くこと」において、引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。(B1)イ ◎「書くこと」において、文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えている。(B1)オ 【言語活動例】 ・事象を説明したり意見を述べたりするなど、考えたことや伝えたいことを書く活動。(B2)ア
					2	<組み立てよう> 3.集めた材料から主張の理由・事例として適切なものを選び、伝えたいことが「明確」になるように構成を考える。 *P40の「構成表」をもとに、序論・本論・結論の構成を理解させる。	【態度】 ・積極的に情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し、学習課題にそって理由や根拠を示して、説得力のある意見文を書こうとしている。
					3・4	<書こう>(重点) 4.意見文を書く。 *一方的に自分の意見を言うのではなく、反対意見を予想して書いたり、その反対意見に反論したりすることを大切にさせる。 *反対意見とその反論を書くときには、「確かに、……。しかし、……。」という書き方があることを確認する。	
					5	<読み返そう>(重点) 5.意見文を読み返す。 *P42の推敲の観点を参考にさせる。 *友達同士による協同推敲を取り入れるとよい。	
					6	<伝え合おう> 6.友達と読み合って、交流する。 *読んでもらって、書いてよかったと思わせることが大切である。 *書き手の目的や意図に応じた内容になっているかを考えながら、よいところについて感想を述べ合う。また、よりよくなるという観点から、お互いに助言し合う。 *書いた意見文を、新聞に投稿させてもよい。学校外や社会に向けて自分の意見を発信させることの意義に気づける良い機会となるだろう。 <ふり返ろう> 7.学習を振り返る。 (1)説得力のある文章にするために、どんな工夫をしたか振り返る。 (2)どんな点に気をつけて、推敲したか振り返る。	
					2学期	11月	1

学期	月	時数	単元名／教材名／教科書ページ	領域	時	学習活動／*留意点	評価規準 学習指導要領との対応
			学習内容 ★ここが大事／☆学習用語				
2学期	11月	1 (書く1)	五年生で学んだ漢字④ 教科書:P46 △絵を見て想像したことをもとに、五年生で学んだ漢字などを使って文を作り、書く。	漢字	2	9. 教科書の絵を見て、描かれている様子について説明する。 *教科書の絵を拡大して黒板に貼っておくと、指導することが児童たち全体に示しやすくなる。 *絵の中にある五年生で学んだ漢字の読み方を再確認する。 *絵に描かれたこと、言葉からわかる学校生活の様子をできるだけたくさん発表できるようにはたらきかける。 *描かれている人物と行為、場や時間の状況、物品など、視点を提示するとわかりやすい。 10. 五年生までに習った漢字を使って、絵に描かれている様子や物、人物がしていることなどを説明する文を書く。 *自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫するようはたらきかける。 *描かれている人物と行為、場や時間の状況、物品など、視点を提示するとわかりやすい。 *条件をつけて文を書くよう促すと、記述の仕方に工夫がみられるようになる。 11. 互いの作った文を読み合い、感想や意見を述べ合う。 *互いの文のよいところを見つけて伝え合うことをおとし、それらを自分の表現に生かすようはたらきかける。 12. 学習したことを振り返る。 *首を表す部分について正しく理解したり、漢字の使い方や表記などを理解できるようにしたりし、日常の言語生活にも生かしていくよう意識づける。	【知識・技能】 ◎第5学年及び第6学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読んでいる。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使っている。(B1エ) 【思考・判断・表現】 ○「書くこと」において、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするとともに、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。(B1ウ) 【言語活動例】 ・事実や経験を基に、感じたり考えたりしたことや自分にとっての意味について文章に書く活動。(B2ウ) 【態度】 ・積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を使い、学習課題にそって、教科書の絵を説明する文を書くこととしている。
2学期	11月	1	三 自分の経験と重ねて読み、考えを広げよう あなたはどうか感じる？ 教科書:P48 □友達と自分の感じ方の違いについて考える。	読む	1	1. 単元扉を読んで、学習の見通しをもつ。 2. 本文を読んで、友達と自分の感じ方はなぜ違うのか、考えを伝え合う。	【知識・技能】 ◎原因と結果など情報と情報との関係について理解している。(2ア) 【思考・判断・表現】 ◎「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。(C1オ) 【言語活動例】 ・詩や物語、伝記などを読み、内容を説明したり、自分の生き方などについて考えたことを伝え合ったりする活動。(C2イ) 【態度】 ・すすんで友達と自分の感じ方の違いについて考えようとし、見通しをもって、『ほくの世界、君の世界』の学習に生かそうとしている。
2学期	11月	7 (書く1)	三 自分の経験と重ねて読み、考えを広げよう ぼくの世界、君の世界 教科書:P50 □筆者の考えに気をつけながら、文章の要旨を捉え、「心の世界」について考える。 ★ここが大事：筆者の論じ方 ☆学習用語：要旨	読む	1・2 3・4 5 6・7	<たしかめよう> 1. 「心の世界」を捉えるための事例と要旨について考える。 (1)「昔から大真面目に議論されてきた問題」を解き明かすための二つの事例について、表を用いてまとめる。 (2)『あなたはどうか感じる？』での学びや(1)の表をもとに、この文章の要旨について話し合う。 <くわしくよう> 2. 既習の説明文と比較して、筆者の論の進め方にはどのような特徴があるのか、事例や解説、絵や図表、文末表現などに着目して話し合う。 <まとめよう> 3. 『あなたはどうか感じる？』と『ぼくの世界、君の世界』での学びを手がかりに、自分の身近な経験と比べながら心の世界について考えたことを書く。 <つたえあおう> 4. 書いた自分の考えを友達と比較しながら読み合い、共通点や相違点はどこか、話し合う。 <ふり返ろう> 5. 筆者の思考の深め方や主張についてどう感じたか、自分の「心の世界」はどのような考えをもとにまとめたのか、振り返る。	【知識・技能】 ◎原因と結果など情報と情報との関係について理解している。(2ア) 【思考・判断・表現】 ○「書くこと」において、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりしているとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりしているなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。(B1ウ) ◎「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。(C1オ) ◎「読むこと」において、文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げている。(C1カ) 【言語活動例】 ・事象を説明したり意見を述べたりするなど、考えたことや伝えたことを書く活動。(B2ア) ・説明や解説などの文章を比較するなどして読み、分かったことや考えたことを、話し合ったり文章にまとめる活動。(C2ア) 【態度】 ・学習の見通しをもって、筆者の考えに気をつけながら文章の要旨を捉えるとともに、自分の経験をふり返りながら「心の世界」について考えようとしている。

学期	月	時数	単元名／教材名／教科書ページ	領域	時	学習活動／*留意点	評価規準 学習指導要領との対応
			学習内容 ★ここが大事／☆学習用語				
2学期	11月	4 (書く1)	三 自分の経験と重ねて読み、考えを広げよう 「うれしさ」って何？——哲学対話をしよう 教科書:P62 ◇お互いの考えや意見を関連づけて述べ合い、共通点や相違点をもとに分類する。 ★ここが大事: 伝え合う努力をするために	読聞	1	<見通しをもとう> 1. 「うれしさ」について考え、互いの感じ方を伝え合うという学習の見通しをもつ。 <決めよう・集めよう> 2. 「うれしさ」について考える。 (1)人はどんなときに「うれしく」なるのかを考える。「うれしい」というとき、どんな場面を思い浮かべるか、発表し合う。 * 発表を聞きながら、「うれしさ」にも違いがあることを確認するようにする。 (2)「うれしかったこと」「うれしさと感じるとき」を思い出し、具体的な場面を二〜四つ書き出す。	【知識・技能】 ◎原因・結果など情報と情報との関係について理解している。(12ア) 【思考・判断・表現】 ◎「話すこと・聞くこと」において、話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめている。(A11エ) ○「話すこと・聞くこと」において、互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりしている。(A11オ) ○「書くこと」において、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。(B11ウ) 【言語活動例】 ・それぞれ立場から考えを伝えるなどして話し合う活動。(A12ア) ・事実や経験を基に、感じたり考えたりしたことや自分にとっての意味について文章に書く活動。(B12ウ) 【態度】 ・積極的にお互いの考えや意見を関連づけて述べ合い、今までの学習を生かして共通点や相違点をもとに分類しようとしている。
				2	<組み立てよう> 3. 「うれしさ」を感じた自分の体験をカードに書く。 (1)書き出した中から一〜二つ選び、「なぜうれしと感じたのか」「どんなうれしさだったのか」をメモする。		
				3	<話そう・聞こう>(重点) 4. 「うれしさ」を話し合い、分類する。 (1)グループ内で発表し合う。聞き手は、質問したり感想を伝えたりすることで、話し手の「うれしさ」の感じ方を確かめながら聞く。 * 「うれしさ」の感じ方の共通点や相違点に留意して聞くように助言する。 (2)グループで出された「うれしさ」を分類し、名前をつける。 * 共通点が伝わるように簡潔な名前をつけるようにする。		
				4	<伝え合おう> 5. 発表し合い、感想を交流する。 (1)グループごとに「うれしさ」の種類を発表する。 (2)「うれしさ」の種類を、学級全体でまとめ直す。 6. 話し合いをとおして気づいたことや、残った疑問などをまとめる。 <ふり返ろう> 7. 学習の振り返りをする。 * 対話によって、相手の考えと比較しながら自分の考えをまとめるとき、どんなことに気づけたか考える。		
2学期	12月	3 (話す聞く1)	読書の広場③ 「読書タイムライン」を作って交流しよう 教科書:P66 △読書タイムラインを作成することとおして、今までの読書を振り返り、日常的に読書に親しむ。	読書	1	1. 「読書タイムライン」を作るという学習内容を捉え、活動に見通しをもつ。 2. 読書履歴などを振り返り、「読書タイムライン」をえがき、これまでに読んできた本を振り返る。	【知識・技能】 ◎日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに役立つことに気付いている。(13オ) 【思考・判断・表現】 ◎「読むこと」において、文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げている。(C11カ) 【言語活動例】 ・学校図書館などを利用して、複数の本や新聞などを活用して、調べたり考えたりしたことを報告する活動。(C12ウ) 【態度】 ・見通しをもって「読書タイムライン」を作成し、読書履歴などを振り返りながら、粘り強く自分が作った本について考えようとしている。
				2	3. テーマを決めて、3冊本を選び、友達と交流する。		
				3	4. 自分の「読書タイムライン」を振り返り、これからの読書生活に活かせるようにする。 5. 学習を振り返る。		
2学期	12月	2	言葉の広場④ その場にふさわしい言い方 教科書:P70 △話す相手や場面に応じて、敬意を表す言い方を適切に使い分ける。 ☆学習用語: 敬意／謙譲語／尊敬語／敬語	言語	1	1. 冒頭の会話文をとおして、敬意を表す際にさまざまな言い方があることを知る。 * 敬語を使っても必ずしも丁寧な言い方にならないことに気づかせる。 * 実際の場面を想定し、自分ならどのように言うかを考えさせながら学習を進めたい。 2. 教科書を読み、敬意を表す言い方としてどのような言い方が適切か理解する。 * 文末の形によって丁寧さや受ける印象が違ってくることに気づかせる。 * 場面によって、どの表現が適切か話し合わせ、発表させる。	【知識・技能】 ◎日常よく使われる敬語を理解し使い慣れている。(11キ) 【態度】 ・積極的に語感や言葉の使い方に対する感覚を意識し、学習課題にそって敬意を表す言い方を適切に使い分けようとしている。
				2	3. 場面や相手に応じて、敬意を表す言い方として適切な言い方を選ぶ。 * 敬意は敬語だけでなく漢語を使用することでも示せることに気づかせる。また、身内のことを言い表す際は尊敬語を用いないことに気づかせる。 * 敬語を使うこと以外にも、話す時の声の調子や表情、しぐさなども敬意を表すことにつながることを理解させ、よりふさわしい表現ができるように、ロールプレーなどを通し、練習させるとよい。 4. 学習したことを振り返る。		

学期	月	時数	単元名／教材名／教科書ページ	領域	時	学習活動／*留意点	評価規準 学習指導要領との対応
			学習内容 ★ここが大事／★学習用語				
2学期	12月	1	詩を読もう 紙風船 教科書:P74 □詩を朗読して表現の効果について考え、人物像を具体的に想像する。 ☆学習用語:繰り返し(反復)／比喻／倒置法	読む	1	1. 「紙風船」の範読を聞いた後に、詩を黙読し微音読をして、最後に一斉音読をして、詩の世界を想像する。 *教師の範読を聞き、心の中で「黙読」、一人で声を出して「微音読(つぶやき読み)」をした後に、全員で「一斉読み」をするとうい。しっとりとした雰囲気、詩の言葉と出会わせたい。 2. 一連めが六行になっていることを確認したのちに、以下の5点についてペアで話し合う活動をして、確認する。 ①「今度は」という後の意味 ②これまで学習してきた詩の「繰り返し」と違って、「もっと高く」「もっともっと高く」という変化を伴う「繰り返し」になっていること ③「打ち上げよう」という呼びかけ調の言葉について ④二連目の二行が「倒置法」であることの効果について ⑤最終行の「～ように」が直喩であること 3. 詩「紙風船」が、どんなイメージを読み手に呼び起こすかについて、グループで話し合っ、交流をする。 *タブレット等を使って、互いの気づきやイメージした言葉を、記録しておくとうい。 4. グループで交流して出てきた意見や詩についてのイメージを、教室全体で発表し、交流する。 *全体での交流で、一つの「正解」に追い込まないように留意する。児童の個々の読みを大切にす。 5. 最後に「紙風船」を、全員で一斉音読をする。 *自分のイメージを大切にしながら音読するようにと助言する。	【知識・技能】 ◎比喻や反復などの表現の工夫に気付いている。(11ケ) ◎文章を音読したり朗読したりしている。(11ケ) 【思考・判断・表現】 ◎「読むこと」において、人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。(C11エ) 【言語活動例】 ・詩や物語、伝記などを読み、内容を説明したり、自分の生き方などについて考えたことを伝え合ったりする活動。(C2イ) 【態度】 ・すすんで言葉からイメージを膨らませ、詩の世界を味わおうとしている。
2学期	12月	3	四筆者の書き方の工夫を見つけよう 「迷う」 教科書:P76 □筆者のものの見方や感じ方などに触れるとともに、随筆の文章の特徴を捉える。 ★ここが大事:文章の特徴をとらえて表現に生かす ☆学習用語:随筆	読む	1	<見通しをもとう> 1. 単元扉を読んで、学習の見通しをもつ。 <たしかめよう> 2. 「迷う」ことに関連した6つの事例の中から、自分が面白いと思った事例を選び、その面白いところについて話し合う。	【知識・技能】 ◎文の中の語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解している。(11カ) 【思考・判断・表現】 ◎「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。(C11オ) ◎「読むこと」において、文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げている。(C11カ) 【言語活動例】 ・説明や解説などの文章を比較するなどして読み、分かったことや考えたことを、話し合ったり文章にまとめたりする活動。(C2ア) 【態度】 ・今までの学習を生かして、積極的に文章の特徴について理解するとともに、筆者のものの見方や感じ方などに触れ、随筆に親しもうとしている。
				2	<<わくよもう> 3. 「迷う」ことに関連した事例のうち、書き方の面白さに着目し、どのような書き方の工夫や文章の特徴があるのか伝え合う。 <まとめよう> 4. 見つけた書き方の工夫に「わざ」の名前をつけ、その説明を表などにまとめる。		
				3	<つたえあおう> 5. 考えた「わざ」について伝え合う。 <ふり返ろう> 6. 書き手の工夫を見つける際に気をつけたことや、使ってみたい工夫について振り返る。		

学期	月	時数	単元名／教材名／教科書ページ	領域	時	学習活動／*留意点	評価規準 学習指導要領との対応
2学期	12月	5 (書く5)	五 伝えたいことを明確にして書こう 六年間の思い出をつづろう—卒業文集 教科書:P86 ■事実や経験をもとに、感じたり考えたりしたことや自分にとっての意味について考えたことを文章に書く。 ★ここが大事: 思い出を卒業文集に書く	書く	1	<見直しをもとう> 1. 卒業文集が、6年間の小学校生活を振り返るとともに、11歳・12歳の「今の自分」を書き残す活動であることを確認する。 * これまでに培った言葉の力を、全て発揮して取り組む活動だということを見つめよう。 <決めよう・集めよう>(重点) 2. 書く事柄を決める。 * P86の表を参考にして、心に残っている思い出を振り返らせる。 * 適宜マッピング(ウェビング)を行い、広がりそうなテーマか吟味させる。 * 具体的なエピソードがあると、読み手により伝わりやすいことを伝える。 * マッピング(ウェビング)を見ながら、ペアで質問し合い、より具体的なものにする。	【知識・技能】 ◎比喩や反復などの表現の工夫に気付いている。(1)ク 【思考・判断・表現】 ◎「書くこと」において、目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にしている。(B1)ア) 【言語活動例】 ・事実や経験を基に、感じたり考えたりしたことや自分にとっての意味について文章に書く活動。(B2)ウ) 【態度】 ・自分のこれまでの小学校生活を振り返り、心に残っている事柄と自分にとっての意味を考えながら、読み手に伝わる文章を書こうとしている。
					2	<組み立てよう> 3. 文章の構成を考える。 * マッピング(ウェビング)などで取材した材料の中から、必要なものを選んで構成表を作らせる。	
					3	<書こう> 4. 文章を書く。 * 「中」の部分で、自分の感情の変化やその場面の具体的な状況がわかるように書くよう、助言する。 * 随筆の学習を振り返らせ、表現の工夫をするよう助言する。	
					4	<読み返そう> 5. 推敲する。 * 「中」のエピソードと「終わり」の自分にとっての意味がつながっているかを、特に吟味するよう助言する。 * 友達とお互いの下書きを読み合う協同推敲を行うとよい。	
					5	<伝え合おう> 6. 友達と読み合う。 * お互いの文章の良い点に目を向けさせる。 <ふり返ろう> 7. 心に残ったことや、自分にとっての意味が伝わるように、どんなところを工夫したか振り返る。	
3学期	1月	2 (話す聞く1・書く1)	言葉と私たち 教科書:P90 ◇ ■言葉に対する自分の考えを書き、言葉への関心をもつ。 ☆学習用語: 教訓／尊敬語／謙譲語	話・書	1	1. 自分たちにとって言葉とは何か考えてみる。 * 問いが抽象的になってしまうと答えにくいので、どんなときに言葉を使っているのかといった具体的なことを問うてもよい。 * 「言葉とは」に続く形で、考えを書き出してもよい。 2. 教科書の三人のメッセージを読み、それぞれについての感想を交流する。 * 三人の筆者についての情報も提供して感想を求めてもよい。 * 文章全体の感想だけでなく、印象的な語句(表現)を押さえることもできる。 * 自由な感想交流としたいが、言葉がテーマであることは常に押さえておく。	【知識・技能】 ◎話し言葉と書き言葉との違いに気付いている。(1)イ) 【思考・判断・表現】 ◎「話すこと・聞くこと」において、話の内容が明確になるように、事実と感想、意見とを区別するなど、話の構成を考えている。(A1)イ) ◎「書くこと」において、目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にしている。(B1)ア) 【言語活動例】 ・意見や提案など自分の考えを話したり、それらを聞いたりする活動。(A2)ア) ・事象を説明したり意見を述べたりするなど、考えたことや伝えたいことを書く活動。(B2)ア)
					2	3. 言葉に対しての自分の思いを書く。 * P90上段の三つの問いかけを参考にし、この問いに対するの応答でもよいし、言葉についての自由な考えでもよい。 4. 書いたものをグループや学級で交流して言葉についての興味や関心を深める。 * グループによる話し合いで共通点を見いださせてもよい。 * 何らかの答えを出すというのではなく、言葉に対する興味や関心をもたせるようにする。	

学期	月	時数	単元名／教材名／教科書ページ	領域	時	学習活動／*留意点	評価規準 学習指導要領との対応
			学習内容 ★ここが大事／★学習用語				
3学期	1月	1	漢字の広場⑤ 同じ訓をもつ漢字 教科書:P92 △異字同訓について理解を深め、関心をもつとともに正しく使い分ける。	漢字	1	1. 学習内容を理解し、学習の見直しをもつ。 * 国語辞典や漢字辞典を利用し、漢字の適切な使い分けを確認する習慣を身につけさせるようにしたい。 2. P92上段の設問にある文例を読み「あける」の意味や使い方について考える。 * 「～が明ける」(期間が終わる)、「～を開ける」(ひらく)、「～を空ける」(からにする)を含む文の「が」「を」の助詞の違いにも着目させるとよい。 3. P92下段の設問に取り組み、言葉の意味や漢字の使い方を考えて話し合う。 * 文脈から判断したり、知っている熟語に置きかえたりして考えてみるなどの習慣を身につけさせたい。 * 類義の語に置きかえて考えてもよい。 * 『漢字の広場3 熟語の意味』で扱った意味のよく似た熟語どうしと同様に、どちらを用いてもよい場合があることも踏まえておきたい。 4. P93上段の「つとめる」「はかる」「かわる」について、辞書を使い、適切な漢字を選ぶ。 * 「勤務」という語は、給料をもらって仕事をするという「勤める」と同義であり、役目や任務を果たす「務める」という意味は薄い。 * 「(会社などに)勤める」「(役目などを)務める」と、助詞が異なることに着目できるとよい。 * 「計る」は時間・数などを数える、「測る」は長さ・高さ・深さ・広さ・程度を調べる、「量る」は重さ・容積を調べる際に使うことが多い。 5. P93下段の言葉を使って文を作り、ノートにまとめ、発表し合う。 * 同訓の漢字の使い分けを調べるには、国語辞典が便利だということに気づかせる。	【知識・技能】 ◎思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにしている。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、話や語句を使っている。(1)オ 【態度】 ・積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使い、学習の見直しをもって異字同訓について理解を深め、関心をもつとともに正しく使い分けようとしている。
3学期	1月	1 (書く1)	5年生で学んだ漢字⑤ 教科書:P94 △絵を見て想像したことをもとに、5年生で学んだ漢字などを使って文を作り、書く。	漢字	2	6. 教科書の絵を見て、描かれている様子について説明する。 * 教科書の絵を拡大して黒板に貼っておくと、指導することがらを児童たち全体に示しやすくなる。 * 絵の中にある5年生で学んだ漢字の読み方を再確認する。 * 絵に描かれたこと、言葉からわかる場面の様子をできるだけたくさん発表できるようにはたらきかける。 * 描かれている人物と行為、場や時間の状況、物品など、視点を提示するとわかりやすい。 7. 5年生までに習った漢字を使って、絵に描かれている様子や物、人物がしていることなどを説明する文を書く。 * 自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫するようはたらきかける。 * 描かれている人物と行為、場や時間の状況、物品など、視点を提示するとわかりやすい。 * 条件をつけて文を書くよう促すと、記述の仕方に工夫がみられるようになる。 8. 互いの作った文を読み合い、感想や意見を述べ合う。 * 互いの文のよいところを見つけて伝え合うことをとおして、それらを自分の表現に生かすよう働きかける。 9. 学習したことを振り返る。 * 同じ訓をもつ漢字について正しく理解したり、漢字の使い方や表記などを理解できるようにしたりし、日常の言語生活にも生かしていくよう意識づける。	【知識・技能】 ◎第5学年及び第6学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読んでいる。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使っている。(1)エ 【思考・判断・表現】 ○「書くこと」において、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。(B1)ウ 【言語活動例】 ・事実や経験を基に、感じたり考えたりしたことや自分にとっての意味について文章に書く活動。(B2)ウ 【態度】 ・積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を使い、学習課題にそって、教科書の絵を説明する文を書くこととしている。

学期	月	時数	単元名／教材名／教科書ページ	領域	時	学習活動／*留意点	評価規準 学習指導要領との対応
3学期	2月	11 (書く3)	六 伝記を読んで、生き方について自分の考えをまとめよう 津田梅子——未来をきりひらく「人」への思い 教科書・P96 □伝記を読んで、登場人物の生き方をもとに、自分の未来について考える。 ★ここが大事：伝記を読む ☆学習用語：人物像／伝記／関係図	読む	1	<見通しをもとう> 1. 単元扉を読んで、学習の見通しをもつ。 (1)単元扉を読む。 (2)本文を読む。範読を聞く。 (3)初発の感想を交流する。 (4)学習の見通しを確認する。 *これまで読んだ伝記について発表したり、津田梅子について知っていることを全体で交流したりする。 *初発の感想は、印象に残ったことや疑問に思ったこと、みんなで考えたり確かめたりしたいことなどの視点を意識して書くようにする。 *自分との共通点や相違点を感想に書いている児童がいた場合には、取り上げる。	【知識・技能】 ◎思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにしている。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。(1)才 【思考・判断・表現】 ◎「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。(C1)才 ◎「読むこと」において、文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げている。(C1)カ 【言語活動例】 ・詩や物語、伝記などを読み、内容を説明したり、自分の生き方などについて考えたことを伝え合ったりする活動。(C2)イ 【態度】 ・学習課題にそって津田梅子の生き方を考えた後、自分のこれまでに会った人やもの、こととのつながりを思い出し、積極的に自分の考えをまとめようとしている。
					2~4	<たしかめよう> 2. 津田梅子の人生を年表に整理する。 (1)梅子の行動や主な出来事がわかるところに線を引く。 (2)年表に整理する。 (3)年表に整理することのよさについて確認する。 *時を表す言葉に気を付けて津田梅子の行動や主な出来事を年表に整理するようにする。	
					5~6	<くわしくよう> 3. 津田梅子の人物像を考える。 (1)<たしかめよう>で作った年表を振り返り、津田梅子の行動を確かめる。 (2)本文の叙述から、津田梅子の性格やもの見方・考え方がわかる叙述を選ぶ。 (3)選んだ叙述から、どのような人物なのかについて考え、話し合う。	
					7~9	<まとめよう> 4. 津田梅子の人生や人物像をもとに、自分の考えをまとめる。 (1)津田梅子の生き方でいちばん印象に残った事柄(生き方・考え方・行動など)をまとめる。 (2)津田梅子の人生や人物像の中で印象に残った事柄に対して、自分の考えを書く。 (3)「梅子関係図」か「私の未来」のどちらかの方法で、自分の考えをまとめる。 *自分の経験と照らし合わせて、共通点や相違点を見つながら考えをまとめていくように伝える。	
					10	<つたえあおう> 5. まとめたものを読み合い、感想を伝え合う。	
					11	<ふり返ろう> 6. 「ここが大事」を確認し、「ふり返ろう」の観点にそって振り返りを行う。 (1)津田梅子の生き方の、どのようなことに心を動かされたか。 (2)自分の未来についてまとめるときに、どのようなことを考えたか。	
3学期	2月	2	言葉の広場⑤ 日本語の文字 教科書・P114 △日本語の文字の由来や特徴に関心をもち、適切に使い分けができる。 ☆学習用語：会意文字／指事文字／象形文字／形声文字／訳／万葉仮名／仮名／外来語	言語	1	1. 日本語は、さまざまな文字を使って書き分けられていることを知り、学習活動に対する見直しをもつ。 *教材文冒頭のイラストに付された説明書きから、日本語には多様な表記があることを知り、日本語の文字の由来・特質を学習することに対する意欲を高める。 2. 漢字の由来・特徴について理解する。 *教材文を読み進めながら、漢字の由来や音訓の別、漢字の造語性などについて理解させる。 3. 平仮名と片仮名の由来・特徴について理解する。 4. ローマ字の由来・特質について理解する。 5. 日本語の文字と外国語の文字との違いについて理解する。	【知識・技能】 ◎語句の由来などに関心をもつとともに、時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付き、共通語と方言との違いを理解している。また、仮名及び漢字の由来、特質などについて理解している。(3)ウ 【思考・判断・表現】 ○「話すこと・聞くこと」において、目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討している。(A1)ア 【言語活動例】 ・意見や提案など自分の考えを話したり、それらを聞いたりする活動。(A2)ア 【態度】 ・積極的に日本語の文字の由来や特徴を理解し、今までの学習を生かして適切に使い分けようとしている。
2	6. 日常生活の中で、日本語の文字がどのように使われているかを話し合う。 *P115下段の設問に取り組ませ、漢字・平仮名・片仮名・ローマ字がそれぞれどのようなことを表すのに用いられているのかについてグループで話し合わせ、全体で共有を図る。 7. 学習したことを振り返る。 *日本語の文字の由来や特徴を理解することで、日本語にさらに興味をもち、積極的に意識して使用できるようにしていくことを示唆しておく。						

学期	月	時数	単元名／教材名／教科書ページ	領域	時	学習活動／*留意点	評価規準 学習指導要領との対応
			学習内容 ★ここが大事／★学習用語				
3学期	2月	1	漢字の広場⑥ さまざまな読み方／特別な読み方の言葉 教科書・P120 △同形異語や熟字訓、同字異訓についての理解を深め、言葉の使い方に興味をもつ。	漢字	1	1. 学習内容を理解し、学習の見直しをもつ。 2. 「上手」を例に、意味によって読み方が変わる言葉(同形異語)について知り、それぞれの意味や感じ方の違いを比べる。 * 「うわて」「かみて」のそれぞれの意味を推測し、語感を考えてから辞典で意味や用例を調べ、比べるようにさせるとよい。 * 対義語となる「下手」(したて・しもて)についても、それぞれに対応する読み方・意味・用例を調べるようにするとよい。 3. 「特別な読み方の言葉」(熟字訓など)について知り、P122の一覧表を使って、どのような言葉があるのか確かめる。 4. 「降」「背」「夜」「尊」など、複数の訓がある漢字(同字異訓)の読み分け方について興味をもつ。 5. P156からの「小学校で学んだ漢字」をもとに複数の訓がある漢字を探し、送り仮名に注意し、表現の効果などについて確かめたり、工夫したりして文を書き、友達どうして読み合う。 6. P121下段「1」の設問に取り組み、話し合う。 * 「いろがみ・しきし」「ふうしゃ・かざぐるま」などの意味がわかるよう実物・写真・イラストなどを提示するとよい。 * 読み方が変わると意味が変わるのか、意味は似かよっているが語感が異なるのか、具体的に考えさせるようにしたい。 7. P121下段「2」の設問をもとに訓の読み方を考え、音読する。 * 「通」「冷」「空」の複数の訓の読み分けを考えるようにする。 8. 学習したことを振り返る。	【知識・技能】 ◎思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにしている。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、話や語句を使っている。(1)オ 【態度】 ・積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使い、学習の見直しをもって同形異語や熟字訓、同字異訓についての理解を深め、言葉の使い方に興味をもとうとしている。
3学期	2月	3 (話す聞く 1・書く)	ひろがる言葉 出会った言葉をふり返ろう 教科書・P123 ■卒業を前に六年間の言葉の学びを振り返り成長を自覚するとともに、中学校での新しい言葉との出会いの希望をもつ。	話・書	1	1. 六年間の言葉の学びを振り返りながら、「卒業式で自分におくりたい言葉」を選ぶ。 * 六年間の言葉の学びに関わるさまざまな思い出の品を持ち寄る。あるいは、それぞれの学年での代表的な単元や教材を教師が提示したり、思い出を自由に出し合ったりする。 * 国語の授業に限定することなく、読書体験やその他の学校生活の中で出会った言葉を思い出させてもよい。 * 『こんど、君と』の曲を聴くのもよい。「言葉」は単語とは限らないことを確認する。 * 自分の好きな歌の歌詞を持ち寄ってもよい。 2. 自分で選んだ言葉をグループ内で交流する。 * 挿し絵なども参考にしながら自由に思い出を語り合うようにする。理由やエピソードを必ず付け加えて話すようにする。 * 互いに言葉を紹介するなかで、選んだ言葉が変更になってよい。 * 簡単なメモをとらせる。	【思考・判断・表現】 ○「話すこと・聞くこと」において、目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討している。(A1)ア ◎「書くこと」において、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。(B1)ウ ◎「書くこと」において、文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けている。(B1)カ
					2	3. 選んだ言葉を工夫して表現する。 * どのような表現方法があるのか教科書を参考にして確認する。教科書例示外の方法があってもよい。学級の卒業に向けた取り組みとからめて考えることもできる。	【言語活動例】 ・意見や提案など自分の考えを話したり、それらを聞いたりする活動。(A2)ア ・事実や経験を基に、感じたり考えたりしたことや自分にとっての意味について文章に書く活動。(B2)ウ
					3	4. さまざまな表現方法で選んだ言葉を交流し、みんなの思いを共有する。 * できるだけ自由に個々の創意工夫を生かして楽しく交流し合いたい。 * 卒業を意識させるとともに、中学校での学びについてどこかでふれるようにする。	【態度】 ・積極的に六年間の言葉の学びを振り返り、成長を自覚するとともに、中学校での新しい言葉との出会いの希望をもとうとしている。